甲府城下町遺跡 26
（中央５丁目１区）

－都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書－

２０２１

山梨県中北建設事務所
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

序

甲府の都市としての発展は、武田信虎が永正十六年（1519）相川扇状地扇央部に武田氏の居館を築いたことにはじまり、16 世紀代は現在の甲府駅周辺まで武田氏三代の城下町として約 62 年間栄えました。武田氏滅亡後の 16 世紀末には、豊臣家の五奉行の一人である浅野長政と幸長親子により、東国では数少ない総石垣の甲府城と、三重の堀と土塁に囲まれた城下町が築かれ、現代に続く街が整備されます。甲府市街地は、中世と近世の城下町が複合して形成された全国的にも数少ない都市であります。

17 世紀以降は、徳川家一門、柳沢吉保・吉里、甲府勤番が治め、江戸からは浮世絵師の歌川広重、歌舞伎役者の市川団十郎なども訪れ、江戸の文化が流入し栄えていました。特に今回調査が行われた中央５丁目周辺は、甲府城下町東側の三の堀に囲まれた下府中２３町のうち「下連雀町と魚町」の町人地であり、近代以降も連雀問屋街として賑わいをみせていました。

調査では建物跡、甲府上水跡、火災の痕跡などの遺構と、大量の陶磁器、木製品、金属製品、さらにイノシシ・ニホンジカ等動物の骨やマグロの骨や貝等、甲府城下町の食生活を物語る自然遺物も検出されました。これらの遺構・遺物は、甲府城下町の文化水準の高さと経済力を示す、貴重な資料であります。今回の調査成果が、甲府城下町の調査研究の重要な資料となるとともに、今後のまちづくりの一助となれば幸いです。

末筆となりましたが、このように発掘調査が実施できましたのも、地域住人皆様のご理解とご協力の賜物であるとともに、発掘調査及び整理作業に従事された皆様方のご努力の結果であります。ここに感謝申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力をお願い申しあげます。

令和３年３月

甲府市教育委員会

教育長　數野保秋

例　言

1．本報告書は、山梨県甲府市中央５丁目地内に所在する甲府城下町遺跡（中央５丁目1区）の発掘調査報告書である。
2．中央５丁目1区における各調査区の所在地は以下の通りである。調査対象面積の合計は 722㎡である。
A 地区 (208㎡)：中央５丁目 375・378・379・380-1・381　B地区 (141㎡)：中央５丁目 238・240
C 地区 (124㎡)：中央５丁目 361・362-1・362-2・364-1　D地区 (249㎡)：中央５丁目 246-1~5
3．本調査は都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査である。発掘調査と整理・報告書刊行業務は、甲府市教育委員会が主体となり、業務委託を受けた昭和測量株式会社が実施した。
4．発掘調査は令和元年 12 月３日～令和２年３月 27 日まで行った。
整理・報告書刊行業務は令和２年７月 15 日～令和３年３月 19 日にかけて実施した。
5．本報告書の執筆分担は以下の通りである。
第１章第１節：志村憲一（甲府市教育委員会）
第５章第１節：伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子、第２節：黒沼保子、
第３節：三谷智広、第４節：バンダリ スダルシャン、第５節：森将志（以上、株式会社パレオ・ラボ）、
第６節：森勇一（東海シニア自然大学）・株式会社パレオ・ラボ
その他の執筆と編集は泉英樹 (昭和測量株式会社) が担当した。
6．木製品および金属製品の保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。
7．自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。
8．発掘調査および報告書刊行にあたって次の方々の御指導と御協力を賜った。厚く感謝の意を表する。
公益財団法人山梨文化財研究所　株式会社パレオ・ラボ
9．本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会で保管している。

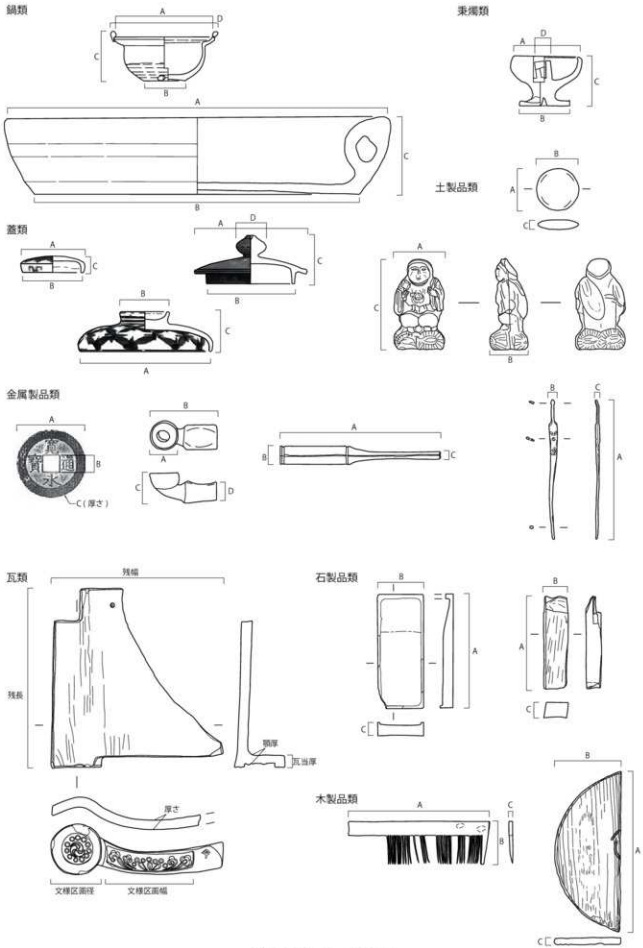
凡　例

1．遺構・遺物の挿図縮尺は、原則として各図に表示した。
2．遺構平面図の方位は、原則として各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
3．遺構全体図および遺構平面図のＸ・Ｙ数値は、世界測地系の平面直角座標系第Ⅷ系に基づく座標数値で、単位はメートルである。
4．断面図・土層図中の数値は、海抜高度（T.P.）を示す。
5．土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
6．挿図第１図は、国土地理院発行の地形図 1/25,000、第２図は甲府市役所発行の都市計画基本図 1/2,500 を使用した。
7．挿図第 80 図は『甲州道中分間延絵図』、第 81 図は『甲府市街明細地図』(いずれも山梨県立博物館蔵) を使用した。
8．発掘調査では以下の遺構記号を使用し、調査区にかかわらず種別ごとに連番で番号を付した。本報告でも発掘調査時点のものを使用した。
土坑：ＳＫ　小穴：Pit　溝状遺構：ＳＤ　石列：SS
9．遺物番号は出土地点にかかわらず連番で付した。挿図・写真図版・遺物分布図・遺物観察表および本文中の遺物番号はそれぞれ対応している。
10．遺構平面図における一点鎖線は撹乱、破線はサブトレンチ・試掘坑・推定線である。
11．遺構挿図・遺物挿図で使用したトーンの凡例は以下の通りである。

焼土範囲（遺構図）　炭化物範囲 (遺構図)　煤・油煙・炭化物 (遺物図)　石断面　黒色処理・黒漆（遺構図）　赤彩・赤漆（遺構図）

12．遺物観察表の法量の計測方法の凡例は次項の通りである。

遺物計測位置の凡例（1）


鍋類
乗燭類
土製品類
蓋類
金属製品類
C（厚さ）
瓦類
残幅
残長
鴟厚
瓦当厚
厚さ
文様区面径
文様区面幅
石製品類
木製品類

遺物計測位置の凡例（2）

本文目次

序
例言
凡例
第1章　調査の経過 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　発掘作業の経過 …… 1
　第3節　整理等作業の経過 …… 2
第2章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　調査の方法 …… 7
　第1節　調査の方法 …… 7
　第2節　基本層序 …… 8
第4章　調査の成果 …… 12
　第1節　A地区 …… 12
　第2節　B地区 …… 21
　第3節　C地区 …… 22
　第4節　D地区 …… 34
第5章　自然科学分析 …… 140
　第1節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）出土木材の放射性炭素年代測定 …… 140
　第2節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）出土木材の樹種同定 …… 148
　第3節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）出土の動物遺体 …… 151
　第4節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）出土の大型植物遺体 …… 160
　第5節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）の寄生虫卵分析 …… 170
　第6節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）から得られた昆虫組成について …… 172
第6章　総括 …… 183
　第1節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）の整地層 …… 183
　第2節　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）の遺構について …… 187

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図・分布図 …… 4
第 2 図　調査地点位置図 …… 10
第 3 図　調査区区割図 …… 11
第 4 図　A地区 (1) …… 47
第 5 図　A地区 (2) …… 48
第 6 図　A地区 (3) …… 49
第 7 図　A地区 (4) …… 50
第 8 図　A地区 (5) …… 51
第 9 図　A地区 (6) …… 52
第 10 図　A地区 (7) …… 53
第 11 図　A地区 (8) …… 54
第 12 図　B地区 (1) …… 55
第 13 図　C地区 (1) …… 56
第 14 図　C地区 (2) …… 57
第 15 図　C地区 (3) …… 58
第 16 図　C地区 (4) …… 59
第 17 図　C地区 (5) …… 60
第 18 図　C地区 (6) …… 61
第 19 図　C地区 (7) …… 62
第 20 図　C地区 (8) …… 63
第 21 図　C地区 (9) …… 64
第 22 図　C地区 (10) …… 65
第 23 図　D地区 (1) …… 66
第 24 図　D地区 (2) …… 67
第 25 図　D地区 (3) …… 68
第 26 図　D地区 (4) …… 69
第 27 図　D地区 (5) …… 70
第 28 図　D地区 (6) …… 71
第 29 図　D地区 (7) …… 72
第 30 図　D地区 (8) …… 73
第 31 図　D地区 (9) …… 74
第 32 図　D地区 (10) …… 75
第 33 図　D地区 (11) …… 76
第 34 図　D地区 (12) …… 77
第 35 図　D地区 (13) …… 78
第 36 図　A地区出土遺物 (1) …… 79
第 37 図　A地区出土遺物 (2) …… 80
第 38 図　A地区出土遺物 (3) …… 81
第 39 図　A地区出土遺物 (4) …… 82
第 40 図　A地区出土遺物 (5) …… 83
第 41 図　A地区出土遺物 (6) …… 84
第 42 図　A地区出土遺物 (7) …… 85
第 43 図　A地区出土遺物 (8) …… 86
第 44 図　A地区出土遺物 (9) …… 87
第 45 図　A地区出土遺物 (10) …… 88
第 46 図　A地区出土遺物 (11) …… 89
第 47 図　B地区出土遺物 (1) …… 90
第 48 図　C地区出土遺物 (1) …… 91
第 49 図　C地区出土遺物 (2) …… 92
第 50 図　C地区出土遺物 (3) …… 93
第 51 図　C地区出土遺物 (4) …… 94
第 52 図　C地区出土遺物 (5) …… 95
第 53 図　C地区出土遺物 (6) …… 96
第 54 図　C地区出土遺物 (7) …… 97
第 55 図　C地区出土遺物 (8) …… 98
第 56 図　C地区出土遺物 (9) …… 99
第 57 図　C地区出土遺物 (10) …… 100
第 58 図　C地区出土遺物 (11) …… 101
第 59 図　D地区出土遺物 (1) …… 102
第 60 図　D地区出土遺物 (2) …… 103
第 61 図　D地区出土遺物 (3) …… 104
第 62 図　D地区出土遺物 (4) …… 105
第 63 図　D地区出土遺物 (5) …… 106
第 64 図　D地区出土遺物 (6) …… 107
第 65 図　D地区出土遺物 (7) …… 108
第 66 図　D地区出土遺物 (8) …… 109
第 67 図　D地区出土遺物 (9) …… 110
第 68 図　D地区出土遺物 (10) …… 111
第 69 図　D地区出土遺物 (11) …… 112
第 70 図　D地区出土遺物 (12) …… 113
第 71 図　D地区出土遺物 (13) …… 114
第 72 図　D地区出土遺物 (14) …… 115
第 73 図　D地区出土遺物 (15) …… 116
第 74 図　D地区出土遺物 (16) …… 117
第 75 図　D地区出土遺物 (17) …… 118
第 76 図　D地区出土遺物 (18) …… 119
第 77 図　D地区出土遺物 (19) …… 120
第 78 図　D地区出土遺物 (20) …… 121
第 79 図　SK17・18・19・81・111 出土遺物 …… 186
第 80 図　中央 5 丁目 1 区の推定位置 (1) …… 187
第 81 図　中央 5 丁目 1 区の推定位置 (2) …… 187

表目次

第1表　周辺の遺跡 ……6
第2表　遺物観察表
（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）……122
第3表　遺物観察表（木製品） ……133
第4表　遺物観察表（石製品） ……136
第5表　遺物観察表（銭貨・金属製品） ……137

写真図版目次

図版1　A地区 (1)
図版2　A地区 (2)
図版3　A地区 (3)
図版4　A地区 (4)
図版5　A地区 (5)
図版6　A地区 (6)
図版7　A地区 (7)
図版8　A地区 (8)
図版9　B地区 (1)
図版10　C地区 (1)
図版11　C地区 (2)
図版12　C地区 (3)
図版13　C地区 (4)
図版14　C地区 (5)
図版15　C地区 (6)
図版16　C地区 (7)
図版17　C地区 (8)
図版18　D地区 (1)
図版19　D地区 (2)
図版20　D地区 (3)
図版21　D地区 (4)
図版22　D地区 (5)
図版23　D地区 (6)
図版24　D地区 (7)
図版25　D地区 (8)
図版26　D地区 (9)
図版27　A地区出土遺物 (1)
図版28　A地区出土遺物 (2)
図版29　A地区出土遺物 (3)
図版30　A地区出土遺物 (4)
図版31　A地区出土遺物 (5)
図版32　A地区出土遺物 (6)
図版33　A地区出土遺物 (7)
図版34　A地区出土遺物 (8)
図版35　B地区出土遺物 (1)
図版36　C地区出土遺物 (1)
図版37　C地区出土遺物 (2)
図版38　C地区出土遺物 (3)
図版39　C地区出土遺物 (4)
図版40　C地区出土遺物 (5)
図版41　C地区出土遺物 (6)
図版42　C地区出土遺物 (7)
図版43　D地区出土遺物 (1)
図版44　D地区出土遺物 (2)
図版45　D地区出土遺物 (3)
図版46　D地区出土遺物 (4)
図版47　D地区出土遺物 (5)
図版48　D地区出土遺物 (6)
図版49　D地区出土遺物 (7)
図版50　D地区出土遺物 (8)
図版51　D地区出土遺物 (9)
図版52　D地区出土遺物 (10)
図版53　D地区出土遺物 (11)
図版54　D地区出土遺物 (12)
図版55　D地区出土遺物 (13)
図版56　D地区出土遺物 (14)

第1章　調査の経過

第1節　調査に至る経緯

都市計画道路和戸町竜王線の建設工事に伴い、平成30年5月8日付け中北建第4857号で山梨県中北建設事務所長から文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘通知が山梨県教育委員会教育長宛に提出された。それに対して山梨県教育委員会から、平成30年7月10日付け教学文第1240号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知に基づき、試掘・確認調査を実施することとなった。

調査対象地は、平成28年度から平成30年度にかけて本調査が実施された甲府市中央4丁目地内及び相生工区の東側に続く、同市中央5丁目地内から同市城東2丁目地内にかけての約6,040㎡の区域である。

周辺の調査状況等から、調査対象地には遺構・遺物が残存することが想定された。試掘調査及び建物解体時の立会調査により、近世から近代にかけての遺構・遺物が確認された。その結果を受けて山梨県中北建設事務所と協議を行い、令和元年度は1区4地点約722㎡を対象に本調査を実施した。

本調査は、甲府市教育委員会が山梨県中北建設事務所から事業の執行委任を受け、甲府市教育委員会歴史文化財課が主体となって、指名競争入札により昭和測量株式会社に業務委託した。調査は令和元年12月3日から令和2年3月27日の期間実施した。また整理作業及び報告書作成業務に関しては、令和2年7月15日から令和3年3月19日までの期間で上記業者に業務委託を行い実施した。

第2節　発掘作業の経過

調査地域周辺では都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴い、平成28年度より断続的に発掘調査が進められている。今回の発掘調査は、令和元年12月3日から令和2年3月27日まで行った。調査区は4地点に分かれており、発掘調査を行った順にAからDの地区名を付した。以下に調査経過の概略を記す。

令和元年

12月3日～13日　調査準備。近隣住民に挨拶、ヤード借り受け依頼等。

12月17日（火）　発掘機材、バックホウ、仮設トイレ搬入。

12月18日（水）　A地区西半部表土重機掘削。調査区仮囲い。

12月20日（金）　A地区西半部の遺構検出状況を写真撮影。焼土を埋土とする土坑数基を検出。

12月25日（水）　A地区西半部の遺構掘削が完了。完掘状況写真撮影。

12月26日（木）　A地区西半部の埋戻し。転圧と砕石の敷き直しを行い、当日中に終了。

令和2年

1月6日（月）　A地区東半部の調査区位置出し、仮設基準点設置、仮囲い等の環境整備。

1月7日（火）　A地区東半部の表土重機掘削を開始。

1月10日（金）　A地区東半部表土重機掘削を終了。

1月14日（火）　A地区東半部の遺構検出状況を写真撮影。
建物基礎の集石や埋桶、焼土埋土の土坑・溝などを検出。

1月21日（火）　城東2丁目のヤードに仮設ハウス設置。

1月22日（水）　A地区東半部遺構掘削完了。完掘写真撮影。

1月24日（金）　バックホウによりSK13・17の掘方確認掘削。記録が終了後、埋戻しを開始。

1月25日（土）　A地区東半部の埋戻し。砕石の敷き直しを行って当日中に原状復旧完了。

1月27日（月）　B地区東半部表土重機掘削。

1月29日（水）　B地区東半部人力掘削開始。隣接地からの漏水が多く、ポンプアップしながらの作業。
遺構検出状況の写真撮影。焼土埋土の大形土坑を2基検出。

1月31日（金）　B地区東半部遺構掘削完了。完掘写真撮影。
午後よりB地区西半部で重機で３ヶ所のサブトレンチ掘削。撹乱範囲と遺構面の深度確認後、埋戻しを行い、原状復旧した。
２月　４日（火）　C地区西半部の表土重機掘削およびB地区東半部の埋戻し。
２月12日（水）　C地区西半部の遺構検出状況を写真撮影。建物基礎とみられる集石を数基検出。
B地区西半部の調査。前回のサブトレンチ掘削によって、調査区内が大きく撹乱されていることが確認できたため範囲を限定して調査し、当日中に終了した。
２月13日（木）　D地区西半部の表土重機掘削。
２月15日（土）　C地区西半部の完掘状況を写真撮影し調査終了。
C地区東半部の表土重機掘削を行い、その掘削土で西半部を埋め戻した。
２月21日（金）　C地区東半部の遺構検出状況撮影。C地区と並行してD地区西半部の人力掘削開始。
３月　４日（水）　C地区東半部の完掘状況を写真撮影。引き続き、樋・竹管などの取上確認調査を開始。
D地区西半部の遺構検出状況の写真撮影。
３月　９日（月）　C地区東半部の樋・竹管の取上確認が終了し、調査完了。
３月13日（金）　D地区西半部の完掘状況を写真撮影。
C地区東半部の埋戻しを開始。
３月16日（月）　D地区西半部の埋戻しを行い、午前で終了。その後、東半部の表土重機掘削を開始。
C地区東半部の埋戻しを終了し、砕石を敷き均し等の原状復旧作業。
３月18日（水）　D地区東半部の遺構検出状況を写真撮影した。埋桶・埋甕を複数検出。
B地区の除草シートの張り直しや仮囲いなどの原状復旧作業。
３月26日（木）　D地区東半部の完掘状況を写真撮影。
３月27日（金）　D地区東半部の埋戻しを行い、砕石を敷き均して原状復旧した。午後より、仮囲いの撤去、仮設ハウス・トイレの搬出を行い、本日中に全ての作業を終了して現場を撤収した。

第３節　整理等作業の経過

整理・報告書刊行業務は、令和２年７月15日から令和３年３月19日の期間で、山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課の事務所内にて行った。

整理作業は遺物の水洗・注記から開始した。遺物の接合・復元・選別作業と進め、実測とトレース、写真撮影などの記録作業を行った後、木製品・金属製品の一部について、保存処理を公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。木製品や土壌試料などの自然科学分析については株式会社パレオ・ラボに委託した。現場の調査写真や遺構図についても順次整理作業を進め、遺物観察表の作成や報告書の挿図・図版の編集、本文執筆と作業を進め、令和３年３月19日に報告書を刊行した。

［調査体制］

調 査 担 当　志村憲一（甲府市教育委員会）
泉英樹・萩野谷主税・浅川晃一（昭和測量株式会社）
調 査 顧 問　新津健（昭和測量株式会社）
発掘作業員　青柳正史・長田秋文・齊藤里美・佐野香織・田丸進・内藤敏夫・広瀬ありさ・
松本榮一・三木一恵・山本修二
整理作業員　浅川悠紀子・今福ともみ・尾川正美・小澤美幸・垣内律子・齊藤里美・佐野香織・
広瀬ありさ・藤巻浩太郎

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境（第1図）

甲府城下町遺跡は、16 世紀末から 17 世紀初頭に造営された近世城下町である。甲府盆地北方の山地から流れる相川によって形成された扇状地の扇端部に位置し、西側に相川、南側に荒川、北東側に愛宕山（標高 423 m）の縁辺部を東へ走る藤川が流れ、それらの河川に囲まれた範囲に立地する。愛宕山から南西方向の一条小山（標高 304 m）の地には甲府城の天守台が築かれた。甲府城下町は、この天守台を中心として内堀・二の堀・三の堀と、三重の堀を巡らせた城下町である。二の堀の内側は武家屋敷地、その外側は町人地とされた。

調査地点は、甲府城下町遺跡の南東部に位置し、三の堀に囲まれた町人地に該当する場所である。調査地点の東側と南側、それぞれ約 200 mの地点には三の堀の東辺部と南辺部が現在も残る。

甲府城下町遺跡全体は、概ね標高 260 ～ 300 mの扇状地斜面に立地する。今回の調査地点の現況地盤の標高は 259.4 ～ 260.7 mであり、もっとも低い場所に立地している。

第２節　歴史的環境（第１図・第1表）

旧石器時代

周辺では、居住地とみられる遺跡は知られていない。八幡神社遺跡（24）ではナイフ形石器や切出形石器など４点の石器が見つかっているが、石器のみで剥片は無く、居住地とは考えられていない。他に、緑が丘スポーツ公園東側（第１図 11 の数字付近）の相川の河床でナウマンゾウの臼歯の化石が発見されている。出土した地層から８万年前のものと推定されており、当時の環境の一端を窺い知ることができる。

縄文時代

散布地と位置付けられる遺跡がほとんどであるが、甲府城下町遺跡から荒川を挟んで南西方向には上石田遺跡（43）が所在する。甲府盆地の底部という立地で初めて報告された縄文集落で、竪穴建物２軒、石囲い土坑１基などを検出している。主に中期後半の遺物が出土した。八幡神社遺跡では、主に中期中葉から後葉の土器や土偶が出土した他、黒曜石を主体とする石器や剥片が大量に出土しており、石器製作跡と位置付けられている。集落遺跡としては他に朝気遺跡（55）などがある。

弥生時代

前期の遺跡は確認されていない。周辺で最も古い段階の遺跡は、幸町Ａ遺跡（58）で、中期後半の土器が出土している。後期以降では遺跡数が増加し、古墳時代や平安時代まで継続する複合遺跡も多い。

古墳時代

甲府城下町遺跡の北西に位置する緑が丘二丁目遺跡（11）、西に位置する塩部遺跡（30）、南東に位置する朝気遺跡（55）などが代表的な集落遺跡である。緑が丘二丁目遺跡（2017 年度調査）では、弥生後期末から平安の竪穴建物を合わせて 14 軒、掘立柱建物を３軒検出している。中には排水溝を持つ竪穴建物（古墳後期）やカマドをもつ平地式建物（奈良）なども報告されている。塩部遺跡も弥生後期から平安まで継続する集落遺跡である。複数地点で発掘調査が実施されており、これまでに報告された竪穴建物・掘立柱建物などの建物の総数は 148 軒にのぼる。甲府工業高校地点では４世紀後半とされる方形周溝墓の周溝からウマの歯が出土した他、駿台甲府学園地点では古墳時代後期の流路から織機の部材と推定される木製品をはじめとして多数の木製品が出土している。朝気遺跡でも複数地点で調査が行われており、弥生時代末から平安時代の建物の他、弥生時代末の土器棺墓、古墳時代の方形周溝墓、平安時代の伸展葬人骨を伴う土坑墓なども検出している。これらの遺跡から想定される当時の環境は、活況を呈しており、甲府城下町遺跡内では近世以前の遺構の検出例は少ないが、城下町の範囲内にも各時代の生活域が広がっていた状況が想定できる。

古墳としては、甲府盆地北側の湯村山山麓に湯村山古墳群（4 ～ 8）、万寿森古墳（9）などが位置している。

古代

奈良・平安時代では、周辺は『和名類聚抄』にみえる巨麻郡9郷のうち、青沼郷に属すると推定される地域である。天平勝宝3年(751)以前に貢進されたとされる正倉院宝物の布に「巨麻郡青沼郷」の墨書銘があり、8世紀の中頃には、青沼郷が成立していたみられる。上述した緑が丘二丁目遺跡や塩部遺跡、朝気遺跡などでも平安時代の遺構が検出されている。特に朝気遺跡は青沼郷の中心地とも推定されており、第4・5次調査では、古墳時代後期から平安時代の竪穴建物・シガラミ状遺構、古墳前期の大溝、弥生末の合わせ口甕棺、平安時代の伸展葬人骨がみつかり、大溝からは人形・田舟・石製巡方・緑釉陶器なども出土している。

中世

後に甲府城が築城される一条小山(2)には、平安時代末に武田信義の嫡男である一条忠頼が居館を置いた。一条小山の名称はこれに由来する。寿永3年(1184)、忠頼は源頼朝に謀殺され、その弔いのため忠頼夫人によって尼寺が建立されたが、正和元年(1312)には一条時信によって時宗寺院に改められ、稲久山一条道場一蓮寺となった。一蓮寺はその後、武田信虎の一条小山への砦の普請に伴って小山原の地に移されたとされている。武田城下町遺跡(15)は、武田信虎が永正16年(1519)に甲府市東部に位置する川田館から、躑躅ヶ崎(現在の武田神社付近)へ居館を移したことにより開かれた城下町である。躑躅ヶ崎館の北には詰城の要害城、西に枝城の湯村山城などを築き、周囲の丘陵に烽火台が設置され要塞化が図られた。館の南側に開かれた城下町には、館の主郭部を軸として2町(約218m)間隔に設定した5本の南北基幹街路とこれに交差する東西街路が整備され、基幹街路には敵の進入に備えたクランクが設けられている。城下町の北半は武家屋敷地、南半は商職人町に大別された。武田城下町の南辺は近世の甲府城下町と重なっている。その他の周辺の遺跡では、緑が丘二丁目遺跡の1993年度調査では、屈葬の人骨が出土している。中世の土坑墓と推定され、北に位置する法泉寺に関係する墓地の可能性がある。法泉寺は武田信武が月舟禅師を招いて創建した寺院である。後には武田信玄が甲府五山の一つに定めたとされ、武田勝頼の菩提寺ともなっている。秋山氏館跡(49)からは土坑墓23基、荼毘状遺構2基、建物跡、井戸跡、区画溝が検出された。中世には墓域で、近世に至って秋山氏の屋敷となったと推定されている。秋山氏は中世から続く郷士で、江戸後期には村役人を務めている。

近世

天正10年(1582)の武田氏滅亡後の甲斐は、織田信長家臣河尻秀隆による支配となったが、まもなく本能寺で信長が倒れ、徳川家康家臣平岩親吉の支配となる。家康は甲府城の築城に着手するが、関東移封によって、今度は豊臣秀吉の家臣たちによる支配となる。甲府城の築城も、加藤光泰、浅野長政・幸長父子といった豊臣家の家臣に引き継がれ、浅野長政・幸長父子の頃(1600年頃)に一応の完成に至ったようである。関ヶ原の戦いの以後、甲斐は再び徳川家の支配となった。徳川家一門の城主や幕府直轄による支配が続いた後、宝永元年(1704)からの20年間は、柳沢吉保とその子吉里が甲府藩主となって、甲府城の改修や城下町の再整備が行われた。柳沢吉里の大和郡山への転封以後は、幕末まで幕府直轄領として甲府勤番による支配となった。甲府城下町遺跡(1)は、一条小山に総石垣の平山城として整備された甲府城(2)の周囲に、内堀・二の堀・三の堀と、三重の堀を巡らせた城下町である。二の堀の内側は武家屋敷地、その外側は町人地とされた。町人地は城の北側と南東側に整備された。城の北側の町人地は上府中(古府中)と総称された。上府中では武田時代の商職人町が組み込まれ、26町に区画されている。城の南東側の町人地は、新しく建設されたもので、下府中(新府中)と総称された。南北4条、東西6条の街路が整備され、碁盤目状に23町に区画された。調査地点は下府中の下連雀町に該当する。また、城下町の整備にあたって甲府上水が敷設されている。甲府上水は山宮で荒川から取水し、湯川を通して城下の下府中まで水を通したものであった。

近代

明治6年(1873)に甲府城は廃城となった。明治36年(1903)には中央線の開通と甲府駅の設置に伴って、屋形曲輪、清水曲輪が解体された。これと同時に甲府城下町は南北に分断された。その後、昭和30年代まで堀の埋め立てや石垣の解体が行われ、城下町は次第に市街地へと姿を変えていくこととなる。

第１図　遺跡の位置・周辺の遺跡分布図

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	種別
1	甲府城下町遺跡	近世	集落跡
2	甲府城跡	近世	城館跡
3	八幡東遺跡	弥生・古墳	散布地
4	湯村山５号墳	古墳時代	古墳
5	湯村山４号墳	古墳時代	古墳
6	湯村山３号墳	古墳時代	古墳
7	湯村山２号墳	古墳時代	古墳
8	湯村山１号墳	古墳時代	古墳
9	万寿森古墳	古墳時代	古墳
10	和田無名墳	古墳時代	古墳
11	緑ヶ丘二丁目遺跡	古墳～平安	古墳
12	緑ヶ丘一丁目遺跡	古墳時代	散布地
13	向田Ｂ遺跡		散布地
14	長閑遺跡	中世	包蔵地
15	武田城下町遺跡	中世	集落跡
16	大手下遺跡	縄文時代	散布地
17	永慶寺跡	中世	寺院跡
18	岩窟Ｃ遺跡	古墳時代	散布地
19	中道東遺跡	近世	散布地
20	中道西遺跡	古墳時代	散布地
21	岩窟遺跡	奈良・平安・中世	包蔵地
22	山梨大学遺跡	奈良・平安	包蔵地
23	コツ塚古墳	古墳時代	古墳
24	八幡神社遺跡	縄文時代	散布地
25	二ッ塚２号墳	古墳時代	古墳
26	二ッ塚１号墳	古墳時代	古墳
27	二ッ塚３号墳	古墳時代	古墳
28	大笠山水の元遺跡	古墳時代～	散布地
29	新紺屋小学校遺跡	近世	散布地
30	塩部遺跡	弥生～平安	包蔵地
31	富士見遺跡	古墳・平安	散布地
32	宝町遺跡	縄文・平安	包蔵地
33	寿町遺跡	古墳時代～	包蔵地
34	御崎田遺跡	平安時代	散布地
35	亥ノ兎遺跡	平安時代～	散布地
36	地蔵北遺跡	古墳～平安	散布地
37	大六天遺跡	平安時代～	散布地
38	宮裏遺跡	平安時代～	散布地
39	銀杏之木遺跡	平安～近世	散布地
40	東光寺遺跡	平安時代～	散布地
41	宮の前遺跡	縄文時代	散布地
42	上石田Ｂ遺跡	平安時代	散布地
43	上石田遺跡	縄文時代	集落跡
44	上河原遺跡	平安時代～	散布地
45	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
46	大北河原遺跡	平安時代	散布地
47	久保北河原遺跡	平安時代	散布地
48	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
49	秋山氏館跡	中世	城館跡
50	千松院遺跡	中世～	散布地
51	太田町遺跡	古墳時代～	散布地
52	青沼遺跡	古墳時代	包蔵地
53	青沼三丁目遺跡	中世～	散布地
54	湯田一丁目遺跡	古墳時代	散布地
55	朝気遺跡	縄文～平安	集落跡
56	伊勢町遺跡	古墳時代	包蔵地
57	食糧工場遺跡	縄文・弥生	包蔵地
58	幸町Ａ遺跡	弥生時代	包蔵地
59	木保遺跡	近世	散布地
60	般舟院跡	中世	寺院跡
61	幸町Ｂ遺跡	古墳時代	散布地
62	住吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
63	南口町Ａ遺跡	平安時代	散布地
64	南口町Ｂ遺跡	平安時代	散布地
65	里吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
66	家之前遺跡	平安時代	散布地
67	字前Ａ遺跡	古墳時代	散布地
68	十丁遺跡	古墳時代	散布地
69	十丁Ｂ遺跡	古墳時代	散布地
70	字前Ｂ遺跡	古墳時代	散布地
71	北桜遺跡	平安時代	散布地
72	野村遺跡	古墳～平安	散布地
73	青葉町遺跡	平安時代	散布地
74	二又遺跡	古墳時代	包蔵地
75	宮田遺跡	弥生・平安	散布地
76	上ノ木遺跡	古墳～平安	散布地
77	明石西河原遺跡	平安時代	散布地
78	上町天神遺跡	古墳～平安	散布地
79	大土井遺跡	平安時代	散布地
80	土尻遺跡	中世	散布地
81	小宮氏館跡	中世	城館跡

第３章　調査の方法

第１節　調査の方法（第２・３図）

調査区は、商店や民家が集中する市街地に所在する。和戸町竜王線街路事業に伴い、建物等の構造物が撤去され調査条件が整ったところから、平成 28 年度より順次発掘調査を進めている。今回の調査区は飛び地で４地区に分かれる。当初は西から東へ①～④区と地区名を付したが、実際の発掘調査は東端に位置する④区から始め、最後に①区を行うこととなった。現場調査の終了までこの地区名を使用したが、本書では記載の都合上、調査を進めた順番に、④区をＡ地区、③区はＢ地区、②区はＣ地区、①区はＤ地区とした。

各調査区はガードフェンスやＡ型バリケードで仮囲いし、夜間点滅灯を設置した。重機等の出入りがある際は交通誘導員を配置し、歩行者や車両の交通の安全確保に努めた。それぞれの調査区が現道に面しており、近隣住民の現道への出入りや排土のヤードを確保するため、調査は全て反転掘削で行った。また排土はブルーシートで覆って養生し、近隣への土砂の飛散防止に配慮した。

調査では、各調査区の現地盤の直下で甲府空襲時の焼土や瓦礫が出土する層（戦災焼土層）が検出されたが、この戦災焼土層と明らかに近現代と判断できる土層までをバックホウによる表土掘削の対象とした。それより下位については調査区の壁面で土層確認しながら人力で掘り下げを行った。土層では上下に複数の整地層が確認できる箇所があり、層位ごとの遺構確認に努めた。整地層の面的な広がりが確認できない場合や遺構検出が困難な場合は、地山上面まで掘り下げて遺構確認を行った。遺構掘削は全て人力で行ったが、Ａ地区で検出した埋桶（ＳＫ 13B）と大形の廃棄土坑（ＳＫ 17）については、切り合いと掘方確認のための断割掘削をバックホウを用いて行った。

各地区の遺構検出状況は写真や概略図などで記録した。遺構番号は調査区にかかわらず遺構種別ごとに連番で番号を付した。なお、遺構番号は遺構検出時点で使用したものを整理報告まで用いることとし、調査および整理の過程で新たに遺構の性格が判明した場合は本文中に記述した。遺構測量は、土層断面は手描き実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量は主にポール撮影で行った。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げたが、小片については遺構出土のものは遺構一括とし、遺構外出土遺物については約４m四方の範囲で一括して位置を記録した。遺構写真撮影には一眼レフデジタルカメラ（NikonD7000）を使用した。測量図化システムとして CUBIC 社「遺構くん」、写真測量には Agisoft 社「PhotoScan Professional」を用いた。各調査区の完掘時には完掘状況の全体写真撮影と合わせてポールによる写真撮影も行った。反転掘削後、再びポール撮影を行い、「PhotoScan Professional」で補正し、反転前後で合成して調査区ごとのオルソモザイク写真を作成した。各調査区の調査終了時には甲府市教育委員会の確認を受けた。

整理作業は遺物の水洗、注記、接合、復元と進めた後、実測遺物・分析試料・保存処理遺物を選定した。選定にあたっては甲府市教育委員会の確認を受けた。土壌試料等の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに、木製品・金属製品の保存処理については公益財団法人山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。

遺物実測は手描きで行い、写真撮影は一眼レフデジタルカメラ（NikonD7200）を用いた。染付などの図化については手描き実測図のトレースデータに補正した写真データを合成した。トレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業には adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」をそれぞれ使用した。

陶磁器類の分類や遺物観察表の記載については『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会他 1992）、『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内 43 街区）』（山梨県埋蔵文化財センター 2004）を参考とし、隣接する『甲府城下町遺跡ＸＸ』（甲府市教育委員会 2020）の報告に準拠することとした。

第２節　基本層序

遺構検出面とした地山上面の標高は、全調査区で 259.0 ～ 260.0m を測る。西から東へ向かってゆるやかに低くなる地形である。

基本層序は各調査区の壁面で観察した。撹乱などを除き、一定の範囲で連続する土層を両期ととらえて基本層序を記録した。現代の表土はⅠ層とし、近世から近代とみられる土層をⅡ層、それ以前と考えられる土層をⅢ層、地山はⅣ層とし、必要に応じて小文字のアルファベットや枝番を付与して細分した。

各調査区を通じて観察できた土層について概説する。

Ⅰ層では甲府空襲（昭和 20 年７月６日から７日未明）で生じた焼土・瓦礫を含む層（戦災焼土層）があり、全ての調査区の現地盤の直下に広く堆積する。発掘調査ではこの戦災焼土層と明らかに近現代と考えられる土層を重機による表土掘削の対象とした。

Ⅱ層では複数の整地層と焼土層を検出した。整地層はオリーブ褐色シルトなどを基調とした客土とみられる土層である。層厚５～ 10㎝程度で硬く締まり、ほぼ水平堆積する。場所によっては上下に複数の整地層が観察できた。このため、上位に位置する整地層をⅡａ層、中位の整地層をⅡｂ層、下位に位置する整地層をⅡｃ層などとして細分した。焼土層は黒褐色粘土質シルトなどを基調とし、焼土や炭化物の粒が多く含まれる層である。各調査区の壁面でこの焼土層が上下に重なっている地点を複数検出しており、戦災以前に最低でも２回以上、この地域全体を大きな火災が襲ったと考えられる。また焼土層と整地層の堆積状況から、火災発生後に整地を行って町を復旧した状況が推測できる。

Ⅲ層は中世やそれ以前の時期の包含層を想定して設定したが、一部を除いてほとんど使用しておらず、調査を通じて近世以前に遡る遺物はほとんど出土しなかった。

Ⅳ層は粘土質の自然堆積層で地山である。全調査区で黒褐色粘土の厚い堆積を確認しており、地点によってはこの上に黄灰色などのやや白い粘土層の地山が層厚 10 ～ 20㎝ほど堆積する。最終的な遺構検出はⅣ層の地山上面で行った。

以下、調査区ごとに記述する。

A地区（第６・８・10 図）

地山上面の標高は 259.0 ～ 259.5m を測り、東に向かって低くなる。

調査区西半部のＳＫ２・３付近では、現地盤直下に、甲府空襲時の焼土や瓦礫を含むⅠｂ層（戦災焼土層）が層厚 20㎝ほど堆積し、その下に層厚５～ 20cm のⅡａ層（整地層）や層厚 10㎝のⅡｂ層が堆積する。Ⅲ層はない。遺構検出は、黄灰色粘土のⅣａ層上面で行った（第６図：ＳＫ２・３）。

調査区東半部のＳＫ 17 付近でも現地盤直下にⅠｂ層が堆積するが、層厚は 40㎝と厚くなる。その下に堆積するⅡ層は複数の整地層からなる。ＳＫ 17 の南壁では上下に重なった３枚の整地層（Ⅱa-1 層･Ⅱb-1 層･Ⅱｃ層）を確認した。それぞれオリーブ褐色シルトなどを基調とし、層厚５～ 10㎝程度に薄く水平堆積する（第８図：ＳＫ 17 南壁断面図）。調査区内ではⅠｂ層が厚く堆積しており、これらの整地層の平面的な広がりは限定的であった。Ⅲ層は調査区の南東隅部のみで検出した。Ⅱｃ層下に堆積し、調査区の東西方向の壁面では連続する水平堆積にみえたが、確認部分が狭く、その性格は不明である（第 10 図：Pit16 断面図）。Ⅳ層の地山は、調査区東半部では黄灰色粘土のⅣａ層が次第に薄くなり、代わりに黒色粘土のⅣｂ層が堆積する。

遺構検出は遺存するⅡｃ層上面を確認した後に、東半部では黄灰色粘土のⅣａ層上面、西半部では黒色粘土のⅣｂ層上面まで掘り下げて確認した。

検出状況や切り合いから、石列（ＳＳ１～４）や集石遺構（Pit ５～ 10）などは上層遺構、埋桶（ＳＫ 13 Ａ・ＳＫ１３B）や廃棄土坑（ＳＫ 17）などは下層遺構に大きく分けられる。

B地区（第 12 図）

地山上面の標高は 259.5 ～ 259.6m とほぼ平坦である。

Ⅰa層 (造成土) が主に調査区南半部に堆積しており、層厚は 30㎝である。調査区の北半部ではⅠb層 (戦災焼土層) が現況面に露出した状況であった。層厚は 10㎝である。その下のⅡa層、Ⅱb層は整地層とみられる水平堆積層で、Ⅱa層が層厚 10 ～ 15cm、Ⅱb層が 10 ～ 20㎝である。Ⅲ層はなく、Ⅱb層の直下が黒色粘土のⅣb層で、地山となる。

遺構検出はⅣb層上面で行った。検出遺構のＳＫ 18･19 は埋土に焼土や炭化物を多く含む大形土坑である。

C地区（第 20 図）

地山上面の標高は 259.9 ～ 260.0 mとほぼ平坦である。

調査区東半部の土層観察では、Ⅰa層は現況の砕石層で、その下にⅠb層（戦災焼土層）が層厚 20 ～ 30㎝堆積する。Ⅰb層の直下には整地層のⅡa層が堆積する。黄灰色砂質シルトを基調とする水平堆積層で、層厚は 5 ～ 10㎝である。Ⅱb層以下は厚さ 20 ～ 30㎝にわたって様々な土層が入り混じり、連続性を持つ土層はないが、焼土・炭化物を含む土層を複数検出している。地山のⅣa層の直上には整地層のⅡc層が堆積する。暗灰黄色砂質シルトを基調とする水平堆積層で、層厚は 5㎝である。Ⅱc層の直下が暗灰黄色粘土を基調とするⅣa層で、地山となる。Ⅳa層の 10㎝ほど下位には黒褐色粘土のⅣb層が堆積する。

遺構検出はⅡc層上面とⅣa層上面で行った。

検出状況や切り合いから、ＳＤ３～８や集石遺構（ＳＫ 32・33・43・55・59・60）などは上層遺構、上水遺構（ＳＤ９・10、ＳＫ 51）などは下層遺構に大きく分けられる。

D地区（第 31・33 図）

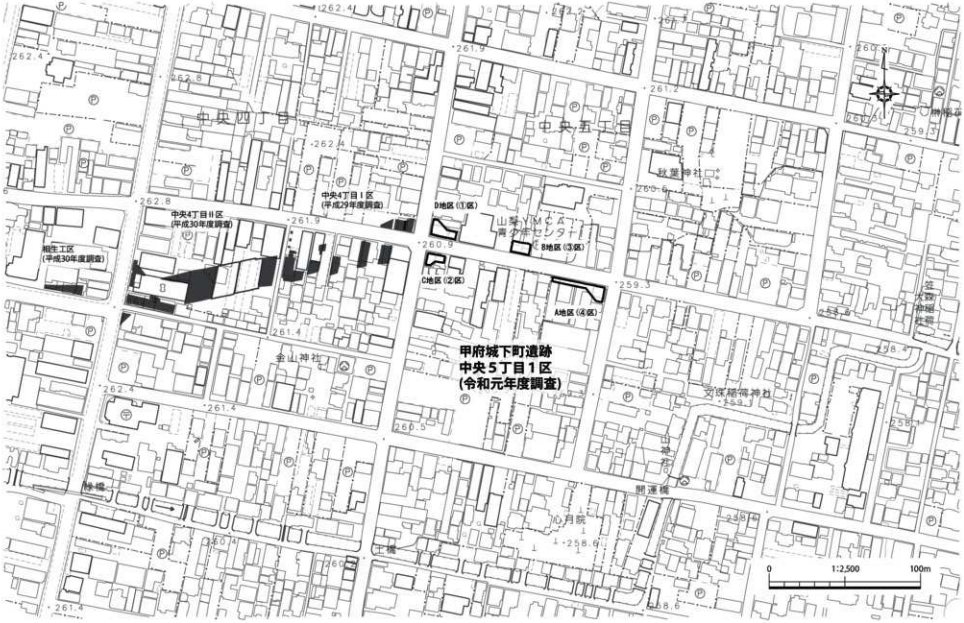
地山上面の標高は 259.7 ～ 260.0m を測る。

調査区西半部のＳＤ 12 付近ではⅠa層は現況の砕石層である。その下層はⅠb層（戦災焼土層）で、層厚 16㎝で堆積する。Ⅱ層では層厚４～８㎝の薄い水平堆積層が４枚重なる。このうち、Ⅱa － ２層とⅡb層は暗灰黄色砂質シルトを基調とした硬く締まった土層で整地層である。Ⅲ層はなく、黄灰色粘土のⅣa層が地山となる。層厚１０㎝のⅣa層の下層には黒褐色粘土を基調としたⅣb層が堆積する(第 33 図:ＳＤ 12 西壁断面図)。

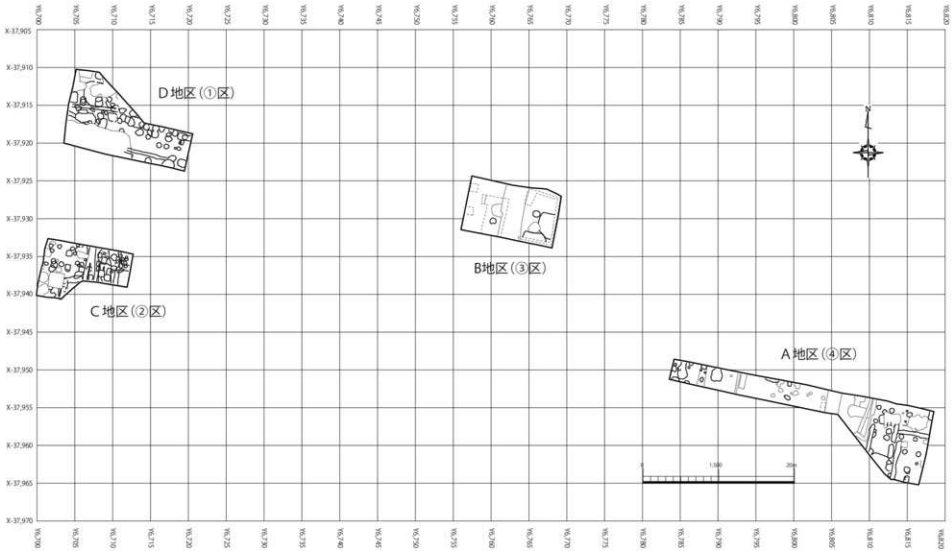
調査区東半部のＳＫ 111 付近ではⅠa層は現況の砕石層である。その下のⅠb層は層厚５～ 20㎝ほどの水平堆積層が幾重にも重なっており、枝番を付して細分した。Ⅰb層全体では層厚約 40㎝となる。Ⅰb層下ではⅡa-1 層、Ⅱb-1 層、Ⅱc層などとした整地層が堆積する。それぞれオリーブ褐色砂質シルトなどを基調とした水平堆積層で、層厚は５～ 10㎝である。Ⅱb-2 層もオリーブ褐色砂質シルトを基調とするが、焼土・炭化物を多く含む焼土層である。Ⅲ層はなく、黒褐色粘土質シルトのⅣb層が地山となる（第 31 図：ＳＫ 111 東壁断面図)。

遺構検出はⅡc層上面と、Ⅳa層またはⅣb層上面で行った。

検出状況や切り合いから、石列（ＳＳ７～ 10）や井戸（ＳＫ 106）は上層遺構、埋桶（ＳＫ 94・95・100・103 など）や上水遺構（ＳＤ 12・13）などは下層遺構に大きく分けられる。


中央四丁目
中央五丁目
中央4丁目Ⅱ区
(平成30年度調査)
中央4丁目Ⅰ区
(平成29年度調査)
相生工区
(平成30年度調査)
B地区(1区)
B地区(3区)
C地区(2区)
A地区(4区)
山梨YMCA
青少年センター
甲府城下町遺跡
中央5丁目1区
(令和元年度調査)
金山神社
玉宮神社
交区稲荷神社
明運橋
心月院
0
1:2,500
100m

第2図　調査地点位置図



第３図　調査区区割図

第４章　調査の成果

第１節　Ａ地区（第４・５図、図版１）

Ａ地区は、連雀町通りの南側、中央５丁目交差点付近に位置し、今回の調査範囲ではもっとも東側に位置する調査区である。西半部は細長いトレンチ状、東半部は計画道路の隅切りとなることが予定されている部分で、台形状である。調査は反転掘削で行い、西半部を調査した後、東半部の調査を行った。

西半部では遺構の分布は希薄であった。東半部では建物の基礎とみられる集石遺構や南北方向に走る石列、埋桶３基と大形の廃棄土坑１基などを検出している。これらの集石遺構や石列の軸方向は、現在の市街の区画と一致しており、現在の区画が近世・近代と踏襲されてきたものであることが窺い知れる。

また、攪乱扱いとしたが、やや大形の土坑を３基検出している。これらの土坑からは大量の破損した瓦や陶磁器、被熱により溶けたガラスなどが焼土とともに出土しており、甲府空襲で生じた瓦礫の廃棄土坑とみられる。土坑の形状は、坑内は方形を呈し、規模は長さ２～３ｍ、幅１.５ｍ、深さは 50㎝ほどであった。

ＳＫ１（廃棄土坑）（第６・36 図、図版２・27）

［位置・重複］調査区の西半部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.7ｍ、幅 1.4ｍ、深さは 16㎝を測る。覆土は暗褐色粘土質シルトを基調とする。焼土・炭化物を多く含んでおり、火災によって生じた焼土・炭化物などを処理した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物］磁器・陶器の小片３点と硯が出土した。このうち硯を図示した。１は硯である。硯面の中央に使用痕の凹みがある他、複数の刃物痕があり、砥石に転用したものとみられる。

［時期］焼土・炭化物を含む覆土が共通しており、ＳＫ２・３・４と同時期の遺構である可能性が高い。近世の遺構と推定する。

ＳＫ２（廃棄土坑）（第６・36 図、図版２・27）

［位置・重複］調査区の西半部の南西隅に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.1ｍ、幅 42㎝、深さは 30㎝を測る。覆土は、黒褐色粘土質シルトを基調とする。焼土・炭化物を多く含んでおり、それらの廃棄土坑と推定する。

［出土遺物］磁器の小片３点と銭貨が１点出土し、銭貨を図示した。２は寛永通寶である。

［時期］覆土からＳＫ１・３・４と同時期の遺構である可能性が高い。近世の遺構と推定する。

ＳＫ３（廃棄土坑）（第６図、図版２）

［位置・重複］調査区の西半部の西端部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 68ｍ、幅 58㎝、深さは 16㎝を測る。覆土は、黒褐色粘土質シルトを基調とする。焼土・炭化物を多く含んでおり、それらの廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物はないが、覆土からＳＫ１・２・４と同時期の遺構である可能性が高い。近世の遺構と推定する。

ＳＫ４（廃棄土坑）（第６・36 図、図版２・27）

［位置・重複］調査区の西半部中央の北壁付近に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］大部分は調査区外である。平面形の全容は不明で、検出部分では長さ 1.86ｍ、幅 28㎝、深さは 84㎝を測る。覆土は、上層は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層では黒色粘土質シルトを基調とし、径 10㎝ほどの礫を含んでいる。火災によって生じた焼土・炭化物などの廃棄土坑と考える。

［出土遺物］出土遺物のうち、5点を図示した。3・4は土器の皿である。煤が付着しており、灯明皿とみられる。5は陶器の擂鉢である。口縁部は玉縁形である。6は硯である。硯面に使用痕の凹みが2条みられ、墨痕も残る。7は石臼で、上臼である。底面は大きく磨り減っている。

［時期］覆土からＳＫ１・２・３と同時期の遺構である可能性が高い。出土遺物からも近世の遺構と推定する。

ＳＫ５（第7図、図版２）

［位置・重複］調査区の西半部の北壁付近に位置する。現代のコンクリート擁壁に撹乱される。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 70㎝、幅 44㎝、深さは 64㎝を測る。現代のコンクリート擁壁の直下で検出しており、南側でも同じ擁壁の下でＳＫ６を検出した。検出面の上面では礎石とみられる石を検出し、その下から２本の木杭を検出した。覆土は、オリーブ黒色粘土を基調とし、締まりがゆるい。ある程度の深さまで掘り下げた後で、木杭を地山に打ち込んだとみられる。建物の柱の基礎と推定する。ＳＫ６との柱間は 1.8m である。

［出土遺物・時期］出土遺物はないが、検出状況や土層観察から近代以降とみられる。

ＳＫ６（第7図、図版２）

［位置・重複］調査区西半部のＳＫ５の南側に位置する。現代のコンクリート擁壁に撹乱される。

［検出状況・覆土］撹乱されており、これを除去したところ、木杭３本を検出し、ＳＫ６とした。覆土は記録していない。ＳＫ５と同様にもともとは木杭を打ち込んだ上に礎石を据えた構造であったとみられる。平面形はやや不整形で、長さ 52㎝、幅 46㎝、検出面からの深さは 40㎝を測る。北側では同じ擁壁下でＳＫ５を検出しており、ＳＫ５との柱間は 1.8m である。

［出土遺物・時期］出土遺物はないが、検出状況や土層観察から近代以降とみられる。

ＳＫ７（集石遺構）（第７・36 図、図版２・27）

［位置・重複］調査区西半部の南壁付近に位置する。重複はない。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 66㎝、幅 30㎝、深さ 16㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、炭化物を含む。底面に方形の扁平な石が据えられる。石の下に木杭は検出されなかったが、建物の柱の基礎と推定する。北側ではＳＫ９を検出しており、ＳＫ９との柱間は 2.5m である。

［出土遺物・時期］出土遺物は土製品が１点であった。８は飯事道具で、羽釜のミニチュアである。時期は不明である。

ＳＫ８（集石遺構）（第７図、図版３）

［位置・重複］調査区西半部の中央付近に位置する。重複はない。

［検出状況］平面形は不整形である。長さ 90㎝、幅 50㎝、深さ 16㎝を測る。径 10 ～ 15㎝の礫が８個据えられていた。石の下に木杭はない。建物の柱の基礎と推定する。北側ではＳＫ 10 を検出しており、ＳＫ 10 との柱間は 1.8m である。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

ＳＫ９（集石遺構）（第７図）

［位置・重複］調査区西半部の北壁付近に位置する。重複はない。

［検出状況］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 90㎝、幅 50㎝、深さ 16㎝を測る。径 10 ～ 15㎝の礫が８個据えられていた。石の下に木杭はないが建物の柱の基礎と推定する。北側ではＳＫ７を検出しており、ＳＫ７との柱間は 2.5m である。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

ＳＫ 10（集石遺構）（第７図、図版３）

［位置・重複］調査区西半部中央の北壁付近に位置する。重複はない。

［検出状況］平面形は方形を呈し、長さ 52㎝、幅 50㎝、深さ 10㎝を測る。径 10㎝の礫で充填されており、

柱の基礎とみられる。礫の下に木杭はない。南側に位置するＳＫ８との柱間は 1.8m である。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

ＳＫ 11（第７・36 図、図版３・27）

［位置・重複］調査区東半部の北東隅に位置する。調査区の壁面ではＳＫ 11 の上面に石列を検出している。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.12m、幅 46㎝、深さ 10㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

［出土遺物・時期］出土遺物は少ないが、３点を図示した。９は土器の皿である。10 は寛永通寶で、11 は不明銭貨である。近世の遺構と推定する。

ＳＫ 12（第７図、図版３）

［位置・重複］調査区東半部の北東部に位置する。戦災瓦礫の廃棄土坑に攪乱される。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形を呈し、長さ 76㎝、幅 60㎝、深さ 16㎝を測る。覆土は、中央部に暗赤褐色シルトの焼土層で粗砂を多く含む層が堆積する。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、時期は不明である。

ＳＫ 13 Ａ（埋桶）（第８・36 図、図版３・４・27）

［位置・重複］調査区東半部の南端部に位置する。切り合いではＳＳ３に先行し、ＳＫ 17 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は円形とみられる。検出部分で長さ 54㎝、幅 38㎝、深さ 30㎝を測る。検出時はＳＫ 13 Ｂとともに、その上面をにぶい黄橙色の粘土に覆われており、同時期に埋没したと推定できる。桶の下半は遺存しており、底板の直径は 38.5㎝を測る。覆土は、桶内の上層はオリーブ黒色粘土質シルトに灰オリーブ色の粘土ブロックを含む土層が堆積する。下層は灰オリーブ色粗砂である。

［出土遺物］出土遺物は陶器・磁器・瓦・土器などがあるが、いずれも小片で、図示できたのは２点である。15 は陶器である。瀬戸美濃系の容器付き灯明受皿で、立鼓形の形状を呈す。16 ～ 23 は木製品の桶で、16 ～ 22 は側板、23 は底板である。19 の側板には円形の栓がある。また、22・23 の側板内面には石灰状の付着物が観察された。23 の底板の裏面には墨書がある。

［時期］15 や、図示していないが焼継痕のある磁器片がある。検出状況からＳＫ 13 Ｂと併存していた可能性が高く、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 13 Ｂ（埋桶）（第８・37・38 図、図版３・４・５・28・29）

［位置・重複］調査区東半部の南端部に位置する。切り合いではＳＳ３に先行し、ＳＫ 17 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は円形とみられる。検出部分では長さ 1.16m、幅 80㎝、深さ 84㎝を測る。検出時にはＳＫ 13 Ａとともに、その上面をにぶい黄橙色の粘土に覆われており、大小の埋桶を並べて設置していた可能性が高い。桶が遺存しており、底板の直径は 84㎝を測る。掘方の覆土は、腐食した木質遺物を多く含む暗灰色粘土質シルトが堆積し、締まりがゆるい。遺物の多くは桶内の下層から出土した。その堆積物を試料として分析を行っている。動物遺体ではシジミ属やマルタニシなどの貝類を検出している（第５章第３節）。植物遺体ではブドウ、メロン仲間、ゴボウが得られた（第５章第４節）。

［出土遺物］出土遺物は比較的多く、25 点を図示した。24 ～ 30 は磁器である。24 は薄手酒坏、25・26 は碗、27･29 は小皿、28 は鉢、30 は瓶とみられる。31 ～ 37 は陶器である。31 は小坏である。32･33 は皿で、灯明皿とみられる。34･35 は土瓶、36･37 は蓋である。38 は土器の植木鉢、39 は軒桟瓦、40 は桟瓦である。41 は金属製品で、板状の金具である。42 ～ 70 は木製品である。42・43 は箸、44・45 は漆器蓋、46 は下駄である。差歯下駄で、歯は欠損する。47 は不明としたが、裁縫道具の可能性がある。48 は円形部材である。49 ～ 70 は桶で、49 ～ 69 が側板、70 は底板である。59 の側板には円形の栓がある。ほとんどの側板の内面には石灰状の付着物がみられる。

［時期］出土遺物の推定生産年代は概ね 19 世紀中葉を下限とする。遺構の時期は近世である。

ＳＫ 14（第７・36 図、図版 27）

［位置・重複］調査区東半部の南側に位置する。切り合いでは Pit19 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形はややいびつな円形である。長さ 78㎝、幅 68㎝、深さ８㎝を測る。覆土は、黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器の小片が出土した。12・13 は陶器で、12 は灯明皿、13 は蓋である。時期は不明である。

ＳＫ 15（第７図）

［位置・重複］調査区東半部の北側に位置する。戦災時の瓦礫土坑に撹乱される。

［検出状況・覆土］平面形は方形を呈すとみられる。検出部分では長さ 52㎝、幅 46㎝、深さ８㎝を測る。覆土は、黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。甲府空襲以前の土坑であるが、詳細時期は不明である。

ＳＫ 16（第７・36 図、図版 27）

［位置・重複］調査区東半部の北側に位置する。戦災時の瓦礫土坑に撹乱される。

［検出状況・覆土］平面形は不整形である。検出部分では長さ 1.2m、幅 64㎝、深さ 12㎝を測る。覆土は、黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物・時期］磁器・陶器が少量出土している。14 は磁器の蓋である。遺構の時期は近代と推定する。

ＳＫ 17（廃棄土坑）（第８・39 ～ 42 図、図版５・30・31）

［位置・重複］調査区東半部の南端部に位置する。切り合いではＳＫ 13 Ｂに先行する。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 2.4m、幅 1.9m、深さ 90㎝を測る。整地層の最下層にあたるⅡｃ層下で検出した。覆土は上層にオリーブ黒色粘土質シルト、中層に灰色粘土質シルト、下層に黒色粘土質シルトが堆積する。いずれの土層も締まりはゆるい。上層からは炭化物の他、陶磁器片や破砕貝が多く出土し、中層と下層からは腐食した木質遺物も出土した。これらの堆積物を試料として分析を行った。動物遺体ではマグロ属・ハマグリ・シジミ属などを検出した（第５章第３節）。植物遺体ではトウガンと二ホンカボチャを検出している（第５章第４節）。寄生虫卵の検出はわずかであるが（第５章第５節）、昆虫分析の結果、生活ゴミの廃棄場所（第５章第６節）と推定されている。またＳＫ 17 の埋没後、ＳＫ 17 を掘り返してＳＫ 13 Ａ・Ｂの埋桶が設置されている。

［出土遺物］出土遺物は多く、48 点を図示した。

71 ～ 89 は磁器である。71 は端反碗形の小碗である。72 ～ 80 は碗で、72 は筒形碗形、75 ～ 78 は広東碗形である。74 には漆継ぎ痕、77 には焼継ぎ痕が残る。81 は仏飯器である。82・83 は皿で、83 は墨弾き技法による花唐草文が施され、漆継ぎ・焼継ぎの両方の痕跡が残る。84・85 は鉢である。85 には焼継ぎ痕と「ユサ七」の焼継ぎ印がみられる。また Pit15 出土の破片と遺構間接合している。86 ～ 89 は蓋で、86・87 は碗蓋、88・89 は蓋物蓋で、88 には焼継ぎ痕と焼継ぎ印がみられる。

90 ～ 102 は陶器である。90・91 は碗、92 は仏飯器、93 は灯明受皿、94 は片口である。95 は擂鉢で、漆継ぎの痕跡がみられる。96 は土鍋で、紐状の把手がつく。97 は後手筒形の水注である。98 ～ 100 は土瓶である。99 の体部形状は算盤形、100 は茶釜形を呈す。101 は急須蓋、102 は土瓶蓋である。

103 ～ 105 は土器である。103 は七輪五徳、104 はさな、105 は焜炉である。

106 ～ 118 は木製品である。106 ～ 112 は箸、113 は漆器蓋である。114 はほぼ完形で出土した連歯下駄である。115 ～ 118 は部材である。

［時期］出土遺物の推定生産年代は 18 世紀代にさかのぼることができるものもみられるが、19 世紀前葉から中葉を主体としている。切り合いではＳＫ１３Ｂに先行しており、遺構の時期は近世である。

Pit 1（第９図、図版５）

［位置・重複］調査区西端部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は円形である。径 29㎝、深さ 30㎝を測る。覆土は、暗褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。東側に Pit 2・3が位置しており、同一の軸線上に並ぶ。Pit 2との柱間は 1.8mで、柱穴と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

Pit 2（第9図、図版 5）

［位置・重複］調査区西端部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は円形である。径 30㎝、深さ 16㎝を測る。覆土は、暗褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。西側に Pit 1、東側に Pit 3が位置しており、同一の軸線上に並ぶ。Pit 1・3との柱間はそれぞれ 1.8mで、柱穴と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

Pit 3（第9図、図版 5）

［位置・重複］調査区西端部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は円形である。径 29㎝、深さ 21㎝を測る。覆土は、暗褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。西側に Pit 1・2が位置しており、同一の軸線上に並ぶ。Pit 2との柱間は 1.8mで、柱穴と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

Pit 4（第9図、図版 5）

［位置・重複］調査区西端部に位置し、Pit 3に隣接する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形である。長径 26㎝、短径 20㎝、深さ 16㎝を測る。覆土は、暗灰黄色粘土質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

Pit 5（集石遺構）（第9図、図版 6）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ 56㎝、幅 50㎝、深さ 10㎝を測る。径 20 ～ 30㎝の礫が5個据えられた集石遺構である。Pit 5～ 10 の6基で方形区画を構成しており、Pit 6・7との柱間はそれぞれ 1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物はないが、同時期とみられる Pit 9・10 の出土遺物から、近世と推定する。

Pit 6（集石遺構）（第9図、図版 6）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は円形で、径 64㎝、深さ 20㎝を測る。径 10㎝ほどの礫を多量に据えた集石遺構である。Pit 5～ 10 の6基で方形区画を構成しており、Pit 5・8との柱間はそれぞれ 1.8mである。建物の柱の基礎と考える。

［出土遺物・時期］図示していないが、陶器の小片が2点出土している。同時期の Pit 9・10 の出土遺物から近世と推定する。

Pit 7（集石遺構）（第9図、図版 6）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径 58㎝、短径 50㎝を測る。径 20 ～ 30㎝の礫を6個据えた集石遺構である。Pit 5～ 10 の6基で方形区画を構成しており、Pit 5・8との柱間はそれぞれ 1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物はないが、同時期の Pit 9・10 の出土遺物から、近世と推定する。

Pit 8（集石遺構）（第9・43図、図版 6・32）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。戦災瓦礫の廃棄土坑に攪乱される。

［検出状況］戦災瓦礫の廃棄土坑に撹乱されていたが、石臼の破片や複数の礫が固まって検出された。位置関係からある程度原位置を保っていると考え、遺構番号を付与した。平面形は不明である。Pit 5～10の6基で方形区画を構成しており、Pit 6・10との柱間はそれぞれ1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］撹乱されているが磁器・陶器・土器の小片の他、石臼が出土した。このうち石臼を図示した。119は石臼で、礎臼の下臼である。天面がゆるく膨らみ、溝が刻まれる。また芯棒孔の痕跡が遺存する。遺構の時期は、同時期のPit 9・10の出土遺物から、近世と推定する。

Pit 9（集石遺構）（第9・43図、図版6・32）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＳ4に先行する。Pit22との新旧関係は不明である。

［検出状況］ＳＳ4に切られるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ80㎝、幅40㎝、深さ10㎝である。径20～30㎝の礫を複数据えた集石遺構である。Pit 5～10の6基で方形区画を構成しており、Pit7・10との柱間はそれぞれ1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器などが出土しており、2点を図示した。120は磁器の髪油壺である。121は陶器の小坏で、外面に輪状の目跡がみられる。時期は切り合いと出土遺物から近世と推定する。

Pit10（集石遺構）（第9・43図、図版6・32）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径76㎝、短径66㎝、深さ18㎝を測る。径10～20㎝の礫を複数据えた集石遺構である。Pit 5～10の6基で方形区画を構成しており、Pit 5・8との柱間はそれぞれ1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土製品などが出土しており、3点を図示した。122・123は磁器である。122は薄手酒坏で、焼継ぎ痕が残る。123は筒形碗で、水仙文を施す。124は土製品で、土鈴である。上部に紐孔、下部に溝状の孔があり、中に土玉が入る。これらの遺物の推定生産年代は19世紀中葉を下限としており、遺構の時期は近世と推定する。

Pit11（集石遺構）（第9図、図版6）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径66㎝、短径62㎝、深さ10㎝を測る。径10～20㎝の礫が複数据えられており、西に位置するPit12との柱間は1.8mである。建物の柱の基礎と考える。

［出土遺物・時期］陶器片が1点出土したが、図示できない。時期は不明である。

Pit12（集石遺構）（第9図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径66㎝、短径51㎝、深さ10㎝を測る。径10～30㎝の礫が複数据えられた集石遺構である。東に位置するPit12との柱間は1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、時期は不明である。

Pit13（集石遺構）（第9図、図版7）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は円形で、径50㎝、深さ20㎝を測る。径10～40㎝の礫が6個据えられた集石遺構である。西に位置するPit14との柱間は1.8mである。建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］陶器片が1点出土したが、図示できない。時期は不明である。

Pit14（集石遺構）（第9・43図、図版7・32）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径64㎝、短径60㎝を測る。上面には径20～30㎝の礫と石臼の破片が据えられた集石遺構である。集石の下には木杭が打ち込まれている。木杭の上端は検出面から32㎝の深さである。下端は確認していない。東に位置するPit13との柱間は1.8mで、建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］125は碾臼の上臼である。底面の溝は深い鋸歯状となっている。供給孔が残存する。他に磁器と陶器の小片がそれぞれ1点出土したが、図示できない。時期は不明である。

Pit15（廃棄土坑）（第9・43図、図版7・32）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ68㎝、幅68㎝、深さ18㎝を測る。複数の小礫と陶磁器の破片が放り込まれたような状態で出土しており、小形の廃棄土坑と考える。

［出土遺物・時期］出土遺物は磁器・陶器・土器・銭などがあり、2点を図示した。126は磁器で、端反形の碗である。焼継ぎ痕・焼継ぎ印が残る。127は寛永通寶である。また、ＳＫ17出土の磁器の鉢（85）は、Pit15出土の破片と遺構間接合している。これらから遺構の時期は近世と推定する。

Pit16（集石遺構）（第10・43図、図版7・32）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区外に延びるため平面形の全容は不明だが、隅丸方形を呈すとみられる。検出部分では長さ84㎝、幅64㎝、深さ50㎝を測る。長さ58㎝、幅・厚みがそれぞれ25㎝ほどの角柱状の石材を中央に据え、その根固めとして径10～20㎝の礫が充填される。下面に木杭はないが、建物の柱の基礎と考える。覆土は上層に黒褐色粘土質シルト、下層に暗灰色粘土が堆積し、いずれも締りがゆるい。

［出土遺物・時期］磁器・陶器がそれぞれ少量出土しており、そのうち1点を図示した。128は磁器碗で、18世紀後葉から19世紀中葉に生産されたものとみられる。ただし、調査区の壁面の土層観察では、Pit16は戦災焼土層の直下で検出しており、遺構の時期は近代以降と推定する。

Pit17（第10図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で長径22㎝、短径20㎝、深さ36㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。北側に位置するPit18との間隔は1.8mである。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

Pit18（第10図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で長さ24㎝、幅22㎝、深さ38㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。南側に位置するPit17との間隔は1.8mである。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、時期は不明である。

Pit19（第7・43図、図版32）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＫ14に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ14に切られるため平面形の全容は不明だが、楕円形を呈するとみられる。検出部分では長さ50㎝、幅24㎝、深さ20㎝を測る。覆土はオリーブ黒色粘土を基調とする。

［出土遺物・時期］129は砥石である。全面に使用痕が観察できる。他に出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit20（第10図）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で長径36㎝、短径28㎝、深さ8㎝を測る。覆土は暗灰色砂質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］磁器・陶器の小片が合わせて4点出土したが、図示できない。時期は不明である。

Pit21（集石遺構）（第10図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ13Ｂより新しい。

［検出状況］平面形は不整形で長さ58㎝、幅52㎝、深さ6㎝を測る。径10～30㎝の礫を複数検出した。建

物の基礎の可能性があるが、調査区内に建物を構成できる遺構は検出できなかった。

［出土遺物・時期］出土遺物がなく、遺構の詳細時期は不明だが、19 世紀中葉とみられるＳＫ 13 Ｂを切っていることから近代と推定する。

Pit22（埋桶）（第９・11・43 図、図版７・32）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＳ４に先行する。Pit ９との新旧関係は不明である。

［検出状況］当初はＳＳ４の一部として捉えていたが、Pit ９とＳＳ４の集石を取り除いて確認したところ、底面から桶の底板が出土した。据えられた埋桶の残欠と考えられたため、遺構番号を付与して Pit22 として記録した。平面形の全容は不明である。深さは 18㎝を測る。

［出土遺物・時期］130 は桶の底板である。他に出土遺物はない。遺構の時期は、19 世紀中葉に位置づけられる Pit ９に先行すると考えられることから、近世と推定する。

Pit23（集石遺構）（第 11 図）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＳ４に先行する。

［検出状況］当初はＳＳ４の石列の一部がはみ出た部分として捉えていたが、断ち割ったところ、ＳＳ４とは別の掘方をもつ集石であることが確認できたため、Pit23 として記録した。建物の基礎の可能性もあるが、調査区内に Pit23 と建物を構成できそうな遺構はない。平面形の全容は不明で、検出部分では長さ 34㎝、幅 30㎝、深さ 10㎝を測る。

［出土遺物・時期］遺構外遺物としたが、Pit23 の上面で 19 世紀の前葉から中葉に位置づけられる磁器碗（159）が出土している。また近代に帰属するＳＳ４に先行するとみられることから、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＤ１（第 10・44 図、図版７・33）

［位置・重複］調査区西端部に位置する。重複はない。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため全容は不明であるが平面形は不整形で、検出部分では長さ 2.24 m、幅 1.29m、深さ 15㎝を測る。覆土は暗褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。径 10 ～ 30㎝の礫がちらばって出土している。ＳＤとしたが、廃棄土坑と同様な性格の遺構と推定する。

［出土遺物・時期］出土遺物のうち５点を図示した。131 は陶器の皿で、見込みは蛇の目状に釉剥ぎする。132 は土器の蓋である。133 ～ 135 は寛永通寶である。134･135 は背十一波の四文銭である。遺構の時期は、出土遺物やＳＫ１～４との覆土の類似から、近世と推定する。

ＳＤ２（第 11・44 図、図版８・33）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。東西方向に走り、西端はＳＳ２で切られて終わり、東端は調査区外へ延びる。切り合いではＳＳ２に先行する。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため全容は不明であるが、検出部分で長さ 4.14m、幅 62㎝、深さ 12㎝を測る溝状遺構である。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、上層は焼土ブロックを多く含む焼土層である。また溝の両側では断続的ではあるが、炭化材とそれに沿うように据えられた石列を検出した。板材を側板に用いて構築した下水道のような機能を持つ遺構が、火災によって焼失したものととらえたい。

［出土遺物・時期］出土遺物のうち、８点を図示した。136・137 は磁器の碗である。136 は丸碗形である。137 は筒形碗形で、いわゆる筒形湯呑碗である。138 は陶器の壺か。139 ～ 143 は銭貨で、142 を除いてすべて寛永通寶である。遺構の時期は、出土遺物や切り合いから近世と推定する。

ＳＳ１（石列）（第 11・44 図、図版８・33）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］南北方向に走り、長さ 1.8m、幅 60㎝、深さ 20㎝を測る。径 10 ～ 30㎝の礫を投入して構築した石列である。礫には破損した石臼の破片なども混入する。北側に隣接するＳＳ２は、同一の軸線状に位置しており、同一遺構とも考えられる。また、東側に隣接するＳＳ３や西側のＳＳ４と並行して走る。石の下に杭や胴木は検出されなかったが、重い構造物の根石とみられる。

［出土遺物・時期］磁器や陶器の小片が出土しており、4点を図示した。144・145は磁器で、144は端反碗形の小碗で、ＳＳ３で出土した破片と遺構間接合する。145は碗蓋である。146・147は陶器である。146は灯明皿、147は土瓶で、焼継ぎ痕と焼継ぎ印が残る。出土遺物の推定生産年代は近世にさかのぼることができるものがあるが混入の可能性が高く、遺構の時期は近代と考える。

ＳＳ２（石列）（第11・44図、図版8・33）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＤ２より新しい。北端は戦災瓦礫の廃棄土坑に撹乱されて終わる。

［検出状況］南北方向に走り、長さ2.4m、幅60㎝、深さ30㎝を測る。径10～30㎝の礫を投入して構築した石列である。南側に隣接するＳＳ１は、同一の軸線状に位置しており、同一遺構とも考えられる。石の下に杭や胴木は確認できないが、重い構造物の根石とみられる。

［出土遺物・時期］磁器や陶器、石筆、ガラス製品などが出土している。そのうち1点を図示した。148はガラス製の薬瓶である。底面に「A」の浮彫りがある。遺構の時期は近代と推定する。

ＳＳ３（石列）（第11・44図、図版8・33）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＫ１３Ａ・Ｂより新しい。

［検出状況］南北方向に走り、ＳＳ１・２・４と並走する。調査区外へ延びるため、全容は不明であるが、検出部分で長さ5.4m、幅76㎝、深さ20㎝を測る。径10～30㎝の礫を投入して構築した石列である。礫の中には破損した石臼なども混入する。石の下に杭や胴木は検出されなかった。調査区の南端部分では石列の直上にコンクリート擁壁が残っており、擁壁の根石となっている。

［出土遺物・時期］磁器や陶器、石臼などが出土している。3点を図示した。149は磁器の瓶、150は陶器の碗である。151は石臼で、碾臼の上臼である。出土遺物や切り合いから遺構の時期は近代と推定する。

ＳＳ４（石列）（第11・44図、図版8・33）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いでは Pit 9・22・23より新しい。

［検出状況］南北方向に走り、ＳＳ１・２・３と並走する。調査区外へ延びるため、全容は不明であるが、検出部分で長さ3.6m、幅60㎝、深さ20㎝を測る。径5～10㎝の礫を敷いて構築した石列である。礫は二段構造で敷かれており、下段に5～10㎝程の礫を敷き積め、その上に20㎝ほどの礫が一列に敷設されている。また下段の小礫の下では部分的に胴木が敷かれていた。建物など重い構造物の布掘り基礎の根石とみられる。

［出土遺物・時期］磁器や陶器が出土した。そのうち3点の磁器碗を図示した。152・154は筒丸形の湯呑碗である。152には焼継ぎ痕が残る。153は端反碗形か。出土遺物や切り合いから遺構の時期は近代と推定する。

遺構外出土遺物（第45・46図、図版34）

155～164は磁器である。155は菊花形の紅猪口である。156～161は碗である。157は筒形碗形で、見込みにコンニャク印判の五弁花を施す。160は端反碗形で、外面に丸に松竹梅の文様、見込みに環状松竹梅文を施す。また焼継ぎ痕がみられる。161は平碗形で、型紙摺りで外面に梅花散らし文を施す。162・163は皿である。162は型紙摺りで、見込みに梅花・亀甲・笹の文様を施す。163は見込みにオートバイのライダーと「バンザイ」の文字の絵付けがある。164は蓋である。

165～169は陶器である。165は皿で、見込みに梅花文を施す。166は灯明皿である。167は灯明受皿で、油溝の形状が半月状を呈す。168は秉燭である。169は土瓶で、底部に焼継ぎ印がみられる。

170は土器で、火鉢か。外面にハケ状工具による山形文様が施され、口縁部には煤が付着する。

171～185は金属製品である。171は煙管の雁首、172は把手とみられる。173～185は銭貨である。184は背十一波の文久永寶であるが、他はすべて寛永通寶とみられる。

186は石製品で、石臼の上臼である。

187は木製品で、曲物の柄杓とみられる。

第２節　Ｂ地区（第 12 図、図版 9）

Ｂ地区は連雀町通りの北側に位置する。Ａ地区の北西約 20m、Ｄ地区の東約 35mに位置し、今回の調査範囲の中央部分にあたる。調査は反転掘削で行った。東側では大形土坑２基と Pit １基を検出した。中央部から西側にかけてはガス管・水道管など現状の埋設構造物や以前に建っていた建築物のため、広い範囲で撹乱を受けていた。この部分については撹乱範囲の確認と部分的な深掘り確認を行った。

ＳＫ 18（廃棄土坑）（第 12・47 図、図版 9・35）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。検出時はＳＫ 19 と一体となっていた。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 3.3m、幅 2.3m、深さ 60㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。焼土ブロックや炭化物の粒を多く含んでおり、火災によって生じた焼土や炭化物を処分した廃棄土坑とみられる。焼土・炭化物を含む覆土がＳＫ 19 と類似しており、一体となって検出したが、掘り下げたところ、掘方が分かれたため別遺構としている。

［出土遺物・時期］土坑の規模と比べて遺物の出土量は少ないが、磁器・陶器・土器の他、木製品・石製品・金属製品などが出土しており、13 点を図示した。

188・189・191 は磁器である。188 は蛇の目釉剥ぎのくらわんか碗である。189 は香炉、191 は水滴か。中空となっており、鳥を模っている。190 は陶器の鬢盥で、長楕円形を呈する。192 ～ 194 は陶器である。192・193 は碗で、192 は陶胎染付である。194 は擂鉢である。195・196 は土器で、195 は皿、196 は焙烙である。197 は箸、198 は硯、199 は煙管、200 は寛永通寶の文銭である。

出土遺物から遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 19（廃棄土坑）（第 12・47 図、図版 9・35）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。検出時点ではＳＫ 18 と一体となっていた。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 3.1m、幅 1.0m、深さ 40㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。焼土ブロックや炭化物の粒を多く含んでおり、火災によって生じた焼土や炭化物を廃棄した土坑とみられる。ＳＫ 18 と一体で検出したが、掘り下げたところ、掘方が分かれたため別遺構としている。

［出土遺物・時期］土坑規模に比べて遺物の出土は少なかった。２点図示した。201 は磁器の碗、202 は陶器の鉢である。遺構の時期は、ＳＫ 18 と同時期で、近世と推定する。

ＳＫ 20（第 12 図、図版 9）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で長径 1.0m、短径 80㎝、深さ 12㎝を測る。覆土は灰オリーブ色粘土質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］陶器の擂鉢の破片が出土しているが図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 28（第 12・47 図、図版 9・35）

［位置・重複］調査区西半部に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で長さ 80㎝、幅 80㎝、深さ 30㎝を測る。覆土は灰オリーブ色粘土質シルトを基調とし、径 10㎝の礫を含む。

［出土遺物・時期］土器が１点出土した。203 は灯明皿で、口縁に煤が付着する。遺構の時期は不明である。

遺構外出土遺物（第 47 図、図版 35）

204 ～ 206 は磁器である。204 は薄手酒坏、205 は皿、206 は碗蓋である。205 の皿は、墨弾き技法で染付を施し、見込みにはコンニャク印判の五弁花、破断面には漆継ぎの痕跡などもみられる。207 は和釘で頭巻釘である。

第３節　Ｃ地区（第 13 図、図版 10・17）

Ｃ地区は、連雀町通りの南側に位置し、今回の調査範囲ではもっとも西側の調査区である。計画道路では交差点の隅切りとなる予定の部分である。調査は反転掘削で行い、西半部を調査した後、東半部の調査を行った。

西半部では戦災瓦礫の廃棄土坑を３基検出した他、建物基礎とみられる集石遺構などを検出した。東半部でも集石遺構を複数検出した他、木樋に埋桶を配した上水遺構や竹管に継手を接続した上水遺構なども検出している。西半部・東半部とも遺構検出は、整地層とみられるⅡｃ層上面と地山のⅣａ層上面で行った。集石遺構は概ねⅡｃ層上面で検出しており、上水遺構はⅡｃ層を剥いだⅣａ層（地山）上面で検出している。

ＳＫ 21（第 14・48 図、図版 10・36）

［位置・重複］調査区西半部の北西隅に位置し、ＳＫ 24 に隣接する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 54㎝、幅 52㎝、深さ 8㎝を測る。上面は戦災の瓦礫で撹乱されていた。覆土はオリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、炭化物を含む。

［出土遺物・時期］磁器の碗が２点出土した。208 はいわゆるくらわんか碗で、外面に雪輪梅樹文、底部に「太明年製」の銘がある。209 も碗で、高台部は無釉で砂が付着する。出土遺物の推定生産年代は近世のものがあるが、Ⅱｃ層上面で検出しており、遺構の時期は近代と推定する。

ＳＫ 22（第 14 図）

［位置・重複］調査区西半部の西側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 52㎝、短径 39㎝、深さ 12㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトである。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 23（廃棄土坑）（第 14・48 図、図版 10・36）

［位置・重複］調査区西半部の北壁沿いに位置する。切り合いではＳＫ 42 に先行する。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 1.24m、幅 30㎝、深さ 60㎝を測る。遺構の上面は、現在の水道などで撹乱されていた。覆土は黒色砂質シルトを基調とする。焼土・炭化物を多く含み、腐食した木質遺物を含む。締りはゆるい。焼土・炭化物の含み具合から、火災発生時に生じた焼土・炭化物などを処分した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・瓦・土器などがそれぞれ少量出土しており、そのうち２点を図示した。210 は磁器碗で、筒形碗形である。211 は陶器の擂鉢で、口縁が折縁形を呈する。これらの遺物の推定生産年代の下限は 19 世紀前葉であり、遺構の時期は近世と考える。

ＳＫ 24（集石遺構）（第 14 図）

［位置・重複］調査区西半部の北西隅に位置し、ＳＫ 21 に隣接する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 56㎝、幅 46㎝、深さ 6㎝を測る。覆土は暗灰黄色シルトを基調とする。径５～ 10㎝の礫が投棄されたような状況で出土している。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 25（集石遺構）（第 14 図）

［位置・重複］調査区西半部の北西隅に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 54㎝、幅 52㎝、深さ 12㎝を測る。覆土は暗灰黄色シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。径 10 ～ 20㎝の礫が投棄されたような状況で出土している。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 26（廃棄土坑）（第 14・48 図、図版 10・36）

［位置・重複］調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ 38 より新しい。

[検出状況・覆土] 平面形の形状は楕円形で、長径 70cm、短径 56cm、深さ8cmを測る。覆土は黄灰色粘土質シルトを基調とする。径5～10cmの礫に陶磁器片が混入し、投棄されたような状況で出土しており、廃棄土坑と推定する。

[出土遺物・時期]礫に混じって磁器・陶器・土器・銭貨が少量出土した。そのうち3点を図示した。212 は磁器で、いわゆるくらわんか碗である。底部に崩した「太明年製」の銘がある。213 は土器の灯明皿である。214 は寛永通寶である。出土遺物より、遺構の時期は近世と考える。

ＳＫ 27（集石遺構）（第 14 図）

[位置・重複] 調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ 38 より新しい。

[検出状況・覆土] 平面形は楕円形で、長径 84cm、短径 72cm、深さ 8cmを測る。覆土は黄灰色粘土質シルトを基調とする。検出時は径 20cm前後の礫が方形に据えられているように見え、中央の空間は柱痕と考えたが、中央部に礎石は検出できず、ＳＫ 27 と建物を構成しそうな遺構も確認できない。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は覆土の類似・切り合いから、ＳＫ 26 と同時期と考えられる。

ＳＫ 29（第 14 図）

[位置・重複] 調査区西半部の北側に位置する。重複する遺構はない。

[検出状況・覆土] 平面形は楕円形で、長径 42cm、短径 38cm、深さ 30cmを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の小片がそれぞれ1点づつ出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 30（集石遺構）（第 14・48 図、図版 10・36）

[位置・重複] 調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

[検出状況・覆土] 平面形は楕円形で、長径 70cm、短径 60cm、深さ 10cmを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。土坑内に石臼が水平に据えられ、その底面や周りは径 20cmの礫で固めたような状況で、構造物の基礎の可能性があるが、調査区内にＳＫ 30 と建物を構成する遺構は確認できない。

[出土遺物・時期] 石臼以外の出土遺物はない。215 は石臼の下臼である。完形で、中央に芯棒孔があり、溝も遺存している。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 31（第 16 図）

[位置・重複] 調査区西半部北側に位置し、ＳＫ 33 に隣接する。重複する遺構はない。

[検出状況・覆土] 平面形は隅丸方形で、長さ 54cm、幅 46cm、深さ 20cmを測る。覆土は上層は炭化物を多量に含む黒色シルトで、下層は暗灰黄色粘土質シルトである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 32（集石遺構）（第 15 図、図版 11）

[位置・重複] 調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 37 より新しい。

[検出状況] 平面形は正方形で、一辺が 70cm、深さ 40cmを測る。検出面上面では径 20cmほどの礫が土坑の縁辺部に据えられ、中央部のみ礫がなかった。縁辺部の礫を除去しながら掘り下げて確認すると、中央部には方形に成形された礎石が据えられ、その周囲を径 20cmほどの礫で根固めした状況であった。さらに礎石を外すと3本の木杭が地山に打ち込まれて、礎石を支える構造となっていた。土坑としての掘方はこの木杭の上面付近までと考えられる。また、検出面の中央部で礫が無かった部分には、柱または角柱状の束石が据えられていたと推測する。北側に位置するＳＫ 33、東に位置するＳＫ 43 と同一の建物を構成する柱の基礎であったとみられ、それぞれの柱間は 1.8mである。

[出土遺物・時期] 出土遺物は磁器と陶器の小片がそれぞれ1点あるが、図示できない。同時期とみられるＳＫ 43 の重複関係や検出状況から、遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 33（集石遺構）（第 15 図、図版 11）

[位置・重複] 調査区西半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は正方形で、一辺が78㎝、深さ40㎝を測る。検出状況や下部構造はＳＫ32と類似しており、土坑の底面中央に方形の礎石が据えられ、その周りに根固め石、礎石の下には3本の木杭が打ち込まれている。

ＳＫ32・43と同じ建物を構成する柱の基礎と推定され、南側に位置するＳＫ32との柱間は1.8mである。東側1.8m地点では戦災瓦礫の廃棄土坑に攪乱されたためか痕跡を確認できなかった。

［出土遺物・時期］磁器と陶器の小片が数点あるが図示できない。遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ34（集石遺構）（第16図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置し、ＳＫ35に隣接する。切り合いではPit31より新しい。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径58㎝、短径52㎝、深さ10㎝を測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。径10～20㎝の礫を多く含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ35（集石遺構）（第16図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置し、ＳＫ34に隣接する。重複はない。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径52㎝、短径46㎝、深さ6㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径5～25㎝の礫を含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ36（第19・49図、図版11・36）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。切り合いではＳＫ39、ＳＤ3に先行する。

［検出状況］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明であるが、検出部分では不整形で、長さ1.2m、幅1.2m、深さ12㎝を測る。土坑として遺構番号を付与したが、南東方向へと下がってゆく地形上の落ちを検出している可能性もある。覆土は黒色粘土質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器がそれぞれ数点づつ出土しており、8点を図示した。216・217は磁器である。216はいわゆるくらわんか碗で、外面に雪輪梅樹文を施す。217は蓋物で、段重の蓋か。外面に菊花文を施し、焼継ぎ痕を残す。218・219は陶器で、218は壺、219は土瓶である。220・221は土器の灯明皿である。220には口縁部に意図的な打ち欠きがある。222は土製品の碁石で、黒石とみられる。223は寛永通寶である。これらの出土遺物や切り合いから、埋没時期は近世と推定する。

ＳＫ37（第15図）

［位置・重複］調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ32に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ32に切られるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ50㎝、幅22㎝、深さ12㎝を測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。

［出土遺物・時期］陶器の擂鉢の小片が1点出土しているが、図示できない。遺構の時期は近代以前である。

ＳＫ38（集石遺構）（第15・49図、図版11・36）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ26・27に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は隅丸方形で一辺が80㎝、深さ24㎝を測る。覆土は黒褐色粘土を基調とする。径5㎝ほどの多量の礫や破損した瓦などが底面に敷き詰められた状況で出土した。構造物の根石の可能性がある。ＳＫ32・43と同一の軸線上に位置しており、ＳＫ32との距離が約1.8mであることから、同一の建物を構成する可能性を考えたが、遺構の構造と時期は異なる。

［出土遺物・時期］銭貨が1点出土した。224は寛永通寶で、古寛永の可能性がある。遺構の時期は、ＳＫ26との切り合いと出土遺物から近世と考える。

ＳＫ39（集石遺構）（第19図、図版11）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。切り合いではＳＫ36より新しい。

［検出状況］方形に構築されたコンクリート壁で攪乱されているが、平面形は正方形で、一辺は70㎝前後と想定できる。中央に方形に成形した礎石を据え、その周りを根固め石が固める。コンクリート壁を除去できず、

下部構造は図示していないが、方形の礎石の下を木杭が支える構造であった。ＳＫ 40・41 と同一の建物を構成する柱の基礎と推定され、ＳＫ 40 との柱間は 1.8mである。

［出土遺物・時期］土器の小片が1点出土したが図示できない。検出状況から遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 40（集石遺構）（第 19 図、図版 11）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。ＳＳ５と重複するが、新旧関係は確認できない。

［検出状況］ＳＳ５とした石列を除去したところ、方形の礎石を確認したため別の遺構番号を付与したが、一連の遺構であった可能性もある。コンクリート壁で撹乱されているが、平面形は正方形で、一辺は 70㎝前後と想定できる。中央に方形に成形した礎石を据え、その周りを根固め石が固める。下部構造は図示していないが、方形の礎石の下を木杭が支える構造であった。ＳＫ 39・41 と同一の建物を構成する柱の基礎と推定され、ＳＫ 39 との柱間は 1.8m、ＳＫ 41 との柱間は 1.2mである。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 41（集石遺構）（第 19 図、図版 11）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。ＳＳ５と重複するが、新旧関係は確認できなかった。

［検出状況］ＳＳ５とした石列を除去したところ、方形の礎石を確認したため別の遺構番号を付与したが、一連の遺構であった可能性もある。コンクリート壁で撹乱されているが、平面形は正方形で、一辺は 70㎝前後と想定できる。中央に方形に成形した礎石を据え、その周りを根固め石が固める。下部構造は図示していないが、方形の礎石の下を木杭が支える構造であった。ＳＫ 39・40 と同一の建物を構成する柱の基礎と推定され、ＳＫ 40 との柱間は 1.2mである。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 42（第 14・49 図、図版 10・36）

［位置・重複］調査区西半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 23 より新しい。戦災瓦礫の廃棄土坑に撹乱される。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.62m、幅 1.0m、深さ 10㎝である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。

［出土遺物・時期］磁器・陶器の破片が数点出土しており、２点を図示した。225・226 は陶器の鉢で、225 は陶胎染付である。遺構の時期は、切り合いから近代の可能性が高い。

ＳＫ 43（集石遺構）（第 15 図、図版 12）

［位置・重複］調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ 44 に先行し、ＳＤ７より新しい。

［検出状況］平面形は方形で、長さ 84㎝、幅 60㎝、深さ 44㎝を測る。検出状況や下部構造はＳＫ 32・33 と類似しており、土坑の底面中央に方形の礎石が据えられ、その周りを根固め石で固める。礎石の下には３本の木杭が打ち込まれている。ＳＫ 32・43 と同じ建物を構成する柱の基礎と推定され、西側に位置するＳＫ 32 との柱間は 1.8m である。北側は戦災瓦礫の廃棄土坑に撹乱されている。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。切り合いや検出状況から遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 44（集石遺構）（第 15 図、図版 12）

［位置・重複］調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ 43 より新しい。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ 1.4m、幅 80㎝、深さ 30㎝を測る。長さ約 50㎝の方形の礎石が２個据えられ、これらの礎石の下を根石と６本の木杭で支える構造である。建物の基礎とみられ、調査区内では東側に位置するＳＫ 60 の集石遺構と構造が類似する。ＳＫ 60 との柱間は約 3.6m である。

［出土遺物・時期］磁器と土器の小片がわずかに出土したが、図示できない。切り合いや検出状況から、遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 45（集石遺構）（第 16・49 図、図版 12・36）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 38㎝、幅 34㎝、深さ 16㎝を測る。径 10㎝ほどの根石の上に破損した石臼を据え、礎石とした可能性がある。覆土はオリーブ黒色砂質シルトで、焼土・炭化物を含む。調査区内にＳＫ 45 と建物を構成できる遺構はない。

［出土遺物・時期］石臼以外の出土遺物はない。227 は石臼の上臼で、中央に芯棒孔がある。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 46（集石遺構）（第 16 図、図版 12）

［位置・重複］調査区東半部中央付近に位置する。切り合いでは Pit27 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 86㎝、幅 74㎝、深さ 8㎝を測る。覆土はオリーブ黒色砂質シルトで、焼土・炭化物を含む。径 10 ～ 20㎝の根石の上に長径 55㎝の礫を据え、礎石とした可能性がある。東側に位置するＳＫ 48 との柱間は約 1.8mであるが､調査区内に他に建物を構成できそうな遺構は確認できない。

［出土遺物・時期］陶器の小片が 1 点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 47（集石遺構）（第 16・49 図、図版 12・36）

［位置・重複］調査区東半部中央付近に位置する。切り合いではＳＤ５・６に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 92㎝、幅 40㎝、深さ 10㎝を測る。径 10 ～ 20㎝の礫がまとまって出土した。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器などが少量出土し、そのうち 1 点を図示した。228 は陶器の擂鉢である。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 48（集石遺構）（第 16 図、図版 12）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。重複する遺構はなく、Pit24 に隣接する。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ 50㎝、幅 26㎝、深さ 14㎝を測る。径 10 ～ 20㎝の礫が 4 個まとまって出土した。遺存状況は良くなかったが、ＳＫ 46 との柱間は約 1.8mで、柱の根石であった可能性もある。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 49（集石遺構）（第 16 図）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。重複する遺構はなく、Pit25 に隣接する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 46㎝、幅 46㎝、深さ 16㎝を測る。覆土とはオリーブ黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。径 10 ～ 20㎝の礫が 5 個まとまって出土した。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 50（集石遺構）（第 16 図）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。切り合いではＳＤ６に先行する。

［検出状況･覆土］平面形は不整形で､長さ 64㎝､幅 42㎝､深さ 24㎝を測る。覆土は､上層は黒褐色砂質シルト､下層は暗灰黄色粘土を基調とする。底面に径 20㎝の礫が据えられており、構造物の根石の可能性がある。

［出土遺物・時期］土器の小片が 1 点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 51（上水遺構）（第 22・50 図、図版 12・37）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。竹管を検出したＳＤ９と接続する。

［検出状況・覆土］平面形は隅丸方形で、長さ 56㎝、幅 56㎝、深さ 32㎝を測る。覆土は、上層はオリーブ黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。下層は灰色粘土である。南北方向に走るＳＤ 10、ＳＤ 10 に直交して東西方向に走るＳＤ９、ＳＤ９の東端に位置するＳＫ 51 は一連の上水遺構とみられ、それぞれ竹管や継手を検出している。ＳＫ 51 では土坑の底面中央に木製の継手が据えられていた。継手には一側面から天面にかけて断面Ｌ字状に孔が貫通しており、側面の孔にはＳＤ９から延びる竹管が接続していた。水平方向から上方へ導水するための継手で、ＳＫ 51 は上水遺構の末端部分とみられる。

［出土遺物］木製の継手の他、磁器碗と簪が出土している。229 は磁器碗である。いわゆるくらわんか碗で、蛇の目状に釉剥ぎされており、高台部には砂が付着する。230・231 は金属製の簪である。いずれも２本足で、

耳かきが付く形状を呈す。232は木製の継手である。縦37.0㎝、横24.4㎝、高さ23.8㎝に成形し、一側面と天面に孔を穿って断面L字状に貫通させたもので、上水遺構の末端部の継手である。樹種同定の結果、材質はクリの芯持材であった（第5章第2節）。

［時期］ＳＫ51出土の磁器碗の推定生産年代は18世紀前葉～中葉である。また、ＳＫ51に接続するＳＤ9およびＳＤ10から出土した継手を用いて、ウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行っている。ＳＤ9出土試料は1659-1672cal AD（95.4%）、ＳＤ10出土試料では1770-1776cal AD（3.1%）および1783-1806cal AD（92.3%）であった（第5章第1節）。試料間で時期差が生じているが、ＳＤ9・10とＳＫ51の継手は竹管が接続された状態で検出しており、同時期に機能していることから、17世紀の後半以降に敷設され、改修などにより、構築材を交換しながら19世紀初頭まで存続していた可能性を考えたい。

ＳＫ52（第16図、図版12）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。切り合いではＳＫ58より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ52㎝、幅34㎝、深さ40㎝を測る。覆土は、黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。

［出土遺物・時期］焼土塊が1点出土したが、他に遺物はない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ53（集石遺構）（第16図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はないが、上面を薄く焼土が覆っていた。

［検出状況］平面形は楕円形で、長径50㎝、短径28㎝、深さ14㎝を測る。天面が平らな径25㎝ほどの礫が2個据えられており、構造物の基礎であった可能性がある。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ54（集石遺構）（第16図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。ＳＤ4の覆土下で検出した。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径54㎝、深さ18㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。また径10～20㎝ほどの礫が多く出土した。

［出土遺物・時期］陶器片が2点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ55（集石遺構）（第17・50図、図版13・37）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。ＳＤ4の覆土下で検出した。

［検出状況・覆土］平面形は正方形で、一辺は75㎝、深さ32㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。検出面上面では、径20㎝ほどの礫が土坑の縁辺部に据えられ、中央部は礫がなく焼土を多く含む締りのゆるい土が覆っていた。土坑の底面中央には方形の礎石が据えられ、その周りを根固め石が固める。礎石の下には3本の木杭が打ち込まれていた。南側に位置するＳＫ59との柱間は1.8mで、同一の建物の柱の基礎と推定する。調査区内に同一の建物と推定できる遺構は他にないが、軸方向・柱間・構造などはＳＫ32・33などと類似する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・瓦・土器の小片がそれぞれ1点と釘、洋服のボタンとみられる遺物が3点出土しており、和釘(233)を図示した。遺構の時期は、出土遺物と検出状況から近代である。

ＳＫ56（集石遺構）（第16図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。ＳＤ6の覆土下で検出した。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径42㎝、短径35㎝、深さ30㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。また径10㎝ほどの礫が土坑内に詰まった状態で出土した。

［出土遺物・時期］陶器片が1点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ58（集石遺構）（第16図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ52に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ52に切られるため平面形の全容は不明であるが、検出部分で長さ40㎝、幅36㎝、

深さ 16㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 10㎝の礫を多く含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 59（集石遺構）（第 17 図、図版 13）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置し、ＳＫ 60 に隣接する。ＳＤ４の覆土下で検出した。検出時の切り合いではＳＤ 10 より新しい。

［検出状況･覆土］平面形は正方形で、一辺は 80㎝、深さ 34㎝を測る。覆土は、土坑中央の上層部分は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とし、砂礫と焼土、腐食した木質を含む締りのゆるい土が堆積しており、この部分は柱痕と推定した。下層はオリーブ黒色粘土を基調とする。土坑の底面中央には方形の礎石が据えられ、その周りを根固め石が固める。礎石の下には３本の木杭が打ち込まれていた。北側に位置するＳＫ 55 と構造が類似しており、柱間は 1.8mであることから、同一の建物の柱の基礎と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器の小片が合わせて３点出土したが、図示できない。遺構の時期は、ＳＫ 55 と同じ近代と考える。

ＳＫ 60（集石遺構）（第 17 図、図版 13）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。ＳＤ４の覆土下で検出した。

［検出状況］平面形は正方形で、一辺 85㎝、深さ 32㎝を測る。径 30 ～ 40㎝の礫を５個据え、その下を５本の木杭で支える構造で、建物の基礎と推定する。調査区内では西側に位置するＳＫ 44 の集石遺構と構造が類似する。ＳＫ 60 との柱間は約 3.6m である。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。切り合いや検出状況から、遺構の時期は近代の可能性が高い。

ＳＫ 61（集石遺構）（第 17・50 図、図版 37）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。ＳＤ４の覆土下で検出した。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ 40㎝、幅 30㎝、深さ 14㎝を測る。径 20㎝の礫と石臼の破片が投棄されたような状況で出土した。

［出土遺物・時期］櫛と銭、石臼が出土した。234 は木製の櫛で、本体部分に花の文様が施される。235 は寛永通宝で、236 は石臼の上臼である。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 62（集石遺構）（第 17 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置し、ＳＫ 63 と隣接する。切り合いではＳＤ４に先行する。

［検出状況］平面形は楕円形に近く、長径 64㎝、短径 54㎝、深さ 26㎝を測る。径 50㎝の礫が１個据えられ、その脇を径 10㎝の礫が固める。ＳＫ 62 の礫とＳＫ 63 の礫が南北に並んでおり、一連の遺構であった可能性がある。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 63（集石遺構）（第 17 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置し、ＳＫ 64 と隣接する。切り合いではＳＤ４に先行する。

［検出状況］平面形は楕円形に近く、長径 64㎝、短径 34㎝、深さ 20㎝を測る。径 30㎝の礫が１個据えられる。ＳＫ 62 と南北に並んでおり、一連の遺構であった可能性がある。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 64（集石遺構）（第 17 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＤ７・８に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＤ７・８に切られており、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 60㎝、幅 10㎝、深さ 34㎝を測る。当初、平面的には検出できず、ＳＤ７･８の掘方の壁面で確認した遺構である。覆土はオリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、締りはゆるい。覆土に径 20㎝の礫を含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit24（第18・51図、図版14・38）

［位置・重複］調査区東半部北東隅に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ36㎝、幅30㎝、深さ14㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。

［出土遺物・時期］背十一波の寛永通寶（237）が1点出土している。遺構の時期は不明である。

Pit25（第18図）

［位置・重複］調査区東半部北東隅に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で長さ28㎝、幅22㎝、深さ34㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。断面形状は細長く、杭痕の可能性がある。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit26（第18図、図版14）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。ＳＤ６の覆土下で検出した。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径38㎝、幅25㎝、深さ16㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を含む。１個の礫が坑内に嵌まり込んだような状況で出土している。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit27（第18図、図版14）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＫ46に先行する。

［検出状況］平面形の全容は不明である。検出部分で長さ54㎝、幅38㎝、深さ10㎝を測る。覆土は、上層に灰オリーブ色粘土質シルト、下層に黒色砂質シルトが堆積し、焼土・炭化物を含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit28（第18図、図版14）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。ＳＤ４の覆土下で検出した。

［検出状況・覆土］平面形は円形である。径30㎝、深さ46㎝を測る。覆土は、暗灰黄色粘土を基調とし、径10㎝の礫が多量に詰め込まれたような状況で出土した。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit29（第18・51図、図版14・38）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］大部分は調査区外へ延びており、調査区の壁面で検出した。平面形は不明で、検出部分で幅34㎝、深さ20㎝を測る。覆土は、黒褐色砂質シルトを基調とし、砂礫を含む。底面には石臼の上臼が正位の状態で丸ごと据えられていた。

［出土遺物・時期］石臼以外の出土遺物はない。238は石臼の上臼で、芯棒受の孔や側面の方形・三角形の孔などがそのまま遺存している。壁面で確認した層位から、近代の遺構の可能性が高い。

Pit30（第18・51図、図版14・38）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径34㎝、短径28㎝、深さ8㎝を測る。覆土は、暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。

［出土遺物・時期］磁器と陶器の小片がそれぞれ1点出土しており、陶器を図示した。239は片口の口縁部である。遺構の時期は不明である。

Pit31（第18図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ34に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径32㎝、深さ6㎝を測る。覆土は、暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit32（第 18 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。ＳＤ４の覆土下で検出した。ＳＤ９と重複するが、新旧関係は確認できなかった。

［検出状況・覆土］平面形の全容は不明で、検出部分で長さ 36㎝、幅 12㎝、深さ 21㎝を測る。覆土は、オリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、締りがゆるい。Pit として遺構番号を付与したが、ＳＤ 11 が北へ延びた延長線上に位置しており、ＳＤ 11 の一部であった可能性がある。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。遺構の時期は、ＳＤ９・11 と覆土に違いがないことから、近世と推定する。

Pit33（第 18 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。ＳＤ４の覆土下で検出した。切り合いではＳＫ 55 に先行するとみられ、Pit34 との切り合いは確認できなかった。

［検出状況］検出時はＳＫ 55 の一部と捉えていたが、完掘時の掘方の形状で別遺構と判断できたため、それぞれに遺構番号を付与した。Pit33・34 を通した長軸の長さが 54㎝、深さは Pit33 は 30㎝を測る。

［出土遺物・時期］出土遺物は磁器・陶器の小片がそれぞれ１点あるが、図示できない。遺構の時期は、切り合いから近代以前である。

Pit34（第 18・51 図、図版 38）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。ＳＤ４の覆土下で検出した。切り合いではＳＫ 55 に先行するとみられ、Pit33 との切り合いは確認できなかった。

［検出状況］検出時はＳＫ 55 の一部と捉えていたが、完掘時に別遺構と確認できたため、それぞれに遺構番号を付与した。Pit33・34 を通した長軸の長さは 54㎝、深さは Pit34 は 40㎝を測る。

［出土遺物・時期］240 は硯である。硯面に刃物痕が残っており、砥石に転用したものである。遺構の時期は、切り合いから近代以前である。

ＳＤ３（第 19・51 図、図版 38）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。遺構の北側は現代のコンクリート壁で撹乱される。切り合いではＳＫ 36 より新しい。

［検出状況・覆土］検出部分では長さ１m、幅 30㎝、深さ 4㎝を測る。覆土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土粒を含む。

［出土遺物・時期］灯明受皿 (241) が１点出土した。切り合いから遺構の時期は近代と推定する。

ＳＤ４（第 20・51 図、図版 14・38）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 55・59・60、ＳＤ９・10・11 などより新しい。

［検出状況・覆土］上層の遺構検出面（Ⅱｃ層上面）で検出した。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出部分では長さ 4.25m、幅 1.88m、深さ 20㎝を測る。覆土は黄灰色粘土にオリーブ黒色砂をマーブル状に含み、締まりはゆるい。ＳＤ４の覆土下で、建物の基礎とみられる集石遺構（ＳＫ 55・59・60）や上水遺構（ＳＤ９・10・11）など、比較的深度が深い遺構を多く検出しており、その影響による落ち込みに堆積した覆土を検出した可能性がある。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・銭貨が少量出土した。242 ～ 244 は磁器である。242 は端反碗である。243・244 は瓶である。245・246 は寛永通寶で、245 は文銭である。検出面と切り合いから、遺構の時期は近代である。

ＳＤ５（第 20・52 図、図版 14・38）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。切り合いではＳＤ６に先行し、ＳＫ 47・51 より新しい。

［検出状況・覆土］上層の遺構検出面（Ⅱｃ層上面）で検出した。南北方向に走り、南側は調査区外へ延び北端部は途切れて終わる。検出部分では長さ 3.2m、幅 60㎝、深さ 44㎝を測る。覆土は黒色粘土質シルトを基

調とし、焼土・炭化物を含む。覆土から竹など木質遺物の現欠が少量出土した他、底面に鉄分の沈着が観察できたことから上水遺構であった可能性がある。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が少量出土している。247・248・250は磁器碗である。247はくらわんか碗で見込みに蛇の目釉剥ぎがみられ、高台部には砂が付着する。250は腰折形を呈し、青磁釉を施す。見込みには茶筅とみられる擦痕がある。249・251は陶器で、249は碗、251は土瓶である。252は土器の焙烙である。出土遺物の推定生産年代は18世紀中葉から19世紀初頭を中心とするが、切り合いや調査区壁面の土層観察から、遺構の時期は近代と推定する。

ＳＤ６（第20図、図版14）

［位置・重複］調査区東半部東側に位置する。切り合いではＳＫ47・50・56、ＳＤ５より新しい。

［検出状況・覆土］東西方向に走り、東側は調査区外へ延びる。検出部分では長さ1.15m、幅75cm、深さ12cmを測る。覆土は暗灰黄色砂を基調とする。

［出土遺物・時期］磁器の小片が３点、陶器の小片が１点出土したが、図示できない。切り合いや調査区壁面の土層観察から、遺構の時期は近代である。

ＳＤ７（上水遺構）（第20・21・52図、図版14・15・38）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。切り合いではＳＫ43に先行し、ＳＤ８より新しい。

［検出状況・覆土］南北方向に走り、北側と南側はそれぞれ調査区外へ延びる。検出部分では長さ4.3m、幅54cm、深さ76cmを測る。覆土は上層は灰色粘土を基調とし、オリーブ黒色粘土をブロック状に含む。下層はオリーブ黒色粘土で、締まりがゆるい。底面では全面にわたって木樋を検出しており、上水遺構と考える。木樋は北半部では、丸太刳り抜きのもので、幅の外寸は23cmである。南半部の木樋は板材を釘で箱形に組んだもので、幅の外寸は15cmである。接続部分は北半部の丸太刳り抜きの木樋の南端部分がメス型に成形されており、そこに箱形の木樋が挿入された構造となっていた。調査区の南北の壁面で確認した木樋の底面の標高は北壁・南壁ともに259.36mと水平であった。『江戸時代の甲府上水』によると現在の連雀町通りの道路面下で、上水の本管とみられる木樋が走る様子が記録されている。ＳＤ７の木樋は北側に位置する本管から南側へ導水する上水遺構の支管であったと推測する。

また、ＳＤ７の遺構上面の南半部では集石と板材を検出している。遺構番号は付与していないがＳＤ７の上水遺構を敷設後、その上に構築された構造物の痕跡とみられる。集石は締まりのゆるいＳＤ７の覆土の上面に据えられており、地盤の改良材や構造物の基礎であった可能性がある。板材は腐食して遺存状態が不良であったため、取り上げられなかったが、板材に等間隔に棒材が沿わせてあり、壁材や床材であった可能性もある。

［出土遺物］木樋の他に、磁器が１点、陶器が４点、土器が２点、銭貨が１点出土している。このうち銭貨と木樋を図示した。253は背十一波の寛永通寶である。254は遺構の南半部で検出した箱形の木樋の本体部分である。板材を釘付けして箱形としたものである（蓋部分は図示していない）。255aは遺構の北半部で検出した木樋の南端の接続部分で、255bはその蓋である。丸太を分割して、二つの材に分け、一方は内面を刳り抜いて本体とし、一方は蓋として、両者を釘付けして樋としたものである。材質はアカマツやクロマツなどのマツ属複維管束亜属であった。255aの端部はメス型に成形されており、254の箱形の木樋を挿入して接続する構造である。255aの材質は芯持材で、マツ属複維管束亜属であった（第５章第２節）。

［時期］調査区壁面の土層観察ではⅡｃ層を切っている。近代の遺構と推測したが、出土遺物では時期を確定できない。木樋を試料としてウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行った。測定結果は1742-1750cal AD(1.6%)、1856-1894cal AD(70.4%)、1920-1945cal AD(23.4%)であった（第５章第１節）。土層観察による調査所見通り近代の遺構と推定する。

ＳＤ８（上水遺構）（第20・21・53図、図版15・39）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。切り合いではＳＤ７に先行する。

［検出状況・覆土］南北方向に走り、北側と南側はそれぞれ調査区外へ延びる。検出部分では長さ4.2m、幅78cm、

深さ 80cmを測る。覆土は黒色粘土を基調とし、灰色粘土をブロック状に含む。締まりはゆるい。底面には全面にわたって木樋を検出しており、上水遺構と考える。2 基の木樋が接続された状態で検出したが、いずれも丸太刳り抜きのもので、同じ丸太から分割した蓋を釘付けして樋としている。幅の外寸は北側の木樋で 14.5cm、南側の木樋は 16.9cmである。接続部分は北側の木樋の端部をオス型、南側の木樋の端部はメス型に成形していた。また南端部では蓋付の埋桶が接続していた。導水した水を貯留する水溜として機能していたとみられる。埋桶の南側では、木樋自体は検出できなかったが、土層の一部が極端にゆるくなっていた。さらに南側へと導水していた可能性もある。遺構の北端部はＳＤ７によって撹乱されており、位置関係から、ＳＤ８の木樋が機能しなくなった後、ＳＤ7の木樋を設置したとみることもできる。

［出土遺物］木樋・埋桶の他には磁器が6点、陶器が2点出土したが、図示できない。256 は埋桶の中から出土した部材で、2 つの円孔がある。257・258 は木樋で、丸太を分割して、二つの材に分け、一方は内面を刳り抜いて本体とし、一方は蓋として、両者を釘付けして樋としたものである。257 の端部はメス型、258 の端部はオス型に成形して接続部としている。いずれも材質はマツ属複維管束亜属であった（第5章第2節）。259 ～ 277 は桶である。木樋の接続部分の側板 (259・276) は、窠状に加工されている。

［時期］廃絶時期は近代と推定するが、ＳＤ7との切り合いから、敷設は幕末頃までさかのぼる可能性がある。

ＳＤ９（上水遺構）（第 22・54 図、図版 16・40）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＤ４、ＳＫ 62 に先行する。ＳＤ 10、ＳＫ 51 は同時期に機能した一連の遺構とみられる。ＳＤ 11 との切り合いは確認できなかったが、それぞれの竹管の遺存状況の比較から、ＳＤ９が新しい可能性が高い。

［検出状況・覆土］東西方向に走り、東端部はＳＫ 51 に接続し、西端部はＳＤ 10 と接続する。検出部分では長さ 1.72m、幅 44cm、深さ 22cmを測る。覆土はオリーブ黒色砂質シルトを基調とする。底面には竹管が敷設されており、上水遺構と考える。竹管は東端部でＳＫ 51 の継手に接続する。西端部には水平面の導水方向を変える継手が据えられており、東西方向に走るＳＤ９の竹管と南北方向に走るＳＤ 10 の竹管を接続している。

［出土遺物］陶磁器・土器も少量出土したが、図示できない。278・279 は銭貨で、278 は寛永通寶である。280・281 は煙管の雁首と吸口である。282 は金属製の小皿、283 は不明金属製品である。284 は木製の継手である。胴部に水平方向にＬ字形に孔を穿つ。上水遺構の屈曲部の継手である。材質は芯持材で、マツ属複維管束亜属であった（第5章第2節）。285 はホゾを持つ木製部材である。

［時期］西端部で検出した継手を試料として、ウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行った。測定結果は 1659-1672cal AD（95.4%）であった（第5章第1節）。一連の遺構であるＳＫ 51 やＳＤ 10 の試料より古い年代であったが、遺構の敷設時期が 17 世紀中葉から後葉にさかのぼる可能性を示すものと推測する。

ＳＤ 10（上水遺構）（第 22・55 図、図版 16・40）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 59 に先行する。ＳＤ９、ＳＫ 51 は同時期に機能した一連の遺構とみられる。

［検出状況・覆土］南北方向に走り、北端部はＳＤ９と接続する。ＳＫ 59 に撹乱されるため、途切れているが、検出部分の復元長は 2.06m、幅 50cm、深さ 22cmを測る。覆土は灰色粘土を基調とし、締まりはゆるい。底面には竹管が敷設されており、上水遺構と考える。竹管は北端部でＳＤ９の継手と接続する。南端部では垂直方向へと導水方向を変える継手が据えられている。

［出土遺物］磁器と陶器がそれぞれ 1 点出土したが、図示できない。磁器片はコンニャク印判で文様を施したものである。286 は木製の継手である。一側面から天面へかけてＬ字状に孔を穿つ。287 は木製の栓で、286 の継手の水平方向の孔に嵌まった状態で出土した。288 は寛永通寶である。

［時期］南端部で検出した継手を試料として、ウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行った。測定結果は 1770-1776cal AD（3.1%）および 1783-1806cal AD（92.3%）であった（第5章第1節）。一連の上水遺構が少なくとも 19 世紀初頭まで機能していた可能性を示すものと推測する。

ＳＤ 11（上水遺構）（第 22・55 図、図版 40）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 59・60 に先行する。ＳＤ９との新旧は覆土では確認できなかったが、竹管の遺存状態から、ＳＤ 11 が先行すると推測する。

［検出状況］南北方向に走り、北端部はＳＤ９の北側で終わり、南端部はＳＫ 60 に攪乱されて終わる。検出部分の長さは 1.46m、幅 28㎝、深さ 16㎝を測る。竹管は腐食しているが部分的に遺存しており、上水遺構とみられる。

［出土遺物・時期］289 は煙管の吸口、290 は円板状金具である。遺構の時期は切り合いや検出状況より、近世である。

ＳＳ５（石列）（第 19・55 図、図版 40）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。切り合いではＳＤ３に先行する。ＳＫ 40・41、ＳＳ６との新旧関係は確認できなかった。

［検出状況］南北方向に走り、検出部分の長さは 2.3m、幅 90㎝、深さ 30㎝を測る。石列として遺構番号を付与したが、ＳＫ 40・41 などと一連の遺構であった可能性がある。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器などが出土した。291 は磁器の小丸碗で、見込みに五弁花を施す。292・293 は陶器で、292 は灯明受皿、293 は鉢である。294 は石製の砥石である。295 は半銭銅貨、296 は不明金具で、297 は鎹である。遺構の時期は近代である。

ＳＳ６（石列）（第 19・55 図、図版 40）

［位置・重複］調査区西半部南側に位置する。切り合いではＳＫ 44 より新しい。ＳＫ 41、ＳＳ５との新旧関係は確認できなかった。

［検出状況］東西方向に走り、検出部分の長さは 2.5m、幅 86㎝を測る。石列として遺構番号を付与したが、集石範囲はまばらで、礫に陶磁器片が混入して投棄されたような状況であった。

［出土遺物・時期］磁器・陶器が出土しており、３点図示した。298 は磁器の蓋である。299・300 は陶器で、299 は坏、300 は碗である。遺構の時期は近代である。

遺構外出土遺物（第 56 ～ 58 図、図版 41・42）

301 ～ 307・309・310 は磁器である。301 は丸碗形の碗である。302 ～ 304 は皿である。302 は口縁部が輪花形で、高台は蛇の目凹形高台である。304 も口縁部が輪花形で、底部に「太明成化年製」の銘がある。305・306 は瓶で、305 はらっきょう形を呈し、外面に蛸唐草文を施す。307 は紅猪口である。309 は合子、310 は戸車である。

308・311 ～ 314・316 は陶器である。308 はミニチュアの碗である。311・312 は碗である。311 は腰折形、312 はロクロ挽骨形で、体部に複数の押圧痕と二条の沈線がある。錆釉が斑状となっている。313 は急須である。蓋と体部に笹の葉の印刻があり、把手と注口は竹をかたどったものである。314 は手水鉢である。316 は布袋徳利とよばれるぺこかん形の瓶の体部破片で、七福神の布袋をかたどったものである。

315 は瓦である。欠損で判読できないが「○米」の陽刻があり、背面には把手が付く。317 はガラス製の瓶である。318 ～ 321 は碁石である。318 は土製、319 ～ 321 は石製である。322 は石筆、323 は硯である。

324 ～ 353 は銭貨である。324 は北宋銭で、元祐通寶である。325 ～ 331・333 ～ 342・344・348 は寛永通寶である。325 ～ 328 は古寛永か。332・343・345 ～ 347 は不明銭貨である。349・350 は文久永寶である。351・352 は桐一銭青銅貨で、353 は二銭銅貨である。

354 ～ 361 は金属製品である。354 は雁首銭か。355 ～ 359 は煙管で、355・356 は雁首、357・358・359 は吸口である。360 は環状の金具、361 は金槌か。中央に孔がある。

第４節　Ｄ地区（第 23 図）

Ｄ地区は、連雀町通りの北側に位置し、計画道路では交差点の隅切りとなる予定の部分である。調査は反転掘削で行い、西半部を調査した後、東半部の調査を行った。

西半部では、南側が大きく撹乱されていた。重機を用いて現況地盤下 1m まで平面的に掘り下げたが、遺構検出面は現況地盤下 50 ～ 60㎝であったため、撹乱下に遺構面及び遺構は遺存しないと判断し、撹乱の深度と範囲を確認した後は人力掘削で生じた掘削土の置場とした。北側も撹乱が多かったが、中央部は遺構面が遺存しており、廃棄土坑や上水遺構を検出している。東半部では遺構面の遺存状態が良好で、上水遺構を検出した他、多数の埋桶、井戸なども検出している。西半部・東半部とも、整地層とみられるⅡｃ層が遺存する場合はその面での遺構検出を試み、最終的に地山のⅣ層上面まで掘り下げて遺構確認を行った。

ＳＫ 71（廃棄土坑）（第 24・59 図、図版 18・43）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 82 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 70㎝、幅 56㎝、深さ 14㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 5㎝の礫を多く含む。礫に混じって割れた陶磁器類が出土しており、廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・石製品が出土しており、そのうち9点を図示した。362 ～ 368 は磁器である。362 は小坏、363・364 は、外面に「吾唯足知」の文様がある同型の碗で、平碗形を呈する。365 ～ 368 は皿である。365・366 は霊芝文を施す同型の皿である。367 は蛇の目凹形高台で、口縁は輪花状を呈す。369 は陶器の片口か。370 は砥石で、全面に使用痕が観察できる。出土遺物より、遺構の時期は近代である。

ＳＫ 72（第 24・60 図、図版 18・43）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 77 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 86㎝、短径 58㎝、深さ 18㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器の小片が４点出土したが、図示できない。371 は寛永通寶である。遺構の時期は近代と推定する。

ＳＫ 73（第 24・60 図、図版 18・43）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 79 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で長径 84㎝、短径 74㎝、深さ 36㎝を測る。覆土は上層は焼土層で、下層は黒褐色粘土質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物･時期］磁器１点と金属製品１点が出土した。372 は磁器で、菊花形の紅猪口である。373 は簪である。先端の耳かき状の部分には白色の顔料が遺存する。出土遺物から、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 74（第 24・60 図、図版 43）

［位置・重複］調査区西半部の西側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況･覆土］調査区外に延びるため平面形の全容は不明だが、検出部分では隅丸方形に近い形状である。長さ 90㎝、幅 80㎝、深さ 63㎝を測る。覆土は上層･中層はオリーブ黒色砂質シルトを基調とし、最下層はオリーブ黒色細砂が堆積する。

［出土遺物･時期］磁器・陶器の小片が３点出土しており、そのうち１点を図示した。374 は陶器の灯明受皿で、ほぼ完形である。遺構の時期は近世である。

ＳＫ 75（第 25 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 82 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、推定長 1.08m、幅 1.06m、深さ 28㎝を測る。覆土は上層はオリーブ黒色粘土質シルト、下層は灰色粘土を基調とする。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器の小片が5点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 76（集石遺構）（第 24・60 図、図版 18・43）

［位置・重複］調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ 82 より新しい。

［検出状況］平面形の形状は楕円形で、長径 84㎝、短径 42㎝、深さ 14㎝を測る。径 10㎝の礫が詰まった状態で出土した。

［出土遺物・時期］陶器が1点出土した。375 は端反形で、外面に山水文を施す。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 77（第 24・60 図、図版 19・43）

［位置・重複］調査区西半部中央付近に位置する。切り合いではＳＫ 72 に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ 72 に切られるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 66㎝、幅 66㎝、深さ 24㎝を測る。上面は薄く焼土が覆っていた。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］陶器の碗が1点出土している。376 は陶胎染付の碗で、外面には唐草文を施す。出土遺物と切り合いから、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 78（廃棄土坑）（第 24・60 図、図版 19・43）

［位置・重複］調査区西半部の北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.04m、幅 74㎝、深さ 46㎝を測る。覆土は上層に灰色粘土、下層に灰色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。上層に多量の板材や棒材が投棄されたような状況で出土しており、廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が6点出土し、そのうち1点を図示した。377 は土器の灯明受皿である。須恵器のような硬質な焼成である。類似する遺物がＳＫ 111 からも出土している。378 は寛永通寶で、背十一波の四文銭である。出土遺物から、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 79（第 24・60 図、図版 19・43）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 73 に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径 84㎝、深さ 33㎝を測る。覆土は黄灰色粘土に黒色粘土ブロックを含む。

［出土遺物・時期］陶器が2点出土しており、そのうち1点を図示した。379 は陶器の香炉である。切り合いから、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 80（集石遺構）（第 24 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＳ 10 に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 88㎝、幅 70㎝、深さ 16㎝を測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。径 10 ～ 30㎝の礫がまとまって出土した。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。切り合いや覆土から遺構の時期は近世の可能性が高い。

ＳＫ 81（廃棄土坑）（第 25・33・60・61 図、図版 19・43）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 85 に先行し、ＳＤ 12 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 2.7m、幅 1.2m、深さ 26㎝を測る。検出時は上面を焼土粒が多く混入する土が覆っており、これを剥いでＳＫ 81･85 などを検出した。覆土は上層はオリーブ黒色粘土質シルト、下層は黒褐色砂質シルトを基調とする。上層では炭化物が多量に含まれていた他、径 10 ～ 20㎝の礫や破損した石臼が投棄されたような状態で出土した。割れた陶磁器片も比較的多く混入しており、火災時に生じたゴミの廃棄土坑と推定する。

［出土遺物･時期］磁器･陶器･土器･土製品などが出土している。380 ～ 382 は磁器である。380 は小碗である。381・382 は皿である。381 の口縁部の輪花形で、見込みにコンニャク印判の菊文を施す。382 は見込みを蛇の目釉剥ぎし、高台部には砂が付着する。383・384 は陶器である。383 は筒形碗である。384 は香炉で、陰刻の草木文様が施される。385 は土器の火鉢である。脚部が二か所遺存し、内面には煤が付着する。386 は石臼の上臼である。底面は煤が付着している。387・388・389 は銭貨である。387 は開元通寶で、621 年

初鋳の唐銭である。388・389 は寛永通寶である。

出土遺物の推定生産年代は概ね 18 世紀代に位置付けられる。遺構の時期は近世である。

ＳＫ 82（不明土坑）（第 25・61 図、図版 19・44）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 75 に先行する。

［検出状況・覆土］北側を撹乱されるため、平面形の全容は不明である。検出部分では、長さ 1.62m、幅 1.4m、深さ 1.0mを測る。覆土は黒色粘土を基調とし、上層では灰色粘土、下層ではオリーブ黒色砂質シルトを含む。締りは多少ゆるいものの、地山との識別が困難な覆土であった。遺構規模に比べ、出土遺物は少ない。これは西に隣接する大形土坑ＳＫ 83 でも同様であった。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器・瓦・木製品・木製品・石製品が出土したが、図示できる遺物は少ない。2点を図示した。390 は碁石である。391 は漆器の蓋で、外面に黒漆、内面は赤漆を施したものである。

遺構の時期は不明だが、特徴が類似するＳＫ 83 が近世の遺構とみられることから、近世の可能性がある。

ＳＫ 83（不明土坑）（第 26・61 図、図版 20・44）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］東側を撹乱されるため、平面形の全容は不明である。検出部分では、長さ 3.46m、幅 2.4m、深さ 80㎝を測る。覆土はオリーブ黒色粘土に灰色粘土をブロック状に含み、締りはゆるい。遺物も少なく、地山との識別が困難な覆土であった。

［出土遺物・時期］銭貨が3点出土した他に出土遺物はない。392・393・394 は寛永通寶で、393・394 は古寛永とみられる。切り合いから、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 84（廃棄土坑）（第 25・62 図、図版 20・44）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。ＳＫ 101 と隣接する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、推定長 1.38m、幅 1.06m、深さ 64㎝を測る。覆土は上層では黒褐色粘土質シルトや灰オリーブ色粘土質シルトが堆積し、径 10㎝の礫を含む。下層は灰色粘土質シルトや黄灰色粘土が堆積し、腐食した木質遺物を含む。不要な陶磁器類を処分した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・木製品が出土しており 14 点図示した。395 ～ 398 は磁器である。395・396 は碗である。396 は筒形碗形で、見込みに手描きの五弁花文を施す。397 は皿で、高台が高いタイプの蛇の目凹形高台である。398 は鉢である。399 ～ 404 は陶器である。399 は灯明皿で、口縁内部に菊花文の貼花がある。400 は瓶、401 は仏花瓶である。402 は火入れである。見込みは蛇の目釉剥ぎされており、口縁部には敲打痕が確認できる。403 は植木鉢で、404 は蓋である。405・406 は桶の側板で、それぞれ外面に「西富士」の焼印がある。

出土遺物の推定生産年代は 19 世紀中葉までに収まっている。遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 85（第 25・33 図、図版 19）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 81 より新しい。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ 1.24m、幅 50㎝、深さ 28㎝を測る。検出時は上面を焼土粒が多く混入する土が覆っており、これを剥いでＳＫ 81・85 を検出した。覆土は灰色粘土質シルトを基調とし、焼土と炭化物を粒状に含む。特に焼土粒の混入が顕著であった。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が数点づつ出土しているが、図示できる遺物はない。土層観察による切り合いではＳＫ 81 より新しいとしたが、ＳＫ 81・85 の上面は焼土粒を含む同じ土が覆っていたため、時期差は大きくないとみられる。遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 86（第 24 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 90㎝、短径 77㎝、深さ 6㎝を測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物・時期］磁器の小片が3点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 87（第 26・63 図、図版 20・44）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］南側が撹乱されるため、平面形の全容は不明である。検出部分で、長さ 1.22m、幅 1.04m、深さ 6cmを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が出土した。407 は陶器の碗で、轆轤形を呈す。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 88（集石遺構）（第 26 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 56cm、短径 36cm、深さは 20cmを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。底面に方形の礫が据えられいた。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 89（第 26 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 54cm、短径 40cm、深さ 30cmを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。坑内で棒状の遺物を検出したが、斜めに刺さっており、木根などの自然遺物とみられる。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 90（第 26 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＳ 10 に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 68cm、幅 26cm、深さ 22cmを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＫ 91（第 26・63 図、図版 20・44）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 80cm、幅 60cm、深さ 14cmである。覆土はオリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、炭化物を含む。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器などあわせて 5 点出土しており、1 点を図示した。408 は陶器の碗で、天目茶碗形である。出土遺物より、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 94（埋桶）（第 27・63 図、図版 21・45）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 116 より新しく、4 本の木杭（杭 4）に撹乱される。ＳＫ 95（埋桶）と隣接するが、平面的にも土層断面でも切り合いは確認できない。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径 94cm、深さ 26cmを測る。埋桶が据えられており、側板の下半と底板が遺存する。隣接するＳＫ 95 でも埋桶が遺存しており、位置関係や検出状況から同時期に機能していたと推測する。埋桶の径は約 60cmである。埋桶内には 4 本の木杭が突き刺さっている。木杭は桶の底板を突き破っており、埋桶の埋没後に打ち込まれたものと推測できる。埋桶堀方の覆土はオリーブ黒色粘土を基調とし、灰色粘土のブロックを含む。埋桶内の覆土は黒色砂質シルトを基調とし、上層には焼土ブロックと炭化物、下層には腐食した木質遺物を含む。埋桶下層の覆土については、その堆積物を試料に分析を行った。植物遺体ではイネ・ヒエ・ゴマ・メロン仲間・ナス・ソバなどが検出された（第 5 章第 4 節）。寄生虫卵分析では寄生虫卵が多く検出されており、糞便が混じっていたことが指摘されている（同第 5 節）。桶の側板の観察でも、内面に石灰状の付着物を確認しており、便槽の可能性が高いと考えていたが、同じ試料を用いた昆虫分析では便槽内には生息しない昆虫を検出していることなどから、糞便も含めた生活ゴミの捨て場と推測されている（同第 5・6 節）。埋桶の側板は途中で破損し、破損部分の内側が炭化している。埋桶内の焼土ブロックの堆積と側板の

炭化の状況から、火災により焼失した可能性が高い。

［出土遺物・時期］埋桶の他、磁器・陶器・土器・金属製品が出土した。409は陶器の碗で、ウノフ釉を施した尾呂茶碗である。410は土器の焙烙で、外面に煤が付着する。411は雁首銭である。煙管の火皿をつぶしたものとみられる。412～436は桶の側板で、全て内面に炭化部分が確認できるほか、多くの側板で石灰状の付着物がみられる。437は桶の底板である。検出状況や出土遺物から、遺構の時期は近世である。

ＳＫ95（埋桶）（第27・64図、図版21・46）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ112・120より新しい。ＳＫ94（埋桶）との切り合いは確認できない。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径90㎝、深さ26㎝を測る。埋桶が据えられており、側板の下半と底板が遺存する。隣接するＳＫ94でも埋桶が遺存しており、位置関係や検出状況から同時期に機能していたと推測する。埋桶の径は約60㎝である。埋桶堀方の覆土はオリーブ黒色粘土を基調とし、灰色粘土のブロックを含む。埋桶内の覆土は黒色砂質シルトを基調とし、上層には焼土ブロックと炭化物、下層には腐食した木質遺物を含む。下層の覆土については、その堆積物を試料として分析を行った。植物遺体ではゴマが多く、ヒエ・イネ・ナス・トウガラシなどが検出されている（第5章第4節）。また、ＳＫ94と同様に寄生虫卵が多く検出されており、糞便が混じっていたことが指摘されている（同第5節）。ただし、昆虫分析では便槽内には生息しない昆虫を検出していることなどから、糞便も含めた生活ゴミの捨て場と推測されている（同第5・6節）。桶の側板の観察では、ＳＫ94のもの以上に内面の石灰状の付着物の付着が顕著である。全ての側板が途中で破損し、破損部分の内側が炭化している。埋桶内の焼土ブロックの堆積と側板の炭化状況から、火災によりＳＫ94と同時期に焼失した可能性が高い。

［出土遺物・時期］埋桶の他、磁器・陶器・土器・金属製品が出土した。438・439は陶器である。438は秉燭である。439は土瓶である。440は箸である。441～465は桶の側板である。全ての側板の内面が炭化しているほか、石灰状の付着物が確認できる。466は桶の底板である。

検出状況や出土遺物から、遺構の時期は近世である。

ＳＫ96Ａ（埋甕）（第28・29・65図、図版21・47）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ96Ｂ（埋桶）より新しい。

［検出状況・覆土］平面形の全容は不明だが、円形を呈するとみられ、推定径98㎝、深さ50㎝を測る。埋甕が据えられており、復元した甕の口縁の径は65㎝、高さは47.4㎝を測る。覆土は上層は暗灰黄色粘土質シルトを基調とし、暗灰黄色細砂と炭化物を層状に含む。下層は灰色粘土質シルトである。埋甕内下層の堆積物を用いて分析を行った。寄生虫卵分析では寄生虫卵は検出されなかった（第5章第5節）。糞便が存在した可能性は低いが、甕の内面には石灰状の付着物が遺存しており、小便用の便槽として使用した可能性がある。

［出土遺物・時期］埋甕の他、磁器・陶器・金属製品が出土した。467は土器の甕である。埋甕として使用されたもので、口縁の断面形はＴ字形を呈する。468は寛永通寶で、古寛永か。469は煙管の雁首である。

ＳＫ96Ｂとの時期差は少ないと推測できることから、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ96Ｂ（埋桶）（第28・29・65図、図版21・47）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ96Ａ（埋甕）に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ96Ａの埋甕の直下で、桶の底板とタガの残欠が出土したため、埋甕に先行して埋桶が据えられていたと考え、ＳＫ96Ｂの遺構番号を付与した。埋甕底面からのＳＫ96Ｂの堀方の深さは10㎝で、覆土はオリーブ黒色粘土を基調とし、暗オリーブ灰色砂を含む。底板は水平を保っており、埋甕に撹乱された様子がないことから、先行する埋桶の側板は除き、底板を利用して、その上に埋甕を据えたと推測する。

［出土遺物・時期］埋桶の底板の他、磁器・陶器が出土した。470～472は磁器の碗である。470は筒形碗で、内面に四方襷の文様を施す。471・472は丸碗形で、471は内面に四方襷、外面に雪輪文を施す。472は見込みに昆虫文を施す。473は桶の底板である。

出土遺物の推定生産年代は19世紀初頭までに収まっている。遺構の時期は近世である。

ＳＫ97（廃棄土坑）（第28・29・65図、図版21・47）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は不整形で、長さ93㎝、幅62㎝、深さ20㎝を測る。当初、攪乱として掘削したが、まとまった量の陶磁器が出土したため、攪乱下で遺構が遺存したと判断し、遺構番号を付与した。出土遺物は一見して接合可能な遺物が多く、割れた陶磁器類をまとめて処分した廃棄土坑と推測する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器が出土しており、6点を図示した。474・475は磁器である。474は端反形の小坏である。475はくらわんか碗である。476～479は陶器の碗である。476は刷毛目碗である。477・478は同型の呉器手碗である。479は平碗形で、口縁に縁錆を施す。

出土遺物の推定生産年代は19世紀初頭までに収まっている。遺構の時期は近世である。

ＳＫ98（廃棄土坑）（第27・66図、図版21・47）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ92㎝、幅86㎝、深さ23㎝を測る。覆土はオリーブ黒色砂を基調とする。腐食した木質遺物の他、割れた陶磁器類を含む。遺物の出土状況から、不要となった陶磁器類を処分した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器・瓦・木製品・金属製品が出土した。480・481は磁器である。480はらっきょう形の瓶で、外面に蜻唐草文を施す。481は皿で、外面に唐草文、見込みには帆掛け舟の文様を施す。482は陶器で、丸碗形の碗である。483～488は木製品である。483・484・485は箸である。486は漆器碗で、内外面黒漆を施し、外面に花弁文様、高台内に赤漆の文字を施す。487は曲物の底板である。488は不明部材である。489は金属製品で、一端部が環状となった金具である。出土遺物より遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ99（第28・29・66図、図版21・47）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置し、ＳＫ100Ａと隣接する。切り合いではＳＫ114より新しい。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明だが、検出部分で長さ60㎝、幅60㎝、深さ12㎝を測る。覆土は、オリーブ黒色砂質シルトを基調とし、薄く層状に石灰質を含む。上面では、腐食した円形板を検出しており、埋桶が設置されていた可能性がある。円形板の上で、使用不能となった硯が出土している。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器・木製品・石製品・金属製品が出土した。陶磁器類は小片で図示できない。490は硯である。硯面の中央は磨り減って穴となっている。背面に落書きのような線刻がある。491は漆器碗で、外面は黒漆の地に赤漆で絵付けし、内面は赤漆を施す。492は和釘で、端部を折り曲げて頭部としている。

出土遺物より遺構の時期は近世と考える。

ＳＫ100Ａ（埋桶）（第28・29・67図、図版21・48）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ100Ｂ・114・120より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は円形で径76㎝、深さ10㎝を測る。埋桶が据えられており、側板と底板が遺存する。桶の径は約50㎝である。埋桶内の覆土は、灰オリーブ色砂を基調とする。

［出土遺物・時期］埋桶の他、磁器・陶器・土器が出土している。493は磁器の筒形碗で、外面に菊花文を施す。494は陶器の灰吹きか。495は土器で、灯明皿である。496～514は桶の側板である。内面に石灰状の付着物を残すものが多い。515は桶の底板である。出土遺物より、遺構の時期は近世である。

ＳＫ100Ｂ（埋桶）（第28・29図、図版23）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ114より新しく、ＳＫ99・100Ａに先行する。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径74㎝、深さ30㎝を測る。ＳＫ100Ａの埋桶の下で、別の埋桶の底板やタガの残欠が出土したため、ＳＫ100Ｂとした。ＳＫ100Ａと堀方が少しずれており、底面の高低差もあるため、時期差があると推測する。覆土は、オリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、締まりはゆるい。

［出土遺物・時期］磁器・陶器が1点づつ出土したが、図示できない。切り合いから遺構の時期は近世である。

ＳＫ 101（廃棄土坑）（第 28・29・68 図、図版 21・49）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置し、ＳＫ 84 と隣接する。切り合いではＳＫ 102 より新しい。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 70㎝、短径 53㎝、深さ 14㎝を測る。覆土は灰色砂質シルトを基調とし、腐食した木質遺物を含む。遺物の出土状況から、不要な陶磁器類を処分した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・瓦・土器と銭貨が出土している。516・517・518 は磁器である。516 はいわゆるくらわんか碗で、外面に雪輪梅樹文、底部に崩した「太明年製」銘がある。517 は広東碗で、外面に捻花文を施す。ＳＫ 84 出土の破片と遺構間接合している。518 は筒形の灰吹きである。口縁端面に敲打痕が残る。519 は陶器の土瓶で、注口は鉄砲口で、体部の形状は算盤玉形である。520 は桟瓦で、櫛歯状の工具でＸ形に文様を施す。521 は寛永通寶である。

517 はＳＫ 84 出土の破片と遺構間接合している。他の出土遺物からも遺構の時期は、近世である。

ＳＫ 102（廃棄土坑）（第 28・29・68 図、図版 22・49）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 101・103 Ａに先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ 101・103 Ａに切られるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 94㎝、幅 70㎝、深さ 26㎝を測る。覆土は締りのゆるいオリーブ黒色粘土を基調とする。遺物の出土状況から、不要となった陶磁器類や木製品などをまとめて処分した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・瓦・木製品・金属製品が出土した。522・523 は磁器である。522 は端反碗形の小碗である。523 は蓋物で、外面は葡萄文か。524 ～ 527 は陶器である。524 は碗、525 は土瓶の蓋、526 は土瓶で、外面に鉄絵を施す。527 は甕で、内面に石灰状の付着物がある。528 は寛永通寶、529 は和釘である。530･531 は木製品である。530 は、角形の連歯下駄である。531 は桶の側板で、外面に焼印がある。

出土遺物より、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 103 Ａ（埋桶）（第 28・29・69 図、図版 22・50）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 102・103 Ｂより新しく、ＳＫ 104 に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、長さ 83㎝、幅 58㎝、深さ 30㎝を測る。埋桶が据えられており、側板の下半と底板が遺存する。埋桶の径は約 50㎝である。掘方の覆土はオリーブ黒色砂で、炭化物を多量に含む。埋桶内の覆土は上層は黒色砂質シルトで、炭化物を多量に含む。下層は暗オリーブ色砂である。埋桶内下層の堆積物を試料として分析を行った。動物遺体ではアイナメ属とマイワシの椎骨、ウマの臼歯などが検出された（第５章第３節）。植物遺体ではゴマが多く、イネ・トウガラシ・ブドウ・アサ・スイカなども検出された（同第４節）。寄生虫卵分析では、糞便が混じること指摘されている（同第５節）が、昆虫分析では便槽内で生息しない昆虫を検出していることなどから、糞便も含めた生活ゴミの捨て場と推測されている（同第５・６節）。

［出土遺物・時期］埋桶の他、磁器・陶器と銭貨が少量出土している。532 は陶器の灯明受皿である。533・534 は寛永通寶である。533 は背十一波の四文銭で、534 は背面に「文」の文銭である。535 は雁首銭である。536 ～ 548 は木製品で、536 ～ 547 は桶の側板、548 は底板である。

出土遺物から、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 103 Ｂ（埋桶）（第 28・29・69 図、図版 22・50）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 103 Ａ・104 に先行する。

［検出状況・覆土］ＳＫ 103 Ａの埋桶直下で、別の埋桶を検出したため、ＳＫ 103 Ｂとした。検出面からの深さは 42㎝を測る。桶の側板下部と底板が遺存しており、埋桶の径は約 60㎝である。ＳＫ 103 Ａの埋桶はＳＫ 103 Ｂの埋桶上面にはまり込むような状態で据えられており、ＳＫ 103 Ｂの埋桶が機能停止後、間もなくして同位置に据えられたものと推測する。ＳＫ 103 Ｂの埋桶内の覆土は黒色砂を基調とし、炭化物を多量に含んでいた。埋桶内の覆土を試料とした分析では、植物遺体では、イネがやや多く、ヒエ属、トウガラシ、ゴマ、シソ属などを検出している（第５章第４節）。寄生虫卵分析ではＳＫ 103 Ａほどではないが、寄生虫卵が検出されており、糞便が混じっていた可能性は高い（同第５節）。ただし、昆虫分析では便槽内には生息しない昆虫

を検出したことなどから、他の埋桶と同様に、糞便も含めた生活ゴミの捨て場と推測されている（同第5・6節）。

［出土遺物・時期］埋桶の他には、磁器の小片と銭貨が出土している。549は磁器の蓋物である。口縁端部は無釉である。550・551・552は寛永通寶で、いずれも埋桶の下から出土したものである。

切り合いや出土遺物より、遺構の時期は近世である。

ＳＫ104（廃棄土坑）（第28・29・70図、図版22・51）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ103Ａ・ＳＫ114より新しい。ＳＫ52に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は不整形で、検出部分で長さ106㎝、幅78㎝、深さ56㎝を測る。覆土は上層は暗灰黄色砂質シルト、下層は暗灰色粘土を基調とする。上層には礫と多量の木質遺物を含む。出土状況から不要品を処分した廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器がわずかに出土した。漆継ぎ痕の残る小片もあるが図示できない。木質遺物は多量に出土したが、多くは板材や棒材であった。553は磁器で、くらわんか碗である。外面に雪輪梅樹文を施し、底面には崩した「太明年製」銘がある。554は陶器の片口である。555は土器で、火鉢類か。内外面に煤が付着する。556は曲物の底板とみられ、綴じに用いた桜皮が残存する。

出土遺物と切り合いより、遺構の時期は近世である。

ＳＫ105（第27図、図版22）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置し、ＳＫ116に隣接する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径64㎝、短径56㎝、深さ18㎝を測る。覆土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土ブロックを多く含む。下層はオリーブ黒色粘土で、締りがゆるい。検出状況から火災で生じた焼土やゴミの廃棄土坑を想定した。

［出土遺物・時期］磁器・陶器が少量出土したが図示できない。ゴムチューブが出土しており、遺構の時期は、戦災時またはそれ以降とみられる。

ＳＫ106（井戸）（第30・71図、図版22・51）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＫ118、ＳＤ13より新しい。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明であるが、円形を呈すと推定する。径は1.6ｍである。覆土は最上層は灰色粘土質シルトを基調とし、径3～20㎝の礫を多く含む。それ以下はオリーブ黒色粘土に灰色粘土をブロック状に含んだ覆土などが堆積する。検出面より50㎝ほど掘り下げた位置では、板材と丸太材を井桁状に組んだ構築物を検出した。材を外すと、桶が出土した。桶の中はいっぱいに滞水しており、開口したままの状態であった。ピンポールを挿しても底に到達せず、桶は井戸の井戸側に転用したものであった。さらに下に桶を何段か重ねて井戸側を構築したものと推測したが、滞水によって覆土がゆるく、遺構自体が、現在の車道との境に位置するため、断割確認やそれ以上に深く掘り下げる調査は行わなかった。桶に溜まった水中にスタッフを入れて、底面を探ったところ、検出面から約3ｍであった。最初に検出した井桁状の構築物は、井戸を廃絶する際に開口部を塞いだ蓋であったと推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器が少量出土しており、2点を図示した。557・558は磁器である。557は薄手酒坏である。558は香炉か。

出土遺物は近世のものであるが、切り合いや調査区壁面の土層確認では、近代とみられる整地層をすべて切っており、戦災時の瓦礫土坑と同じ時期に位置付けられる。井戸の開削時期が近世にさかのぼる可能性はあるが、最終的な埋没時期は近現代である。

ＳＫ107（第31・32図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径68㎝、深さ11㎝を測る。覆土はオリーブ黒色粘土を基調とし、灰色粘土と焼土粒を含む。

［出土遺物・時期］磁器片1点、陶器片2点が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 108（廃棄土坑）（第 35・71 図、図版 23・25・51）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置し、ＳＳ 12 と隣接する。切り合いではＳＫ 113・119 より新しい。

［検出状況］包含層の掘り下げ時に多量の獣骨が出土した。出土範囲が集中しており、土坑であったと推定できたが、土坑上面の平面形や掘方は検出できなかった。獣骨の出土範囲の形状から楕円形であったと推定する。長径 76㎝、短径 62㎝で、深さは確認できない。出土した獣骨はすべて取り上げて、同定を行った。その結果、イノシシが少なくとも３個体分、ニホンジカが少なくとも２個体分、他にイヌの大腿骨も含まれていることが分かり、解体痕が残る試料も判明した（第５章第３節）。ＳＫ 108 は動物骨の廃棄土坑であったと推定する。

［出土遺物・時期］出土した獣骨の直上で、磁器が１点出土している。559 は磁器碗で、いわゆるくらわんか碗である。外面に梅文を施し、見込みは蛇の目状に釉剥ぎされる。推定生産年代は 18 世紀前葉から 19 世紀初頭である。出土遺物は１点だが遺存状態が良く、出土状況も明らかなことから、遺構の時期は近世とした。

ＳＫ 109（廃棄土坑）（第 31・32・71 図、図版 23・51）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］平面形は円形で、径 63㎝、深さ 10㎝を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、礫と腐食した木質遺物を多く含む。廃棄土坑と推測する。

［出土遺物・時期］磁器片と陶器片がそれぞれ１点づつ出土した。木質遺物は多く含んでいたが、細切れの板材や形状を残さないものが多い。560 は磁器で、蓋物の蓋である。561 は木製品で、丸形の連歯下駄である。剥落しているが、黒漆塗りであったとみられる。出土遺物より、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 110（廃棄土坑）（第 31・32・71 図、図版 23・51）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置し、ＳＫ 117 に隣接する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 92㎝、幅 72㎝、深さ 26㎝を測る。覆土は上層に黒褐色粘土質シルトが堆積し、腐食した木質遺物を多く含む。下層は灰色粘土で、締りはゆるい。腐食した木質遺物や破損した石臼などが出土しており、廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が少量出土した他、石臼の破片が出土している。木質遺物も多く含んでいたが腐食している。562 は土器の皿である。遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 111（廃棄土坑）（第 30・31・71・72 図、図版 23・51・52）

［位置・重複］調査区東半部南東隅に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分で長さ１m、幅１m、深さ 36㎝を測る。覆土は、上層に黒褐色砂質シルト、中層にオリーブ黒色粘土に灰色粘土ブロックを含む土が堆積する。下層はオリーブ黒色粘土質シルトが堆積し、木質遺物が土坑内いっぱいに投棄されたような状況であった。また、投棄された木質遺物によって壊されているが、底面部分で、桶の底板や側板がまとまって出土しており、もともと埋桶が据えられていたところを掘り広げて廃棄土坑とした可能性がある。

［出土遺物・時期］大量の木質遺物に磁器・陶器・土器が混入して出土した。563 ～ 566 は磁器である。563 は端反形の薄手酒坏である。564 は小坏である。565 は碗で、焼継ぎ痕と焼継ぎ印が残る。566 は蓋である。567 は陶器の灯明皿で、見込みに環状の目跡がある。568 は土器か。灯明受皿で、須恵器のような硬質な焼成である。口縁部には煤が付着する。類似する遺物がＳＫ 78 でも出土している。569 は陶器の皿である。見込みは蛇の目状に釉剥ぎする。570 は土器で、火鉢類とみられる。内面に煤が付着する。571 ～ 573 は木製品である。571 は桶の側板で、外面に焼印がある。破損部分は炭化している。572・573 は敷居である。それぞれ２列の溝が切られており、炭化している。樹種同定の結果、572 はカラマツであった（第５章第２節）。

出土遺物より、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 112（第 27・72 図、図版 23・52）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 95 に先行する。

［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 74㎝、幅 58㎝、深

さ 26㎝を測る。覆土は、黒褐色砂質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が合わせて4点出土した他、木製品、金属製品が出土している。574 は磁器の皿である。見込みに松竹梅円形文を施し、底面には目跡が残る。575 は金属製品で、煙管の火皿部分である。576 は木製品で、中心に孔のある円形板で、小形の曲物の蓋か。

出土遺物と切り合いから、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 113（第 31・32 図）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。ＳＫ 108 の下で検出した。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 44㎝、短径 32㎝、深さ 8㎝を測る。覆土はオリーブ黒色砂質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。切り合いから遺構の時期は、近世の可能性が高い。

ＳＫ 114（廃棄土坑）（第 28・29・73 図、図版 23・52）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 99・100・104 に先行する。

［検出状況・覆土］切り合いにより平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.54ｍ、幅 1.29ｍ、深さ 26㎝を測る。覆土は、上層はオリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、締りがゆるい。下層は黒褐色砂で、木質遺物が投棄されたような状態で、大量に出土した。廃棄土坑と推定する。

［出土遺物・時期］大量の木製品に混入して、磁器・陶器・土器・金属製品がそれぞれ少量出土した。577 は陶器の水注である。578 は土器で、内耳の焙烙である。579 は金属製品で、煙管の雁首である。580 ～ 587 は木製品である。580 は漆器椀で、内外面赤漆を施す。581 は箸、582 は下駄で、連歯下駄の後歯部分か。583 は桶の底板である。583・584 は桶の側板で、破損部分の内面が炭化している。586 は敷居である。全面が炭化する。樹種はツガ属である（第５章第２節）。587 は部材で、両端にホゾが切られる。

出土遺物と切り合いから、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 115（第 28・29 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。南半部は撹乱される。

［検出状況・覆土］撹乱されるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 60㎝、幅 40㎝、深さ 20㎝を測る。覆土は、上層は灰色粘土質シルト、下層は灰色砂質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］磁器・陶器がそれぞれ1点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 116（第 27・74 図、図版 23・53）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 94 に先行する。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 88㎝、幅 54㎝、深さ 17㎝を測る。覆土は、オリーブ黒色粘土質シルトを基調とする。

［出土遺物・時期］磁器と陶器が少量出土した。588 は磁器の碗である。見込みにコンニャク印判の五弁花を施す。漆継ぎ痕が残る。589 は陶器の擂鉢で、口縁は折縁形を呈する。

切り合いと出土遺物より、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 117（第 31・32・74 図、図版 23・53）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置し、ＳＫ 110 と隣接する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形の形状は不整形で、長さ 64㎝、幅 44㎝、深さ 36㎝を測る。覆土はオリーブ黒色砂に灰色粘土のブロックを含む。

［出土遺物・時期］陶器片が1点出土したが、図示できない。他に銭貨が出土した。590 は寛永通寶である。遺構の時期は不明である。

ＳＫ 118（第 30・31・74 図、図版 24・53）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＫ 106 に先行する。ＳＤ 13 との切り合いは確認できなかった。

［検出状況・覆土］ＳＫ 106 に切られるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.0m、幅 72㎝、深さ 20㎝を測る。覆土は、黒褐色砂質シルトを基調とし、オリーブ黒色粘土のブロックと焼土ブロックを含む。
［出土遺物・時期］磁器が１点と陶器が３点出土している。591 は磁器の碗である。いわゆるくらわんか碗で、外面に梅樹文、底部に崩した「太明年製」銘がある。出土遺物より、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 119（廃棄土坑）（第 31・32・74 図、図版 24・53）

［位置・重複］調査区東半部北東隅に位置する。切り合いではＳＫ 108・ＳＳ 12 に先行する。
［検出状況・覆土］平面形は隅丸の長方形に近い形状である。長さ 1.32m、幅 90㎝、深さ 44㎝を測る。覆土はオリーブ黒色砂質シルトを基調とし、締りはゆるい。土坑の西半部では４本の木杭が刺さった状態で検出したが、後世の構造物の杭基礎とみられる。木質遺物が投棄されたような状態で大量に出土しており、廃棄土坑と推定する。
［出土遺物・時期］陶器・土器・土製品・金属製品・木製品が出土した。592 は土器の香炉か。脚部が三方に付く。底面と脚部の一つに墨書がみられ、脚部の墨書は「左」か。口縁部には敲打痕がみとめられ、灰吹きや火入れとして使用された可能性がある。593 は寛永通寶、594 は亀甲状の金網である。595 ～ 599 は木製品である。595・596 は漆器椀である。595 は外面は黒漆の地に金色で絵付けし、内面は赤漆を施す。596 は内外面、赤漆である。597 は下駄で、角形の連歯下駄である。598 は桶の底板である。599 は鍬の身の部分とみられる。
　切り合いと出土遺物から、遺構の時期は近世である。

ＳＫ 120（埋桶）（第 28・32 図、図版 24）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 95・100 に先行する。
［検出状況］切り合いにより平面形の全容は不明である。攪乱されているが、側板と底板の一部が遺存しており、埋桶が据えられていたとみられる。埋桶は二度にわたって設置されており、外側の掘方と内側の掘方にそれぞれ桶の痕跡が残っていた。その遺存状況から外側の埋桶の廃絶後に内側の埋桶が据えられたとみられる。内側の埋桶の径は 60㎝前後であったと推測する。
［出土遺物・時期］磁器・陶器が数点出土したが、図示できない。切り合いから遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 121（第 31・32・74 図、図版 24・53）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 122 より新しい。
［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 70㎝、幅 34㎝、深さ 22㎝を測る。覆土はオリーブ黒色砂質シルトを基調とする。
［出土遺物・時期］陶器２点と石製品が出土した。600 は陶器の碗で、腰錆碗と呼ばれるタイプである。601 は硯である。背面には線刻がある。出土遺物から、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＫ 122（第 31・32・74 図、図版 24・53）

［位置・重複］調査区東半部北側に位置する。切り合いではＳＫ 121 に先行する。
［検出状況・覆土］調査区外へ延びるため平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 80㎝、幅 76㎝、深さ 18㎝を測る。覆土は灰色粘土質シルトを基調とし、締りはゆるい。
［出土遺物・時期］602 は寛永通寶で、文銭とみられる。他に出土遺物はない。切り合いから、遺構の時期は近世と推定する。

Pit35（集石遺構）（第 32 図）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。重複する遺構はない。
［検出状況］平面形は楕円形で、長径 36㎝、短径 30㎝、深さ 30㎝を測る。底面に５～ 10㎝の小礫が入り、その上に径 20㎝の礫が据えられる。
［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit36（第 31・32 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は楕円形で、長径 54㎝、短径 42㎝、深さ 28㎝を測る。覆土は灰色粘土質シルトを基調とし、径 10㎝の礫が複数入る。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

Pit37（第 32 図）

［位置・重複］調査区東半部中央に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］平面形は円形で、径 24㎝、深さ 4㎝を測る。覆土は灰色砂を基調とする。

［出土遺物・時期］出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

ＳＤ 12（上水遺構）（第 33 図、図版 19・24）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。切り合いではＳＫ 81 に先行する。

［検出状況・覆土］東西方向に走り、西端部は調査区外へ延び、東端部は撹乱されて終わる。検出部分では長さ 2.94m、幅 56㎝、深さ 22㎝を測る。底面や覆土中では竹の残欠や腐食して土壌化した竹管の痕跡が確認でき、竹管を敷設した上水遺構であったとみられる。底面は東から西へ向かって低く傾斜している。覆土は、黒褐色粘土や灰色粘土を基調とする。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。切り合いから、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＤ 13（上水遺構）（第 34・75 図、図版 24・54）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。切り合いではＳＫ 106 に先行する。ＳＫ 118 との新旧関係は確認できなかった。

［検出状況・覆土］東西方向に走り、西端部は撹乱されて終わり、東端部もＳＫ 106 に切られて終わる。覆土は上層に黒褐色砂質シルトが堆積し、焼土・炭化物を含む。下層はオリーブ黒色粘土に灰色粘土をブロック状に含む締まりのゆるい土である。遺構の東半部では竹管と木製の継手が遺存しており、上水遺構であったと推定する。継手には水平方向に貫通する孔がある他、天面にも孔があり、ここから上方向へ導水していた可能性もあるが、出土時は天面の孔が栓で塞がれていた。継手より西側では竹管は遺存していなかった。底面は西から東へ向かって低く傾斜している。

［出土遺物・時期］継手・竹管の他、磁器・陶器・木製品・銭貨が出土している。603 は陶器の天目茶碗である。604 は寛永通寶である。605・は木製の栓か。606 の継手の天面の孔に嵌まっていたものである。605 は木製の継手である。水平方向に孔が貫通する他、天面に孔があり、検出時はここに 605 が嵌まっていた。

切り合いや出土遺物から、遺構の時期は近世である。

ＳＳ 10（石列）（第 34・75 図、図版 25・54）

［位置・重複］調査区西半部中央に位置する。上層の遺構検出時に検出しており、重複する他の遺構より新しい。

［検出状況］遺構の西半部では 20 ～ 40㎝、東半部では 5 ～ 10㎝の礫を主体とする集石が列となって東西方向に走る。西端部は調査区外へ延び、東端部は調査区中央部で途切れて終わる。検出部分の長さは 6.15m、幅 50㎝を測る。集石の下には木杭などはなかった。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器・石製品などが集石に混じって少量出土した。607 は磁器の碗である。形状は筒形碗形で、外面に菊花文と斜め格子文を施す。608 は石臼の下臼である。

出土遺物には近世のものがみられるが、検出状況や切り合いから、遺構の時期は近代と推定する。

ＳＳ 11（石列）（第 34・75 図、図版 25・54）

［位置・重複］調査区東半部南側に位置する。重複する遺構はない。

［検出状況・覆土］調査区南側の大きな撹乱の東端部で、撹乱を除去して検出した。石列としたが、調査区外へ延びるため、形状の全容は不明である。検出部分では長さ 1.3m、幅 60㎝、深さ 1m である。覆土はオリーブ黒色粘土質シルトを基調とし、締りはゆるい。径 10 ～ 20㎝の礫が 1m にわたって含まれている。底面付近で胴木とみられる木材を検出しており、構造物の基礎であった可能性がある。

［出土遺物・時期］磁器・陶器・土器が少量出土しており、2 点を図示した。609 は磁器の碗である。いわゆ

るくらわんか碗で、外面にコンニャク印判でモミジの葉の文様を施す。見込みは蛇の目状に釉剥ぎする。610は陶器で、鬢盥である。出土遺物より、遺構の時期は近世と推定する。

ＳＳ 12（石列）（第 35・75 図、図版 25・54）

［位置・重複］調査区東半部北東隅に位置し、ＳＫ 108 に隣接する。切り合いではＳＫ 119 より新しい。

［検出状況］径 20 ～ 30㎝の礫を主体とした集石が列状に東西方向に走る。石列としたが、調査区外へ延びるため、形状の全容は不明である。検出部分では長さ 1.1m、幅 70㎝である。集石を除去すると、板材や棒材が敷かれていた。

［出土遺物・時期］集石や板材に混入して、磁器・陶器が数点出土しており、3点を図示した。611・612 は磁器である。611 は碗で、形状は端反碗形を呈する。612 は猪口で、外面に若松文を施す。613 は陶器の片口である。出土遺物より、遺構の時期は近世と推定する。

杭１～６（杭列）（第 35 図、図版 26）

［位置・重複］調査区東半部に位置する。切り合いではＳＫ 94 より新しい。

［検出状況］調査区東半部で方形区画を構成していたとみられる木杭を6か所検出し、それぞれ杭1～6とした。方形区画の南西部は攪乱されており、木杭も検出できなかった。杭1と杭4は4本の木杭で1組となっているが、他は3本1組である。上部構造は確認できなかったが、礎石を木杭で支える構造の建物の基礎であったと推測する。柱間は 1.2 ～ 1.3mで、杭5・6間のみ 1.4mとやや広い。

［出土遺物・時期］出土遺物はない。杭4はＳＫ 94 の埋桶の底板を突き破るように打ち込まれており、明らかに新しい。遺構の時期は近代と推定する。

遺構外出土遺物（第 76 ～ 78 図、図版 55・56）

614 ～ 632 は磁器である。614 は薄手酒坏である。高台の形状は鉤形を呈し、底部には「山田」の異体字銘がある。615 ～ 618 は小坏である。616 は「九〇支店」の銘がある。619 は蓋物である。620 ～ 622 は碗である。620 の形状は筒丸形で、焼継ぎ痕と「ユリ六」の焼継ぎ印がある。621 は望料碗形で、見込みに「祥奥年製」の銘がある。622 は丸碗形で、高台内に「甲府上連雀町 秋山食料品店 電一一〇番」とあり、商店の宣伝用であったことが窺い知れる。623 ～ 625 は皿である。625 は見込みにコンニャク印判の五弁花、高台内には渦福の文様が染付される。626 は髪油壺である。627 と 628 は蓋物の蓋である。627 は菊花文の染付、628 は紅葉の上絵付けを施す。629・630 は紅猪口で、629 の形状は菊花形を呈する。631 は水注か。632 は磁器製のサイコロである。

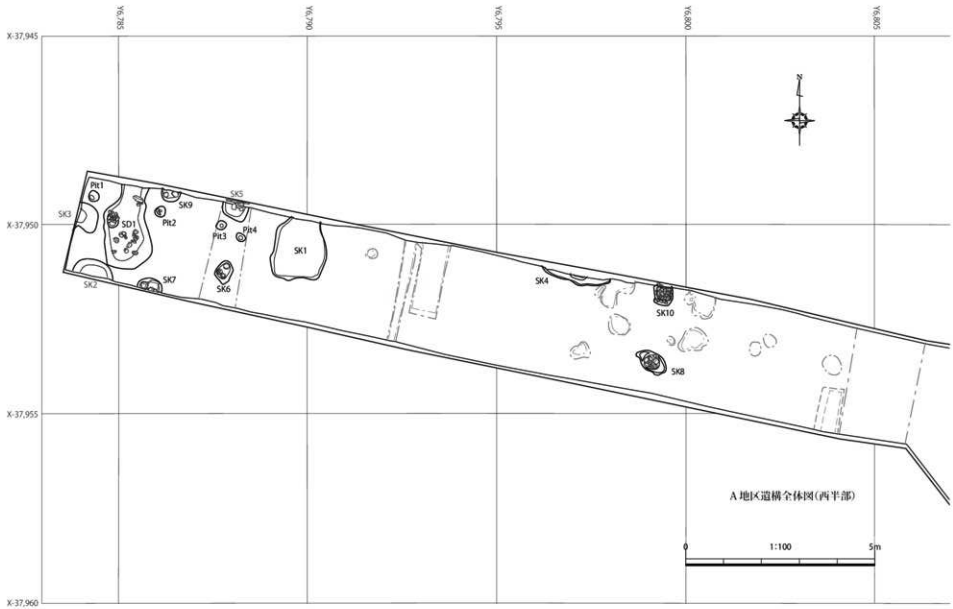
633 ～ 639 は陶器である。633 ～ 635 は碗である。633 は小杉碗形、634 は筒形碗形である。635 は上方からみた口縁部が方形となる形状で、「峡中創業」と銘がある。636 は皿で、いわゆる「太白」とされるものである。見込みに五弁花、内面には菊花文を施す。637 は灯明受皿、638 は香炉である。639 は蓋である。

640・641 は上器である。640 は焼塩壺で、刻印はみられない。641 は火消し壺か。蓋の内外面と壺の外面に薄く煤が付着する。642・643 は土製品である。642 は大黒天の人形で、643 は土製の碁石である。

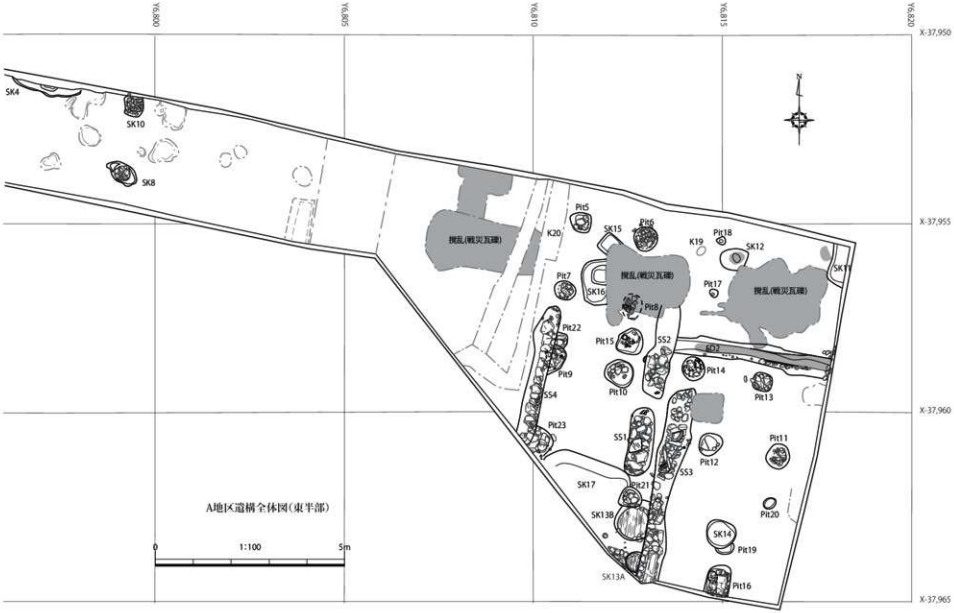
644・645 は石製品である。644 は硯、645 は碁石である。646 はガラス製の薬瓶である。

647 ～ 666 は金属製品である。647 ～ 658 は銭貨である。657 は文久永寶で、他は全て寛永通寶である。659 は雁首銭である。660 ～ 663 は煙管で、660 は火皿部分、661 は雁首部分、662・663 は吸口部分である。664 は和釘で、頭巻釘である。665 は引手金具、666 は不明金具で、球状部に釘が貫かれている。

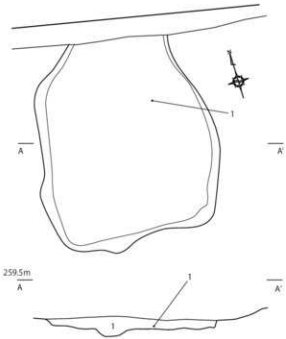
667 は木製品で、漆器の蓋である。外面は黒漆に鶴の文様、内面は赤漆を施す。


Y-38,785
Y-38,790
Y-38,795
Y-38,800
Y-38,805
X-37,945
X-37,950
X-37,955
X-37,960
N
PIt1
SK3
SD1
SK9
PIt2
SK5
PIt3
PIt4
SK1
SK2
SK7
SK6
SK4
SK10
SK8
A地区遺構全体図(西半部)
0
1:100
5m

第４図　A地区（1）

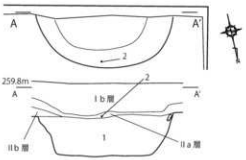

Y:6,800
Y:6,805
Y:6,810
Y:6,815
Y:6,820
X:-37,950
X:-37,955
X:-37,960
X:-37,965
SK4
SK10
SK8
撹乱(戦災瓦礫)
K20
Pit5
SK15
Pit6
K19
Pit18
SK12
SK11
Pit7
SK16
Pit8
Pit17
Pit22
Pit15
SS2
SD7
Pit9
Pit10
Pit14
Pit13
SS4
Pit23
SS1
Pit12
Pit11
SS3
SK17
Pit21
SK13B
Pit20
SK14
Pit19
SK13A
Pit16
A地区遺構全体図(東半部)
0
1:100
5m

第５図　A地区（２）



SK1

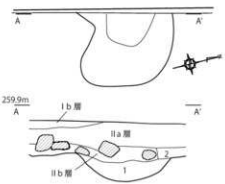
1　暗褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト
　焼土・炭化物粒状に 10% 含む　締りゆるい



Ⅰb 層　戦災焼土層
Ⅱa 層　オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト
Ⅱb 層　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト

SK2

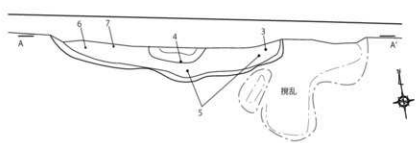
1　黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト
　焼土・炭化物粒状に 10% 含む

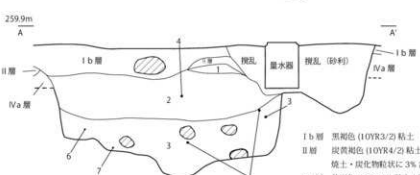


Ⅰb 層　戦災焼土層
Ⅱa 層　オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルトに
　灰色 (N5/) 粗砂互層状に 30% 含む
Ⅱb 層　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
　締まりゆるい

SK3

1　黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト
　焼土・炭化物粒状に 10% 含む
2　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルトに
　オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト 3% 含む





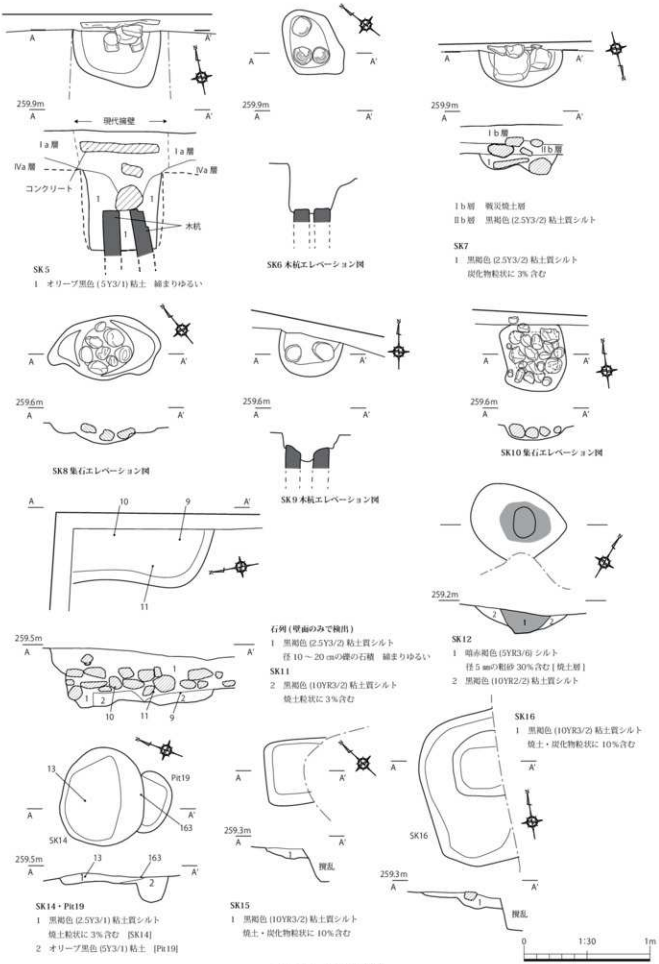
Ⅰb 層　黒褐色 (10YR3/2) 粘土　焼土・炭化物 30% 含む　[戦災焼土層]
Ⅱ層　　炭黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト
　　焼土・炭化物粒状に 3% 含む　硬く締まる
Ⅳa 層　黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土 (酸化鉄分 5% 含む)　[地山]

SK4

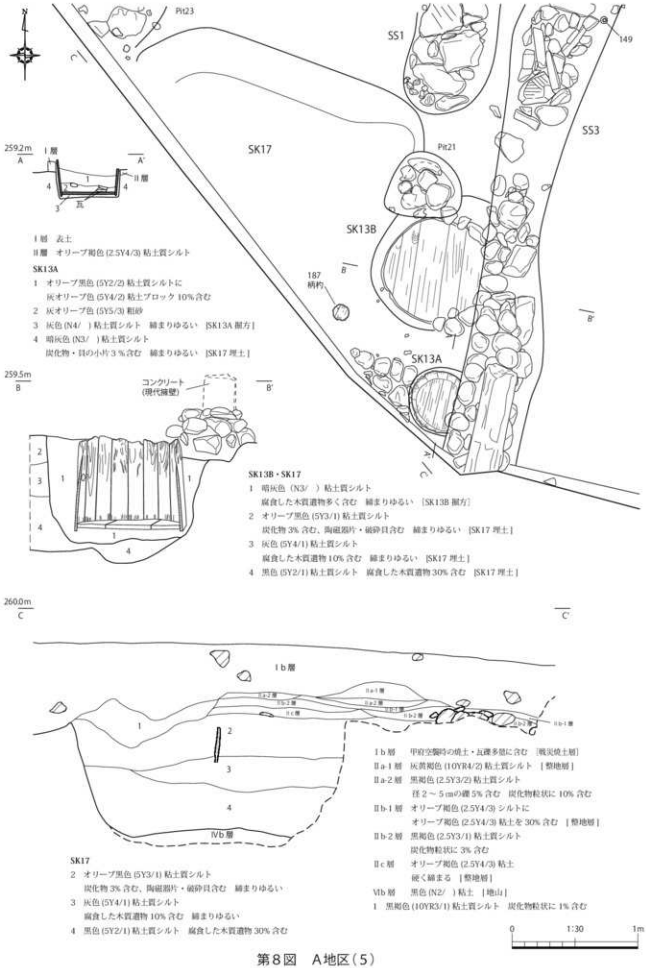
1　黒褐色 (2.5YR3/1) 粘土
2　黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 7% 含む
3　黒色 (5Y2/1) 粘土質シルト　径 10cm の礫 3% 含む

0　1:30　1m

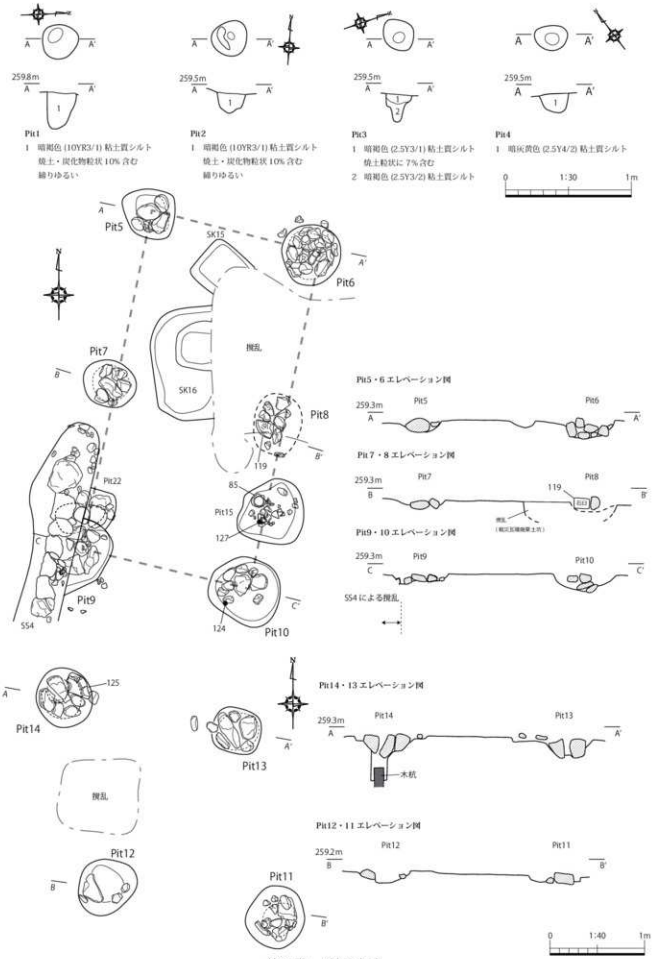
第6図　A地区（3）


259.9m
A
A'
現代擁壁
Ⅰa層
Ⅳa層
コンクリート
木杭
SK5
1 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土 締まりゆるい
SK6 木杭エレベーション図
Ⅰb層 戦災焼土層
Ⅱb層 黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルト
SK7
1 黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルト
炭化物粒状に3%含む
259.6m
SK8 集石エレベーション図
SK9 木杭エレベーション図
SK10 集石エレベーション図
259.5m
石列(壁面のみで検出)
1 黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルト
径10～20cmの礫の石積 締まりゆるい
SK11
2 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
焼土粒状に3%含む
259.2m
SK12
1 暗赤褐色(5YR3/6)シルト
径5mmの粗砂30%含む[焼土層]
2 黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト
Pit19
SK14
163
SK14・Pit19
1 黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト
焼土粒状に3%含む [SK14]
2 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土 [Pit19]
259.3m
撹乱
SK15
1 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
焼土・炭化物粒状に10%含む
SK16
1 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
焼土・炭化物粒状に10%含む
0
1:30
1m

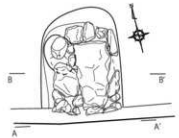
第7図 A地区(4)


N
Pit23
SS1
149
SS3
SK17
Pit21
SK13B
SK13A
187
柄杓
259.2m
A
A'
I層
II層
瓦
259.5m
B
B'
コンクリート
(現代擁壁)
SK13B・SK17
1 暗灰色（N3/ ）粘土質シルト
腐食した木質遺物多く含む 締まりゆるい ［SK13B 側方］
2 オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト
炭化物 3% 含む、陶磁器片・破砂貝含む 締まりゆるい ［SK17 理土］
3 灰色（5Y4/1）粘土質シルト
腐食した木質遺物 10% 含む 締まりゆるい ［SK17 理土］
4 黒色（5Y2/1）粘土質シルト 腐食した木質遺物 30% 含む ［SK17 理土］
260.0m
C
C'
Ib層
IIa-1層
IIa-2層
IIb-1層
IIc層
IIb-2層
IIb-2層
IIb-1層
IVb層
I b 層 甲府空襲時の焼土・瓦礫多量に含む ［戦災焼土層］
II a-1 層 灰黄褐色（10YR4/2）粘土質シルト ［整地層］
II a-2 層 黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
径 2 ～ 5 cmの礫 5% 含む 炭化物粒状に 10% 含む
II b-1 層 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルトに
オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土を 30% 含む ［整地層］
II b-2 層 黒褐色（2.5Y3/1）粘土質シルト
炭化物粒状に 3% 含む
II c 層 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土
硬く締まる ［整地層］
VIb 層 黒色（N2/ ）粘土 ［地山］
1 黒褐色（10YR3/1）粘土質シルト 炭化物粒状に 1% 含む
SK17
2 オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト
炭化物 3% 含む、陶磁器片・破砂貝含む 締まりゆるい
3 灰色（5Y4/1）粘土質シルト
腐食した木質遺物 10% 含む 締まりゆるい
4 黒色（5Y2/1）粘土質シルト 腐食した木質遺物 30% 含む
0
1:30
1m

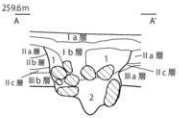
第８図　A地区（5）


Pit1
1 暗褐色（10YR3/1）粘土質シルト
焼土・炭化物粒状 10% 含む
締りゆるい
Pit2
1 暗褐色（10YR3/1）粘土質シルト
焼土・炭化物粒状 10% 含む
締りゆるい
Pit3
1 暗褐色（2.5Y3/1）粘土質シルト
焼土粒状に 7% 含む
2 暗褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
Pit4
1 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土質シルト
0 1:30 1m
Pit5
Pit6
SK15
Pit7
SK16
攪乱
Pit8
119
Pit22
85
Pit15
127
Pit9
SS4
124
Pit10
Pit5・6 エレベーション図
259.3m
Pit7・8 エレベーション図
Pit9・10 エレベーション図
SS4 による攪乱
Pit14
125
Pit13
攪乱
Pit12
Pit11
Pit14・13 エレベーション図
木杭
Pit12・11 エレベーション図
259.2m
0 1:40 1m

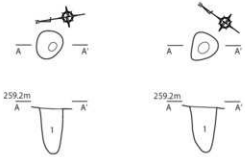
第９図　A地区（６）



Ⅰa層　表土（砕石）
Ⅰb層　褐炭焼土層　焼土ブロックと炭化物多く含む
Ⅱa層　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルトに
　　オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト 10%含む
　　炭化物粒状に 7%含む
Ⅱb層　黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト　炭化物粒状に 5%含む
Ⅱc層　オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト　硬く締まる
Ⅲa層　黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト　炭化物粒状に 3%含む
Ⅲb層　暗灰色 (N3/　) 粘土　炭化物粒状に 3%含む



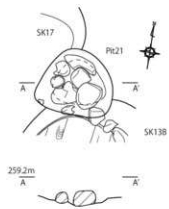
Pit16
1　黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト　締まりゆるい
2　暗灰色 (N3/　) 粘土　締まりゆるい [Pit16]



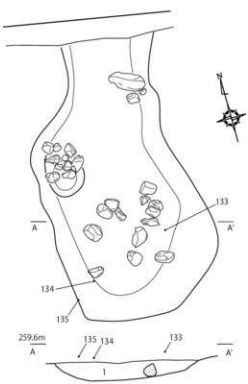
Pit17
1　黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
　焼土粒状に 10%含む

Pit18
1　黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト
　焼土粒状に 10%含む

Pit20
1　暗灰色 (N3/　) 砂質シルト
　泥炭粒状に少量含む
2　黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト



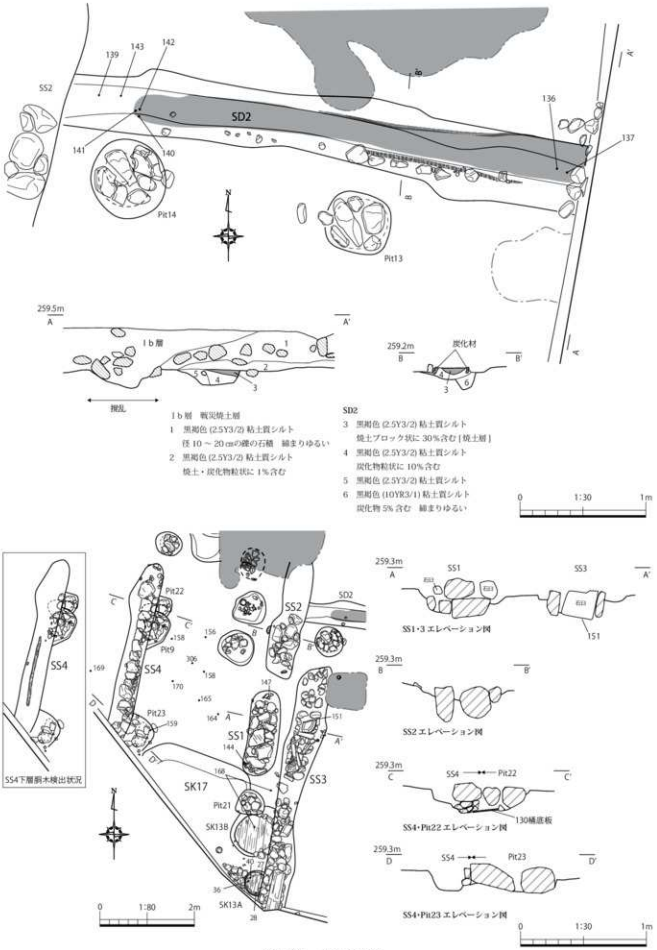
Pit21 集石エレベーション図



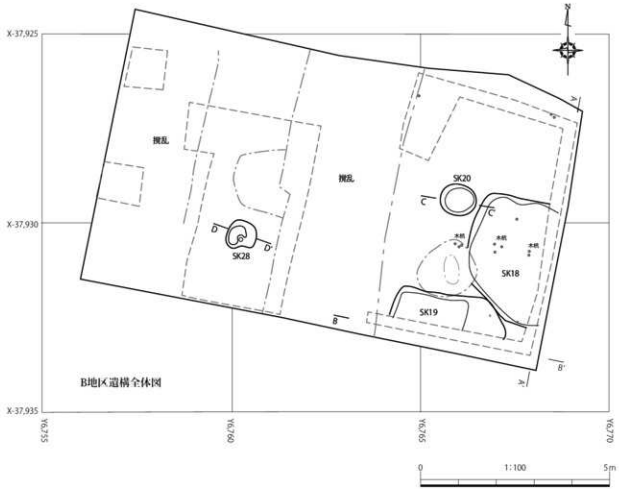
SD1
1　暗褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト
　焼土・炭化物粒状 10%含む　締まりゆるい

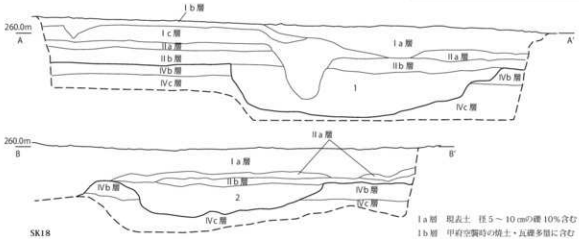
0　1:30　1m

第10図　A地区（7）


SS2
SD2
139
143
142
141
140
136
137
Pit14
Pit13
259.5m
A
A'
Ⅰb層
1
2
3
4
撹乱
259.2m
B
B'
炭化材
5
6
Ⅰb層　戦災焼土層
1　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
　径10～20㎝の礫の石積　締まりゆるい
2　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
　焼土・炭化物粒状に1%含む
SD2
3　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
　焼土ブロック状に30%含む【焼土層】
4　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
　炭化物粒状に10%含む
5　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
6　黒褐色（10YR3/1）粘土質シルト
　炭化物5%含む　締まりゆるい
0　1:30　1m
SS4
SS4下層胴木検出状況
Pit22
Pit9
Pit23
SS4
SS2
SD2
SS1
SS3
SK17
Pit21
SK13B
SK13A
156
158
306
170
165
164
169
142
151
144
160
36
28
0　1:80　2m
259.3m
C
C'
SS4
Pit22
130補底板
SS4・Pit22エレベーション図
259.3m
D
D'
SS4
Pit23
SS4・Pit23エレベーション図
0　1:30　1m

第11図　A地区（8）





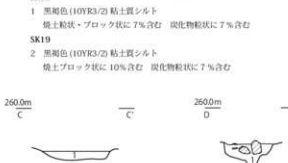
SK18

1　黒褐色(10YR3/2) 粘土質シルト
　焼土粒状・ブロック状に7%含む　炭化物粒状に7%含む

SK19

2　黒褐色(10YR3/2) 粘土質シルト
　焼土ブロック状に10%含む　炭化物粒状に7%含む

Ⅰa層　現表土　径5～10cmの礫10%含む　[現代造成土]
Ⅰb層　甲府空襲時の焼土・人礫多量に含む　[戦災焼土層]
Ⅰc層　灰色(N4/　)粗砂
　径0.5～1cmの砂礫30%含む　炭化物7%含む
Ⅱa層　黄灰色(2.5Y4/1) 粘土　[整地層]
Ⅱb層　黒褐色(2.5Y3/1) 粘土質シルト
　径5～10cmの礫10%含む　[整地層]
Ⅳb層　黒色(5Y2/1) 粘土　風化した泥岩5%含む　[地山]
Ⅳc層　黒色(N2/　) 粘土　[地山]

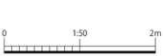


SK20

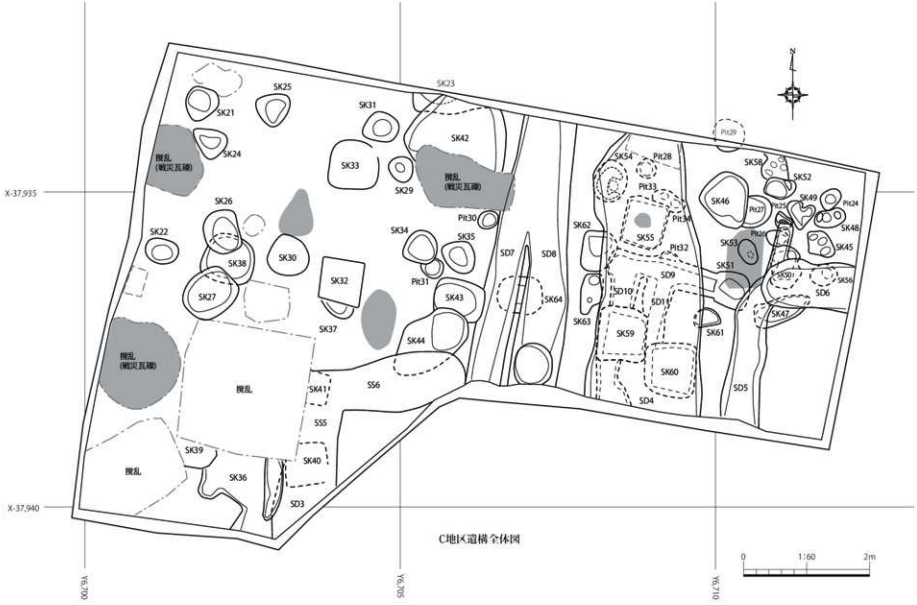
1　灰オリーブ色(5Y5/3) 粘土質シルト

SK28

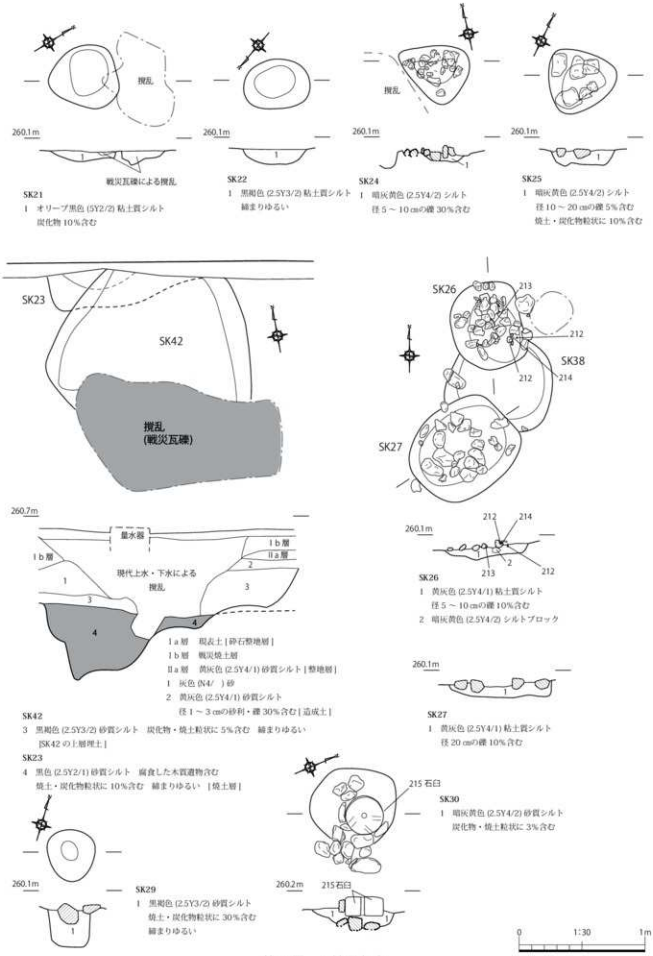
1　灰オリーブ色(5Y5/3) 粘土質シルトに
　灰色(5Y4/1) 砂30%含む



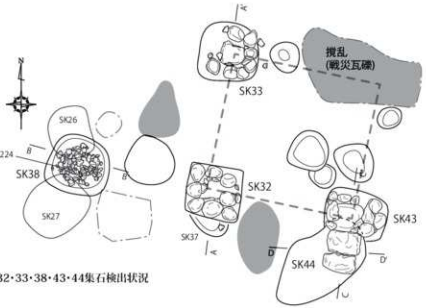
第12図　B地区(1)


C地区遺構全体図
X-37,935
X-37,940
Y6,700
Y6,705
Y6,710
0
1:60
2m
N
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SK26
SK27
SK29
SK30
SK31
SK32
SK33
SK34
SK35
SK36
SK37
SK38
SK39
SK40
SK41
SK42
SK43
SK44
SK46
SK47
SK48
SK49
SK50
SK51
SK52
SK53
SK54
SK55
SK56
SK58
SK59
SK60
SK61
SK62
SK63
SK64
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SS5
SS6
Pit24
Pit25
Pit26
Pit27
Pit28
Pit29
Pit30
Pit31
Pit32
Pit33
Pit34
撹乱
撹乱
(戦災瓦礫)
撹乱
(戦災瓦礫)
撹乱

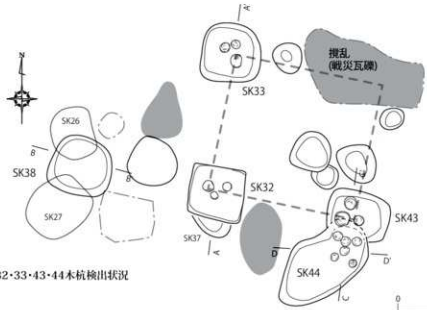
第13図　C地区（1）


撹乱
260.1m
1
戦災瓦礫による撹乱
SK21
1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 粘土質シルト
炭化物 10%含む
SK22
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
締まりゆるい
SK24
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト
径 5 ～ 10 cmの礫 30%含む
SK25
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト
径 10 ～ 20 cmの礫 5%含む
焼土・炭化物粒状に 10%含む
SK23
SK42
撹乱
(戦災瓦礫)
260.7m
量水器
Ⅰb層
Ⅱa層
現代上水・下水による
撹乱
Ⅰa層 現表土 [砕石整地層]
Ⅰb層 戦災焼土層
Ⅱa層 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト [整地層]
1 灰色 (N4/) 砂
2 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
径 1 ～ 3 cmの砂利・礫 30%含む [造成土]
SK42
3 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒状に 5%含む 締まりゆるい
[SK42 の上層理土]
SK23
4 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 腐食した木質遺物含む
焼土・炭化物粒状に 10%含む 締まりゆるい [焼土層]
SK29
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 30%含む
締まりゆるい
SK26
213
212
SK38
214
SK27
260.1m
SK26
1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土質シルト
径 5 ～ 10 cmの礫 10%含む
2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルトブロック
SK27
1 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土質シルト
径 20 cmの礫 10%含む
215 石臼
SK30
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に 3%含む
260.2m
0
1:30
1m

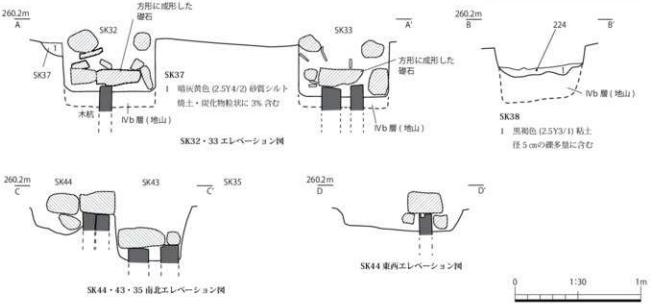
第14図 C地区(2)



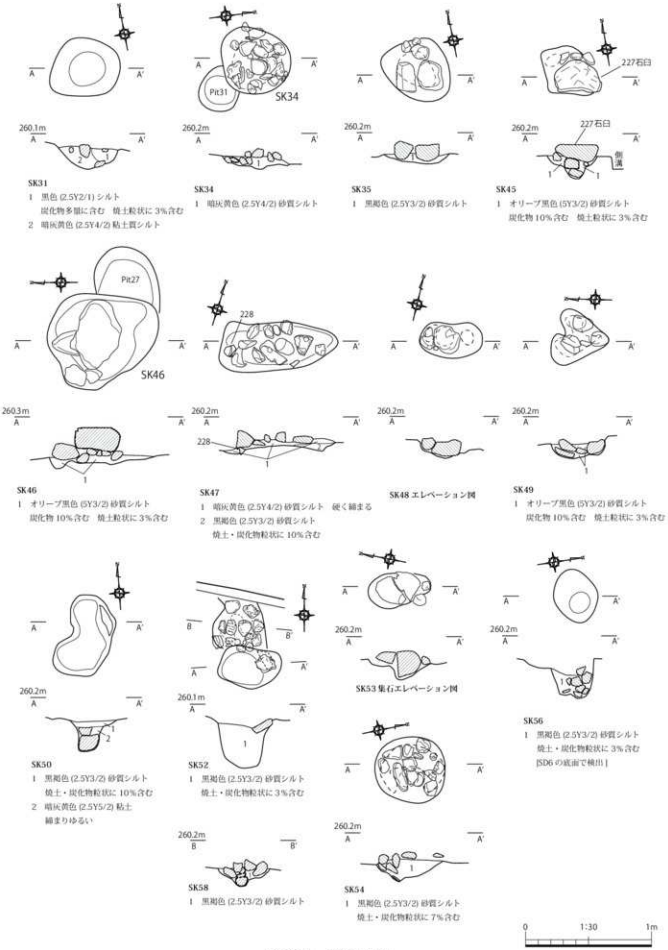
SK32・33・38・43・44集石検出状況



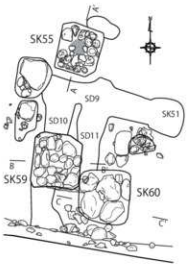
SK32・33・43・44木杭検出状況



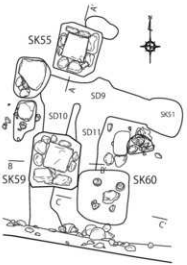
第15図　C地区（3）


SK31
1 黒色 (2.5Y2/1) シルト
炭化物多量に含む 焼土粒状に 3%含む
2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト
Pit31
SK34
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
SK35
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
227石臼
SK45
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト
炭化物 10%含む 焼土粒状に 3%含む
Pit27
SK46
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト
炭化物 10%含む 焼土粒状に 3%含む
228
SK47
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト 硬く締まる
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 10%含む
SK48 エレベーション図
SK49
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト
炭化物 10%含む 焼土粒状に 3%含む
SK50
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 10%含む
2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘土
締まりゆるい
SK52
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む
SK53 集石エレベーション図
SK56
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む
[SD6 の底面で検出]
SK58
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
SK54
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 7%含む
0 1:30 1m

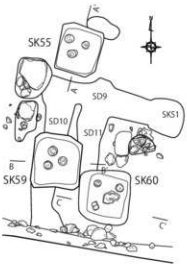
第16図　C地区（4）



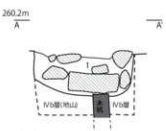
SK55・59・60上面
(集石検出状況)



SK55・59・60中層
(礫石検出状況)

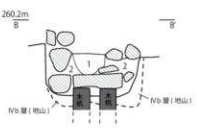


SK55・59・60下層
(木杭検出状況)



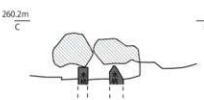
SK55

1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む

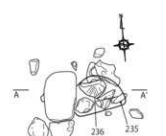


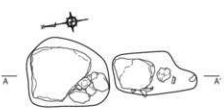
SK59

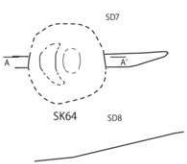
1　暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
径 5 ～ 10 mmの砂礫 3%含む
焼土粒状に 3%含む　炭化した木質含む
締まりゆるい　[柱痕か]
2　オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土
締まりゆるい

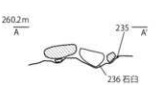


SK60 エレベーション図

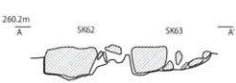








SK61エレベーション図

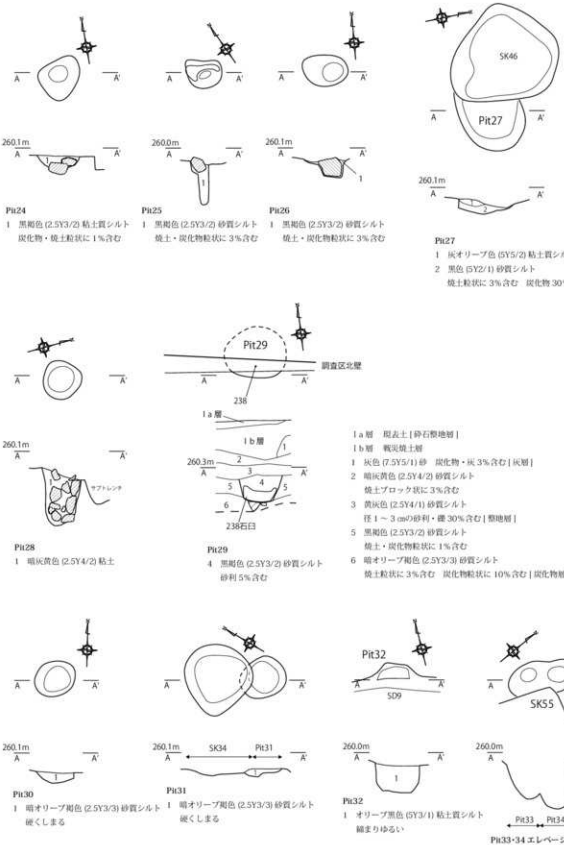


SK62・63エレベーション図

SK64

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト
締まりゆるい
[SD7・8 間で検出、平面形は推定]

第17図　C地区(5)



Pit24
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
炭化物・焼土粒状に 1%含む

Pit25
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む

Pit26
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む

Pit27
1　灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘土質シルト (ブロック状)
2　黒色 (5Y2/1) 砂質シルト
焼土粒状に 3%含む　炭化物 30%含む

Pit28
1　暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土

Ⅰa層　現表土 [砕石敷地層]
Ⅰb層　戦災焼土層
1　灰色 (7.5Y5/1) 砂　炭化物・炭 3%含む [灰層]
2　暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
焼土ブロック状に 3%含む
3　黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
径 1 ～ 3 ㎝の砂利・礫 30%含む [敷地層]
5　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 1%含む
6　暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
焼土粒状に 3%含む　炭化物粒状に 10%含む [炭化物層]

Pit29
4　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
砂利 5%含む

Pit30
1　暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
硬くしまる

Pit31
1　暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
硬くしまる

Pit32
1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト
締まりゆるい

Pit33・34 エレベーション図

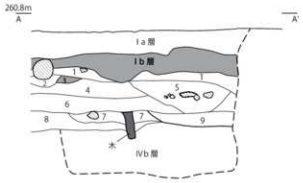
0　1:30　1m

第18図　C地区（6）

Ⅰa層　現 表土［砂石整地層］
Ⅰb層　戦災焼土層
Ⅳb層　黒褐色（2.5Y3/1）粘土　風化した泥岩 7%含む［地山］

1　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト
　石灰状の白色物質薄く層状に 30%含む　炭化物粒状に 3%含む
2　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト
3　暗黄褐色（10YR5/2）砂質シルト　焼土ブロック 30%含む［焼土層］
4　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト　炭化物・焼土粒状に 7%含む
5　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト　焼土ブロック状に 10%含む
　径 5 ～ 10 cmの礫含む
6　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルトに
　暗灰黄色（2.5Y5/2 砂質シルト）ブロック状に 10%含む
7　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト
8　暗灰色（N3/　）粘土質シルト

SK36
9　黒色（2.5Y2/1）粘土質シルト



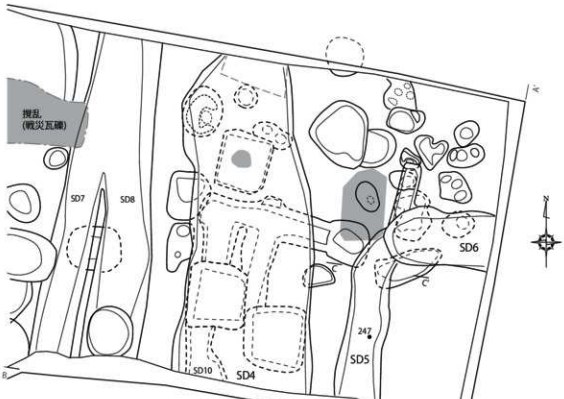
SD3
1　黒色（10Y2/1）砂質シルト
　焼土粒状に 7%含む

SS5 エレベーション図

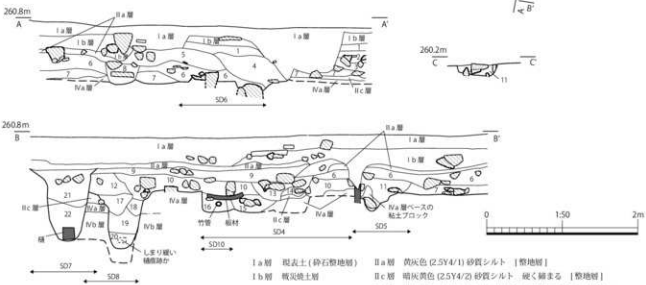
SS6 エレベーション図

0　1:30　1m

第19図　C地区（7）



上層遺構(SD4・5・6)完掘状況



Ⅰa層　現表土(砕石整地層)　　Ⅱa層　黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト　[整地層]
Ⅰb層　戦災焼土層　　Ⅱc層　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルト　硬く締まる　[整地層]
Ⅳa層　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土　風化した泥岩5%含む　[地山]
Ⅳb層　黒褐色(2.5Y3/1)粘土　風化した泥岩7%含む　[地山]

1　灰色(7.5Y5/1)砂　炭化物・礫30%含む　[灰層]
2　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルト　焼土ブロック状に3%含む
3　黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト　焼土・炭化物粒状に10%含む
4　黄灰色(2.5Y4/1)粘土に黄褐色(10YR5/6)シルト粒状に3%含む
5　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂に黄灰色(2.5Y4/1)粘土ブロック状に30%含む
炭化物粒状に1%含む
7　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質シルト
焼土粒状に3%含む　炭化物10%含む　[炭化物層]
8　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質シルト
9　黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト
径1～3cmの砂利30%含む
12　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト　焼土ブロック状に1%含む
13　オリーブ黒色(5Y3/1)砂　締まりゆるい
14　黄灰色(2.5Y4/1)粘土
15　オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土質シルト

SD6
6　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂

SD4
10　黄灰色(2.5Y4/1)粘土にオリーブ黒色(5Y3/1)砂
マーブル状に30%含む　締まりゆるい

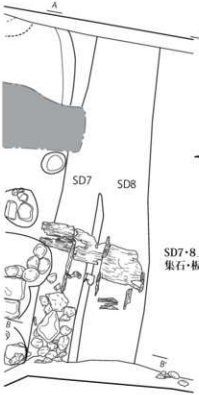
SD5
11　黒色(2.5Y2/1)粘土質シルト
焼土・炭化物粒状に10%含む　底面に鉄分沈着

SD10
16　オリーブ黒色(10Y3/1)粘土質シルト　締まりゆるい

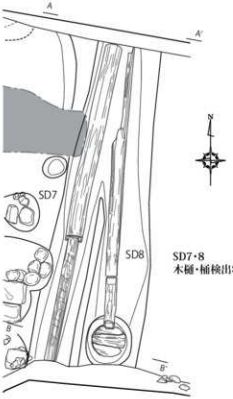
SD8
17　オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト　締まりゆるい
18　Ⅳa層の粘土ブロック
19　灰色(7.5Y4/1)粘土　締まりゆるい
20　オリーブ黒色(7.5Y3/1)粗砂　締まりゆるい

SD7
21　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルト　径10～20mmの礫10%含む
22　灰色(7.5Y4/1)粘土に灰色(7.5Y5/1)粘土ブロック10%含む　締まりゆるい

第20図　C地区(8)

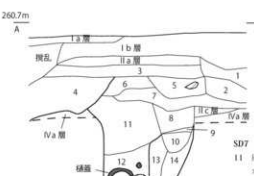


SD7・8上面
集石・板材検出状況



SD7・8
木樋・桶検出状況

0　1:50　2m



Ⅰa層　現表土［砕石整地層］
Ⅰb層　戦災焼土層
Ⅱa層　黄灰色（2.5Y4/1）砂質シルト［整地層］
Ⅱc層　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト
　　硬くしまる［整地層］
Ⅳa層　暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
　　風化した泥岩5%含む　［地山］

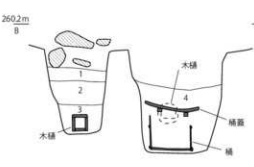
SD7

11　灰色（7.5Y4/1）粘土に
　　オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土をブロック状30%含む
12　オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土　締まりゆるい

SD8

13　黒色（7.5Y2/1）粘土に
　　灰色（7.5Y4/1）粘土をブロック状に10%含む
14　黒色（7.5Y2/1）粘土に
　　灰色（7.5Y4/1）粘土をブロック状に30%含む
　　締まりゆるい

1　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト
　　焼土ブロック状に10%含む　［焼土層］
2　オリーブ黒色（5Y3/2）砂質シルト
　　焼土・炭化物粒状に3%含む
3　黄灰色（2.5Y4/1）砂質シルト
　　径1～3cmの砂利・礫30%含む　［整地層］
4　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト
　　炭化物・焼土粒状に5%含む　締まりゆるい
5　オリーブ黒色（5Y2/2）砂質シルト
　　径5～10cmの礫30%含む
6　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト
　　焼土粒状に5%含む
7　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト
　　焼土・炭化物粒状に3%含む
8　黒褐色（7.5Y2/1）粘土に
　　灰色（7.5Y4/1）粘土をブロック状に10%含む
9　灰色（7.5Y4/1）粘土
10　黒色（7.5Y2/1）砂質シルト



SD7

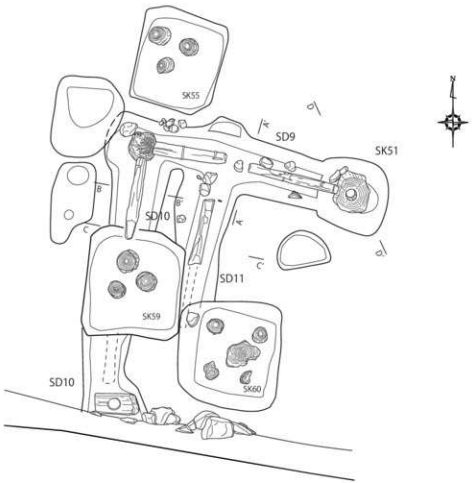
1　灰色（10Y4/1）粘土
2　オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土
3　黒色（10Y2/1）粘土　締まりゆるい

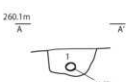
SD8

4　黒色（10Y2/1）粘土質シルト　締まりゆるい

0　1:30　1m

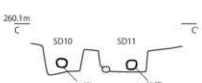
第21図　C地区（9）



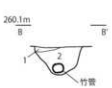


SD9

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
　酸化鉄分 3%含む



SD10・11 エレベーション図

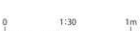


SD10

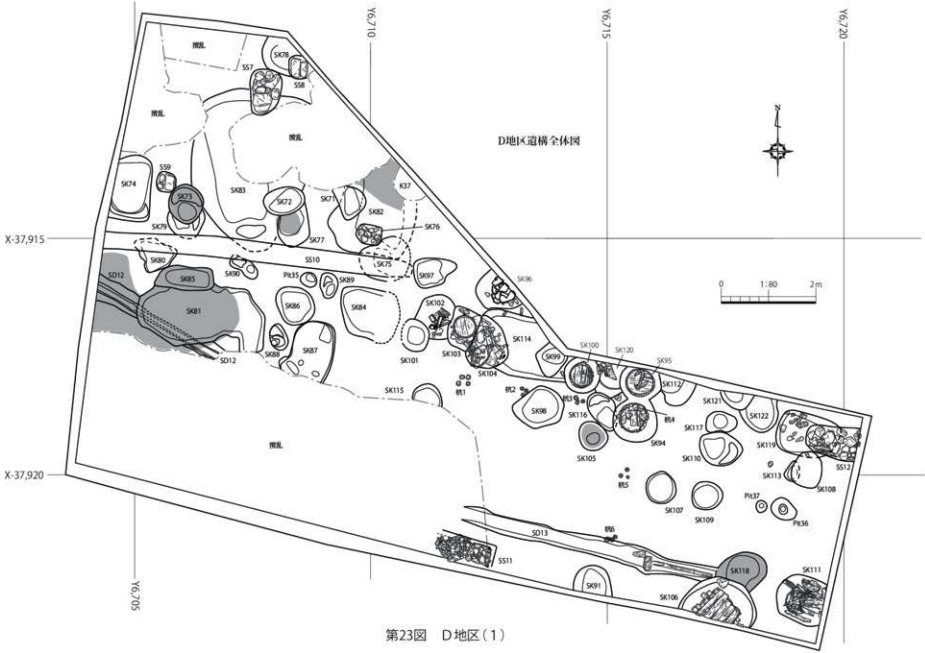
1　オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質シルト
2　灰色 (N4/　) 粘土　締まりゆるい

SK51

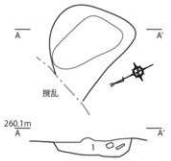
1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト　炭化物・焼土粒状に 3%含む
2　灰色 (10Y4/1) 粘土



第22図　C地区 (10)

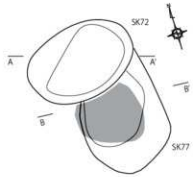

D地区遺構全体図
Y6,710
Y6,715
Y6,720
Y6,705
X-37,915
X-37,920
N
0 1:80 2m
撹乱
SS7
SK79
SS8
SS9
SK74
SK73
SK83
SK72
SK77
SK82
K37
SK76
SK78
SK77
SK80
SS10
SK75
SK97
SD12
SK85
SK90
Pit35
SK89
SK96
SK81
SK86
SK84
SK102
SK114
SK100
SK130
SK95
SK99
SK103
SK87
SK88
SK101
SK104
SK112
SK115
ﾋﾟﾄ1
ﾋﾟﾄ2
ﾋﾟﾄ3
SK98
SK116
ﾋﾟﾄ4
SK121
SK122
SK117
SK94
SK119
SK105
SK110
SS12
ﾋﾟﾄ5
SK113
SK108
SK107
SK109
Pit37
Pit36
ﾋﾟﾄ6
SD13
SS11
SK118
SK111
SK91
SK106

第23図　D地区（1）



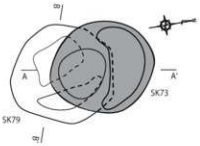
SK71

1　黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト
径 5 cmの礫多量に含む



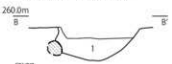
SK72

1　黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に 3%含む



SK73

1　焼土層
2　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
炭化物・焼土粒状に 3%含む

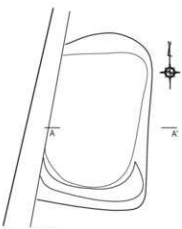


SK77

1　暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質シルト

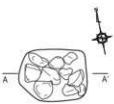
SK79

1　黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土に
黒色 (7.5Y2/1) 粘土を
ブロック状に 30%含む

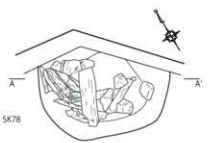


SK74

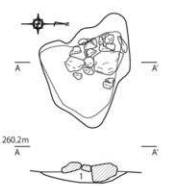
1　オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト
2　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
粘土ブロック含む
3　オリーブ黒色 (5Y3/2) 細砂



SK76 エレベーション図

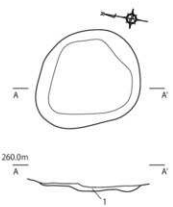


Ⅰ層 (砕石・戦災焼土層)



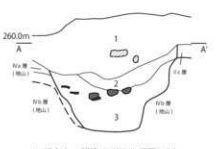
SK80

1　暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 5%含む



SK86

1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む



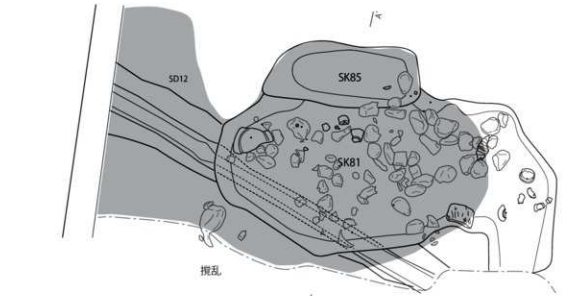
1　暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む

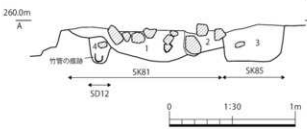
SK78

2　灰色 (5Y4/1) 粘土に灰色 (5Y5/1) 粘土を
ブロック状に 10%含む
3　灰色 (7.5Y4/1) シルト
焼土・炭化物粒状に 1%含む
上面付近に板材・柳材が多量出土

0　1:30　1m

第24図　D地区（2）





SK81

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト　炭化物 30%含む
　径 10 ～ 20 ㎝の礫 30%含む

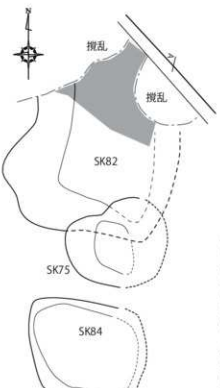
2　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト　焼土粒状に 10%含む　炭化物 5%含む

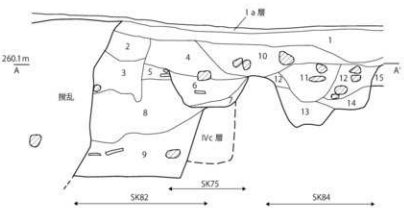
SK85

3　灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト　焼土粒状に 30%含む　炭化物粒状に 7%含む

SD12

4　灰色 (7.5Y4/1) 粘土
　黄褐色 (10YR5/8) シルトの泥岩を粒状に 3%含む　締まりゆるい

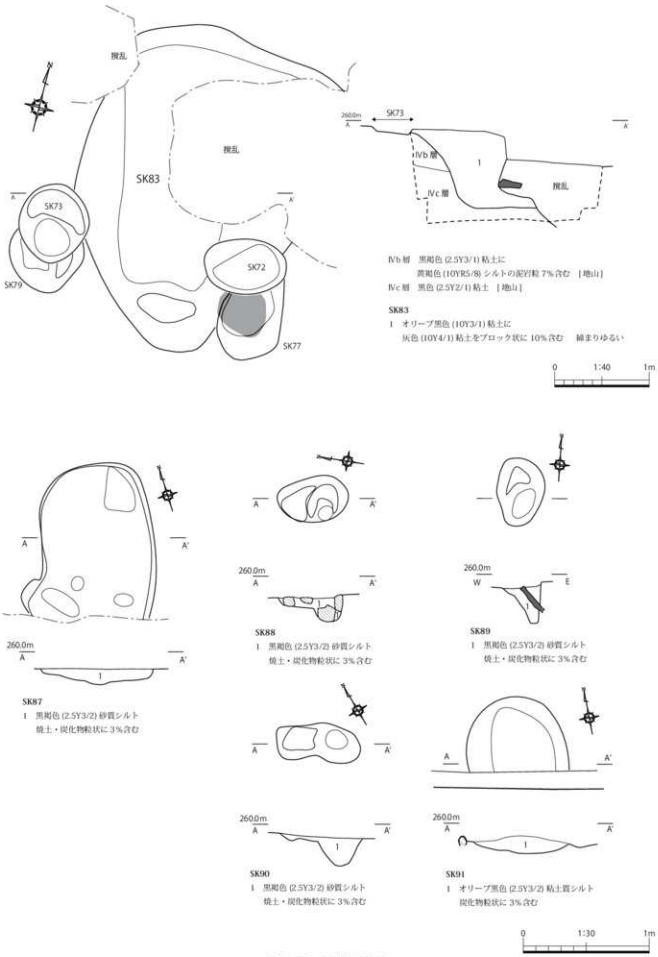




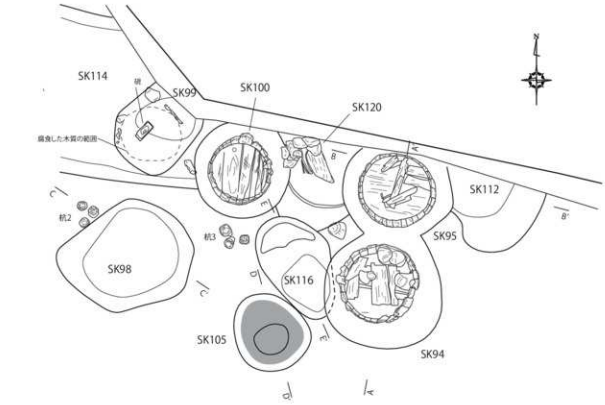
SK75・82・84

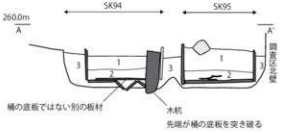
1　黒色 (2.5Y2/1) 粗砂　石灰質の粒 (礎砂貝？) 10%含む
2　オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト　炭化物粒状に 10%含む
3　暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルトに黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土をブロック状に 7%含む　締まりゆるい
4　暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト　炭化物・焼土粒状に 10%含む
5　灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質シルト　硬く締まる　[整地層か]
6　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト
　灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質シルトをブロック状に 3%含む　炭化物粒状に 3%含む　[SK75]
7　灰色 (5Y4/1) 粘土に灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質シルトをブロック状に 5%含む　[SK75]
8　黒色 (7.5Y2/1) 粘土に灰色 (7.5Y4/1) 粘土をブロック状に 5%含む　[SK82]
9　黒色 (7.5Y2/1) 粘土にオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂質シルト 10%含む　[SK82]
10　暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト　炭化物・焼土粒状に 10%含む　径 10 ～ 20 ㎝の礫 10%含む
11　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 7%含む　径 10 ㎝の礫 5%含む [SK84]
12　灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 3%含む　[SK84]
13　灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト
　灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質シルトを層状に 10%含む　腐食した木質遺物含む　[SK84]
14　黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土　炭化物粒状に 1%含む [SK84]

第25図　D地区（3）


撹乱
SK83
SK73
SK72
SK79
SK77
260.0m
SK73
IVb 層
IVc 層
1
撹乱
IVb 層　黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土に
黄褐色 (10YR5/8) シルトの泥岩粒 7%含む　[地山]
IVc 層　黒色 (2.5Y2/1) 粘土　[地山]
SK83
1　オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘土に
灰色 (10Y4/1) 粘土をブロック状に 10%含む　締まりゆるい
0　1:40　1m
260.0m
1
SK87
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む
260.0m
1
SK88
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む
260.0m
W
E
1
SK89
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む
260.0m
1
SK90
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 3%含む
260.0m
1
SK91
1　オリーブ黒色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
炭化物粒状に 3%含む
0　1:30　1m

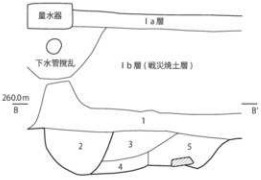
第26図　D地区（4）





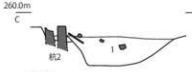
SK94・95

1　黒色 (7.5Y2/1) 砂質シルト
　焼土ブロック状に 10%含む　炭化物 7%含む　締まりゆるい
2　黒色 (10Y2/1) 砂質シルト
　腐食した木質遺物多量に含む　締まりゆるい
3　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土に
　灰色 (5Y4/1) 粘土をブロック状に 10%含む　[掘方]



SK95・SK112

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト　焼土粒状に 1%含む
2　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土に
　灰色 (5Y4/1) 粘土をブロック状に 10%含む　[SK95 掘方]
3　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土
4　黒色 (5Y2/1) 粘土質シルト　締まりゆるい
5　黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト　[SK112]

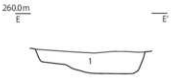


SK98

1　オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂
　腐食した木質遺物多量に含む

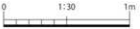
SK105

1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
　焼土ブロック状に 30%含む
　ゴムチューブ出土　[戦災瓦礫か]
2　オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土　締まりゆるい

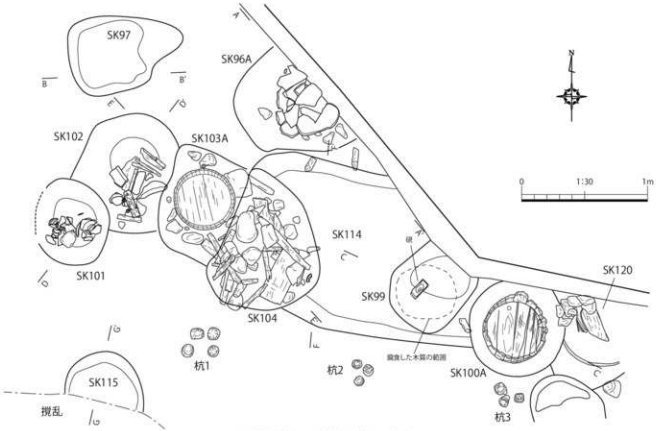


SK116

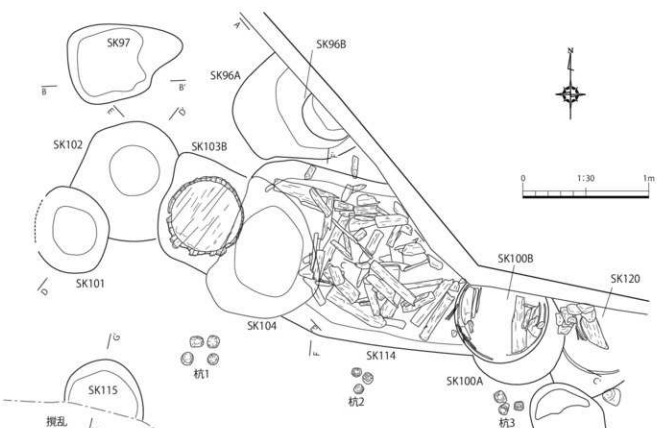
1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト



第27図　D地区（5）

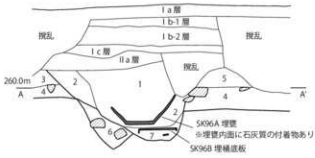


埋桶検出状況・遺物出土状況（上層）



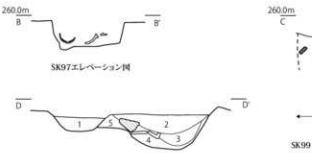
埋桶検出状況・遺物出土状況（下層）

第28図　D地区（6）



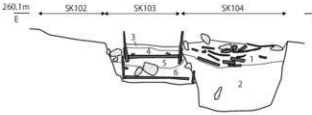
Ⅰa層　表土（砕石）
Ⅰb-1層　褐炭焼土層
Ⅰb-2層　暗黄色（2.5Y5/2）砂質シルト
径２～３㎝の礫・石灰質の粒５%含む　硬く締まる［整地層］
Ⅰc層　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質シルト　炭化物・石灰質の粒30%含む
Ⅱa層　黄灰色（2.5Y4/1）砂質シルト　硬く締まる［整地層］
3　灰オリーブ色（5Y5/2）粘土質シルト　硬く締まる
4　灰オリーブ色（5Y5/2）粘土質シルト　硬く締まる　径10㎝の礫10%含む
5　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト　焼土10%含む　炭化物５%含む　締まりゆるい

SK96A・B
1　暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土質シルトに暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂層状に10%含む
炭化物層状に３%含む　[SK96A]
2　灰色（7.5Y4/1）粘土質シルト　締まりゆるい　[SK96A]
6　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト
径10～20㎝の礫30%含む　締まりゆるい　［別遺構か］
7　オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土に暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）砂10%含む
締まりゆるい　底板とタガの残欠を検出　[SK96B・埋桶の組方]

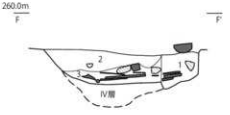


SK101・102
1　灰色（5Y4/1）砂質シルト　腐食した木質遺物含む　[SK101]
2　黒褐色（2.5Y3/2）粘土質シルト　[SK102]
3　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土　締まりゆるい　[SK102]
4　オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土　締まりゆるい　[SK102]
5　暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土　締まりゆるい　[SK102]

SK99・100A・100B・114
1　オリーブ黒色（2.5Y3/1）砂質シルト　薄く層状に石灰質含む　[SK99]
2　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土に灰色（5Y4/1）粘土をブロック状に10%含む
木質遺物を多量に含む　[SK114]
3　灰オリーブ色（5Y5/2）砂　締まりゆるい　[SK100A の埋桶内埋土]
4　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト　締まりゆるい　[SK100B]



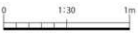
SK103A・103B・104
1　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト　木質遺物多く含む　[SK104]
2　暗灰色（N3/　）粘土に灰色（7.5Y4/1）砂質シルトをブロック状に10%含む　[SK104]
3　黒色（5Y2/1）砂質シルト　炭化物多量に含む　[SK103A]
4　暗オリーブ色（5Y4/3）砂　[SK103A]　※土壌試料採取
5　オリーブ黒色（7.5Y3/1）砂　炭化物多量に含む　[SK103A の組方]
6　黒色（N2/　）砂　炭化物多量に含む　[SK103B 桶内の土]



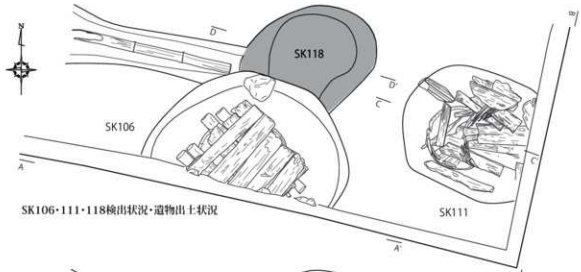
Ⅳ層　灰色（5Y4/1）粘土に
灰黄色（2.5Y6/2）シルトのブロック１%含む　［地山］

SK114
1　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト
黒褐色（2.5Y3/2）砂をブロック状に30%含む
焼土粒状に１%含む
2　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト　締まりゆるい
3　黒褐色（2.5Y3/2）砂　腐食した木質遺物多量に含む

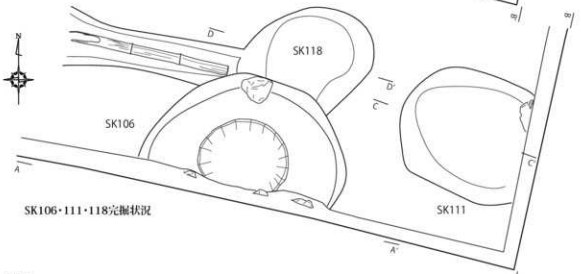
SK115
1　灰色（5Y4/1）粘土質シルト　炭化物粒状に１%含む
2　灰色（5Y4/1）粘土質シルト　炭化物30%含む
3　灰色（5Y4/1）砂質シルト



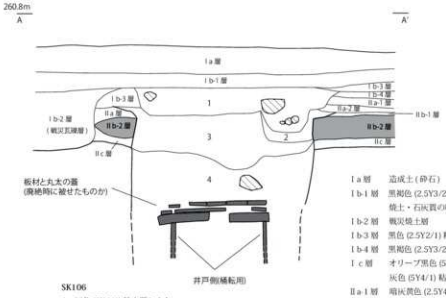
第29図　D地区（７）



SK106・111・118検出状況・遺物出土状況



SK106・111・118完掘状況



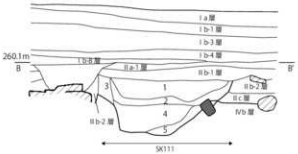
SK106

1　灰色（5Y4/1）粘土質シルト
　径3～20 cmの礫 30%含む
2　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土
3　灰オリーブ色（5Y4/2）粘土に
　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土をブロック状に 30%含む
4　オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土に
　灰色（7.5Y4/1）粘土をブロック状に 10%含む

Ⅰa層　造成土（砂石）
Ⅰb-1層　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト
　焼土・石灰質の粒 10%含む　［戦災後の堆積］
Ⅰb-2層　戦災焼土層
Ⅰb-3層　黒色（2.5Y2/1）粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 3%含む
Ⅰb-4層　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト　焼土・炭化物粒状に 3%含む
Ⅰc層　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土に
　灰色（5Y4/1）粘土マーブル状に 10%含む
Ⅱa-1層　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅱa-2層　暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
Ⅱb-1層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅱb-2層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質シルト
　焼土・炭化物 30%含む　［焼土層］
Ⅱc層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］

0　1:30　1m

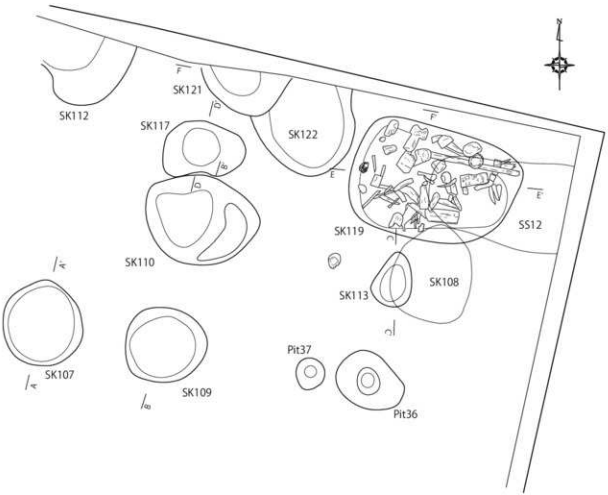
第30図　D地区（8）



Ⅰa層　造成土（砕石）
Ⅰb-1層　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト　焼土・石炭質の粒 10%含む　［戦災後の埋土］
Ⅰb-3層　黒色（2.5Y2/1）粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 3%含む
Ⅰb-4層　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト　焼土・炭化物粒状に 3%含む
Ⅰb-8層　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト　炭化物 10%含む
Ⅱa-1層　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅱb-1層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅱb-2層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質シルト　焼土・炭化物 30%含む　［焼土層］
Ⅱc層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅳb層　黒褐色（2.5Y3/1）粘土質シルト　［地山］

SK111
1　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト
2　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土に灰色（5Y4/1）粘土ブロック状に 10%含む
3　オリーブ黒色（5Y3/1）砂質シルト　焼土粒状に 10%含む
4　オリーブ黒色（5Y3/2）粘土質シルト
　締まりゆるい　腐食した木質遺物多量に含む
5　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト　締まりゆるい

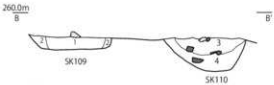
SK118
1　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルトに
　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土をブロック状に 30%含む
　焼土ブロック状に 10%含む



第31図　D地区（9）

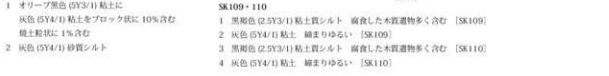
SK107

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土に
　灰色 (5Y4/1) 粘土をブロック状に 10%含む
　焼土粒状に 1%含む
2　灰色 (5Y4/1) 砂質シルト



SK109・110

1　黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト　腐食した木質遺物多く含む　[SK109]
2　灰色 (5Y4/1) 粘土　締まりゆるい　[SK109]
3　黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト　腐食した木質遺物多く含む　[SK110]
4　灰色 (5Y4/1) 粘土　締まりゆるい　[SK110]



SK113

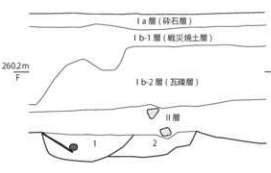
1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト

SK117

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂に
　灰色 (5Y4/1) 粘土をブロック状に 10%含む
　焼土・炭化物粒状に 1%含む

SK119

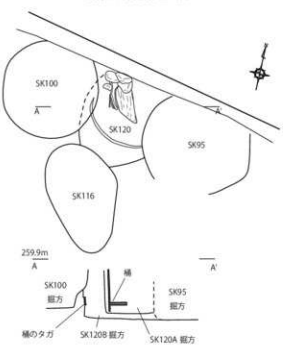
1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト　締まりゆるい
　腐食した木質遺物多量に含む



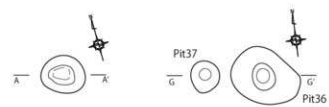
Ⅱ層　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト
　径 10cm の礫 10%含む　焼土粒状に 3%含む

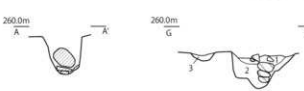
SK121・122

1　オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト　[SK121]
2　灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト　締まりゆるい　[SK122]



SK100A・SK120A・SK120B・SK95 エレベーション図



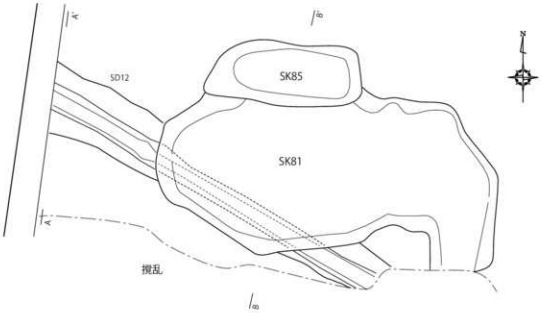


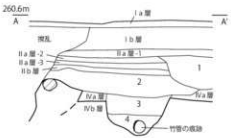
Pit35 エレベーション図

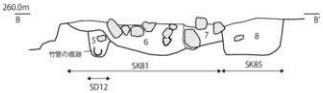
Pit36・37

1　黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
　径 10 ～ 20 ㎝の礫 30%含む　[Pit36]
2　灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト　[Pit36]
3　灰色 (5Y4/1) 砂　[Pit37]

第32図　D地区 (10)







Ⅰa層　現表土（砂石層）
Ⅰb層　戦災焼土層
Ⅱa-1層　黒褐色（10YR3/2）砂質シルト
　焼土・炭化物粒状に3%含む　石灰質粒状に1%含む
Ⅱa-2層　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅱa-3層　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト
　焼土ブロック状に30%含む　炭化物層状に5%含む
Ⅱb層　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルト　硬く締まる　［整地層］
Ⅳa層　黄灰色（2.5Y4/1）粘土　［地山］
Ⅳb層　黒褐色（2.5Y3/1）粘土に黄褐色（10YR5/8）シルトの泥岩粒7%含む　［地山］
Ⅳc層　黒色（2.5Y2/1）粘土　［地山］
1　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト
　焼土ブロック状に7%含む　炭化物3%含む　灰ブロック状に1%含む
2　黒褐色（2.5Y3/1）砂質シルト　焼土粒状に7%含む　炭化物粒状に7%含む

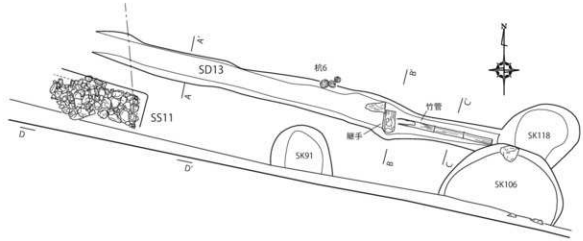
SD12
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘土に暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土をマーブル状に30%含む
　ド位に鉄分が層状に沈着
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘土に黄灰色（2.5Y4/1）粘土3%含む
5　灰色（7.5Y4/1）粘土
　黄褐色（10YR5/8）シルトの泥岩を粒状に3%含む　締まりゆるい

SK81
6　オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト　炭化物30%含む
　径10～20㎝の礫30%含む
7　黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト　焼土粒状に10%含む　炭化物5%含む

SK85
8　灰色（5Y4/1）粘土質シルト　焼土粒状に30%含む　炭化物粒状に7%含む

0　1:30　1m

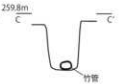
第33図　D地区（11）



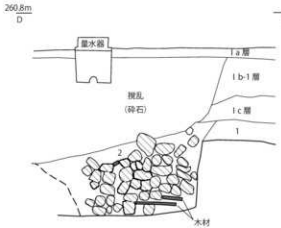
SD13

1　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
　焼土・炭化物粒状に 7% 含む
2　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土に
　灰色 (5Y4/1) 粘土をブロック状に 10% 含む
　締まりゆるい

SD13 樋手エレベーション図



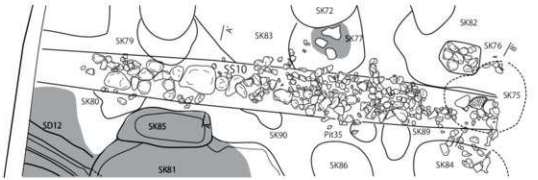
SD13 竹管エレベーション図

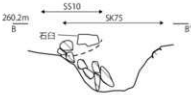


Ⅰa 層　現表土 (砕石)
Ⅰb-1 層　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト　焼土・石灰質の粒 10% 含む　[戦災後の堆積]
Ⅰb-2 層　戦災焼土層 [戦災後の堆積]
Ⅰb-3 層　黒色 (2.5Y2/1) 粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 3% 含む
Ⅰb-4 層　黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト　焼土・炭化物粒状に 3% 含む
Ⅰc 層　オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土に灰色 (5Y4/1) 粘土マーブル状に 10% 含む
1　黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト　焼土・炭化物粒状に 3% 含む　径 10 ～ 20 cm の礫、多量に含む　下位に木材 (胴木か)

SS11

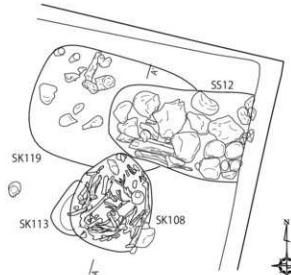
2　オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土質シルト　締まりゆるい
　径 10 ～ 20cm の礫、多量に含む　下位に木材 (胴木か)



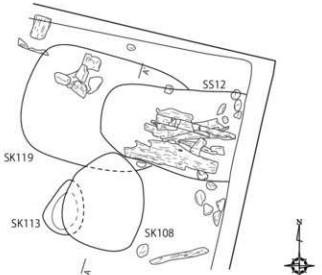


SS10 エレベーション図

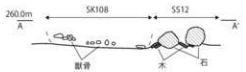
第34図　D地区 (12)



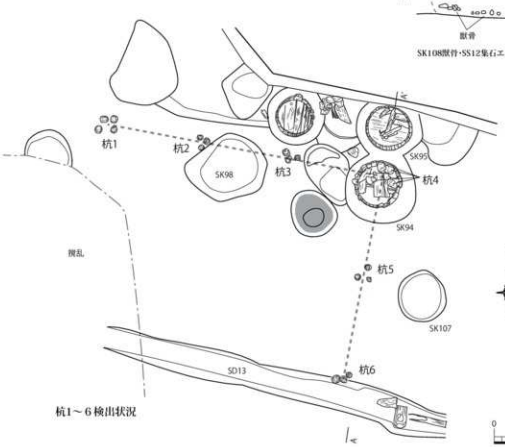
SK108獣骨・SS12集石検出状況



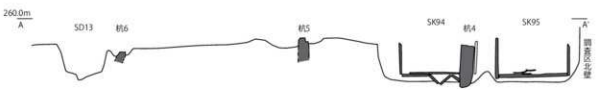
SS12集石下層検出状況



SK108獣骨・SS12集石エレベーション図

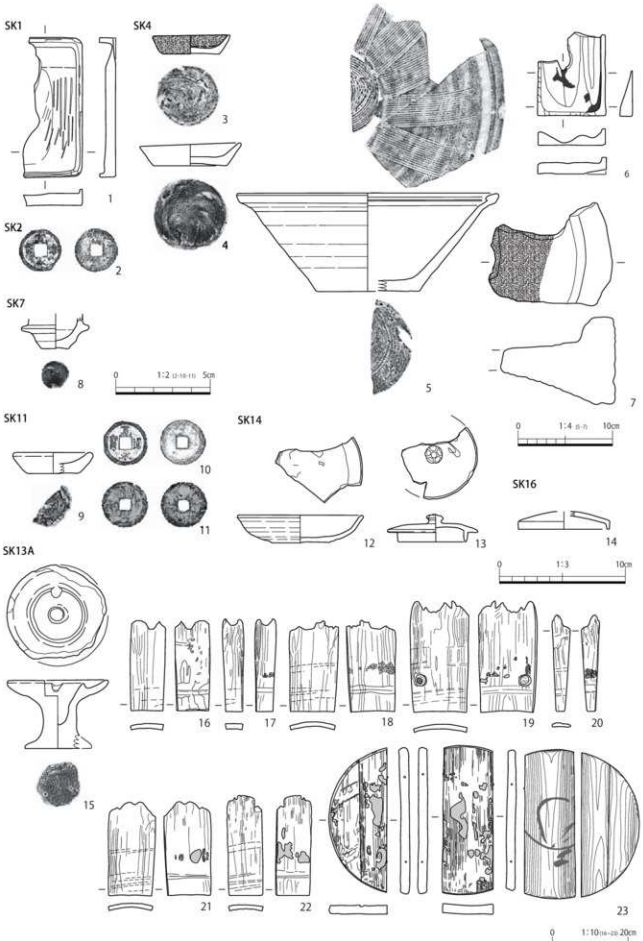


杭1～6検出状況

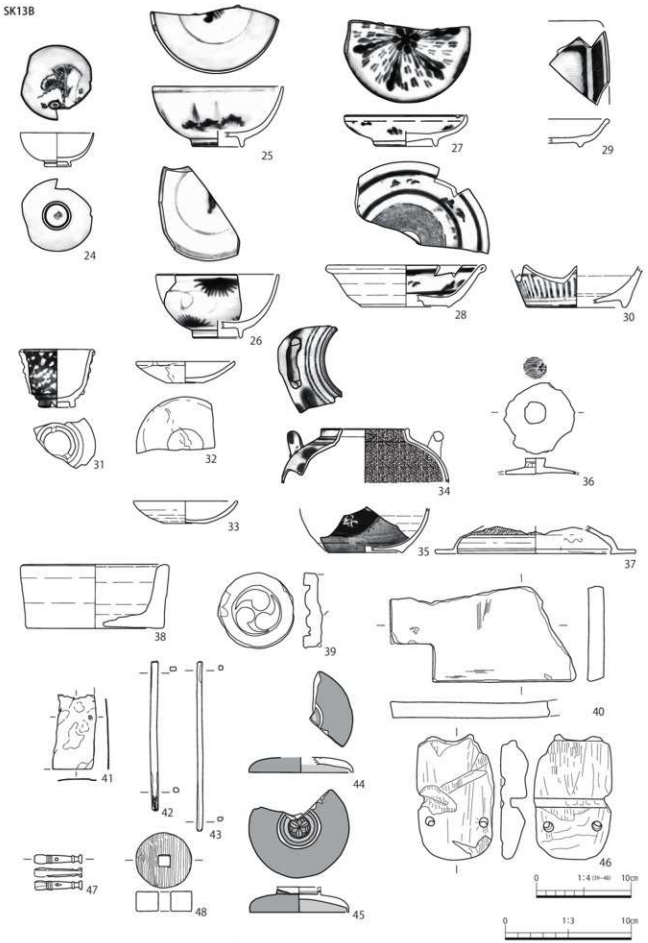


杭6・5・4エレベーション図

第35図　D地区（13）

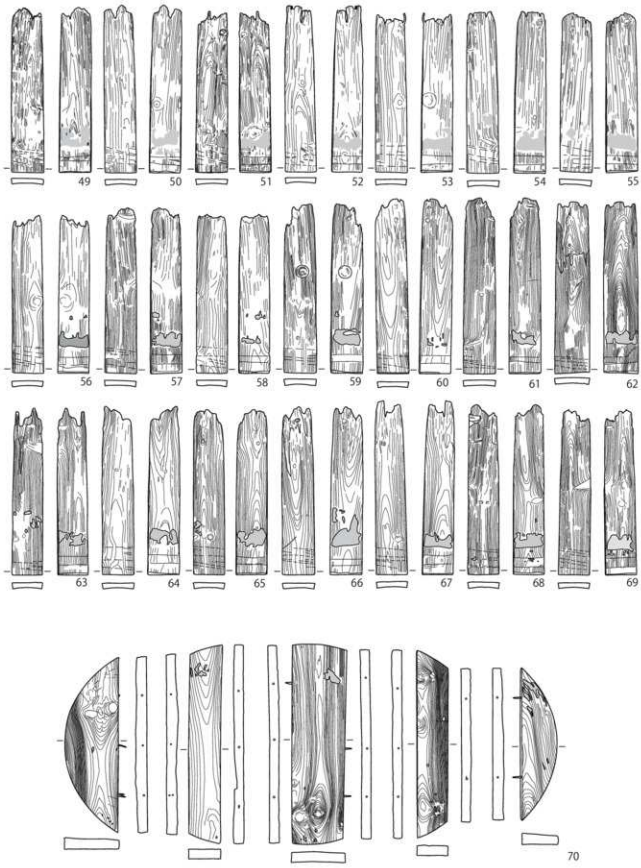


第 36 図　A 地区出土遺物（1）



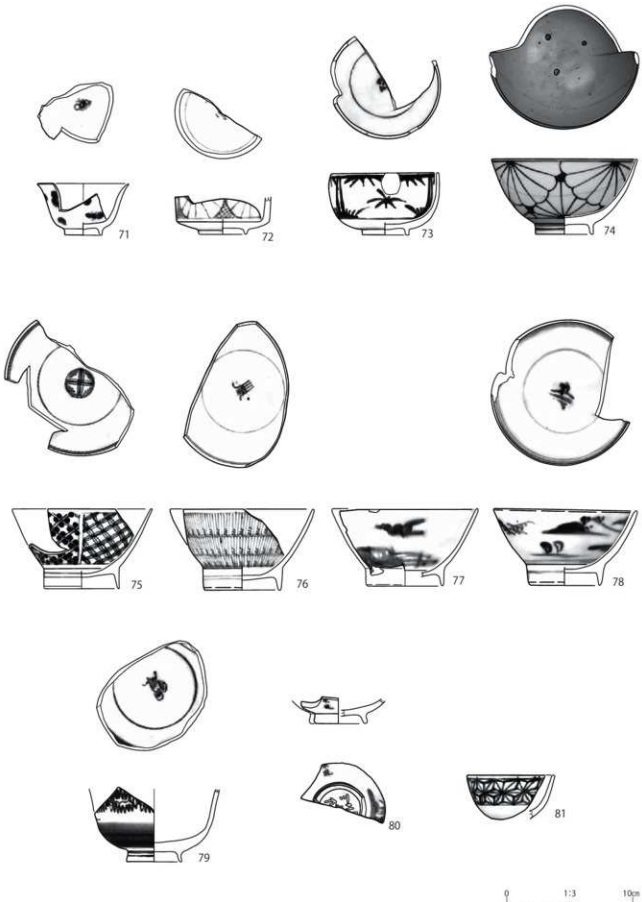
第 37 図　A地区出土遺物（2）

SK13B

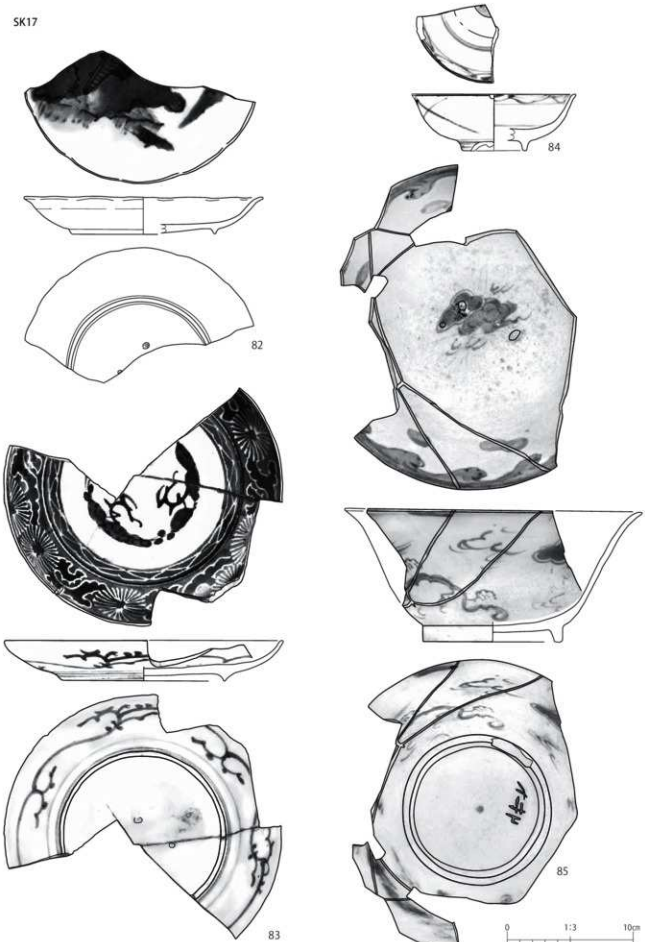


第 38 図　A 地区出土遺物（3）

SK17

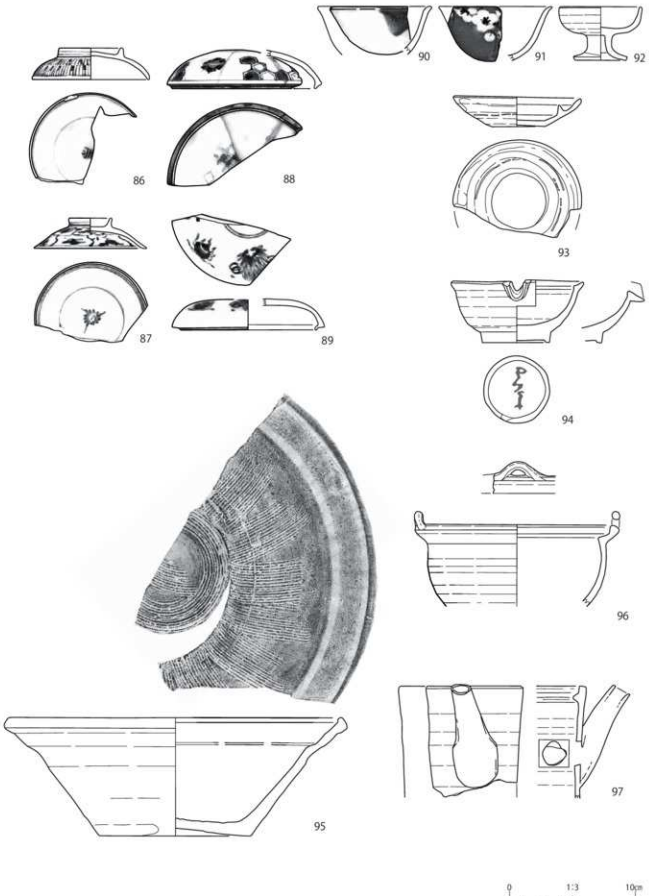


第 39 図　A地区出土遺物（4）

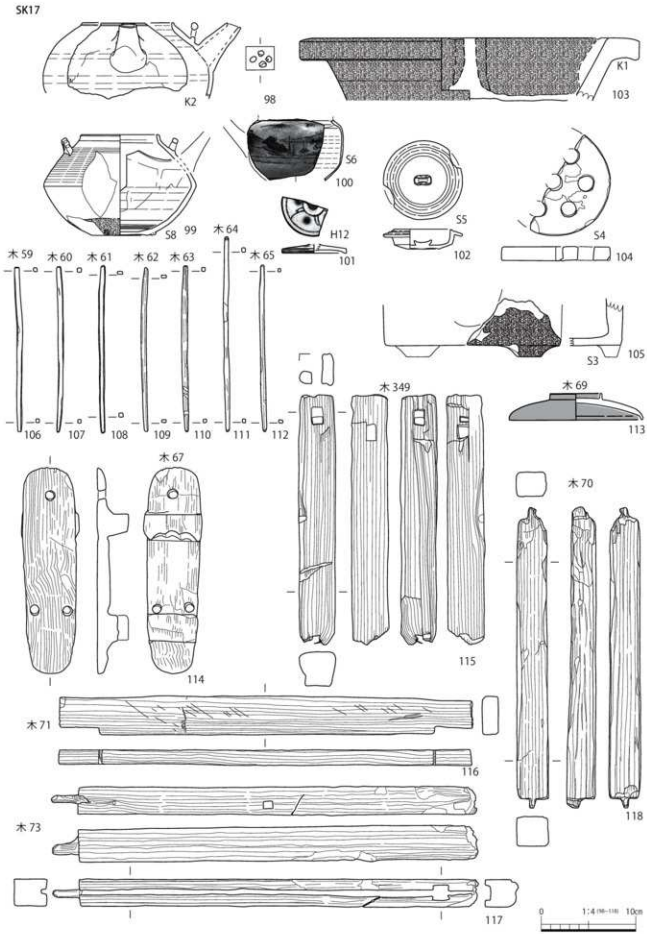


第40図　A地区出土遺物（5）

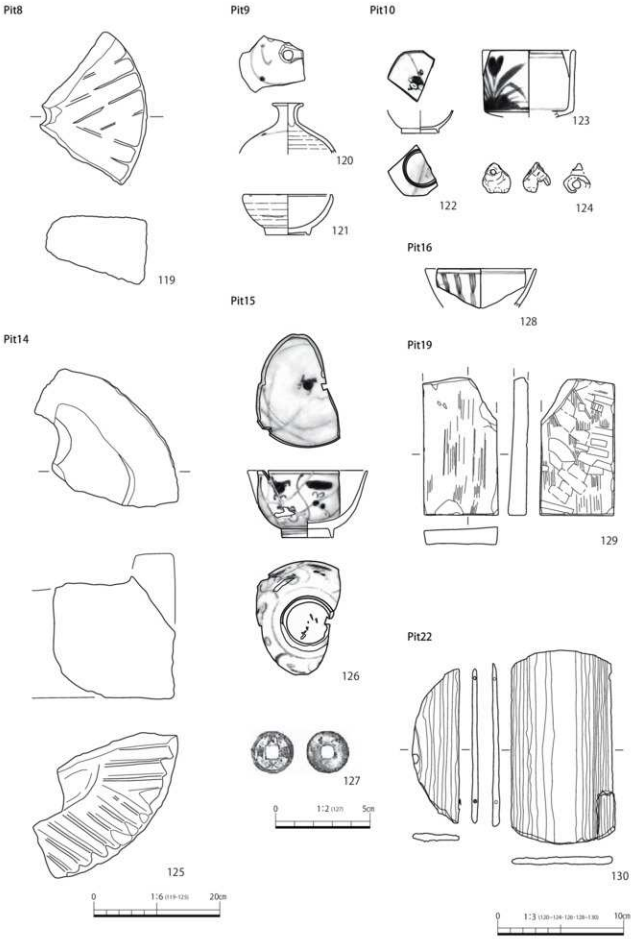
SK17



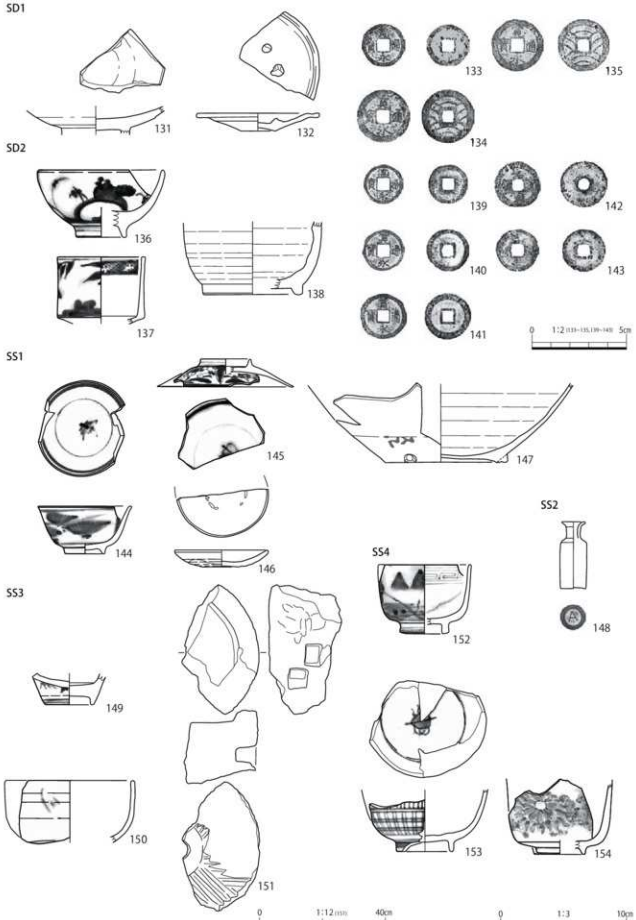
第41図　A地区出土遺物（6）



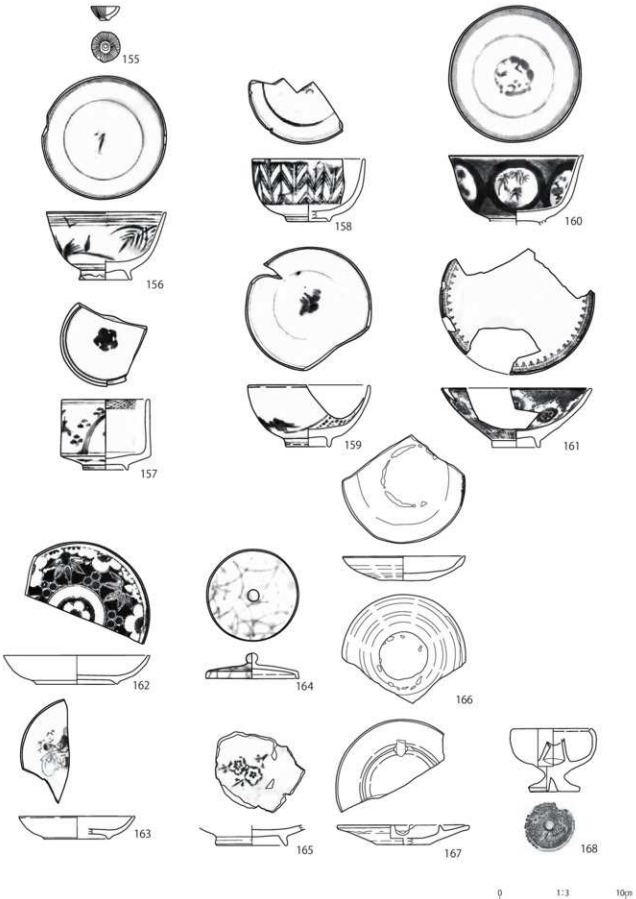
第42図　A地区出土遺物（7）



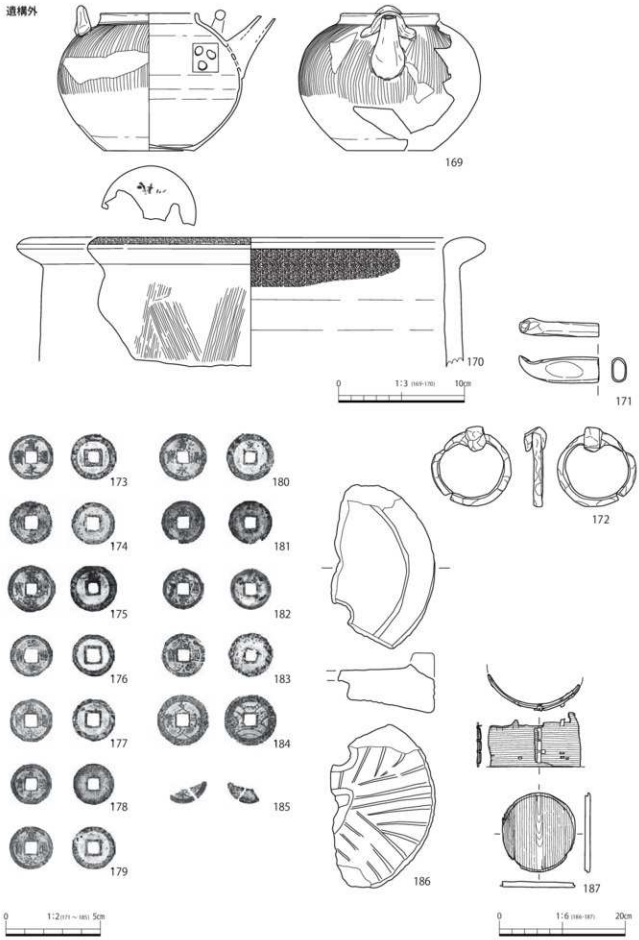
第 43 図　A 地区出土遺物（8）



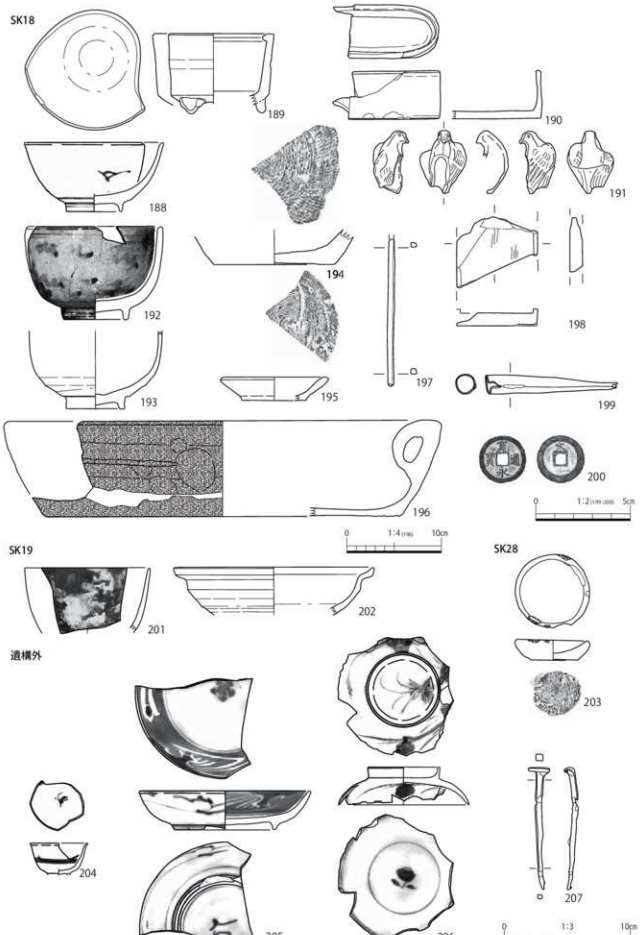
第 44 図　A 地区出土遺物（9）



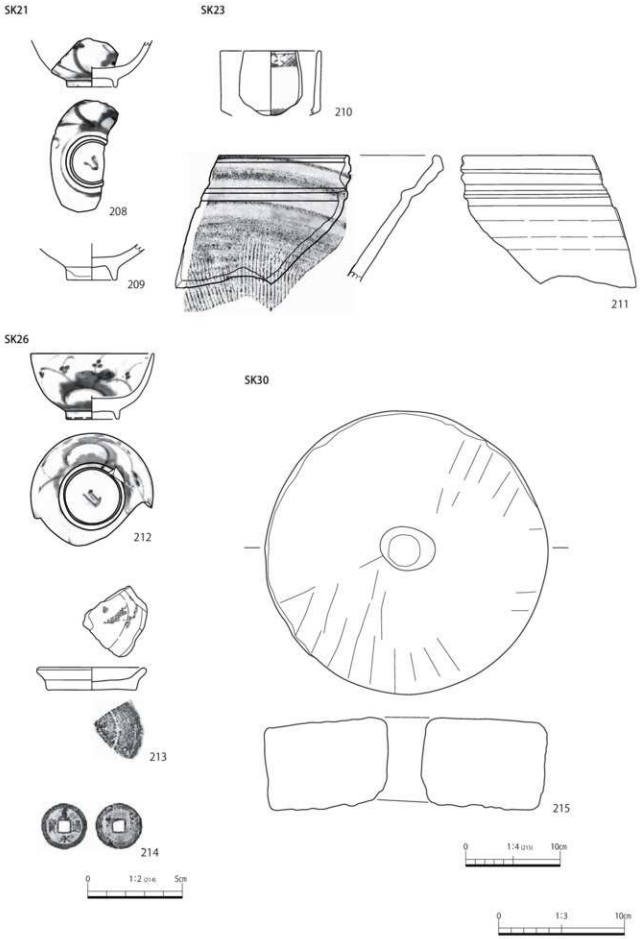
第45図　A地区出土遺物（10）



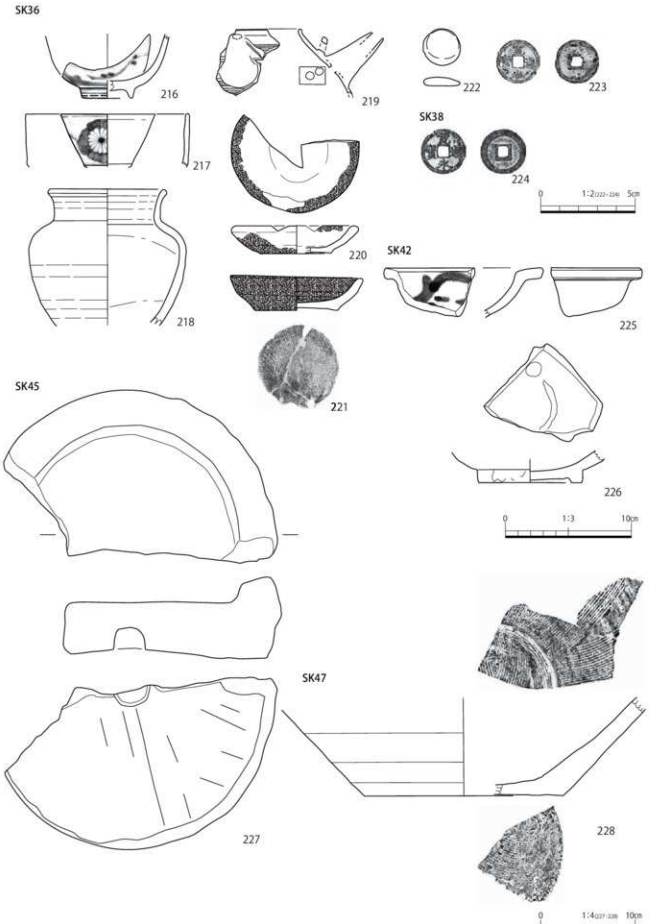
第 46 図　A 地区出土遺物（11）



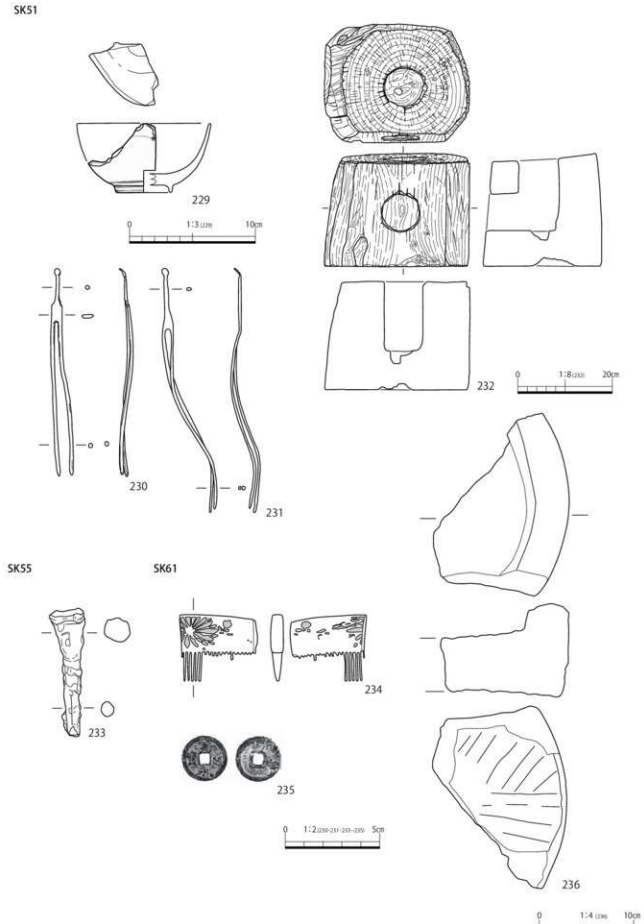
第 47 図　B 地区出土遺物（1）



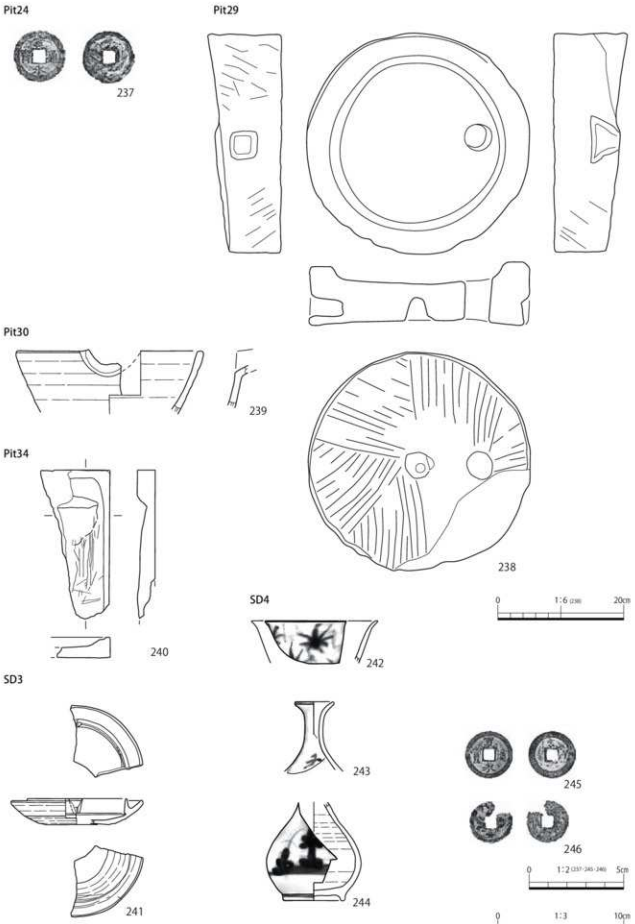
第 48 図　C 地区出土遺物（1）



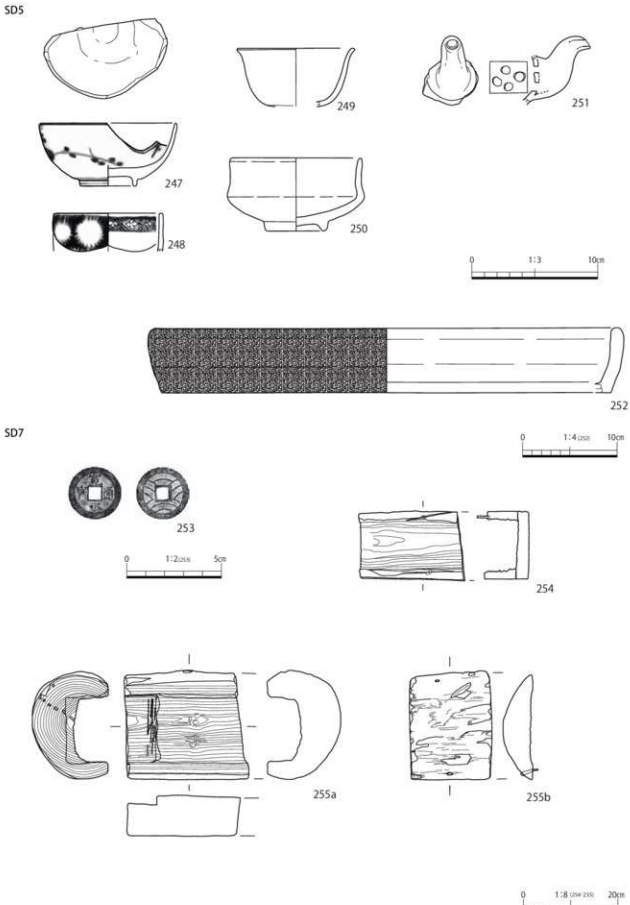
第49図　C地区出土遺物（2）



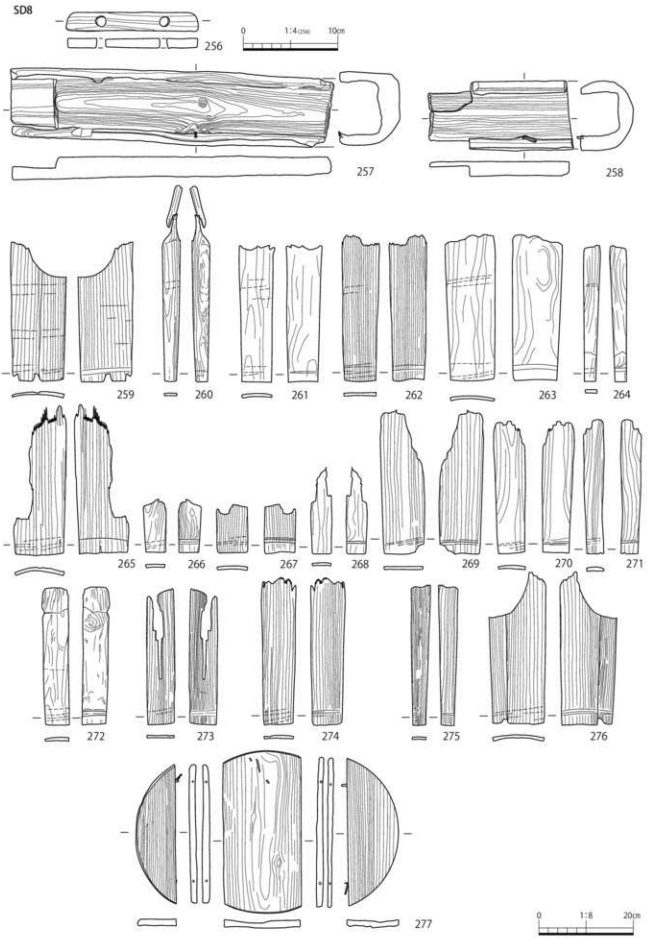
第 50 図　C地区出土遺物（3）



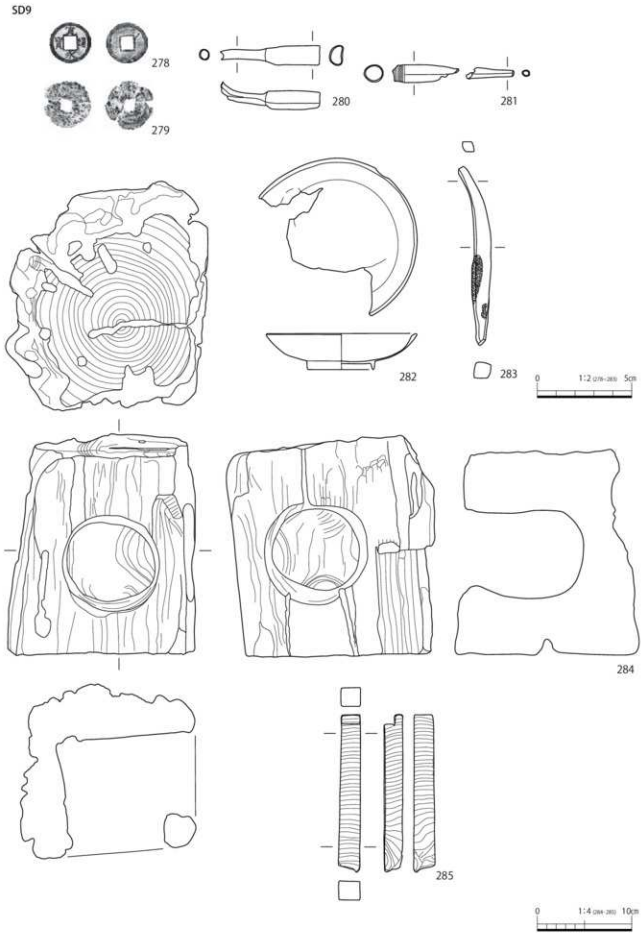
第 51 図　C 地区出土遺物（4）



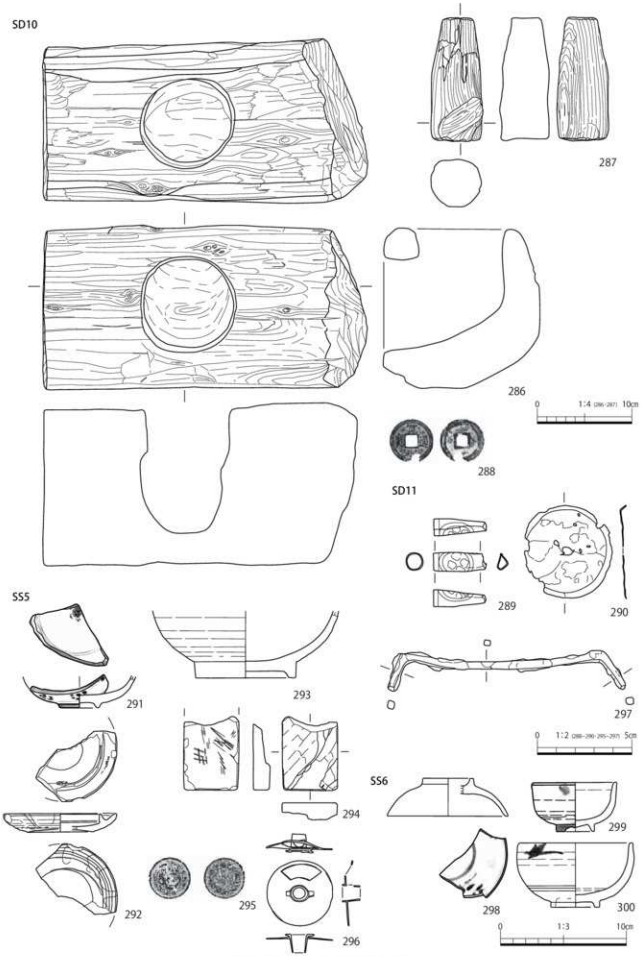
第 52 図　C 地区出土遺物（5）



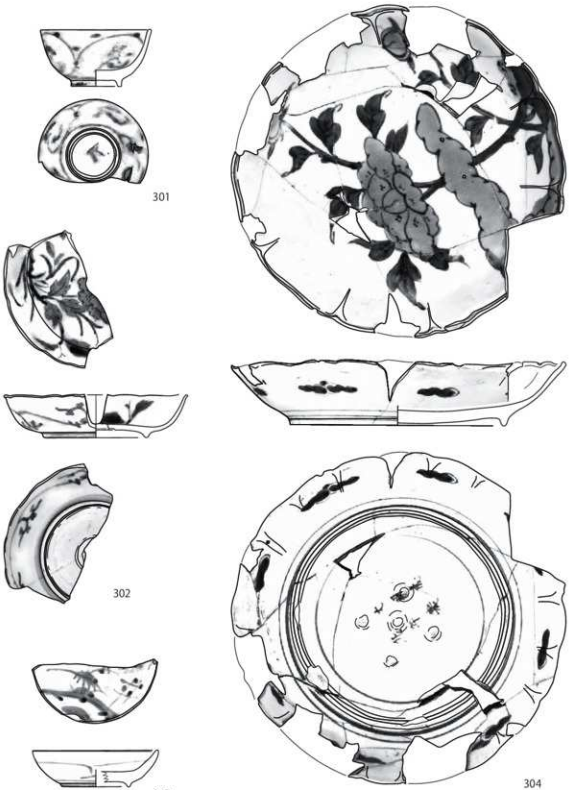
第 53 図　C 地区出土遺物（6）



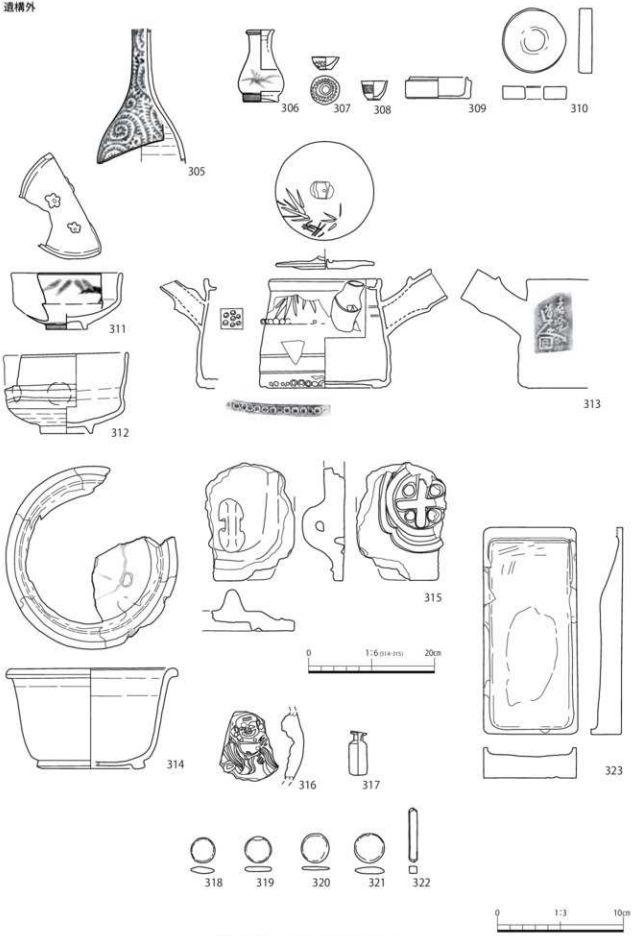
第 54 図　C 地区出土遺物（7）



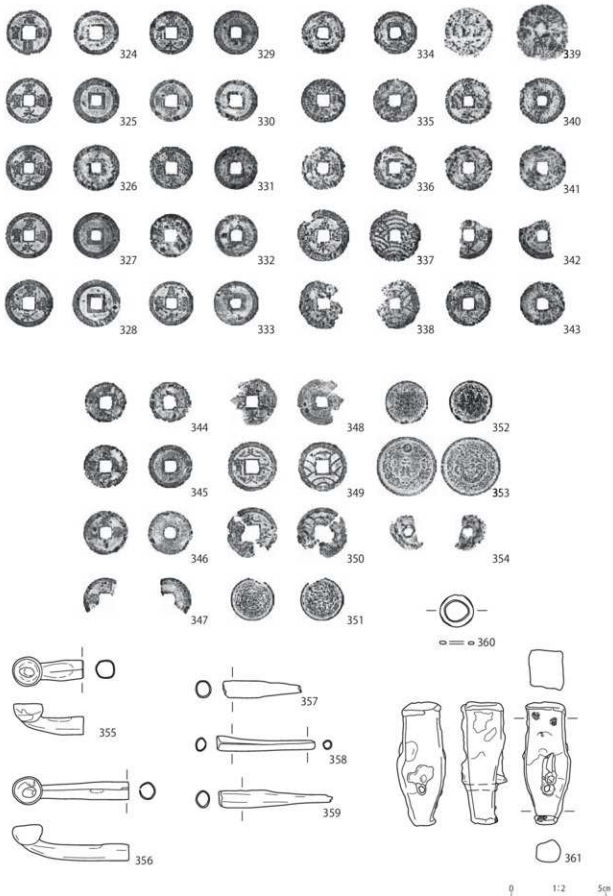
第 55 図　C地区出土遺物（8）



第 56 図　C地区出土遺物（9）

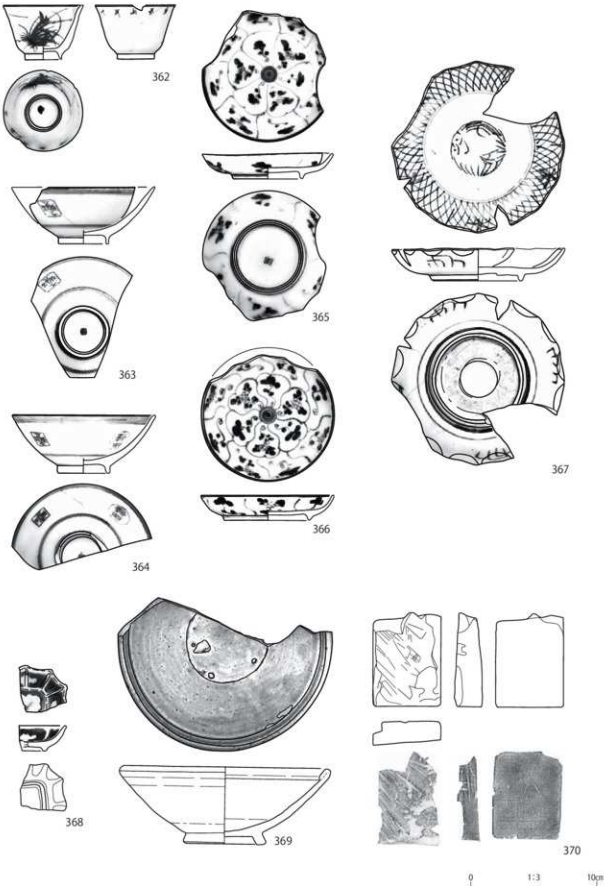


第 57 図　C 地区出土遺物（10）

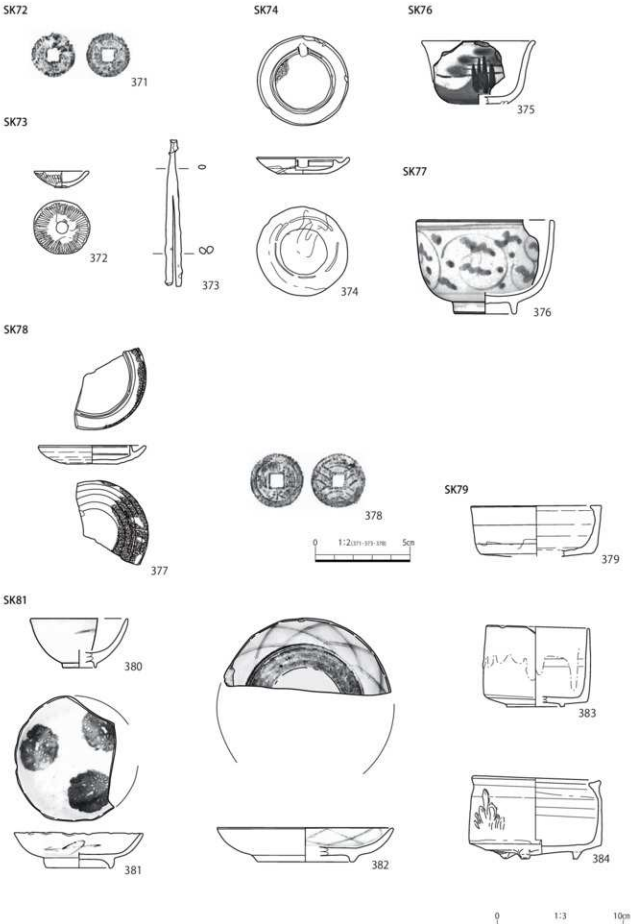


第 58 図　C地区出土遺物（11）

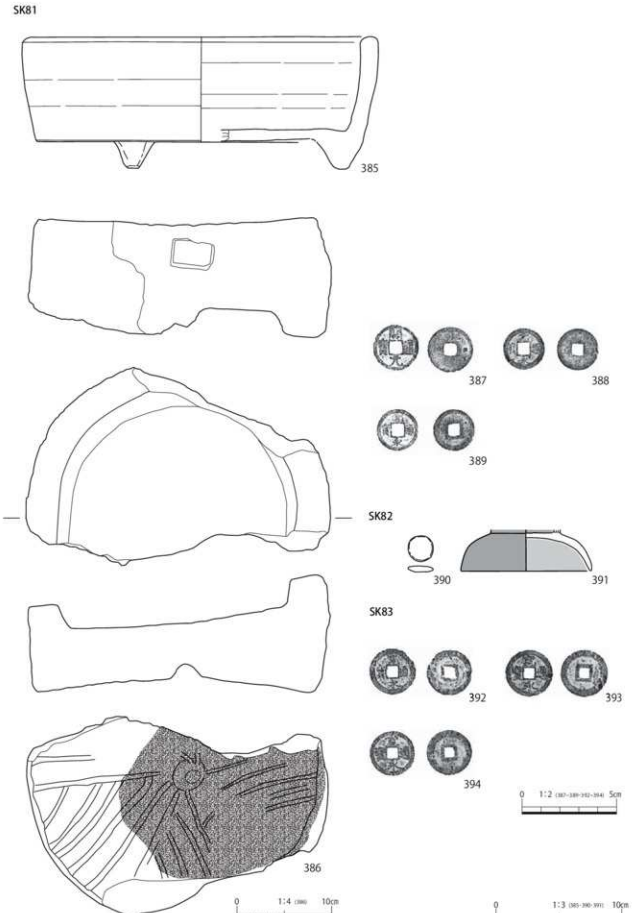
SK71



第 59 図　D地区出土遺物（1）

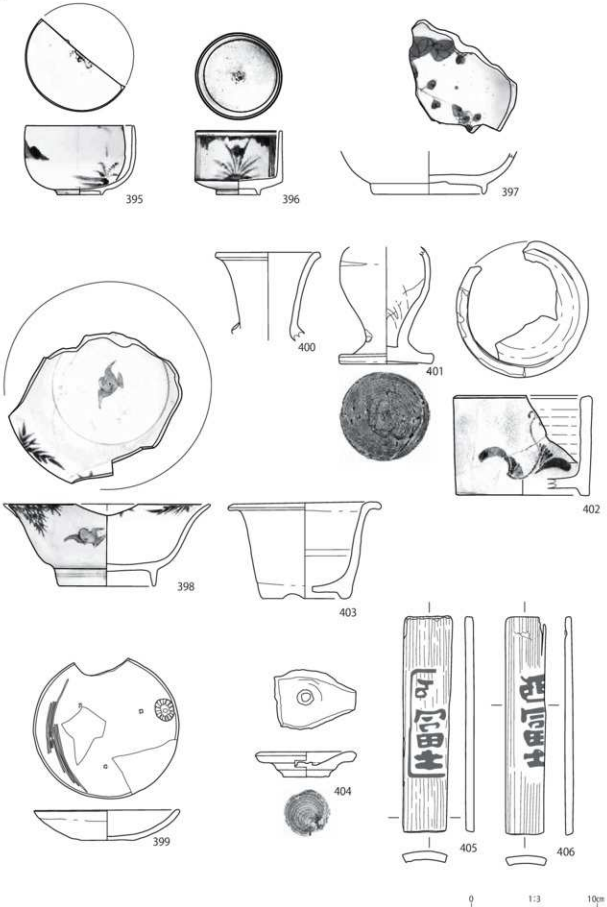


第60図　D地区出土遺物（2）

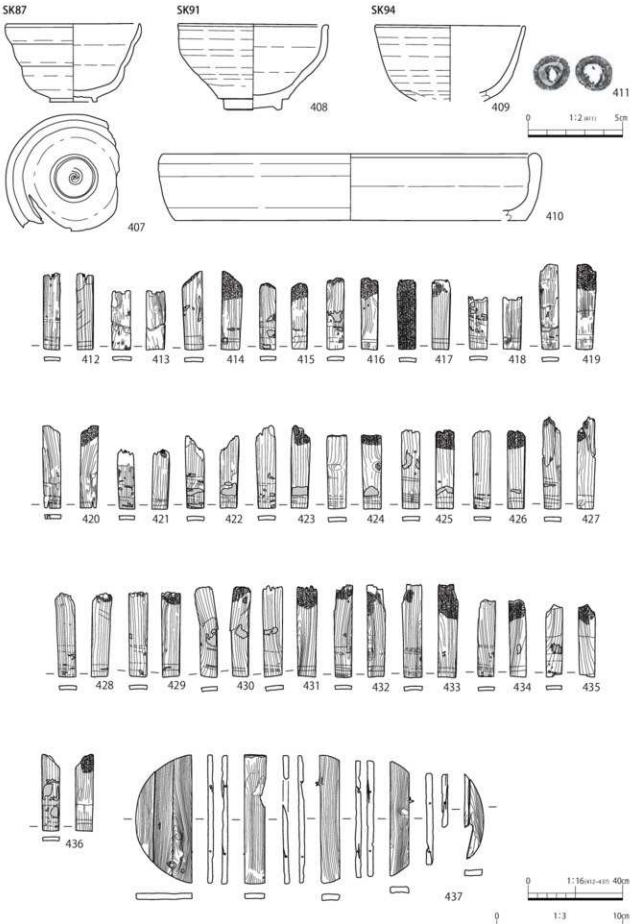


第 61 図　D 地区出土遺物（3）

SK84

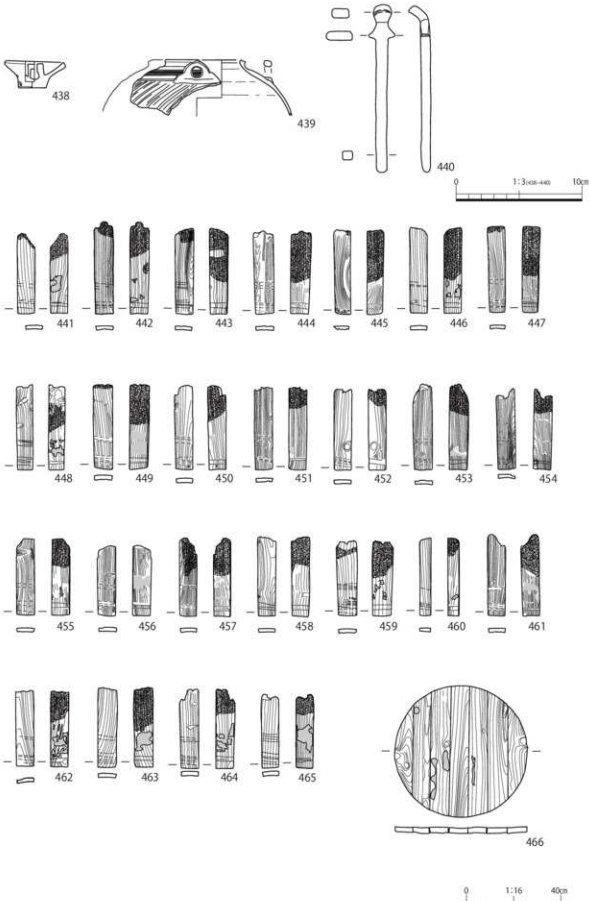


第 62 図　D地区出土遺物（4）

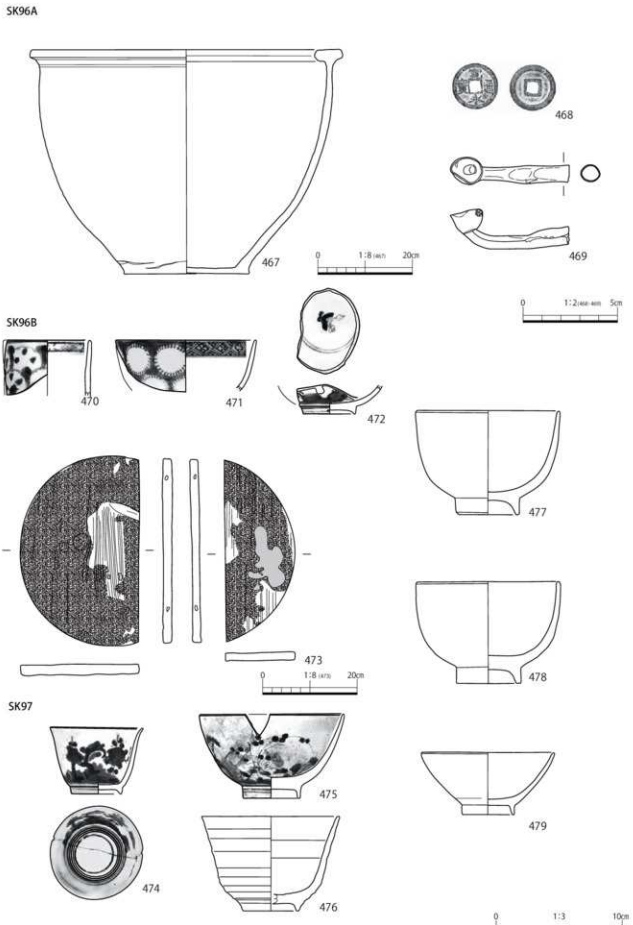


第63図　D地区出土遺物（5）

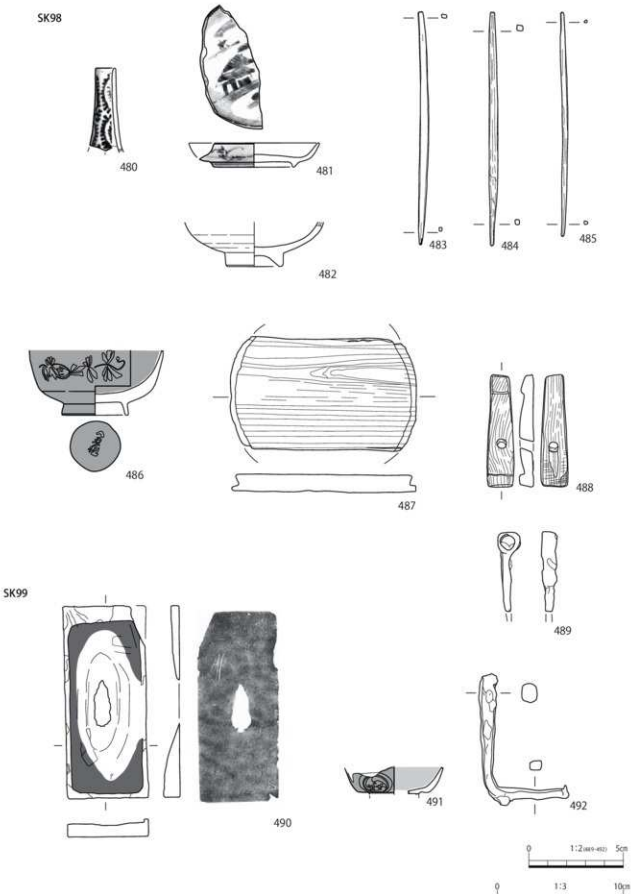
SK95



第 64 図　D 地区出土遺物（6）

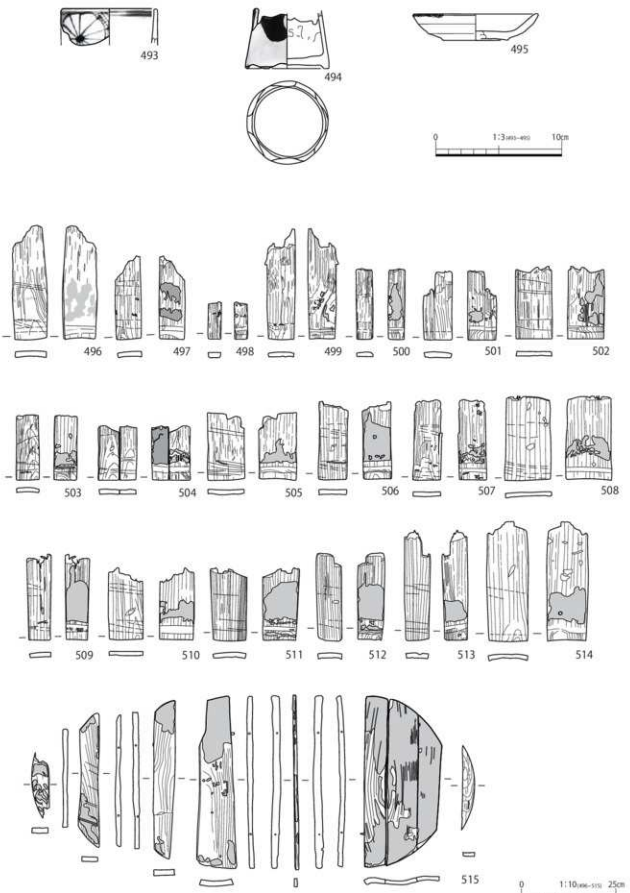


第 65 図　D地区出土遺物（7）

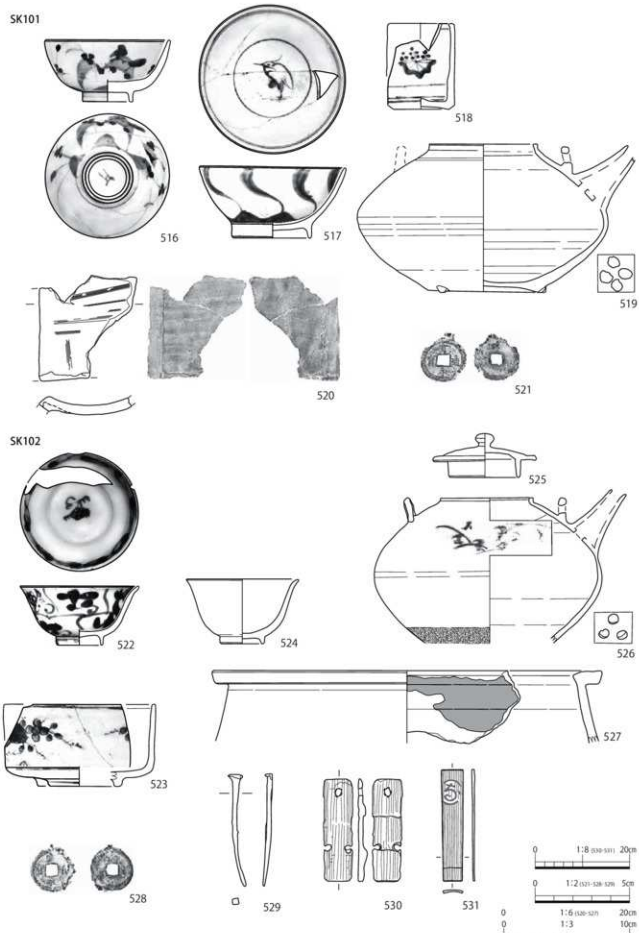


第 66 図　D地区出土遺物（8）

SK100

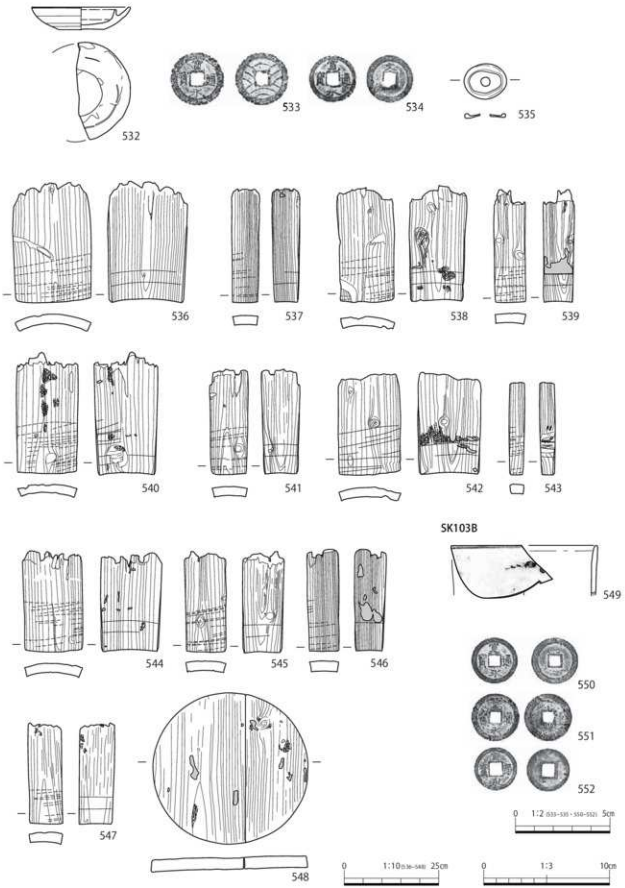


第 67 図　D地区出土遺物（9）



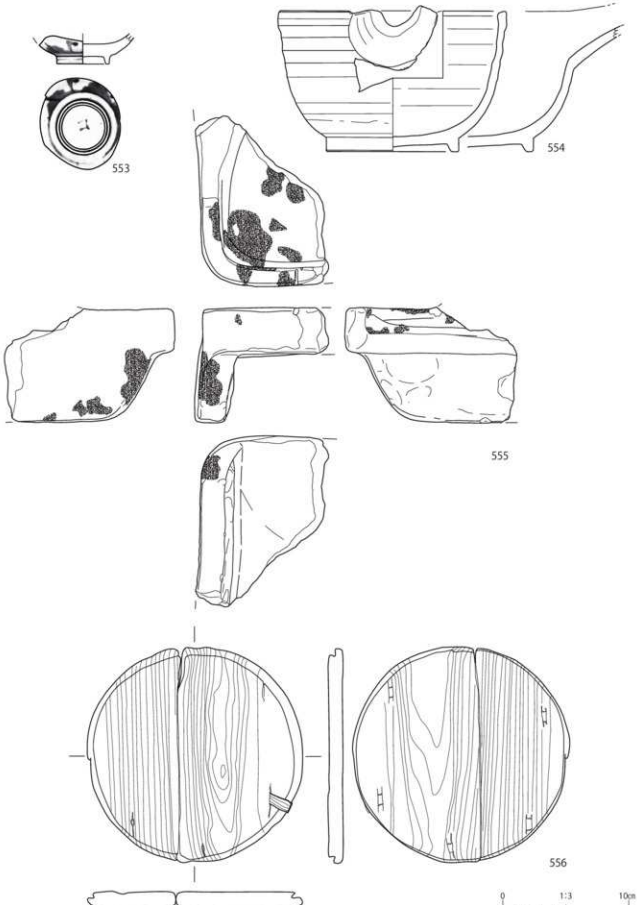
第 68 図　D 地区出土遺物（10）

SK103A

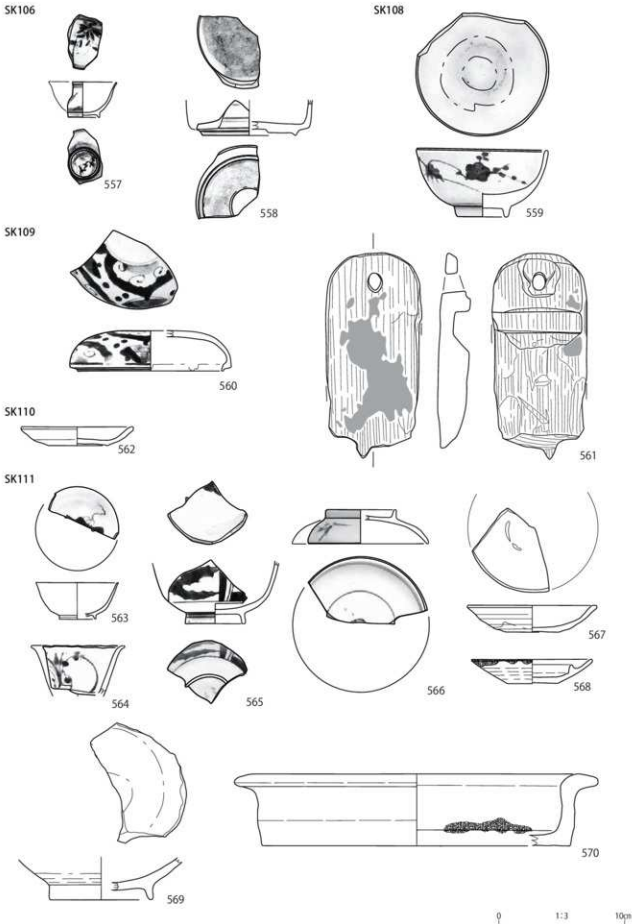


第69図　D地区出土遺物（11）

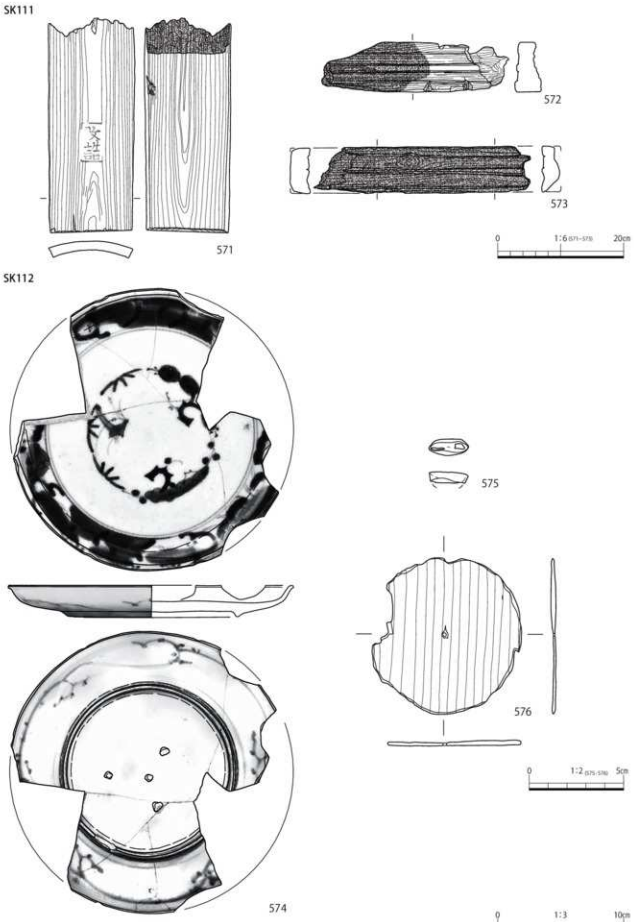
SK104



第 70 図　D地区出土遺物（12）

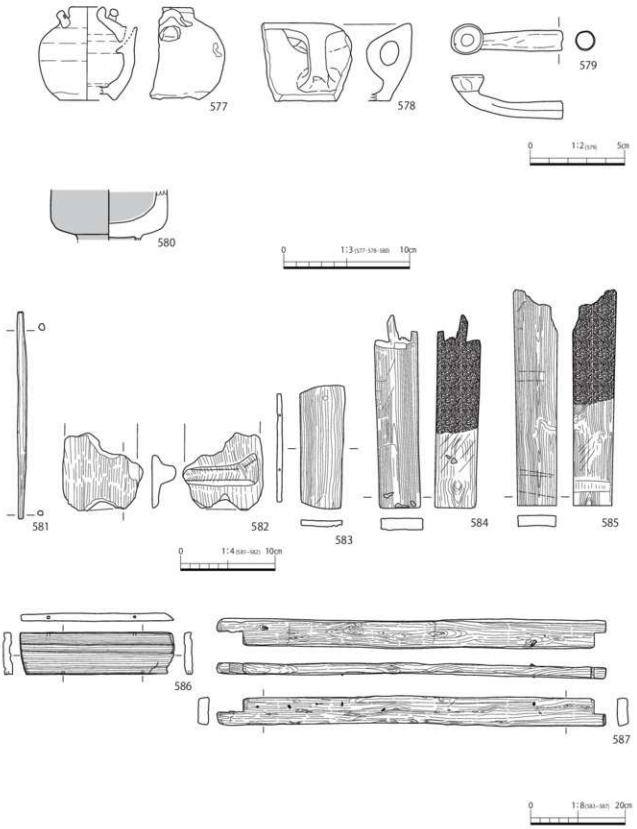


第 71 図　D地区出土遺物（13）

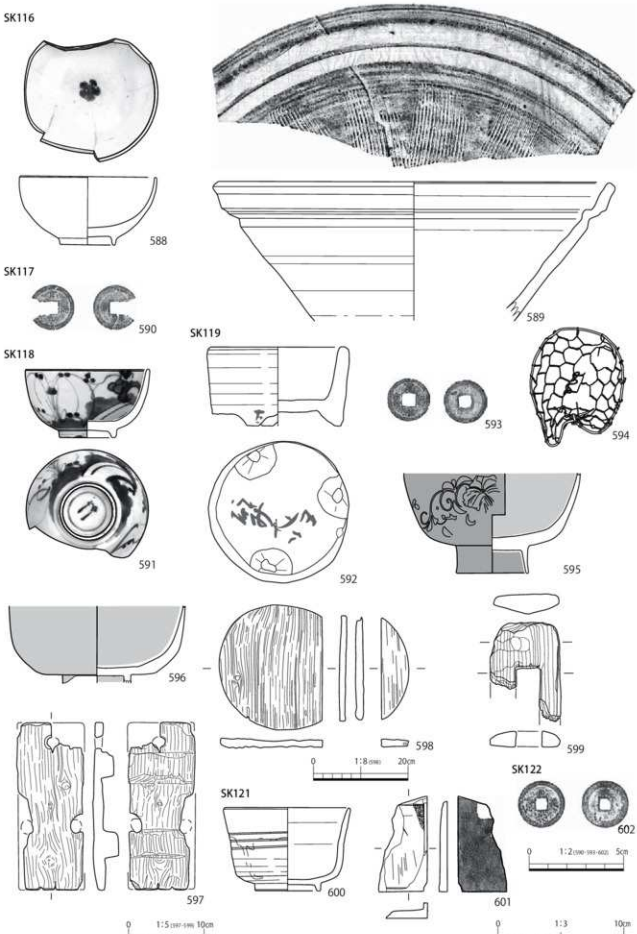


第 72 図　D 地区出土遺物（14）

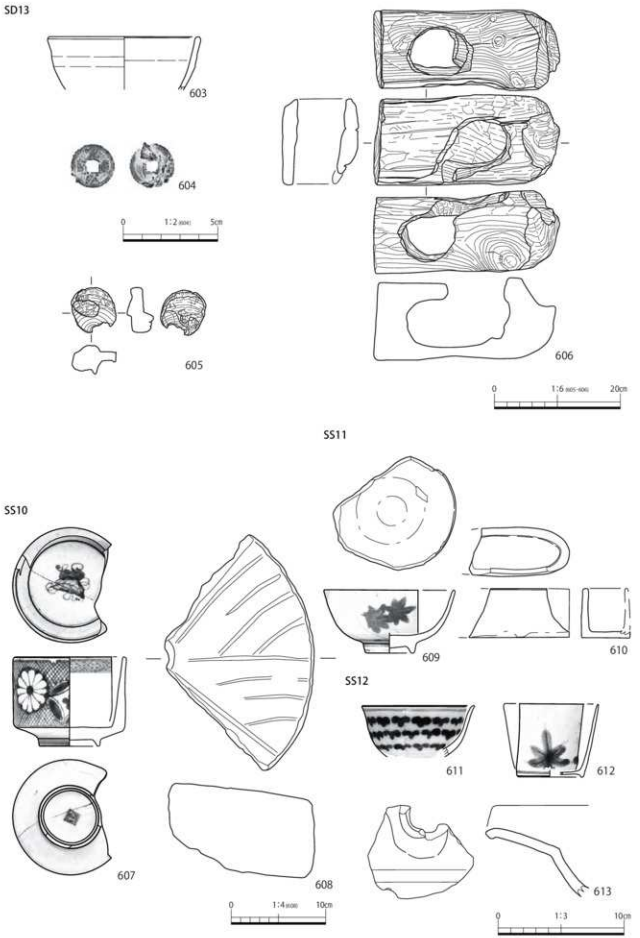
SK114



第 73 図　D地区出土遺物（15）

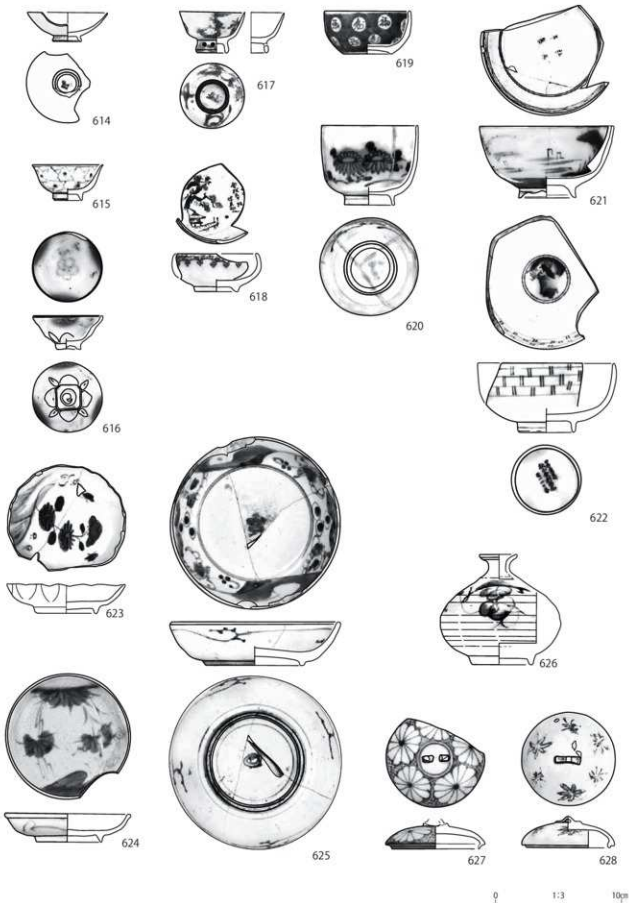


第 74 図　D 地区出土遺物（16）

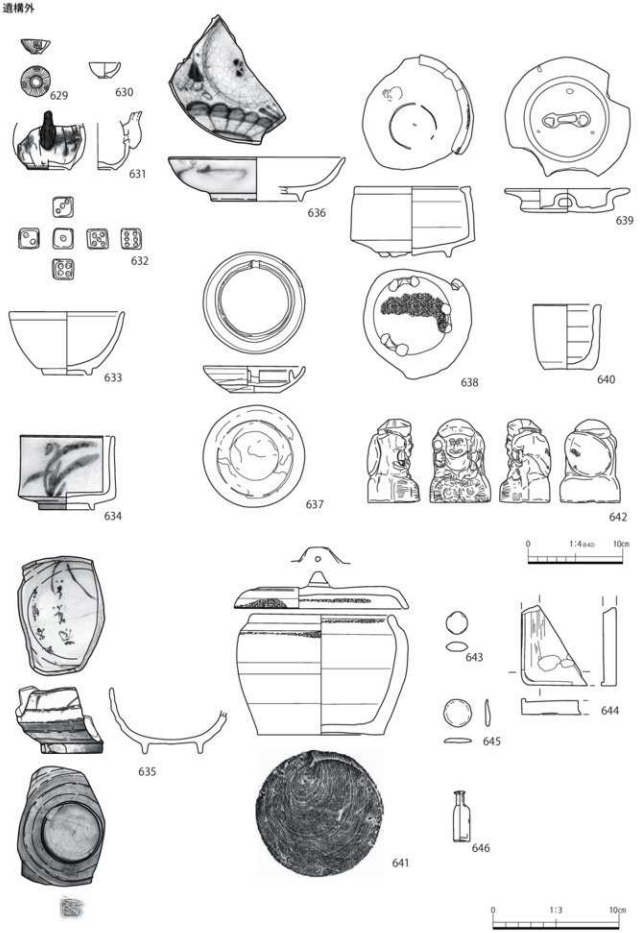


第 75 図　D地区出土遺物（17）

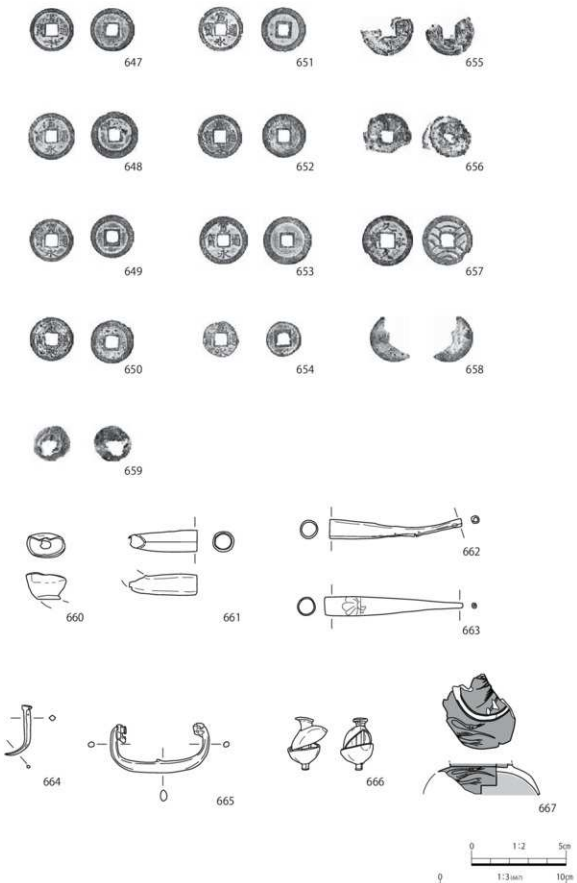
遺構外



第76図　D地区出土遺物（18）



第 77 図　D地区出土遺物（19）



第 78 図　D地区出土遺物（20）

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）１

報告番号	神図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
3	36	27	A	SK4	土器	皿	－	5.9	4.4	1.4	－	口縁1/2～底部	ロクロ成形	－	－	白色粒・赤色粒・金色雲母	－	－	煤付着　灯明皿
4	36	27	A	SK4	土器	皿	－	8.0	5.8	1.8	－	口縁3/4～底部	ロクロ成形	－	－	赤色粒・白色粒・金色雲母	－	－	煤付着　灯明皿　底部回転糸切り
5	36	27	A	SK4	陶器	擂鉢	口縁玉縁形	(27.6)	(11.0)	10.4	－	口縁1/4～底部1/3	ロクロ成形	鉄釉	－	黒色粒	瀬戸美濃系	18世紀前葉か	底部回転糸切り
8	36	27	A	SK7	土製品	飯事道具	－	－	(2.2)	(2.6)	－	口縁部欠損	－	－	－	赤色粒・黒色粒	－	－	羽釜のミニチュア　底部回転糸切り
9	36	27	A	SK11	土器	皿	－	(6.0)	(3.9)	1.6	－	口縁～底部1/2	ロクロ成形	－	－	金色雲母・白色粒・赤色粒	－	－	－
12	36	27	A	SK14	陶器	灯明皿	無高台平形	10.0	4.6	2.2	－	口縁1/8～底部1/8	ロクロ成形	鉄釉	－	白色粒	瀬戸美濃系か	－	－
13	36	27	A	SK14	陶器	碗	－	(6.6)	(5.8)	2.2	1.3	つまみ～口縁1/4	ロクロ成形	鉄釉	イッチン技法	－	－	－	－
14	36	27	A	SK16	磁器	碗	－	(7.4)	(7.2)	1.4	－	口縁1/2	ロクロ成形	透明釉	－	－	－	近代	－
15	36	27	A	SK13A	陶器	容器付き灯明受皿	立鼓形	(7.8)	－	5.4	(4.0)	口縁1/3～底部	ロクロ成形	灰釉	－	黒色粒	瀬戸美濃系	19C代か	底部回転糸切り
24	37	28	A	SK13B	磁器	薄手酒坏	丸形無高台	5.8	2.0	2.7	－	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	上絵付	－	瀬戸美濃系	19C中葉	高台に模倣文　見込みに松・反物等の絵付
25	37	28	A	SK13B	磁器	中碗	丸碗形	(10.2)	(4.0)	4.8	－	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	外面に松原　高台畳付無釉
26	37	28	A	SK13B	磁器	中碗	丸碗形	(9.6)	(3.8)	5.1	－	口縁1/2～底部1/8	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	口縁内面に嵌れた書文
27	37	28	A	SK13B	磁器	小皿	盤形	(9.6)	4.8	2.5	－	口縁1/2～底部2/3	ロクロ成形	透明釉	染付・縁錆	－	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	高台畳付無釉
28	37	28	A	SK13B	磁器	鉢	－	(12.4)	(7.2)	3.3	－	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付・縁錆	－	肥前系	18C中葉～19C中葉	玉縁状口縁　見込みに蛇の目状釉剥ぎ　蛇の目凹形高台
29	37	28	A	SK13B	磁器	小皿	角皿	(8.1)	(3.9)	2.2	－	口縁1/6～底部1/4	型打ち成形	透明油	染付	－	瀬戸美濃系	19C中葉	高台畳付無釉
30	37	28	A	SK13B	磁器	瓶か	－	－	(8.0)	(3.3)	－	底部	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C代	蓮弁文　釉に虫食い　被熱面に溶融ぎ痕
31	37	28	A	SK13B	陶器	小坏	端反形	(5.6)	(2.5)	4.6	－	口縁1/6～底部2/3	ロクロ成形	灰釉(内面)	外面無釉の高地にイッチン描きの蛇籠状模様	－	信楽か	19C中葉	玉縁小坏　割り高台(切り高台)
32	37	28	A	SK13B	陶器	皿	－	(7.8)	2.8	1.7	－	口縁1/2～底部2/3	ロクロ成形	灰釉	－	－	京信楽系か	－	灯明皿か　底部回転ヘラケズリ
33	37	28	A	SK13B	陶器	皿	－	(8.2)	(3.2)	1.8	－	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形	灰釉	－	－	京信楽系か	－	灯明皿か
34	37	28	A	SK13B	陶器	土瓶	－	(7.0)	－	(4.3)	－	口縁1/4	ロクロ成形	透明釉	三彩	－	－	19C中葉～後葉	三彩土瓶
35	37	28	A	SK13B	陶器	土瓶か	－	－	(6.0)	(4.5)	－	底部1/4	ロクロ成形	黒釉	イッチン描き	黒色粒	－	－	接続ぎあり
36	37	28	A	SK13B	陶器	碗	－	(5.5)	－	(1.2)	1.7	つまみ部	ロクロ成形	鉄釉(内面)	－	－	－	－	つまみ天面回転糸切り
37	37	28	A	SK13B	陶器	碗	－	(16.0)	(12.0)	(2.2)	－	口縁1/6	ロクロ成形	鉄釉	－	－	－	－	内面全体と外面にペルト状に施釉
38	37	28	A	SK13B	土器	植木鉢	－	(11.0)	(10.8)	5.1	－	口縁1/3～底部1/3	ロクロ成形	－	－	白色粒・赤色粒	－	－	底部中央を打ち欠いて穿孔
39	37	28	A	SK13B	瓦	軒桟瓦	－	8.0	7.8	(1.9)	－	瓦当部	－	－	－	白色粒・黒色粒	－	－	三つ巴文
40	37	28	A	SK13B	瓦	桟瓦	－	(19.7)	(10.1)	1.7	－	2/3欠損	－	－	－	黒色粒・白色粒	－	－	－
71	39	30	A	SK17	磁器	小碗	端反碗形	(7.4)	3.0	4.1	－	口縁小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	－
72	39	30	A	SK17	磁器	碗	筒形碗形	－	(3.8)	(3.0)	－	底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C中葉～19C初頭	見込みに五弁花　外面に菊花斜め格子文　溶融ぎ痕あり

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）2

報告番号	縮図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉推定値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
73	39	30	A	SK17	磁器	小碗	小丸碗形	8.4	(3.7)	4.9	–	口縁3/4～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C初頭	見込みに手描き五弁花　外面に竹林文
74	39	30	A	SK17	磁器	中碗	丸碗形	(11.6)	4.6	6.0	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C初頭	菊花散らし文　見込みに目跡3ヶ所あり 焼縫ぎ痕あり
75	39	30	A	SK17	磁器	中碗	広東碗形	(11.1)	5.9	6.3	–	口縁1/4～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C前葉	四方檀・七宝繋ぎ文
76	39	30	A	SK17	磁器	中碗	広東碗形	(11.3)	6.0	6.3	–	口縁1/8～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C前葉	外面に梵字文　見込みに「壽」
77	39	30	A	SK17	磁器	中碗	広東碗形	(11.6)	(6.0)	6.2	–	口縁1/2～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C前葉	波に千鳥の文様か　焼縫ぎ痕あり
78	39	30	A	SK17	磁器	中碗	広東碗形	11.3	5.5	6.1	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C前葉	外面に山水文(遠山・明朗か)船・鳥・建物・柳など) 見込みに所長付船　高台畳付に砂付着
79	39	30	A	SK17	磁器	碗	端反碗形か	–	4.4	(5.6)	–	体部小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	19C前葉～中葉	外面と見込みに蘭草文
80	39	30	A	SK17	磁器	碗	–	–	(4.4)	(2.0)	–	体部小～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	焼縫ぎ痕・焼縫ぎ印あり
81	39	30	A	SK17	磁器	仏飯器	–	(6.8)	–	(3.5)	–	口縁部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	麻葉文
82	40	30	A	SK17	磁器	中皿	端反形	(15.8)	(11.3)	3.0	–	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	19C前葉～中葉頃か	山水文　口縁は輪花に成形 高台畳付無釉　底面に目跡あり
83	40	30	A	SK17	磁器	中皿	丸形	22.2	12.8	3.2	–	口縁1/2～底部2/3	ロクロ成形	透明釉	染付・墨弾き技法	–	肥前系	18C代	外面に唐草文　見込みに環状松竹梅(松竹梅円形文)、墨弾きによる花唐草文　焼縫ぎ痕・焼縫ぎ痕あり　高台畳付無釉
84	40	30	A	SK17	磁器	鉢	端反形	(13.0)	(5.0)	4.5	–	口縁1/5～底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～18C後葉	外面に折松葉文、内面に連弧文 見込みに蛇の目状釉剥ぎ
85	40	30	A	SK17	磁器	鉢	切干形	(23.6)	11.0	10.5	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	雷(竜文か)、波濤の文様 焼縫ぎ痕・焼縫ぎ印「ユサセ」あり 見込みに目跡3ヶ所あり　器面に複熱痕あり 高台畳付無釉　P815出土片と接合
86	41	30	A	SK17	磁器	碗蓋	–	(9.4)	(5.0)	2.5	–	1/2残存	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C初頭	外面に梵字文様、見込みに「壽」 丸岡小広東碗かの蓋
87	41	30	A	SK17	磁器	碗蓋	–	(9.0)	(3.4)	2.4	–	つまみ～口縁1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	19C前葉	外面に雲文・内面に火焔宝珠 破断面に漆継ぎ痕あり　端反碗の蓋か
88	41	30	A	SK17	磁器	蓋物蓋	–	(12.2)	(11.4)	(3.1)	–	1/2残存	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	瓜れ亀甲文　焼縫ぎ痕・焼縫ぎ印「□井」 口縁端部は無釉
89	41	30	A	SK17	磁器	蓋物蓋	–	(12.2)	(10.6)	(2.4)	–	1/4残存	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	火焔宝珠・蕉の文様　口縁端部は無釉
90	41	30	A	SK17	陶器	中碗	端反碗形	(9.0)	–	(3.8)	–	口縁1/4	ロクロ成形	透明釉	呉須釉流け掛け(口縁部)	–	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	呉須釉溜まり
91	41	30	A	SK17	陶器	中碗	端反碗形	(9.0)	–	(4.3)	–	口縁1/6	ロクロ成形	透明釉	下絵付・内面白化粧	–	瀬戸美濃系か	19C中葉か	折枝梅花文
92	41	30	A	SK17	陶器	仏飯器	台坯 抉り込み	–	4.0	4.3	–	口縁小～台部	ロクロ成形	灰釉	–	黒色粒	瀬戸美濃系	–	–
93	41	30	A	SK17	陶器	灯明受皿	–	10.3	4.3	2.4	7.5	口縁1/2～底部	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	–	外面に輪状に目跡あり　底部回転糸切り後ナデ
94	41	30	A	SK17	陶器	片口	口縁 切込形	(10.6)	5.3	5.0	(11.3)	口縁1/3～底部	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	19C代か	口縁切込の注口部 底部回転糸切り・墨書あり
95	41	30	A	SK17	陶器	蓋鉢	口縁 折縁形	(26.4)	(12.1)	9.4	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	18C後葉～19C初頭	破断面に漆継ぎ痕あり
96	41	30	A	SK17	陶器	土鍋	給状把手丸形	(15.4)	–	(7.6)	(16.4)	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	鉄釉	–	–	–	18C後葉～19C前葉か	給状双耳　外面に煤付着
97	41	30	A	SK17	陶器	水注	後手筒形	(9.8)	–	(9.0)	–	口縁1/3～体部1/3	ロクロ成形	灰釉	–	–	–	–	貫入あり
98	42	31	A	SK17	陶器	土瓶	–	(9.7)	–	(8.0)	(20.9)	口縁1/6～体部	ロクロ成形	鉄釉	鉄釉の地に長石釉と淡黄色の釉を掛け分け	–	–	18C後葉～19C中葉	注口部は鉄砲口　口縁部に蓋の受けが付かない

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）3

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm) 〈 〉復元値・〈 〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
99	42	31	A	SK17	陶器	土瓶	算盤玉形	(8.0)	6.0	10.7	–	注口部欠損	ロクロ成形	灰釉	–	–	–	18C後葉～19C中葉	口縁端部と体部下位に煤付着
100	42	31	A	SK17	陶器	土瓶	茶釜形	–	–	(6.5)	–	体部1/2	ロクロ成形	灰釉	三彩	–	–	19C中葉	山水文　三彩土瓶または山水土瓶
101	42	31	A	SK17	陶器	急須蓋	–	6.8	(6.8)	(0.9)	–	1/4残存	ロクロ成形	透明釉	白化粧に鉄絵、緑釉落とし(三彩)	–	–	19C中葉～後葉	
102	42	31	A	SK17	陶器	土瓶蓋	–	8.4	3.4	2.1	1.8	ほぼ完形	ロクロ成形	鉄釉	–	–	–	–	底部回転ヘラケズリ
103	42	31	A	SK17	土器	七輪五徳	朝顔形	(36.0)	–	(6.6)	–	口縁1/4	ロクロ成形	–	–	金色雲母・白色粒	–	–	内面五徳部分煤料　内外面煤付着
104	42	31	A	SK17	土器	さな	円盤形	(11.6)	(11.6)	1.6	–	1/2残存	–	–	–	白色粒	–	–	天面は被熱による器面の剥落あり
105	42	31	A	SK17	土器	瓶炉	–	–	(18.6)	(6.2)	–	底部3/6	ロクロ成形	–	–	白色粒・赤色粒・金色雲母	–	–	外面煤付着
120	43	32	A	Pit9	磁器	製油壺	胴丸形	(2.4)	–	(4.0)	–	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	梅文か
121	43	32	A	Pit9	陶器	小坏	丸形	(7.0)	3.4	3.2	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	–	外面に輪状の目跡あり
122	43	32	A	Pit10	磁器	薄手酒坏	–	–	3.0	(1.8)	–	底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉	焼継ぎ痕あり 平戸蓮三川内窯か
123	43	32	A	Pit10	磁器	碗	筒形碗形	(7.4)	–	(5.3)	–	口縁1/6～体部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	筒形碗　水仙文
124	43	32	A	Pit10	土製品	土鈴	–	2.4	2.2	2.1	–	一部欠損	手捏ね成形	–	–	黒色粒	–	–	上部に結孔。下部に溝状の孔あり 中に復元mmの土玉
126	43	32	A	Pit15	磁器	中碗	端反碗形	(9.4)	(4.0)	(5.3)	–	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	外面に崩れた雲芝文、見込みに花文(朝顔か) 焼継ぎ痕・焼継ぎ印あり　器面に被熱痕あり
128	43	32	A	Pit16	磁器	小碗	小広東形か	(8.8)	–	(3.1)	–	口縁1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉	縦線縁文
131	44	33	A	SD1	陶器	皿	–	–	–	(2.3)	–	底部1/5	ロクロ成形	灰釉	–	–	–	–	見込みに蛇の目状釉剥ぎ
132	44	33	A	SD1	土器	鍋	–	(9.8)	(2.8)	1.4	–	1/4残存	ロクロ成形	透明釉	白泥(刷毛目風)	白色粒・黒色粒	–	–	つまみ欠損
136	44	33	A	SD2	磁器	中碗	丸碗形	(9.8)	(3.8)	5.4	–	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頭	くらわんか碗　雪輪梅樹文　高台畳付無釉
137	44	33	A	SD2	磁器	小碗	筒形碗形	(7.0)	–	(5.3)	–	口縁1/3～体部1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	筒形湯呑碗 外面に笹文、内面に四方襷、底部は折松文か
138	44	33	A	SD2	陶器	香か	–	–	(7.6)	(5.8)	–	底部1/6	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	–	–
144	44	33	A	SS1	磁器	小碗	端反碗形	(7.4)	3.2	3.8	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C中葉	外面に草花文(鉄仙？朝顔？) 見込みに寿字文　SS3出土破片と接合
145	44	33	A	SS1	磁器	碗蓋	–	(10.8)	(4.0)	2.2	–	1/2残存	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	外面に草花文、内面に蕨記
146	44	33	A	SS1	陶器	灯明皿	無高台平形	(7.2)	2.8	1.3	–	1/2残存	ロクロ成形	鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	–	内面に輪状の目跡
147	44	33	A	SS1	陶器	土瓶	–	–	(8.8)	(6.3)	–	底部1/2	ロクロ成形	鉄釉	–	–	–	–	焼継ぎ痕・焼継ぎ印あり
148	44	33	A	SS2	ガラス製品	薬瓶	–	1.8	2.0	5.3	–	口縁1/2～底部	–	–	–	–	–	近代	底面に「A」の浮彫り
149	44	33	A	SS3	磁器	瓶	–	–	3.8	(2.5)	–	底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系か	19C代	底部内面と高台部に砂付着
150	44	33	A	SS3	陶器	中碗	腰張形	(10.2)	–	(4.9)	–	口縁1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	18C中葉か	御室碗　底部無釉
152	44	33	A	SS4	磁器	中碗	筒丸形碗形	(7.4)	(3.8)	5.5	–	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	19C中葉	湯呑碗　外面に山水文、内面に雲文 焼継ぎ痕あり
153	44	33	A	SS4	磁器	中碗	端反碗形か	–	4.6	(4.9)	–	体部～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	19C前葉～中葉	外面に格子文、見込みに蕨記 高台に砂付着

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）4

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm) （　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
154	44	33	A	S54	磁器	碗	筒丸形碗形	–	(4.0)	(6.0)	–	体部1/3～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	上絵付	–	肥前系	近代	湯呑碗　草花の絵付け
155	45	34	A	遺構外	磁器	紅猪口	菊花形	2.2	0.6	1.1	–	完形	–	透明釉	–	–	肥前系	18C前葉	–
156	45	34	A	遺構外	磁器	中碗	丸碗形	9.5	4.0	5.4	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	17C中葉か	笹文
157	45	34	A	遺構外	磁器	小碗	筒形碗形	(7.0)	(3.6)	5.6	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付・コンニャク印刊	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	外面に海浜風景(小松原・明石け舟)・折松文 裏面に四方押、見込みにコンニャク印刊の五弁花
158	45	34	A	遺構外	磁器	中碗	小丸碗形	(9.0)	(3.4)	5.0	–	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C初頭	外面に矢羽根文、見込みに寿字文 裏面は被熱か
159	45	34	A	遺構外	磁器	中碗	丸碗形	9.6	3.6	4.9	–	口縁2/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	外面に風景文(樅松松涼・明石け舟？・富士山？) 見込みに樅松文　高台に砂付着
160	45	34	A	遺構外	磁器	中碗	端反碗形	(10.6)	–	(5.6)	–	高台欠損	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	19C前葉～中葉	外面に丸に松竹梅、見込みに環状松竹梅文、口縁内面に四方障　鎬縫ぎ痕あり 被熱し裏面の釉薬が黄泡
161	45	34	A	遺構外	磁器	中碗	平碗形	(12.0)	3.8	4.7	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付・型紙摺り	–	瀬戸美濃系	19C後葉	酸化コバルト　外面に梅花散らし文、口縁内面に環境文または輪宝文
162	45	34	A	遺構外	磁器	小皿	丸形	(11.4)	(6.4)	2.3	–	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付・型紙摺り・練込	–	瀬戸美濃系か	19C後葉	酸化コバルト　見込みに梅花・亀甲・笹の文様
163	45	34	A	遺構外	磁器	小皿	丸形	(9.2)	(5.2)	1.8	–	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	上絵付	–	瀬戸美濃系か	近代	見込みにパイクライダーと「バンザイ」の絵付 高台内に砂付着
164	45	34	A	遺構外	磁器	蓋	–	7.3	7.3	2.0	0.9	完形	ロクロ成形	透明釉	下絵付	–	–	近代	–
165	45	34	A	遺構外	陶器	皿	–	–	5.6	(1.6)	–	底部	ロクロ成形	灰釉	櫛絵	–	瀬戸美濃系	18C中葉～19C初頭か	見込みに梅花文
166	45	34	A	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	9.6	3.9	2.0	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	–	外面と見込みに輪状の目跡あり 口縁端部に煤付着
167	45	34	A	遺構外	陶器	灯明受皿	油溜半月状	(10.4)	(4.3)	1.5	(6.0)	口縁3/5～底部1/2	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	19C代	油溜の形状が半月状
168	45	34	A	遺構外	陶器	乗燭	台付たんころ形	(6.2)	4.0	5.0	(1.4)	口縁1/3～底部	ロクロ成形	鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	19C以降	底部回転糸切り　中央に穿孔あり
169	46	34	A	遺構外	陶器	土瓶	丸形	7.7	(7.2)	10.9	17.3	口縁～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉	–	黒色粒・白色粒	–	18C後葉～19C中葉	鉄砂口　底部に焼縫ぎひあり
170	46	34	A	遺構外	土器	火鉢か	–	(37.2)	–	(10.2)	–	口縁1/8	ロクロ成形	–	–	金色雲母・白色粒・赤色粒	–	–	外面にハケ状工具による刷文様 口縁部に煤付着
188	47	35	B	SK18	磁器	中碗	丸碗形	(11.0)	4.4	5.5	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前	18C前葉～19C初頭	くらわんか碗　蛇の目釉剥ぎ　高台部に砂付着
189	47	35	B	SK18	磁器	香炉	有三足半筒形	(9.4)	–	6.3	–	口縁1/4～体部1/3	ロクロ成形	青磁釉	–	–	肥前系	–	–
190	47	35	B	SK18	陶器	**智盞**	長楕円形	(6.8)	(7.1)	3.8	–	1/2	板作り成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	18C	両面に掻り絵による鼎れた文様あり
191	47	35	B	SK18	磁器	水滴か	–	(5.0)	(3.6)	(2.8)	–	体部欠損	型作り成形か	透明釉	–	–	瀬戸美濃系	–	鳥形
192	47	35	B	SK18	陶器	中碗	丸碗形	(10.6)	5.0	7.4	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前	18C前葉～19C前葉	花唐草文　陶胎染付　高台畳付無釉 被熱痕あり(外面煤付着)
193	47	35	B	SK18	陶器	碗	丸碗形	–	4.6	(6.2)	–	**体部小～底部**	ロクロ成形	黒釉	–	黒色粒	瀬戸美濃系	–	ケズリ出し高台
194	47	35	B	SK18	陶器	擂鉢	–	–	(12.8)	(3.7)	–	体部小～底部1/4	ロクロ成形	鉄釉	–	長石	–	–	底部回転糸切り
195	47	35	B	SK18	土器	皿	–	(8.0)	(5.0)	1.9	–	口縁1/3～底部1/3	ロクロ成形	–	–	白色粒・赤色粒	–	–	底部ヘラケズリ
196	47	35	B	SK18	土器	焙烙	有耳形	(36.0)	(28.0)	7.6	–	口縁小～底部1/4	ロクロ成形	ー	–	白色粒・黒色粒・金色雲母	–	–	**体部表面に複数の指頭痕あり**
201	47	35	B	SK19	磁器	中碗	–	10.0	–	5.2	–	口縁1/4	ロクロ成形	透明釉	染付・手描き(立湯？)	–	肥前系	–	捻花文か 外面の広範囲に煤付着(被熱によるものか)

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）5

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
202	47	35	B	SK19	陶器	鉢	–	(15.8)	–	(3.8)	–	口縁1/8	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	–	–
203	47	35	B	SK28	土器	灯明皿	無高台平形	5.7	3.6	1.7	–	ほぼ完形	ロクロ成形	–	–	長石・金色雲母	–	–	煤付着　底部回転糸切り
204	47	35	B	遺構外	磁器	**薄手酒呑**	端反形	(4.6)	–	(2.5)	–	口縁1/4～体部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃	19C～	–
205	47	35	B	遺構外	磁器	中皿	丸形	(13.6)	(8.0)	3.1	–	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付・コンニャク印刑・墨弾き技法	–	肥前系	18C	外面に唐草、見込みにコンニャク印刑の五弁花　底部に崩した「太明年製」銘　漆継ぎ　高台部に砂付着
206	47	35	B	遺構外	磁器	碗蓋	–	(10.4)	5.7	3.0	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前	18C中葉～	外面に草花文、内面に花文、広東碗の蓋か
208	48	36	C	SK21	磁器	碗	丸碗形	–	(4.0)	(3.7)	–	体部小～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	–	–	肥前	18C前葉～19C初頭	くらわんか碗　外面に雪輪梅樹文　底部に崩した「太明年製」銘　高台部に砂付着
209	48	36	C	SK21	磁器	碗	–	–	4.0	(2.9)	–	底部	ロクロ成形	透明釉	–	–	肥前系	17C中葉	高台に砂付着　高台無釉製品
210	48	36	C	SK23	磁器	小碗	筒形碗形	(8.0)	–	(5.1)	–	口縁1/6	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	筒形碗　口縁内面に四方欄　青磁染付か　補修している
211	48	36	C	SK23	陶器	壺体	口縁折縁形	–	–	(10.0)	–	口縁破片	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	19C前葉	
212	48	36	C	SK26	磁器	中碗	丸碗形	(9.8)	4.2	5.2	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頭	くらわんか碗　外面に雪輪梅樹文　底部に崩した「太明年製」銘　高台に砂付着
213	48	36	C	SK26	土器	灯明皿	無高台平形	(8.8)	(7.0)	1.8	–	口縁小～底部1/4	ロクロ成形	–	–	長石・石英・赤色粒・金色雲母・黒色雲母	–	–	底部回転ヘラケズリ　灯芯痕あり
216	49	36	C	SK36	磁器	碗	丸碗形	–	(4.0)	(5.1)	–	体部小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頭	くらわんか碗　外面に雪輪梅樹文　畳付無釉
217	49	36	C	SK36	磁器	香炉(段重か)	–	(13.0)	–	(4.2)	–	口縁破片	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	–	外面に草花文　焼継あり　口縁端部と内面無釉
218	49	36	C	SK36	陶器	中壺	–	(9.0)	–	(10.8)	–	口縁1/4～体部1/3	ロクロ成形	鉄釉	–	–	–	–	–
219	49	36	C	SK36	陶器	土瓶	–	–	–	(5.2)	–	口縁小～注ぎ口	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒・黒色粒	–	18C後葉～19C中葉	鉄砲口
220	49	36	C	SK36	土器	灯明皿	–	9.5	(5.7)	2.2	–	口縁2/3～底部1/3	ロクロ成形	–	–	白色粒	–	–	口縁部に意図的な打ち欠き　口縁内面に油煙付着　外面に煤付着
221	49	36	C	SK36	土器	灯明皿	–	(10.4)	(6.6)	2.8	–	口縁2/3～底部一部欠損	ロクロ成形	–	–	白色粒・金色雲母	–	–	底部回転糸切り　全面に煤付着
222	49	36	C	SK36	土製品	碁石	–	1.9	2.0	0.5	–	完形	–	–	–	–	–	–	黒石
225	49	36	C	SK42	陶器	鉢	–	–	–	(3.9)	–	口縁小	ロクロ成形	透明釉	染付	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	–	貫入あり　陶胎染付
226	49	36	C	SK42	陶器	鉢	–	–	(8.2)	(2.5)	–	底部1/3	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	–	見込みに目跡あり　底部回転ヘラ切り
228	49	36	C	SK47	陶器	壺体	–	–	(15.8)	(7.8)	–	体部小～底部1/4	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	–	底部回転糸切り
229	50	37	C	SK51	磁器	中碗	丸碗形	(10.6)	(4.4)	5.5	–	口縁小～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～中葉	くらわんか碗　蛇の目釉剥ぎ　高台部に砂付着
239	51	38	C	Pit30	陶器	片口	口縁切込平形	(14.8)	–	(5.0)	(14.8)	口縁1/8	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	–	–
241	51	38	C	SD3	陶器	灯明受皿	–	(11.4)	(5.0)	2.1	(6.8)	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形	鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	19C代か	外面と受部に目跡あり
242	51	38	C	SD4	磁器	中碗	端反碗形	(10.0)	–	3.4	–	口縁1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃	19C～	外面に文様(松か笹か)
243	51	38	C	SD4	磁器	瓶	端反らっきょう形	3.0	–	(5.5)	–	口縁～頸部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	–
244	51	38	C	SD4	磁器	瓶	らっきょう形	–	4.8	(7.5)	–	体部1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉	外面に若松文　高台部に砂付着　畳付無釉、内面無釉

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）6

報告番号	牌図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉推定値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
247	52	38	C	SD5	磁器	中碗	丸碗形	(10.7)	4.4	5.0	–	口縁1/2 底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前期～19C初頭	くらわんが碗　外面に梅文 見込みに蛇の目釉剥ぎ　高台部に砂付着
248	52	38	C	SD5	磁器	小碗	小丸碗形か	(8.6)	–	(3.0)	–	口縁1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	外面に雪輪文、口縁内面に四方襷
249	52	38	C	SD5	陶器	中碗	**端反形**	(9.4)	–	(4.6)	–	口縁1/4～ 体部1/4	ロクロ成形	灰釉	–	黒色粒	京後楽系	18C中葉～19C中葉	貫入あり
250	52	38	C	SD5	磁器	中碗	腰折形	(10.4)	(4.6)	5.8	–	体部小～ 底部1/2	ロクロ成形	青磁釉	–	–	肥前系	18C代か	せんじ　見込みに線彫あり(茶筅擦りの痕跡) 畳付無釉
251	52	38	C	SD5	陶器	土瓶	–	–	–	5.4	–	注口部	–	鉄釉	–	–	–	18C中葉～後葉	–
252	52	38	C	SD5	土器	焙烙	–	(37.0)	(36.0)	5.1	–	口縁～底部 破片	ロクロ成形	–	–	白色粒・赤色粒・ 金色雲母	–	–	外面に煤付着
291	55	40	C	SS5	磁器	碗	小丸碗形	–	(3.2)	(2.5)	–	底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	外面に梅文、見込みに手描きの五弁花文
292	55	40	C	SS5	陶器	灯明受皿	–	8.8	(5.0)	1.4	(6.4)	口縁1/4～ 底部1/4	ロクロ成形	鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	–	外面に目跡あり　内面に煤付着
293	55	40	C	SS5	陶器	鉢	片口か	–	(8.0)	(5.3)	–	体部小～ 底部1/4	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	–	–
298	55	40	C	SS6	磁器	碗蓋	–	(9.2)	(4.0)	3.0	–	つまみ1/4 ～	ロクロ成形	透明釉・ 青磁染付	–	–	肥前系	18C中葉～後葉	内面に墓草文か　つまみ部無釉
299	55	40	C	SS6	陶器	**小坏**	丸形	6.6	(3.0)	3.9	–	一部欠損	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒	瀬戸美濃系か	–	口縁外面に1ヶ所痕須を落とす
300	55	40	C	SS6	陶器	中碗	丸碗形	8.8	3.8	5.1	–	ほぼ完形	ロクロ成形	灰釉	鉄絵	白色粒	京後楽系か	18C中葉～19C前葉	高台部無釉
301	56	41	C	遺構外	磁器	小碗	丸碗形	8.8	4.0	4.5	–	口縁1/2～ 底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前期～19C初頭	くらわんが碗　外面に花唐草文 高台畳付無釉　高台外側に重ね焼き痕あり
302	56	41	C	遺構外	磁器	中皿	端反形	(14.4)	(8.0)	3.4	–	口縁1/4～ 底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉か	見込みに花唐草文、外面に唐草文　口縁部輪花形 蛇の目凹形高台　高台高がやや高い
303	56	41	C	遺構外	磁器	小皿	丸形	(10.0)	(5.4)	2.9	–	口縁1/2～ 底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C か	見込みに文(雪輪・竹・梅か)、外面に唐草文 高台部砂付着　畳付無釉
304	56	41	C	遺構外	磁器	大皿	–	26.3	17.0	5.1	–	口縁3/4～ 底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	17C後葉～18C初頭か	見込みに牡丹、外面に雲文　底部に「太明成化年製」銘　高台内に目跡5ヶ所あり　口縁部輪花形
305	57	41	C	遺構外	磁器	中碗	らっきょう形	–	–	(10.7)	–	頸部1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉	鎬唐草文
306	57	41	C	遺構外	磁器	小碗	端反らっきょう形	2.0	2.7	5.8	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C	笹・梅文
307	57	41	C	遺構外	磁器	紅猪口	丸形	2.2	1.0	1.0	–	完形	ロクロ成形	透明釉	–	–	–	–	–
308	57	41	C	遺構外	陶器	碗	ミニチュア	2.1	1.0	1.1	–	完形	型押し成形	–	–	–	–	–	外面に黄色顔料付着　被熱している
309	57	41	C	遺構外	磁器	合子(蓋受付)	–	4.6	4.8	1.7	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	–	–	肥前系	–	蓋の受け部と底面は無釉
310	57	41	C	遺構外	磁器	戸車	–	5.1	5.0	1.1	–	完形	–	透明釉	–	黒色粒	–	–	–
311	57	41	C	遺構外	陶器	小碗	腰折形	(8.6)	3.3	4.5	–	口縁1/3～ 底部1/2	ロクロ成形	灰釉	手描き・鉄絵・上絵付	–	京後楽系	18C前期～中葉	せんじ　外面に雪輪文　貫入れあり　見込みに目跡2ヶ所あり(目跡を中心に梅花形が見える)
312	57	41	C	遺構外	陶器	中碗	ロクロ挽骨形	9.7	4.1	6.4	–	口縁1/4～底 部	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	18C中葉～19C前葉か	体部中央に複数の押圧痕と二条の沈線　鐵釉底状
313	57	41	C	遺構外	陶器	急須	–	7.8 8.8	4.0 9.0	(0.9) 9.4	14.9	つまみ欠損 口縁1/4～ 底部	ロクロ成形	灰釉	箆刻・押印模様	–	–	–	蓋・体部に笹の葉の箆刻　持ち手・注ぎ口は竹の形　体部下位に押印模様　貫入あり　体部背面に刻書あり
314	57	41	C	遺構外	陶器	鉢	手水鉢	26.2	(17.0)	15.9	–	口縁3/4～ 底部1/4	ロクロ成形	灰釉・緑釉・志野釉	–	–	瀬戸美濃系	19C前期～中葉	見込みに目跡1ヶ所あり　貫入あり　須恵器か 瀬戸市西笠町高松窯円窯出土資料と同型　高台内に鐵釉を刷毛塗り、体部に灰釉を鐵釉後にフノフノ釉・上野釉・長須釉を交互に流し掛ける

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）7

報告番号	神図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
315	57	41	C	遺構外	瓦	–	–	(18.6)	(13.6)	(6.7)	–	–	–	–	–	黒色粒・白色粒	–	–	「○米」の陰刻　背面に把手があり、束ねた針金が巻き付く
316	57	41	C	遺構外	陶器	甕	ぺこかん形	–	–	(5.3)	–	破片	–	鉄釉	–	–	備前	–	布袋徳利
317	57	41	C	遺構外	ガラス製品	瓶	–	1.4	1.4	3.5	–	体部一部欠損	–	–	–	–	–	–	–
318	57	41	C	遺構外	土製品	碁石	–	2.0	1.9	0.6	–	完形	–	–	–	–	–	–	黒石
362	59	43	D	SK71	磁器	小坏	端反形	6.3	2.9	4.3	–	ほぼ完形	ロクロ成形	青磁釉か	色絵付　青磁染付	–	瀬戸美濃系	幕末～明治か	外面絵付け春菊か　背面文字あり 底面に異体字銘あり
363	59	43	D	SK71	磁器	中碗	平碗形	(11.4)	4.0	4.5	–	口縁1/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	近代	畳付無釉　外面に「長唯足知」
364	59	43	D	SK71	磁器	中碗	平碗形	(11.4)	(4.0)	4.6	–	口縁1/2～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	近代	畳付無釉　外面に「長唯足知」
365	59	43	D	SK71	磁器	小皿	丸形	(10.4)	5.6	2.0	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	近代	見込み・外面に雲芝文　底部に異体字銘 蛇籠の模倣
366	59	43	D	SK71	磁器	小皿	丸形	10.5	6.7	2.0	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	瀬戸美濃系	近代	見込み・外面に雲芝文　草徳鎬の模倣か
367	59	43	D	SK71	磁器	中皿	丸形	13.6	6.8	2.6	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付(酸化コバルト)	–	瀬戸美濃系	近代	見込みに描き環状松竹梅・斜め格子・梅の葉か 外面に波底寿文　蛇の目凹形高台(高台高が高いタイプ)　口縁部輪花状
368	59	43	D	SK71	磁器	皿	不整方形	–	–	2.0	–	口縁小～底部小	型打成形	透明釉	染付・面花	–	瀬戸美濃系	19C中葉	–
369	59	43	D	SK71	陶器	片口か	–	(16.0)	6.6	6.1	–	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	灰釉	–	赤色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	–	見込みに目跡あり
372	60	43	D	SK73	磁器	紅猪口	菊花形	4.4	1.0	1.3	–	完形	型打成形	透明釉	–	–	肥前系	18C後葉～19C初頭か	–
374	60	43	D	SK74	陶器	灯明受皿	油溜切立状	7.4	4.0	1.3	5.0	ほぼ完形	ロクロ成形	鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	18C後葉～19C中葉	環状痕あり
375	60	43	D	SK76	陶器	中碗	端反形	(9.0)	–	(5.0)	–	口縁小～体部1/4	ロクロ成形	透明釉	三彩	–	京焼楽系	–	外面に山水文　胴入あり
376	60	43	D	SK77	陶器	中碗	丸碗形	(10.4)	(4.8)	7.5	–	口縁1/3～底部1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C前葉	外面に唐草文　陶胎染付　高台畳付無釉
377	60	43	D	SK78	土器	灯明受皿	–	8.6	9.2	1.4	–	口縁1/3～底部1/3	ロクロ成形	–	–	–	–	–	底部回転ヘラケズリ　目跡あり 漬物器のような煮賀の焼成
379	60	43	D	SK79	陶器	香炉	–	(10.4)	–	4.0	–	口縁1/4～体部1/4	ロクロ成形	鉄釉・灰釉	–	白色粒・黒色粒	–	–	–
380	60	43	D	SK81	磁器	小碗	丸碗形	(7.6)	(2.6)	3.9	–	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	–
381	60	43	D	SK81	磁器	小皿	丸形	(10.2)	5.2	2.8	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付・コンニャク印判	–	肥前系	17C中葉～18C	見込みにコンニャク印利の菊文か　外面に折れ松文　胴入あり　畳付無釉　口縁輪花形
382	60	43	D	SK81	磁器	小皿	丸形	(13.8)	(7.6)	2.7	–	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C前葉	見込みに斜め格子文、蛇の目状釉剥ぎ 高台部砂付着
383	60	43	D	SK81	陶器	小碗	筒形碗形	8.0	(4.6)	6.4	–	口縁3/4～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉・鐵釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	18C中葉か	–
384	60	43	D	SK81	陶器	香炉	有三足半筒形	10.1	7.7	6.7	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	灰釉	陽刻	白色粒	瀬戸美濃系	18C中葉	体部に陽刻の草木文様
385	61	43	D	SK81	土器	火鉢	口縁内肥厚形	26.8	25.9	10.5	–	口縁3/4～底部3/4	ロクロ成形	–	–	白色粒	–	–	内面に煤付着　脚部二ヶ所遺存
395	62	44	D	SK84	磁器	小碗	小丸碗形	(8.5)	(3.5)	5.5	–	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	見込みに染付の草配か　外面に山水文か
396	62	44	D	SK84	磁器	小碗	筒形碗形	6.6	3.4	5.1	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	見込みに手描きの五弁花文 外面に水仙文　畳付無釉
397	62	44	D	SK84	磁器	皿	–	–	(6.8)	(3.4)	–	体部小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉	見込みに草花文 蛇の目凹形高台(高台高が高いタイプ)

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）8

報告番号	縮図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉推存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
398	62	44	D	SK84	磁器	鉢	匂平形	(16.4)	7.6	6.5	–	口縁1/5～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉か	見込み・外面に竹・蜀文　畳付無釉　貫入あり
399	62	44	D	SK84	陶器	灯明皿	無高台平形	(11.6)	4.2	2.4	–	口縁～胴欠損	ロクロ成形	灰釉	–	–	京後楽系	19C前葉～中葉	底部回転ヘラケズリ　口縁内部に菊花文の貼花　内面に少し目2ヶ所、目跡3ヶ所あり　貫入あり
400	62	44	D	SK84	陶器	瓶	瓶子丸耳形	(8.2)	–	(7.0)	–	口縁～胴部	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	18C中葉～19C初頭	–
401	62	44	D	SK84	陶器	仏花瓶	瓶子丸耳形	–	7.2	(9.3)	–	体部～底部	ロクロ成形	灰釉・鉄釉	–	–	瀬戸美濃系	18C中葉～19C初頭	底部回転糸切り痕
402	62	44	D	SK84	陶器	火入れ	筒形	(8.6)	10.6	7.9	–	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	灰釉	鉄絵	–	–	–	外面に雷章文(胴部か)　口縁部に鉛打痕あり　見込みに蛇の目状釉剥ぎ(目跡か)
403	62	44	D	SK84	陶器	植木鉢	碗縁植形	(11.4)	(6.8)	7.6	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	灰釉	–	黒色粒	瀬戸美濃系	18C後葉～	高台に半円状の抉りあり
404	62	44	D	SK84	陶器	壺	–	(7.0)	3.6	2.0	1.3	口縁部小～底部	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	–	–	底部回転糸切り痕　酒を入れた徳の徳か
407	63	44	D	SK87	陶器	中碗	輪鍵形	(10.6)	3.8	6.2	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	長石釉	–	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系か	–	–
408	63	44	D	SK91	陶器	中碗	天目茶碗形	(11.8)	4.6	6.8	–	口縁1/4～底部3/4	ロクロ成形	鉄釉	–	黒色粒	瀬戸美濃系	17C後葉～18C前葉	回転ヘラケズリ痕あり
409	63	45	D	SK94	陶器	中碗	丸碗形	(11.8)	–	(6.8)	–	口縁小～体部1/4	ロクロ成形	鉄釉・ウノフ釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	17C後葉～18C中葉	ウノフ　尾呂茶碗
410	63	45	D	SK94	土器	焙烙	–	(30.0)	(28.0)	5.3	–	口縁1/8～底部小	ロクロ成形	–	–	赤色粒・白色粒・金色雲母	–	–	外面に煤付着
438	64	46	D	SK95	陶器	象嵌	–	4.5	2.2	2.0	1.2	完形	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	–	煤付着　横穴芯立　瀬戸市緑塚山西窯に同形がみられる
439	64	46	D	SK95	陶器	土瓶	–	(7.0)	–	(4.4)	–	口縁小～胴部1/8	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒・黒色粒	–	–	–
440	64	46	D	SK95	不明	かんざし か	–	13.3	2.1	0.7	–	ほぼ完形	–	鉄釉	–	–	–	–	–
467	65	47	D	SK96A	土器	鍋	–	(65.0)	26.3	47.4	–	口縁1/3～底部	ロクロ成形	–	–	赤色粒・白色粒・金色雲母	–	–	内外面ナデ　口縁端部が下字状を呈す
470	65	47	D	SK96B	磁器	小碗	筒形碗形	(6.6)	–	4.4	–	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頭	内面に四方欅　外面に鼓紋ぎ文か
471	65	47	D	SK96B	磁器	中碗	丸碗形	(11.0)	–	(4.0)	–	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	不明(18C代か)	内面に四方欅　外面に雷輪文
472	65	47	D	SK96B	磁器	中碗	丸碗形	–	4.1	(2.2)	–	口縁小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C か	見込みに昆虫文
474	65	47	D	SK97	磁器	小坏	端反形	7.3	3.9	5.3	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	17C末～18C中葉か	外面に梅・蜀文、背面に雷文　畳付無釉
475	65	47	D	SK97	磁器	中碗	丸碗形	11.4	4.5	6.7	–	口縁2/3～底部	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頭	くらわんか碗　外面に松・草花文　補熟痕あり
476	65	47	D	SK97	陶器	中碗	輪鍵形	(10.8)	(4.4)	7.5	–	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	刷毛目	白色粒・黒色粒	肥前か	17C末～18C前半	高台部砂付着　刷毛目跡
477	65	47	D	SK97	陶器	中碗	兵器手碗形	(11.2)	4.6	8.2	–	口縁1/4～底部	ロクロ成形	灰釉	–	黒色粒・白色粒	肥前系	17C中葉～18C中葉か	高台畳付無釉　貫入あり　見込みに線痕あり　肥前系京焼風陶器
478	65	47	D	SK97	陶器	中碗	兵器手碗形	(11.2)	5.1	8.1	–	口縁小～底部	ロクロ成形	灰釉	–	黒色粒・白色粒	肥前系	17C中葉～18C中葉か	高台畳付無釉　貫入あり　見込みに線痕あり　肥前系京焼風陶器
479	65	47	D	SK97	陶器	中碗	平碗形	10.4	4.2	4.9	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系または土佐か	–	貫入あり　緑釉あり　器の内外にウノフあり
480	66	47	D	SK98	磁器	瓶	らっきょう形	1.4	–	(6.7)	–	口縁～胴部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C後葉～19C中葉	鍋唐草文
481	66	47	D	SK98	磁器	小皿	–	(10.4)	(6.4)	1.9	–	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	見込みに家屋・明掛け舟　外面に唐草文　畳付無釉
482	66	47	D	SK98	陶器	中碗	丸碗形	–	4.4	(3.5)	–	体部小～底部	ロクロ成形	灰釉	–	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系か	–	–

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）9

掲告番号	神図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
493	67	48	D	SK100	磁器	小碗	筒形碗形	(7.4)	–	(2.9)	–	口縁1/4	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	18C中葉～19C初頃	外面に菊花文、地文は斜め格子(網目文)
494	67	48	D	SK100	陶器	灰吹	開口形	–	6.5	(4.4)	–	体部破片～底部	ロクロ成形	灰釉	鉄絵	–	–	–	高台部飾り削り
495	67	48	D	SK100	土器	灯明皿	–	(9.8)	(5.2)	2.1	–	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	–	–	白色粒・金色雲母	–	–	口縁に煤付着
516	68	49	D	SK101	磁器	中碗	丸碗形	10.0	4.0	4.9	–	体部一部欠損	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頃	くらわんか碗　外面に雪輪梅樹文 底部に崩した「大明年製」銘　高台部砂付着
517	68	49	D	SK101	磁器	中碗	広東碗形	11.4	6.1	6.8	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C末～	見込みに白鷺、外面に丝花文　畳付無釉
518	68	49	D	SK101	磁器	灰吹か	筒形	(4.8)	4.4	7.8	–	口縁1/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	外面に樹文　口縁端面に縦打痕
519	68	49	D	SK101	陶器	土瓶	算盤玉形	(8.6)	9.4	11.8	(22.1)	口縁2/3～底部	ロクロ成形	灰釉	–	–	–	18C後葉	全体の半分近く分離が深けている、被熱か 内面に釉の角び散り　注口は鉄砲口　三脚
520	68	49	D	SK101	瓦	桟瓦	–	(16.3)	(14.7)	2.3	–	–	型作り成形	–	–	白色粒・金色雲母・赤色粒	–	–	表面に「K」字状ハケ目　生焼け
522	68	49	D	SK102	磁器	小碗	端反碗形	9.4	3.6	4.7	–	一部欠損	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	19C前葉	見込みに花文、外面に童子文 口縁内面に蝶れた雷文か　畳付無釉
523	68	49	D	SK102	磁器	鉢物	半筒形	(12.0)	(6.6)	6.5	–	口縁1/4～底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	17C末～18C後葉か	外面に蜀葵文か　口縁内面無釉　畳付無釉
524	68	49	D	SK102	陶器	小碗	端反形	(8.8)	(3.1)	–	–	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	灰釉	–	–	京焼系か 瀬戸美濃系	18C中葉～19C中葉	貫入あり　高台無釉
525	68	49	D	SK102	陶器	鉢	–	8.3	5.4	3.5	1.5	一部欠損	ロクロ成形	灰釉か	–	–	–	–	土瓶蒸
526	68	49	D	SK102	陶器	土瓶	算盤玉形	7.3	–	(12.1)	(20.0)	口縁～体部	ロクロ成形	灰釉	下絵付(手描き鉄絵)	–	–	18C後葉～19C前葉か	鉄絵は朝顔か　貫入あり　注口は鉄砲口
527	68	49	D	SK102	陶器	壺	–	(58.0)	–	(11.5)	–	口縁1/3	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒・赤色粒	–	–	内面に尿石付着　口縁部上面に被熱
532	69	50	D	SK103A	陶器	灯明受皿	–	(7.8)	(3.6)	1.8	(5.6)	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉	–	黒色粒	瀬戸美濃系	–	回転ヘラケズリ　目跡あり
549	69	50	D	SK103B	磁器	鉢物	–	(11.6)	–	(4.0)	–	口縁1/4～体部破片	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	不明	内面の口縁端部は無釉
553	70	51	D	SK104	磁器	碗	丸碗形	–	4.2	(2.4)	–	底部	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頃	くらわんか碗　外面に雪輪梅樹文 底部に崩した「大明年製」銘
554	70	51	D	SK104	陶器	片口	口縁切込・丸形	(18.0)	10.4	(11.6)	(21.2)	口縁小～底部小	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒・赤色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	18C前葉	底部回転ヘラケズリ 瀬戸市赤津町赤津C窯出土資料と同型体部上方の0.5cmF による凹凸・鉄釉)
555	70	51	D	SK104	土器	火鉢類	–	–	–	(8.7)	–	–	–	–	–	白色粒・赤色粒・黒色粒・金色雲母	–	–	全体にナデあり　内外面に煤付着
557	71	51	D	SK106	磁器	薄手酒呑	端反形	5.3	2.5	1.3	–	口縁小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系か	19C前葉～中葉	見込みに草花・流水文 焼縫あり　高台内に焼縫印
558	71	51	D	SK106	磁器	香炉か	–	–	(7.4)	(2.6)	–	体部小～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C か	蛇の目凹形高台　見込み無釉
559	71	51	D	SK108	磁器	中碗	丸碗形	10.3	3.8	5.4	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	18C前葉～19C初頃	くらわんか碗　外面に梅文 高台に砂付着　蛇の目状釉剥ぎ
560	71	51	D	SK109	磁器	鉢物蓋	–	12.8	11.5	3.2	–	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	–	外面に鹿の染付　口縁端部無釉
562	71	51	D	SK110	土器	皿	–	(8.7)	4.8	1.5	–	口縁1/8～底部	ロクロ成形	–	–	白色粒・赤色粒	–	–	底部ヘラケズリ
563	71	51	D	SK111	磁器	薄手酒呑	端反形	(6.6)	(2.9)	2.9	–	口縁1/3～底部1/3	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系か	19C前葉～中葉	見込みに軍配の染付
564	71	51	D	SK111	磁器	小坏	端反形	(7.2)	–	(4.0)	–	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	不明	外面に蜀葵文か
565	71	51	D	SK111	磁器	中碗	端反碗形か	–	(4.6)	(5.0)	–	体部破片～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	19C前葉～中葉	見込みに染付あり 焼縫痕、焼縫印あり

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）10

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〔　〕推定値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
566	71	51	D	SK111	磁器	碗	－	(10.8)	(5.6)	2.7	－	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C後葉～19C中葉	広東碗の模か　外面に観文
567	71	51	D	SK111	陶器	灯明皿	平形	(10.0)	(4.4)	2.1	－	口縁1/4～底部1/3	ロクロ成形	鉄釉	－	白色砂礫1ヶ	瀬戸美濃系	－	見込みに環状に目跡　底部ヘラ調整
568	71	51	D	SK111	土器	灯明受皿	－	(9.5)	(4.0)	1.9	－	口縁1/3～底部3/4	ロクロ成形	－	－	白色粒	－	－	調整器具の硬い痕成　口縁部煤付着　底部回転ヘラケズリ
569	71	51	D	SK111	陶器	皿	輪禿皿	－	(8.2)	(3.4)	－	体部小～底部1/2	ロクロ成形	灰釉	－	－	瀬戸美濃系	－	蛇の目状釉剥ぎ
570	71	51	D	SK111	土器	火鉢類	－	(26.0)	(24.6)	5.7	－	口縁1/8～底部1/8	ロクロ成形	－	－	白色粒・金色雲母	－	－	内面に煤付着
574	72	52	D	SK112	磁器	大皿	端反形	22.3	13.4	2.5	－	口縁1/2～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C中葉～19C中葉か	見込みに松竹梅円形文　底部に目跡あり
577	73	52	D	SK114	陶器	水注	－	(2.6)	(4.4)	7.4	－	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉	－	白色粒・黒色粒	－	－	－
578	73	52	D	SK114	土器	焙烙	内耳鍋	－	－	6.2	－	口縁小～底部小	ロクロ成形	－	－	白色粒・金色雲母	－	－	内外面に煤付着
588	74	53	D	SK116	磁器	中碗	半球形	(10.8)	4.3	5.4	－	口縁1/4～底部	ロクロ成形	青磁釉	染付・コンニャク印刊	－	肥前系	18C中葉～後葉	見込みに五弁花　唐草文崩れ　畳付無釉
589	74	53	D	SK116	陶器	瓶缺	口縁折縁形	(31.0)	－	(11.0)	－	口縁1/3～体部小	ロクロ成形	鉄釉	－	白色粒	瀬戸美濃系	18C後葉	
591	74	53	D	SK118	磁器	中碗	丸碗形	(9.6)	4.4	5.4	－	口縁1/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C前葉～後葉	くらわんか碗　外面に梅樹文　底部に銘した「太明年製」銘　高台部砂付着
592	74	53	D	SK119	土器	香炉	有三足半筒形	(10.6)	10.2	6.3	－	口縁1/2～底部	ロクロ成形	－	－	白色粒・赤色粒・金色雲母	－	－	底部と三脚の内のへこみ　底部は「反」か　口縁部と見込み中央に薄く磨かけ痕しており、灰吹・火入の類か　口縁部に鉄打痕
600	74	53	D	SK121	陶器	中碗	腰張形	(9.0)	5.1	6.6	－	口縁1/2～底部	ロクロ成形	灰釉・鉄釉	－	白色粒	瀬戸美濃系	18C前葉～中葉	腰張碗　体部中位に沈線三条
603	75	54	D	SD13	陶器	中碗	天目茶碗形か	(12.0)	－	4.2	－	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	黒釉	－	－	瀬戸美濃系	－	－
607	75	54	D	SS10	磁器	中碗	筒形碗形	(8.6)	(4.8)	7.1	－	口縁1/2～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C中葉～19C初頭	見込みに宝珠・葉、内面に四方厚、外面に七宝・菊花・斜め格子文　二重角枠内に「清福」　畳付無釉
609	75	54	D	SS11	磁器	中碗	丸碗形	(10.4)	(3.8)	5.0	－	口縁1/4～底部	ロクロ成形	透明釉	コンニャク印刊・染付	－	肥前系	17C末～18C	くらわんか碗　外面に梅の葉(紅葉)　見込みに蛇の目状釉剥ぎ　高台部砂付着
610	75	54	D	SS11	陶器	鬢盥	長楕円形	(3.6)	(8.0)	3.9	－	口縁1/4～底部2/3	板作り成形	灰釉	－	白色粒	瀬戸美濃系	18C か	外面に細縄による崩れた文様　貫入あり
611	75	54	D	SS12	磁器	小碗	端反碗形	8.8	－	(4.1)	－	口縁～体部	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	19C前葉～中葉	外面に崩れた梅文散らしか
612	75	54	D	SS12	磁器	猪口	桶形	(7.4)	(5.0)	5.8	－	口縁1/4～底部1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系	18C代か	外面に若松文
613	75	54	D	SS12	陶器	片口	－	－	－	(7.4)	－	**注口1/2～体部小**	ロクロ成形	灰釉	－	白色粒・黒色粒	瀬戸美濃系	－	－
614	76	55	D	遺構外	磁器	薄手酒坏	平形鉢高台	(6.3)	2.1	2.3	－	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	18C中葉	外面に梅樹文　底部に「山田」・青林字銘
615	76	55	D	遺構外	磁器	小坏	端反形	5.6	2.2	2.8	－	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	近代	
616	76	55	D	遺構外	磁器	小坏	－	5.4	1.9	1.2	－	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	上絵付・線描	－	－	近代	見込みに梅の上絵付、銘「九〇支店」　底部に漆塗状に焼り込み
617	76	55	D	遺構外	磁器	小坏	－	5.1	2.3	3.3	－	完形	ロクロ成形	透明釉	染付	－	－	近代	高台に孔2ヶあり　内外面被熱
618	76	55	D	遺構外	磁器	小坏か	－	(6.6)	3.4	3.0	－	口縁1/5～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	－	肥前系か	近代、19C後葉～	見込みに松・家屋・桃樹・詩歌、外面に環状文　口縁部内湾
619	76	55	D	遺構外	磁器	小碗	蕎物	6.9	3.8	3.4	－	完形	ロクロ成形	透明釉	染付	－	瀬戸美濃系	近代	外面に寿字・福字　ゆがみあり　蕎物底一部に胎土付着
620	76	55	D	遺構外	磁器	小碗	筒丸形碗形	7.6	4.0	6.3	－	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	－	瀬戸美濃系	19C中葉	外面に草花・蝶　挽縁ぎ崩れ　挽縁ぎのあり「コリ穴」

第２表　遺物観察表（陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品）11

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種別	器種	形状	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	D	部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
621	76	55	D	遺構外	磁器	中碗	望料碗形	(10.6)	(4.6)	5.7	–	口縁1/3～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	関西系か	19C中葉	見込みに文字「拝裏年製」　内面に七宝繋ぎ、外面に風景文・蓮弁文(帆掛け舟・鳥)　高台がハの字状に開く　高台畳付無釉
622	76	55	D	遺構外	磁器	中碗	丸碗形	(10.8)	4.4	5.5	–	口縁1/5～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	瀬戸美濃系	近代	見込みに丸窓に風景文(山・鳥・八ツ橋か・網か)　外面に梅子文か　高台内「甲府上連雀町二秋山食料品店□電一一〇番」　畳付無釉
623	76	55	D	遺構外	磁器	小皿	丸形	(9.4)	4.8	2.3	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	見込みに河骨・流水文　口縁部輪花形　畳付無釉
624	76	55	D	遺構外	磁器	小皿	端反形	9.7	5.2	2.3	–	口縁3/4～底部	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	–	肥前系	–	見込みに草花文、外面に折れ松文　口縁玉縁形
625	76	55	D	遺構外	磁器	小皿	丸形	13.2	7.7	3.5	–	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	手描き染付・コンニャク印刷	–	肥前系	17C末～18C	見込みに五弁花、内面に葡萄文か、外面に唐草文　高台内に枠なし漏斗　高台部砂付着
626	76	55	D	遺構外	磁器	製油壺	胴丸形	2.9	4.7	8.7	–	口縁1/2～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	花唐草文　畳付無釉　高台部砂付着
627	76	55	D	遺構外	磁器	薬物壺	–	7.9	6.9	(2.0)	–	天井部～口縁3/4	ロクロ成形	透明釉	染付	–	肥前系	–	菊花・氷裂文
628	76	55	D	遺構外	磁器	薬物壺	–	7.4	6.6	2.5	2.0	完形	ロクロ成形	透明釉	上絵付	–	–	–	紅葉
629	77	55	D	遺構外	磁器	紅猪口	菊花形	2.3	0.8	1.1	–	完形	型押し成形	透明釉	–	–	肥前系か	18C前葉か	外面三方に花文様
630	77	55	D	遺構外	磁器	紅猪口	丸形	2.4	1.0	1.2	–	完形	型押し成形	透明釉	–	–	肥前系か	–	畳付無釉
631	77	55	D	遺構外	磁器	水注か	–	–	3.2	(3.8)	(6.0)	体部破片	ロクロ成形	透明釉	上絵付	–	–	近代	–
632	77	55	D	遺構外	磁器	サイコロ	–	1.6	1.6	1.6	–	完形	–	–	–	–	–	–	–
633	77	55	D	遺構外	陶器	中碗	小杉碗形	(9.2)	(3.8)	5.0	–	口縁1/2～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	–	–	瀬戸美濃系	18C中葉か	貫入あり
634	77	55	D	遺構外	陶器	小碗	筒形碗形	7.3	4.3	5.9	–	ほぼ完形	ロクロ成形	灰釉	手描き下絵付(鉄絵)	–	瀬戸美濃系	18C中葉～後葉か	貫入あり
635	77	55	D	遺構外	陶器	中碗	壺形	–	4.6	5.2	–	口縁小～底部	ロクロ成形	白化粧後透明釉	染付	–	在地か	近代	刻印あり、銘「紳中創業」　上面から見た時に口縁が方形となる器形か
636	77	55	D	遺構外	陶器	中皿	端反形	(13.8)	(7.0)	3.5	–	口縁1/4～底部1/3	ロクロ成形	透明釉	手描き染付	白色粒	瀬戸美濃系	18C後葉～19C中葉	見込みに五弁花・菊花、外面に折れ松か　貫入あり　いわゆる「太白」(太白焼・太白手)
637	77	55	D	遺構外	陶器	灯明受皿	油溝切立状	7.9	3.9	2.1	–	ほぼ完形	ロクロ成形	鉄釉	–	白色粒	瀬戸美濃系	18C前葉～中葉か	内外面に目跡あり　回転ヘラケズリ
638	77	55	D	遺構外	陶器	香炉	有三足半筒形	(9.2)	6.0	5.6	–	口縁1/4～底部	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	18C中葉	見込みに目跡あり　底部に煤付着
639	77	55	D	遺構外	陶器	壺	–	(10.0)	7.4	1.9	3.5	口縁1/3欠損	ロクロ成形	灰釉	–	–	瀬戸美濃系	–	目跡3ヶ所あり　内面無釉
640	77	55	D	遺構外	土器	焼塩壺	浅鉢形	5.2	3.8	5.1	–	完形	ロクロ成形	–	–	白色粒・黒色粒・赤色粒・金色雲母	–	18C後半～	底部回転糸切り後ナデ消し
641	77	55	D	遺構外	土器	火消し壺	–	13.8 11.0	13.5 10.0	2.9 9.6	–	ほぼ完形	ロクロ成形	–	–	金色雲母・白色粒・赤色粒	–	–	口縁内面形　器の内外面と蓋の外面に薄く煤付着　底部回転糸切り
642	77	55	D	遺構外	土製品	人形	大黒天	6.4	5.3	8.8	–	完形	型作り成形	–	–	白色粒	–	–	–
643	77	55	D	遺構外	土製品	碁石	–	1.7	1.7	0.7	–	ほぼ完形	–	–	–	–	–	–	–
646	77	55	D	遺構外	ガラス製品	薬瓶	–	0.9	1.2	4.0	–	ほぼ完形	–	–	–	–	–	–	–

第３表　遺物観察表（木製品）１

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm) （　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	備考
16	36	27	A	SK13A	槽・側板	(24.0)	8.8	1.4	16～23は同一の槽
17	36	27	A	SK13A	槽・側板	(24.5)	4.5	1.5	
18	36	27	A	SK13A	槽・側板	(23.8)	12.0	1.1	
19	36	27	A	SK13A	槽・側板	(29.3)	14.0	1.2	円形の枘あり
20	36	27	A	SK13A	槽・側板	(25.6)	2.6	1.0	
21	36	27	A	SK13A	槽・側板	(24.6)	11.7	1.1	
22	36	27	A	SK13A	槽・側板	(26.5)	9.1	1.1	内面に石灰状の付着物あり
23	36	27	A	SK13A	槽・底板	38.5	(28.6)	2.3	天面に石灰状の付着物あり　裏面に墨書あり
42	37	28	A	SK13B	箸	15.9	0.7	0.5	
43	37	28	A	SK13B	箸	18.0	0.5	0.5	
44	37	28	A	SK13B	漆器蓋	(11.0)	—	〈1.6〉	1/4残存　45とセット 内面に朱漆、外面に黒漆　つまみ内金色文様
45	37	28	A	SK13B	漆器蓋	10.5	4.6	〈2.7〉	3/4残存　44とセット 内面に朱漆、外面に黒漆　つまみ内金色文様
46	37	28	A	SK13B	下駄	(13.2)	〈8.2〉	〈2.8〉	1/2残存　差歯下駄(差歯は欠損) 鼻緒の孔２つ残存
47	37	28	A	SK13B	不明	5.0	1.0	0.9	一部欠損　粗雑道具か　基部に文様あり
48	37	28	A	SK13B	円形部材	5.9	5.8	2.1	中央部に方形の孔あり
49	38	29	A	SK13B	槽・側板	(69.4)	13.6	2.3	49～70は同一の槽
50	38	29	A	SK13B	槽・側板	(71.0)	13.4	2.3	
51	38	29	A	SK13B	槽・側板	(68.0)	13.4	2.4	
52	38	29	A	SK13B	槽・側板	(70.5)	13.0	2.3	
53	38	29	A	SK13B	槽・側板	(68.0)	13.2	2.3	
54	38	29	A	SK13B	槽・側板	(68.4)	13.5	2.5	
55	38	29	A	SK13B	槽・側板	(67.4)	13.7	2.4	
56	38	29	A	SK13B	槽・側板	(67.2)	13.2	2.2	内面に石灰状の付着物あり
57	38	29	A	SK13B	槽・側板	(70.2)	13.4	2.2	内面に石灰状の付着物あり
58	38	29	A	SK13B	槽・側板	(67.2)	13.0	2.5	
59	38	29	A	SK13B	槽・側板	(71.5)	13.7	2.6	円形の枘あり　内面に石灰状の付着物あり
60	38	29	A	SK13B	槽・側板	(74.1)	13.3	2.3	
61	38	29	A	SK13B	槽・側板	(74.5)	13.7	2.4	内面に石灰状の付着物あり
62	38	29	A	SK13B	槽・側板	(72.7)	14.8	2.6	内面に石灰状の付着物あり
63	38	29	A	SK13B	槽・側板	(71.0)	12.8	2.6	内面に石灰状の付着物あり
64	38	29	A	SK13B	槽・側板	(71.4)	13.5	2.4	内面に石灰状の付着物あり
65	38	29	A	SK13B	槽・側板	(69.8)	13.3	2.4	内面に石灰状の付着物あり
66	38	29	A	SK13B	槽・側板	(71.1)	13.6	2.3	内面に石灰状の付着物あり
67	38	29	A	SK13B	槽・側板	(73.5)	13.2	2.4	内面に石灰状の付着物あり
68	38	29	A	SK13B	槽・側板	(72.1)	13.3	2.4	内面に石灰状の付着物あり
69	38	29	A	SK13B	槽・側板	(70.0)	13.3	2.3	内面に石灰状の付着物あり
70	38	29	A	SK13B	槽・底板	84.0	84.0	4.8	
106	42	31	A	SK17	箸	17.4	0.5	0.4	
107	42	31	A	SK17	箸	17.5	0.5	0.4	
108	42	31	A	SK17	箸	17.7	0.7	0.4	
109	42	31	A	SK17	箸	17.3	0.7	0.3	
110	42	31	A	SK17	箸	17.5	0.6	0.3	
111	42	31	A	SK17	箸	20.7	0.5	0.5	
112	42	31	A	SK17	箸	17.6	0.5	0.3	
113	42	31	A	SK17	漆器蓋	(14.0)	5.4	2.8	金箔黒漆
114	42	31	A	SK17	下駄	21.8	6.1	3.3	ほぼ完形　連歯下駄
115	42	31	A	SK17	部材	(26.4)	3.9	3.6	一端部にホゾ穴を二方向に施ず
116	42	31	A	SK17	部材	43.7	4.0	1.7	両端部を上字状に加工
117	42	31	A	SK17	部材	(45.2)	3.8	3.1	一端部にホゾ　一側面に断面コの字状の溝
118	42	31	A	SK17	部材	31.8	3.3	3.1	両端にホゾあり
130	43	32	A	Pit22	槽・底板	30.7	(24.0)	1.3	
187	46	34	A	遺構外	曲物底板	12.5	11.5	0.8	枘杓か　桜皮残存
	46	34			曲物側板	(14.6)	〈8.6〉	—	
197	47	35	B	SK18	箸	(11.7)	0.7	0.4	
232	50	37	C	SK51	樋手	37.0	23.8	24.4	竹管の樋手　上水遺構の末端部か 正面から天面へ L字状につながる孔あり
234	50	37	C	SK61	柳	(4.1)	3.5	0.7	花文模あり
254	52	38	C	SD7	樋	(22.4)	14.8	9.5	板材を釘で口の字状に組んで樋としたもの　実測図は蓋を外した状態を記録　255と接続
255a	52	38	C	SD7	樋	(25.8)	23.1	16.0	丸太彫り貫きの樋　255bは蓋で、釘留めされる 254と接続し、接続部の形状はメス型
255b	52	38	C	SD7	樋蓋	(20.0)	15.6	5.2	255aの樋の蓋 255aと同じ原木から作ったとみられる
256	53	39	C	SD8	部材	14.0	2.0	1.0	樋の中から出土　径1.1cmの円孔2つ
257	53	39	C	SD8	樋	(68.4)	16.9	4.7	丸太彫り貫きの樋　釘留めの蓋あり(実測図は外した状態を記録)　接続部はメス型で258と接続 逆側の端部は樋(259～277)と接続
258	53	39	C	SD8	樋	(30.8)	14.5	11.2	丸太彫り貫きの樋　釘留めの蓋あり(実測図は外した状態を記録)　接続部はオス型で257と接続
259	53	39	C	SD8	槽・側板	(29.2)	11.0	0.7	259～277は同一の槽　257の樋と接続 接続部に窓あり
260	53	39	C	SD8	槽・側板	(41.7)	2.7	0.5	
261	53	39	C	SD8	槽・側板	(28.5)	6.3	0.7	
262	53	39	C	SD8	槽・側板	(30.0)	6.8	0.7	
263	53	39	C	SD8	槽・側板	(29.9)	9.4	0.7	
264	53	39	C	SD8	槽・側板	(28.5)	2.5	0.7	

第３表　遺物観察表（木製品）２

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	備考
265	53	39	C	SD8	桶・側板	(31.2)	10.5	0.7	
266	53	39	C	SD8	桶・側板	(11.0)	4.1	0.6	
267	53	39	C	SD8	桶・側板	(10.1)	6.4	0.7	
268	53	39	C	SD8	桶・側板	(17.8)	4.0	0.5	
269	53	39	C	SD8	桶・側板	(29.7)	8.3	0.6	
270	53	39	C	SD8	桶・側板	(27.5)	5.7	0.7	
271	53	39	C	SD8	桶・側板	(28.0)	3.7	0.7	
272	53	39	C	SD8	桶・側板	(28.8)	5.0	0.7	
273	53	39	C	SD8	桶・側板	(29.0)	5.7	0.5	
274	53	39	C	SD8	桶・側板	(29.8)	6.2	0.6	
275	53	39	C	SD8	桶・側板	(29.0)	2.9	0.5	
276	53	39	C	SD8	桶・側板	(31.3)	10.9	0.7	257の縁と接続　接続部に窓あり
277	53	39	C	SD8	桶・底板	(35.0)	32.0	1.6	
284	54	40	C	SD9	継手	23.4	22.0	19.8	竹管の継手　上水道構の屈曲部の継手 鼎部に水平方向に1字形の孔あり　SD10と接続
285	54	40	C	SD9	部材	(16.7)	2.3	2.0	一端部にホゾ　他方の端部は欠損
286	55	40	C	SD10	継手	34.3	17.3	17.3	竹管の継手　上水道構の末端部の継手か 正面から天面へ1字形の孔あり　SD9と接続
287	55	40	C	SD10	栓	13.0	5.3	5.0	286の継手の水平方向の孔に嵌まっていたもの
391	61	44	D	SK82	漆器器	10.2	－	(3.3)	つまみ欠損　外面黒漆、内面赤漆
405	62	44	D	SK84	桶・側板	(17.1)	3.6	0.9	外面に墨印「西富士」
406	62	44	D	SK84	桶・側板	(17.3)	3.1	0.6	外面に墨印「西富士」
412	63	45	D	SK94	桶・側板	(32.2)	7.2	1.5	412～437は同一の桶
413	63	45	D	SK94	桶・側板	(25.0)	8.0	1.6	
414	63	45	D	SK94	桶・側板	(32.6)	8.0	1.6	内面先端炭化
415	63	45	D	SK94	桶・側板	(28.2)	6.7	1.7	内面先端炭化
416	63	45	D	SK94	桶・側板	(30.3)	7.2	1.8	内面先端炭化
417	63	45	D	SK94	桶・側板	(29.3)	7.7	1.6	外面・内面先端炭化
418	63	45	D	SK94	桶・側板	(21.8)	7.7	1.6	
419	63	45	D	SK94	桶・側板	(36.5)	7.5	1.8	内面先端炭化
420	63	45	D	SK94	桶・側板	(35.3)	7.1	1.7	内面先端炭化
421	63	45	D	SK94	桶・側板	(25.5)	6.8	1.7	
422	63	45	D	SK94	桶・側板	(30.1)	7.8	1.8	内面に石灰状の付着物あり
423	63	45	D	SK94	桶・側板	(35.3)	7.7	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
424	63	45	D	SK94	桶・側板	(31.1)	7.6	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
425	63	45	D	SK94	桶・側板	(33.5)	7.6	1.8	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
426	63	45	D	SK94	桶・側板	(32.9)	7.3	1.5	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
427	63	45	D	SK94	桶・側板	(39.0)	7.3	1.8	内面先端炭化
428	63	45	D	SK94	桶・側板	(35.7)	7.7	1.6	内面先端炭化
429	63	45	D	SK94	桶・側板	(36.2)	7.6	1.6	内面先端炭化
430	63	45	D	SK94	桶・側板	(36.7)	7.1	1.6	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
431	63	45	D	SK94	桶・側板	(37.7)	7.6	1.7	内面先端炭化
432	63	45	D	SK94	桶・側板	(39.2)	7.5	1.6	先端部炭化
433	63	45	D	SK94	桶・側板	(40.3)	8.5	1.6	内面先端炭化
434	63	45	D	SK94	桶・側板	(32.3)	6.9	1.6	内面先端炭化
435	63	45	D	SK94	桶・側板	(30.7)	6.5	1.7	内面先端炭化
436	63	45	D	SK94	桶・側板	(32.2)	7.1	1.7	内面先端炭化
437	63	45	D	SK94	桶・底板	55.2	54.9	2.7	
441	64	46	D	SK95	桶・側板	(33.5)	7.2	1.6	441～466は同一の桶 内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
442	64	46	D	SK95	桶・側板	(37.5)	7.4	1.5	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
443	64	46	D	SK95	桶・側板	(35.3)	7.1	1.5	内面先端炭化
444	64	46	D	SK95	桶・側板	(34.5)	7.8	1.6	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
445	64	46	D	SK95	桶・側板	(34.9)	6.5	1.4	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
446	64	46	D	SK95	桶・側板	(36.0)	7.1	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
447	64	46	D	SK95	桶・側板	(35.8)	6.5	1.4	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
448	64	46	D	SK95	桶・側板	(35.3)	7.0	1.6	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
449	64	46	D	SK95	桶・側板	(36.0)	7.7	1.9	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
450	64	46	D	SK95	桶・側板	(34.5)	7.1	1.9	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
451	64	46	D	SK95	桶・側板	(34.0)	7.2	1.6	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
452	64	46	D	SK95	桶・側板	(33.7)	7.3	1.7	内面先端炭化
453	64	46	D	SK95	桶・側板	(35.3)	7.5	1.5	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
454	64	46	D	SK95	桶・側板	(32.9)	7.2	1.5	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
455	64	46	D	SK95	桶・側板	(31.5)	7.5	1.6	内面先端炭化
456	64	46	D	SK95	桶・側板	(30.0)	7.6	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
457	64	46	D	SK95	桶・側板	(32.3)	7.0	1.5	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
458	64	46	D	SK95	桶・側板	(33.8)	7.1	1.5	内面先端炭化
459	64	46	D	SK95	桶・側板	(30.5)	7.7	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
460	64	46	D	SK95	桶・側板	(31.7)	4.6	1.5	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
461	64	46	D	SK95	桶・側板	(33.5)	7.2	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
462	64	46	D	SK95	桶・側板	(31.4)	7.3	1.6	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
463	64	46	D	SK95	桶・側板	(32.8)	7.7	1.7	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
464	64	46	D	SK95	桶・側板	(32.5)	7.4	1.9	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
465	64	46	D	SK95	桶・側板	(30.5)	7.0	1.8	内面先端炭化　内面に石灰状の付着物あり
466	64	46	D	SK95	桶・底板	55.6	55.0	2.2	
473	65	47	D	SK96B	桶・底板	39.7	38.9	2.3	
483	66	47	D	SK98	箸	18.5	0.6	0.6	
484	66	47	D	SK98	箸	18.5	0.7	0.6	

第３表　遺物観察表（木製品）3

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	備考
485	66	47	D	SK98	箸	17.8	0.4	0.4	
486	66	47	D	SK98	漆器椀	－	5.2	〈5.1〉	内外面黒漆　外面に花井文様　高台内に赤漆の文字
487	66	47	D	SK98	曲物・底板	14.6	(8.8)	1.4	底板の中央部
488	66	47	D	SK98	部材	8.9	2.1	1.1	中央に孔　両端に抉りあり
491	66	47	D	SK99	漆器椀	－	〈4.0〉	〈2.2〉	外面は黒漆の地に赤漆で絵付け、内面は赤漆
496	67	48	D	SK100	植・側板	(28.8)	8.2	1.4	496～515は同一の桶
497	67	48	D	SK100	植・側板	(21.2)	6.3	1.4	内面に石灰状の付着物あり
498	67	48	D	SK100	植・側板	(10.0)	3.3	1.3	
499	67	48	D	SK100	植・側板	(28.5)	6.8	1.2	内面に石灰状の付着物あり
500	67	48	D	SK100	植・側板	(18.5)	4.3	1.1	内面に石灰状の付着物あり
501	67	48	D	SK100	植・側板	(17.7)	7.3	1.5	内面に石灰状の付着物あり
502	67	48	D	SK100	植・側板	(18.3)	9.4	1.2	内面に石灰状の付着物あり
503	67	48	D	SK100	植・側板	(17.7)	6.0	1.1	内面に石灰状の付着物あり
504	67	48	D	SK100	植・側板	(14.0)	9.7	1.2	内面に石灰状の付着物あり
505	67	48	D	SK100	植・側板	(18.1)	9.6	1.3	内面に石灰状の付着物あり
506	67	48	D	SK100	植・側板	(21.0)	7.3	1.3	内面に石灰状の付着物あり
507	67	48	D	SK100	植・側板	(21.2)	7.2	1.1	内面に石灰状の付着物あり
508	67	48	D	SK100	植・側板	(21.8)	12.2	1.1	内面に石灰状の付着物あり
509	67	48	D	SK100	植・側板	(21.7)	5.7	1.2	内面に石灰状の付着物あり
510	67	48	D	SK100	植・側板	(18.9)	8.9	1.1	内面に石灰状の付着物あり
511	67	48	D	SK100	植・側板	(19.1)	8.7	1.3	内面に石灰状の付着物あり
512	67	48	D	SK100	植・側板	(22.0)	6.3	1.3	内面に石灰状の付着物あり
513	67	48	D	SK100	植・側板	(27.4)	6.0	1.3	内面に石灰状の付着物あり
514	67	48	D	SK100	植・側板	(31.5)	10.5	1.3	内面に石灰状の付着物あり
515	67	48	D	SK100	植・底板	45.7	41.2	2.1	天面に石灰状の付着物あり
530	68	49	D	SK102	下駄	21.6	6.2	1.9	一部欠損　連歯下駄　角形
531	68	49	D	SK102	植・側板	23.5	4.5	0.7	外面に墨印
536	69	50	D	SK103A	植・側板	(31.0)	20.0	2.5	536～548は同一の桶
537	69	50	D	SK103A	植・側板	(29.4)	6.7	2.3	
538	69	50	D	SK103A	植・側板	(29.7)	14.5	2.5	
539	69	50	D	SK103A	植・側板	(29.8)	8.2	2.6	内面に石灰状の付着物あり
540	69	50	D	SK103A	植・側板	(31.0)	15.7	2.4	
541	69	50	D	SK103A	植・側板	(27.0)	9.3	2.3	
542	69	50	D	SK103A	植・側板	(26.5)	16.5	2.5	
543	69	50	D	SK103A	植・側板	(24.3)	3.8	2.5	
544	69	50	D	SK103A	植・側板	(25.5)	15.3	2.3	
545	69	50	D	SK103A	植・側板	(26.2)	10.6	2.5	
546	69	50	D	SK103A	植・側板	(26.0)	7.7	2.7	内面に石灰状の付着物あり
547	69	50	D	SK103A	植・側板	(26.6)	8.8	2.6	
548	69	50	D	SK103A	植・底板	41.4	40.4	3.0	
556	70	51	D	SK104	曲物・底板	17.2	17.1	1.4	桜皮残存
561	71	51	D	SK109	下駄	(16.3)	6.6	2.1	2/3残存　連歯下駄　丸形　黒漆塗り
571	72	52	D	SK111	植・側板	(45.1)	18.0	2.7	外面に墨印　内面先端炭化
572	72	52	D	SK111	敷居	(39.5)	10.5	5.6	両端欠損　一部炭化　一端部は枕状に加工か
573	72	52	D	SK111	敷居	(45.9)	9.9	4.2	両端欠損　全面炭化
576	72	52	D	SK112	戸田板	8.3	7.9	0.3	中心に孔あり　曲物の蓋か
580	73	52	D	SK114	漆器椀	－	〈5.0〉	〈4.0〉	体部破片　内外面赤漆　破断面が炭化
581	73	52	D	SK114	箸	21.9	1.0	0.7	断面形が六角形
582	73	52	D	SK114	下駄	(8.2)	8.4	2.5	連歯下駄の後歯部分か
583	73	52	D	SK114	植・底板	22.8	8.7	1.1	
584	73	52	D	SK114	植・側板	(39.8)	8.9	2.4	内面先端炭化
585	73	52	D	SK114	植・側板	(44.8)	8.1	2.2	内面先端炭化
586	73	52	D	SK114	敷居	(32.6)	9.0	2.0	側面に釘穴4か所あり　全面炭化
587	73	52	D	SK114	部材	82.3	6.4	3.2	両端にホゾ　釘7か所
595	74	53	D	SK119	漆器椀	－	(5.7)	〈7.9〉	外面は黒漆の地に金色で絵付け、内面赤漆
596	74	53	D	SK119	漆器椀	(14.0)	(5.4)	〈6.1〉	内外面赤漆
597	74	53	D	SK119	下駄	22.1	8.7	3.4	一部欠損　連歯下駄　角形
598	74	53	D	SK119	植・底板	27.3	26.5	2.1	
599	74	53	D	SK119	櫛	(9.4)	13.1	2.1	2/3欠損
605	75	54	D	SD13	栓	7.1	7.0	〈4.5〉	一部欠損　606の天面の孔にはまって検出
606	75	54	D	SD13	継手	29.5	14.2	13.0	竹管の継手　上水遺構の接続部　一部欠損 水平方向に貫通する孔と天面の孔がつながる 天面の孔に605が枕状にはまっていた
667	78	56	D	遺構外	漆器蓋	－	－	〈2.5〉	体部破片　外面黒漆に鶴の文様、内面に赤漆

第４表　遺物観察表（石製品）

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値 A	B	C	備考
1	36	27	A	SK1	砥	11.1	〈4.8〉	1.3	砥面に刃物痕あり。砥石転用か。
6	36	27	A	SK4	砥	(6.6)	5.4	1.3	－
7	36	27	A	SK4	石臼	(13.1)	(10.9)	9.2	磨臼の上臼　1/6残存 底面は大きく磨り減り、溝は遺存しない
119	43	32	A	Pit8	石臼	(24.4)	(17.1)	10.8	磨臼の下臼　1/4残存 天面はゆるくふくらみ、溝あり　中央に芯棒孔
125	43	32	A	Pit14	石臼	(25.5)	(19.0)	19.4	大形磨臼の上臼　1/4残存 供給孔残存　底面の溝は深い鋸歯状
129	43	32	A	Pit19	砥石	(10.9)	5.9	1.4	全面に使用痕あり
151	44	33	A	SS3	石臼	(41.1)	(24.6)	23.8	大形磨臼の上臼　1/4残存 底面の溝は深い鋸歯状　側面に方形の孔2つあり
186	46	34	A	遺構外	石臼	(26.4)	(16.7)	7.7	磨臼の上臼　1/3残存 供給孔あり　底面に溝
198	**47**	**35**	**B**	**SK18**	**砥**	**〈4.9〉**	**6.4**	**1.3**	**－**
215	48	36	C	SK30	石臼	30.0	30.0	9.8	磨臼の下臼　完形 天面は膨らみ、溝残存　中央に芯棒孔あり
227	49	36	C	SK45	石臼	(29.2)	(18.1)	9.1	磨臼の上臼　1/3残存 底面がレンズ状に凹み、溝残存　中央に芯棒孔あり
236	50	37	C	SK61	石臼	(19.4)	(14.5)	10.0	磨臼の上臼　1/6残存 底面に溝あり
238	51	38	C	Pit29	石臼	35.1	35.0	11.4	磨臼の上臼　一部欠損　底面はレンズ状に凹み、溝残存 中央に芯棒受の孔あり　側面に方形の孔と三角形の孔あり
240	51	38	C	Pit34	砥	(11.8)	〈5.5〉	1.4	砥面に刃物痕あり　砥石転用
294	55	40	C	SS5	砥石	(5.8)	4.4	1.4	天面と側面の三面に使用痕あり
319	**57**	**41**	**C**	**遺構外**	碁石	2.1	2.1	0.4	白石
320	**57**	**41**	**C**	**遺構外**	碁石	2.3	2.2	0.3	－
321	**57**	**41**	**C**	**遺構外**	碁石	2.3	2.3	0.6	黒石
322	**57**	**41**	**C**	**遺構外**	**石筆**	**4.3**	**0.6**	**0.6**	**－**
323	**57**	**41**	**C**	**遺構外**	**砥**	**16.4**	**7.5**	**2.4**	**－**
370	**59**	**43**	**D**	**SK71**	**砥石**	**〈7.4〉**	**〈5.4〉**	**〈2.1〉**	**全面に使用痕あり**
386	61	43	D	SK81	石臼	31.4	(21.0)	12.4	磨臼の上臼　1/2残存　底面中央に芯棒受の孔あり 底面はレンズ状に凹み、溝残存、煤付着
390	**61**	**44**	**D**	**SK82**	**碁石**	**2.1**	**2.0**	**0.5**	**－**
490	**66**	**47**	**D**	**SK99**	**砥**	**15.4**	**6.4**	**〈1.4〉**	**背面に線刻の落書あり**
601	**74**	**53**	**D**	**SK121**	**砥**	**〈7.6〉**	**〈3.9〉**	**1.2**	**裏面に線刻あり　1/3欠損**
608	75	54	D	SS10	石臼	(23.5)	(16.2)	10.3	磨臼の下臼　1/4残存　天面がレンズ状に膨らみ、溝残存 中央に芯棒孔あり
644	**77**	**55**	**D**	**遺構外**	**砥**	**(6.3)**	**〈4.7〉**	**1.1**	**－**
645	**77**	**55**	**D**	**遺構外**	**碁石**	**2.2**	**2.2**	**(0.3)**	**黒石　半面剥離**

第５表　遺物観察表（銭貨・金属製品）1

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値				重量(g)	備考
						A	B	C	D		
2	36	27	A	SK2	寛永通寶	2.4	－	－	－	3.09	
10	36	27	A	SK11	寛永通寶	2.4	－	－	－	3.90	
11	36	27	A	SK11	不明銭貨	2.5	－	－	－	3.46	
41	37	28	A	SK13B	板状金具	〈7.9〉	(4.6)	0.3	－	15.65	
127	43	32	A	Pit15	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.38	
133	44	33	A	SD1	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.66	
134	44	33	A	SD1	寛永通寶	2.9	－	－	－	5.40	背十一波
135	44	33	A	SD1	寛永通寶	2.8	－	－	－	5.09	背十一波
139	44	33	A	SD2	寛永通寶	2.2	－	－	－	2.49	
140	44	33	A	SD2	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.69	
141	44	33	A	SD2	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.32	
142	44	33	A	SD2	不明銭貨	2.5	－	－	－	3.56	
143	44	33	A	SD2	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.65	
171	46	34	A	遺構外	煙管	－	〈4.2〉	〈1.4〉	1.3	9.27	雁首(火皿欠損)
172	46	34	A	遺構外	把手	4.2	4.2	1.2	－	9.13	
173	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.15	
174	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.30	
175	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.88	
176	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.51	
177	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.15	
178	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.2	－	－	－	1.98	
179	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.58	
180	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.6	－	－	－	4.27	
181	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	3.71	
182	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.2	－	－	－	1.96	
183	46	34	A	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	3.13	
184	46	34	A	遺構外	文久永寶	2.8	－	－	－	3.59	背十一波
185	46	34	A	遺構外	寛永通寶か	－	－	－	－	0.41	残欠
199	47	35	B	SK18	煙管	〈7.0〉	1.0	0.3	－	6.99	吸口
200	47	35	B	SK18	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.35	文銭
207	47	35	B	遺構外	和釘	9.7	1.7	0.5	－	8.81	頭巻釘
214	48	36	C	SK26	寛永通寶	2.5	－	－	－	2.94	
223	49	36	C	SK36	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.66	
224	49	36	C	SK38	寛永通寶	2.4	－	－	－	3.10	古寛永か
230	50	37	C	SK51	簪	11.0	1.2	0.2	－	6.57	
231	50	37	C	SK51	簪	12.9	2.9	0.2	－	3.72	真鍮か
233	50	37	C	SK55	和釘	6.8	1.9	0.8	－	15.28	
235	50	37	C	SK61	寛永通寶	2.5	－	－	－	2.75	
237	51	38	C	Pit24	寛永通寶	2.8	－	－	－	3.03	背十一波
245	51	38	C	SD4	寛永通寶	2.5	－	－	－	2.71	文銭
246	51	38	C	SD4	寛永通寶	2.3	－	－	－	1.71	1/5欠損
253	52	38	C	SD7	寛永通寶	2.8	－	－	－	4.15	背十一波
278	54	40	C	SD9	寛永通寶	2.2	－	－	－	1.54	
279	54	40	C	SD9	不明銭貨	－	－	－	－	1.75	4片に破損　計測不可
280	54	40	C	SD9	煙管	－	(5.3)	〈1.4〉	1.0	4.85	雁首か(火皿欠損)
281	54	40	C	SD9	煙管	〈6.1〉	1.0	0.4	－	2.25	吸口
282	54	40	C	SD9	小皿	8.0	3.5	1.9	－	34.47	銅製か　口縁1/2～底部3/4残存
283	54	40	C	SD9	棒状金具	〈9.5〉	1.7	0.9	－	21.55	両端尖り一端部は湾曲する　煤付着
288	55	40	C	SD10	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.51	
289	55	40	C	SD11	煙管	〈2.7〉	0.9	－	－	2.27	吸口　真鍮製か　文様あり
290	55	40	C	SD11	円板状金具	4.8	(4.6)	0.3	－	3.55	中央に径5mmの円孔あり　銅製か

第５表　遺物観察表（銭貨・金属製品）2

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値				重量(g)	備考
						A	B	C	D		
295	S5	40	C	SS5	半銭銅貨	2.2	2.2	－	－	2.98	
296	S5	40	C	SS5	部品	3.5	3.4	1.0	－	4.64	中央に孔　扁状の窓あり
297	S5	40	C	SS5	鋲	13.4	2.1	0.4	－	15.58	
324	S8	42	C	遺構外	元祐通寶	2.4	－	－	－	2.47	北宋銭
325	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.45	古寛永か
326	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.35	古寛永か
327	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.72	古寛永か
328	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.62	古寛永か
329	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.54	
330	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.56	
331	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.22	
332	S8	42	C	遺構外	不明銭貨	2.3	－	－	－	3.30	
333	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	3.44	
334	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.57	
335	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.46	
336	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.43	
337	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.8	－	－	－	3.39	背二十一波
338	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.7	－	－	－	2.27	背十一波
339	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	6.60	二枚重なって出土
340	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	2.81	
341	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.07	
342	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	〈2.1〉	－	－	－	1.40	1/3欠損
343	S8	42	C	遺構外	不明銭貨	2.5	－	－	－	3.15	
344	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	2.2	－	－	－	1.95	
345	S8	42	C	遺構外	不明銭貨	2.3	－	－	－	2.30	
346	S8	42	C	遺構外	不明銭貨	2.4	－	－	－	2.91	
347	S8	42	C	遺構外	不明銭貨	－	－	－	－	1.18	3/4欠損
348	S8	42	C	遺構外	寛永通寶	－	－	－	－	1.76	3片に破損
349	S8	42	C	遺構外	文久永寶	2.7	－	－	－	2.69	背十一波
350	S8	42	C	遺構外	文久永寶	2.6	－	－	－	2.47	背十一波　一部欠損
351	S8	42	C	遺構外	桐一銭青銅貨	2.3	－	－	－	3.25	
352	S8	42	C	遺構外	桐一銭青銅貨か	2.4	－	－	－	3.70	
353	S8	42	C	遺構外	二銭銅貨	3.2	－	－	－	13.71	明治14年銘
354	S8	42	C	遺構外	履首銭か	〈2.0〉	〈1.7〉	－	－	1.32	1/2欠損
355	S8	42	C	遺構外	煙管	1.6	3.8	1.6	1.0	6.94	履首
356	S8	42	C	遺構外	煙管	1.6	6.2	1.9	0.9	10.55	履首
357	S8	42	C	遺構外	煙管	〈4.2〉	0.9	〈0.3〉	－	3.08	吸口　一部欠損
358	S8	42	C	遺構外	煙管	5.2	0.8	0.5	－	2.69	吸口
359	S8	42	C	遺構外	煙管	〈6.0〉	1.0	〈0.4〉	－	4.84	吸口　一部欠損
360	S8	42	C	遺構外	環状金具	1.8	1.7	0.2	－	1.12	
361	S8	42	C	遺構外	金槌か	6.5	2.5	2.4	－	83.37	中央に孔あり　孔に釘が付着
371	60	43	D	SK72	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.30	
373	60	43	D	SK73	簪	7.8	0.9	0.4	－	3.73	先端部に白色顔料付着
378	60	43	D	SK78	寛永通寶	2.9	－	－	－	5.06	背十一波
387	61	43	D	SK81	開元通寶	2.4	－	－	－	2.62	唐銭
388	61	43	D	SK81	寛永通寶	2.2	－	－	－	1.99	
389	61	43	D	SK81	寛永通寶	2.2	－	－	－	2.47	
392	61	44	D	SK83	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.05	
393	61	44	D	SK83	寛永通寶	2.5	－	－	－	2.60	古寛永か
394	61	44	D	SK83	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.51	古寛永か
411	63	45	D	SK94	履首銭	2.1	1.9	0.1	－	1.75	埋桶内で出土

第５表　遺物観察表（銭貨・金属製品）3

報告番号	挿図	写真図版	調査区	出土地点	種類	法量(cm)（　）復元値・〈　〉残存値				重量(g)	備考
						A	B	C	D		
468	65	47	D	SK96A	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.67	古寛永か
469	65	47	D	SK96A	煙管	1.7	6.3	2.1	1.0	4.15	雁首
489	66	47	D	SK98	金具	(4.2)	1.2	0.8	－	2.78	一端部は環状
492	66	47	D	SK99	和釘	7.9	4.8	1.0	－	22.63	頭部は折り曲げ　基部中位で直角に屈曲
521	68	49	D	SK101	寛永通寶	2.5	－	－	－	2.64	
528	68	49	D	SK102	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.95	
529	68	49	D	SK102	和釘	6.0	1.0	0.5	－	2.09	頭巻釘
533	69	50	D	SK103A	寛永通寶	2.8	－	－	－	3.17	背十一波
534	69	50	D	SK103A	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.67	文銭
535	69	50	D	SK103A	雁首銭	2.2	1.9	0.2	－	2.41	埋桶内で採取した土壌試料に混入
550	69	50	D	SK103B	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.58	SK103Bの埋桶の下から出土
551	69	50	D	SK103B	寛永通寶	2.6	－	－	－	3.81	SK103Bの埋桶の下から出土
552	69	50	D	SK103B	寛永通寶	2.3	－	－	－	1.92	SK103Bの埋桶の下から出土
575	72	52	D	SK112	煙管	2.1	－	(0.6)	－	0.56	煙管の火皿部分
579	73	52	D	SK114	煙管	1.6	5.9	2.4	1.0	6.04	雁首
590	74	53	D	SK117	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.14	1/4欠損
593	74	53	D	SK119	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.17	
594	74	53	D	SK119	金網	9.3	7.5	0.2	－	9.04	亀甲状の金網
602	74	53	D	SK122	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.59	文銭か
604	75	54	D	SD13	寛永通寶	2.4	－	－	－	3.50	
647	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.70	
648	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.5	－	－	－	3.51	
649	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.76	
650	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.3	－	－	－	2.63	
651	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.77	
652	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.4	－	－	－	2.49	
653	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.6	－	－	－	3.43	
654	78	56	D	遺構外	寛永通寶	1.9	－	－	－	1.31	
655	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.8	－	－	－	3.73	二枚連なって出土
656	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.6	－	－	－	4.57	二枚連なって出土
657	78	56	D	遺構外	文久永寶	2.7	－	－	－	4.25	背十一波
658	78	56	D	遺構外	寛永通寶	2.1	－	－	－	1.42	1/2残存
659	78	56	D	遺構外	雁首銭	1.9	1.9	－	－	0.92	
660	78	56	D	遺構外	煙管	2.1	－	1.4	－	3.62	煙管の火皿部分
661	78	56	D	遺構外	煙管	－	(3.6)	－	1.1	4.11	雁首　火皿部分欠損
662	78	56	D	遺構外	煙管	7.0	1.0	0.4	－	5.84	吸口
663	78	56	D	遺構外	煙管	7.4	1.0	0.3	－	9.04	吸口　花弁模様あり
664	78	56	D	遺構外	和釘	2.7	1.4	0.3	－	1.23	頭巻釘
665	78	56	D	遺構外	引手金具	5.2	2.6	0.6	－	9.62	
666	78	56	D	遺構外	金具	1.7	1.0	2.8	－	8.35	球状の金具に釘を貫いたもの

第５章　自然科学分析

第１節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）出土木材の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子

1. はじめに

甲府市に位置する甲府城下町遺跡から出土した木材試料３点について、ウィグルマッチング法を用いた加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、木樋１点と継手２点の合計３点である。試料が出土した遺構の推定時期は、いずれも江戸時代後期～近代である。

ＳＤ７から出土した木樋（試料 No. 木 121-a）は、直径 21.5cm の芯持丸木で、樹種はマツ属複維管束亜属であった。最終形成年輪は残存していなかった。54 年輪が残存しており、樹皮に近い方から 1-5 年目（PLD-41346）と、11-15 年目（PLD-41347）、21-25 年目（PLD-41348）、41-45 年目（PLD-41349）、51-54 年目（PLD-41350）の年輪部分の、５箇所から測定試料を採取した。

ＳＤ９から出土した継手(試料 No. 木 122)は､直径 22.0cm の芯持丸木で､樹種はマツ属複維管束亜属であった。最終形成年輪は残存していなかったが、辺材が確認された。39 年輪が残存しており、樹皮に近い方から 1-5 年目（PLD-41351）と、11-15 年目（PLD-41352）、21-25 年目（PLD-41353）、36-39 年目（PLD-41354）の年輪部分の、４箇所から測定試料を採取した。

ＳＤ 10 から出土した継手（試料 No. 木 124-1）は、直径 19.0cm の芯持丸木で、樹種はヒノキであった。最終形成年輪は残存していた。72 年輪が残存しており、樹皮に近い方から 1-5 年目（PLD-41355）と、21-25 年目（PLD-41356）、36-40 年目（PLD-41357）、51-55 年目（PLD-41358）、66-70 年目（PLD-41359）の年輪部分の、５箇所から測定試料を採取した。

測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表２～４に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ 13C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した 14C 年代、ウィグルマッチング結果を、図１～３にウィグルマッチング結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代（yrBP）の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細は以下のとおりである。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇

表1　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41346	遺構：C地区SD7 試料No. 本121-a 遺物No. 樋No. 2 器種：木樋 種類：生材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 試料の形状：芯持丸木（直径21.5cm、54年輪残存） 状態：wet	採取位置：外側から1-5年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41347		採取位置：外側から11-15年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41348		採取位置：外側から21-25年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41349		採取位置：外側から41-45年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41350		採取位置：外側から51-54年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41351	遺構：C地区SD9 試料No. 本122 遺物No. 7 器種：継手 種類：生材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：辺材 試料の形状：芯持丸木（直径22.0cm、39年輪残存） 状態：wet	採取位置：外側から1-5年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41352		採取位置：外側から11-15年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41353		採取位置：外側から21-25年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41354		採取位置：外側から36-39年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41355	遺構：C地区SD10 試料No. 本124-1 遺物No. 1 器種：継手 種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪 試料の形状：芯持丸木（直径19.0cm、72年輪残存） 状態：wet	採取位置：外側から1-5年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41356		採取位置：外側から21-25年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41357		採取位置：外側から36-40年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41358		採取位置：外側から51-55年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41359		採取位置：外側から66-70年目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、および半減期の違い（14C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

14C 年代の暦年較正には OxCal4.3（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1 年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせることにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた試料の中心の年代を表している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心よりも外側にある年輪数を考慮する必要がある。今回の測定における最外年輪の年代は、最外試料の中心から外側にある 2 年分（2.5 年を小数以下切り捨て）を最外試料年代に足した年代である。

4. 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち、最外年輪の年代の 2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。なお、木材は最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。

SD7 から出土した木樋（試料 No. 木 121-a）の測定結果は、1742-1750 cal AD (1.6%)、1856-1894 cal AD (70.4%)、1920-1945 cal AD (23.4%) であった。これは 18 世紀中頃および 19 世紀中頃～末、20 世紀前半～中頃で、江戸時代中期および江戸時代末期～昭和時代に相当する暦年代であり、調査所見による推定時期を含む結果であった。No. 木 121-a は最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。

SD9 から出土した継手（試料 No. 木 122）の測定結果は、1659-1672 cal AD (95.4%) であった。これは 17 世紀後半で、江戸時代前期に相当する暦年代である。測定の結果、試料 No. 木 122 は調査所見による推定時期よりも古い暦年代を示した。なお､試料 No. 木 122 は最終形成年輪が残存していなかったが辺材であったため、測定結果は枯死もしくは伐採された年代に近い年代を示していると考えられる。

SD10 から出土した継手(試料 No. 木 124-1)は､1770-1776 cal AD (3.1%) および 1783-1806 cal AD (92.3%) であった。これは 18 世紀後半～ 19 世紀初頭で、江戸時代中期～後期に相当する暦年代であり、調査所見による推定時期を含む結果であった。試料 No. 木 124-1 は、最終形成年輪が残存しており、得られた最終形成年輪の年代は木材が伐採もしくは枯死した年代を示していると考えられる。

参考文献

Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. Radiocarbon, 43(2A), 381-389.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎，日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」：3-20，日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 1-33, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

表2　試料No. 木121-aの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-41346	−28.10±0.25	132±18	130±20	Post-bomb NH2 2013: 1686-1699 cal AD (8.3%) 1721-1731 cal AD (6.0%) 1806-1815 cal AD (5.1%) 1834-1890 cal AD (37.0%) 1908-1926 cal AD (11.5%) 1954-1954 cal AD (0.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1681-1715 cal AD (14.5%) 1717-1739 cal AD (9.7%) 1753-1762 cal AD (2.2%) 1800-1827 cal AD (10.5%) 1828-1900 cal AD (41.0%) 1903-1940 cal AD (16.6%) 1952-1955 cal AD (1.0%)
PLD-41347	−28.11±0.22	142±19	140±20	Post-bomb NH2 2013: 1683-1697 cal AD (9.0%) 1723-1738 cal AD (8.6%) 1755-1761 cal AD (3.2%) 1801-1812 cal AD (7.0%) 1836-1879 cal AD (24.8%) 1913-1939 cal AD (14.9%) 1952-1953 cal AD (0.4%) 1954-1954 cal AD (0.3%)	Post-bomb NH2 2013: 1671-1710 cal AD (15.0%) 1719-1767 cal AD (18.8%) 1772-1779 cal AD (1.4%) 1798-1824 cal AD (10.3%) 1832-1892 cal AD (29.9%) 1905-1943 cal AD (18.7%) 1951-1954 cal AD (1.3%)
PLD-41348	−28.06±0.24	130±18	130±20	Post-bomb NH2 2013: 1687-1700 cal AD (8.0%) 1721-1730 cal AD (5.8%) 1807-1815 cal AD (4.8%) 1834-1890 cal AD (38.0%) 1907-1925 cal AD (11.4%) 1954-1954 cal AD (0.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1682-1715 cal AD (14.6%) 1716-1738 cal AD (9.3%) 1755-1761 cal AD (1.5%) 1801-1901 cal AD (53.0%) 1903-1939 cal AD (16.0%) 1952-1955 cal AD (0.9%)
PLD-41349	−29.10±0.22	86±18	85±20	Post-bomb NH2 2013: 1700-1721 cal AD (23.7%) 1815-1834 cal AD (22.2%) 1890-1907 cal AD (22.0%) 1954-1955 cal AD (0.4%)	Post-bomb NH2 2013: 1695-1725 cal AD (28.4%) 1811-1839 cal AD (26.3%) 1842-1862 cal AD (5.2%) 1866-1872 cal AD (1.6%) 1877-1917 cal AD (33.3%) 1954-1955 cal AD (0.6%)
PLD-41350	−27.26±0.25	117±18	115±20	Post-bomb NH2 2013: 1694-1710 cal AD (10.6%) 1719-1726 cal AD (4.4%) 1811-1819 cal AD (5.4%) 1820-1822 cal AD (1.2%) 1822-1823 cal AD (0.4%) 1832-1874 cal AD (27.6%) 1876-1892 cal AD (10.8%) 1906-1917 cal AD (7.9%)	Post-bomb NH2 2013: 1687-1730 cal AD (24.1%) 1807-1926 cal AD (71.0%) 1954-1955 cal AD (0.3%)
		最外試料年代		1858-1875 cal AD (56.7%) 1932-1938 cal AD (11.5%)	1740-1748 cal AD (1.6%) 1854-1892 cal AD (70.4%) 1918-1943 cal AD (23.4%)
		最外年輪の年代		1860-1877 cal AD (56.7%) 1934-1940 cal AD (11.5%)	1742-1750 cal AD (1.6%) 1856-1894 cal AD (70.4%) 1920-1945 cal AD (23.4%)

表3　試料No. 木122の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-41351	-27.04±0.23	206±18	205±20	Post-bomb NH2 2013: 1659-1672 cal AD (18.3%) 1744-1748 cal AD (3.5%) 1766-1773 cal AD (6.4%) 1778-1798 cal AD (28.4%) 1942-1951 cal AD (11.6%)	Post-bomb NH2 2013: 1651-1683 cal AD (27.4%) 1736-1755 cal AD (10.3%) 1760-1801 cal AD (42.2%) 1929-1933 cal AD (0.8%) 1937-1954 cal AD (14.7%)
PLD-41352	-26.49±0.23	273±18	275±20	Post-bomb NH2 2013: 1530-1538 cal AD (14.0%) 1635-1656 cal AD (54.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1524-1559 cal AD (32.0%) 1565-1571 cal AD (1.5%) 1631-1662 cal AD (60.4%) 1787-1793 cal AD (1.5%)
PLD-41353	-28.29±0.23	259±18	260±20	Post-bomb NH2 2013: 1640-1659 cal AD (68.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1528-1541 cal AD (6.5%) 1545-1550 cal AD (1.4%) 1634-1665 cal AD (77.9%) 1784-1795 cal AD (9.6%)
PLD-41354	-27.88±0.26	330±18	330±20	1507-1528 cal AD (16.7%) 1551-1594 cal AD (37.3%) 1618-1634 cal AD (14.2%)	1492-1603 cal AD (75.8%) 1608-1637 cal AD (19.6%)
		最外試料年代		1661-1667 cal AD (68.2%)	1657-1670 cal AD (95.4%)
		最外年輪の年代		1663-1669 cal AD (68.2%)	1659-1672 cal AD (95.4%)

表4　試料No. 木124-1の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-41355	-25.25±0.22	204±18	205±20	Post-bomb NH2 2013: 1660-1672 cal AD (17.0%) 1743-1749 cal AD (4.8%) 1766-1773 cal AD (7.5%) 1778-1798 cal AD (26.9%) 1942-1951 cal AD (12.0%)	Post-bomb NH2 2013: 1653-1684 cal AD (25.9%) 1735-1756 cal AD (11.6%) 1760-1802 cal AD (41.5%) 1928-1934 cal AD (1.3%) 1937-1954 cal AD (15.2%)
PLD-41356	-24.14±0.27	217±18	215±20	Post-bomb NH2 2013: 1655-1669 cal AD (27.0%) 1780-1797 cal AD (34.8%) 1946-1951 cal AD (6.3%)	Post-bomb NH2 2013: 1646-1680 cal AD (36.3%) 1741-1752 cal AD (4.5%) 1763-1799 cal AD (44.2%) 1940-1952 cal AD (10.0%) 1952-1954 cal AD (0.4%)
PLD-41357	-27.01±0.29	144±20	145±20	Post-bomb NH2 2013: 1682-1696 cal AD (9.2%) 1724-1739 cal AD (9.1%) 1754-1762 cal AD (4.3%) 1800-1812 cal AD (7.3%) 1836-1879 cal AD (22.7%) 1914-1939 cal AD (14.8%) 1952-1953 cal AD (0.5%) 1954-1954 cal AD (0.3%)	Post-bomb NH2 2013: 1671-1710 cal AD (15.1%) 1719-1769 cal AD (20.2%) 1770-1779 cal AD (2.1%) 1798-1819 cal AD (9.6%) 1820-1823 cal AD (0.4%) 1832-1892 cal AD (27.6%) 1906-1944 cal AD (18.9%) 1951-1955 cal AD (1.4%)
PLD-41358	-25.45±0.22	150±18	150±20	Post-bomb NH2 2013: 1678-1695 cal AD (10.9%) 1725-1741 cal AD (11.1%) 1751-1764 cal AD (8.0%) 1775-1776 cal AD (0.7%) 1799-1811 cal AD (8.6%) 1838-1844 cal AD (3.0%) 1852-1856 cal AD (1.9%) 1861-1867 cal AD (2.5%) 1872-1878 cal AD (3.0%) 1916-1941 cal AD (17.1%) 1952-1954 cal AD (1.5%)	1670-1699 cal AD (14.8%) 1721-1780 cal AD (27.8%) 1797-1815 cal AD (9.9%) 1834-1890 cal AD (20.6%) 1908-1946 cal AD (20.4%) 1950-1955 cal AD (1.9%)
PLD-41359	-25.07±0.22	132±19	130±20	Post-bomb NH2 2013: 1686-1700 cal AD (8.6%) 1721-1731 cal AD (6.1%) 1806-1815 cal AD (5.4%) 1834-1890 cal AD (36.3%) 1907-1926 cal AD (11.6%) 1954-1954 cal AD (0.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1681-1715 cal AD (14.7%) 1716-1740 cal AD (9.8%) 1753-1762 cal AD (2.4%) 1800-1901 cal AD (51.0%) 1903-1940 cal AD (16.6%) 1952-1954 cal AD (0.9%)
		最外試料年代		1786-1794 cal AD (68.2%)	1768-1774 cal AD (3.1%) 1781-1804 cal AD (92.3%)
		最終形成年輪の年代		1788-1796 cal AD (68.2%)	1770-1776 cal AD (3.1%) 1783-1806 cal AD (92.3%)

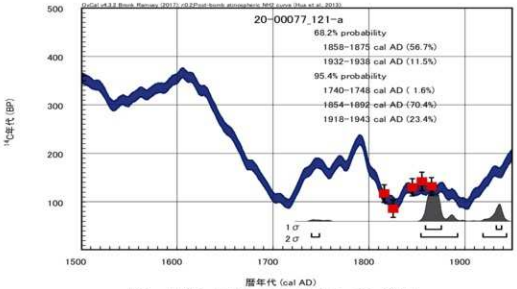


図1　試料№木 121-a のウイグルマッチング結果

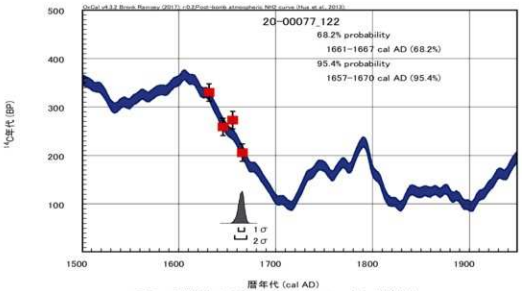


図2　試料№木 122 のウイグルマッチング結果

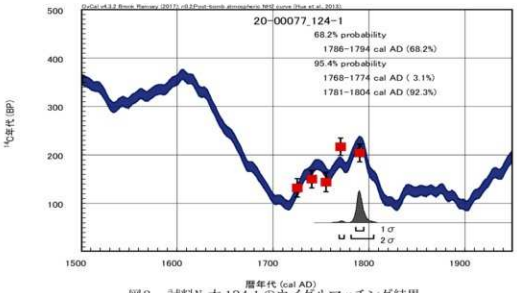
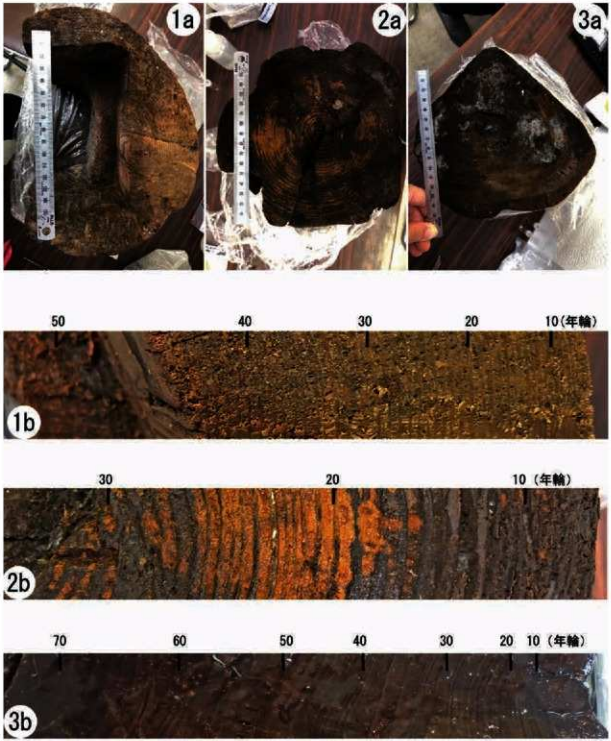


図3　試料№木 124-1 のウイグルマッチング結果



図版1　試料写真と年輪計測結果
1. 木121-a（PLD-41346～41350：マツ属複維管束亜属、直径21.5cm、54年輪残存）
2. 木122（PLD-41351～41354：マツ属複維管束亜属、直径22.0cm、39年輪残存）
3. 木124-1（PLD-41355～41359：ヒノキ、直径19.0cm、72年輪残存）
a:横断面、b:年輪計測結果

第２節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）出土木材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府市の甲府城下町遺跡から出土した木材９点について樹種同定を行った。このうち３点については、放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、水道の木樋や継手、敷居などの施設材９点である。調査所見による遺構の推定時期は、江戸時代後期～近代である。

これらの試料から、剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のカラマツとマツ属複維管束亜属、ツガ属、ヒノキ、広葉樹のクリの、合計５分類群が確認された。結果を表１に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) カラマツ　Larix kaempferi (Lamb.) Carrière　マツ科　図版１　1a-1c（木 173）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、１分野に４～５個みられる。放射組織は数珠状末端壁を有し、放射組織の上下には放射仮道管がある。

カラマツは温帯に分布する落葉高木で、自生では宮城県・新潟県以南から中部山岳地帯の日当たりの良い山地に生育する。材は水湿に強い。

(2) マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　図版１　2a-2c（木 121-a）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靭性は大である。

(3) ツガ属　Tsuga　マツ科　図版１　3a-3c（木 273）

仮道管、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は急である。放射組織の上下に放射仮道管があり、有縁壁孔対によって確認することができる。分野壁孔は小型のスギ型～ヒノキ型で、１分野に２～４個存在する。

ツガ属は暖帯から福島県以南の温帯に生育する常緑高木で、ツガとコメツガがある。材はやや強い程度で、耐朽性・保存性は中庸、割裂および乾燥は容易である。

(4) ヒノキ　Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版１　4a-4c（木 124-1）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に２個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(5) クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図版1　5a-5c（木125）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

表1　樹種同定結果一覧

番号	器種	備考	木取メモ	樹種	推定時期	年代測定番号
木118	木樋	-	例り抜き（板目）	マツ属複維管束亜属	江戸時代後期～近代	-
木119	木樋	-	例り抜き（板目）	マツ属複維管束亜属	江戸時代後期	-
木121-a	木樋	C地区SD7樋No. 2	芯持丸木	マツ属複維管束亜属	江戸時代後期～近代	PLD-41346～41350
木122	継手	C地区SD9, No. 7	芯持丸木	マツ属複維管束亜属	江戸時代後期～近代	PLD-41351～41354
木124-1	継手	C地区SD10, No. 1	芯持丸木	ヒノキ	江戸時代後期～近代	PLD-41355～41359
木125	継手	-	芯持丸木	クリ	江戸時代後期～近代	-
木173	敷居	D地区SK114, No. 14	柾目	カラマツ	江戸時代後期	-
木273	敷居	D地区SK111, No. 6	柾目	ツガ属	江戸時代後期	-
木333	継手	-	芯持角材	マツ属複維管束亜属	江戸時代後期～近代	-

4. 考察

木樋は3点ともマツ属複維管束亜属であった。木取りは板目状の例り抜きと、芯持丸木であった。継手ではマツ属複維管束亜属とヒノキ、クリが確認された。木取りは芯持丸木と芯持角材であった。敷居ではカラマツとツガ属が確認された。木取りは柾目であった。

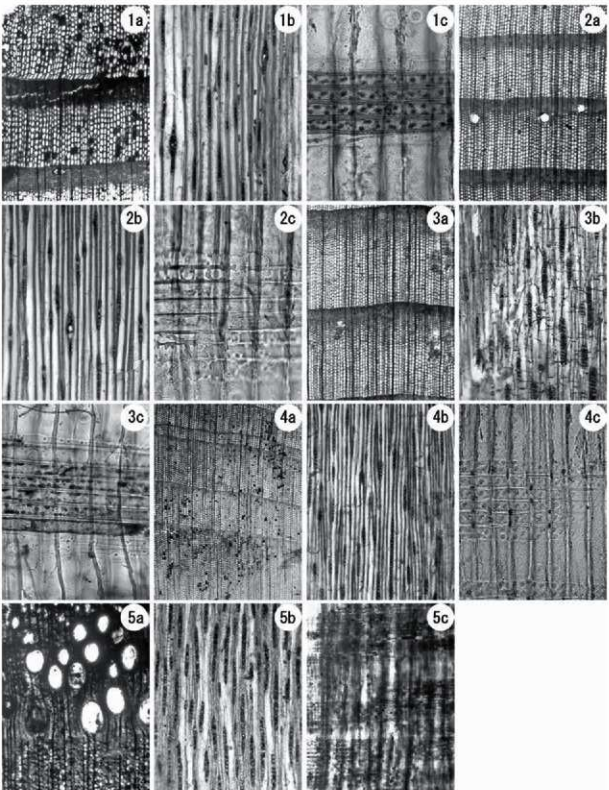
クリは重硬な材であり、マツ属複維管束亜属も針葉樹の中では重硬な部類である。ヒノキとツガ属は軽軟で加工容易な材である。針葉樹は全般的に保存性が高く、耐水性があり、クリも同様の性質がある。今回分析を行ったのは導水施設に関連する木質遺物であり、水場での利用に適した材が選択されたと考えられる。近世から近代の江戸においても、導水施設材にはマツ属複維管束亜属やヒノキを中心とした針葉樹が多用されており（伊東・山田編，2012）、今回の分析結果も同様の傾向を示している。

引用・参考文献

平井信二（1996）木の大百科．394p．朝倉書店．

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p．海青社．

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p．海青社．



スケール：

図版1　木材の光学顕微鏡写真

1a-1c．カラマツ（木173）、2a-2c．マツ属複維管束亜属（木121-a）、3a-3c．ツガ属（木273）、4a-4c．ヒノキ（木124-1）、5a-5c．クリ（木125）

a：横断面（スケール=500μm）、b：接線断面（スケール=200μm）、c：放射断面（スケール=1-4：50μm、5：200μm）

第３節　甲府城下町遺跡（中央５丁目1区）出土の動物遺体

三谷智広（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（中央５丁目1区）の発掘調査では、埋桶や廃棄土坑などの遺構および包含層から、江戸時代後期～近代の動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場で採取された動物遺体 571 点である。肉眼および実体顕微鏡下で観察し、標本との比較により部位と分類群を同定した。哺乳類では歯の萌出状態や骨端の癒合状態などの観察所見を記載した。最小個体数の算出は、遺構ごとに行い、腹足綱については殻軸の数、斧足綱については左右殻の数の多い方をカウントした。左右不明の破片の場合は、複数であっても１個体としてカウントした。魚類、哺乳類についても左右の数の多い方をカウントした。なお、ＳＫ 103 の動物遺体は、300cc の試料を 0.5mm 目の篩を用いて水洗し採取された。

3. 結果

表１に、同定された分類群一覧を示す。腹足綱３分類群、斧足綱５分類群、硬骨魚綱４分類群、鳥綱１分類群、哺乳綱６分類群の、計 19 分類群が同定された。表２に動物遺体の同定結果を示す。SK108 は哺乳類の出土が多いため、表３にまとめた。なお、遺構別の最小個体数は表４にまとめた。以下、分類群ごとに特徴を述べる。

貝類では、遺構と包含層を通じて、シジミ属が多く出土した。特にまとまって出土したのは、SK13B であり、最小個体数で 13 個体、左殻の殻長平均は 18.3mm であった。また、ＳＫ 13 Bからはシジミ属のほかに、マルタニシが出土した。そのほかの遺構や包含層からは、ハマグリやイタヤガイ、サトウガイ、フネガイ科、サザエ、ミミガイ科が散見された。

魚類では、ＳＫ 17 よりマグロ属が出土した。擬鎖骨、烏口骨、肩甲骨、上擬鎖骨、主鰓蓋骨のほか、鰭条（棘条）と思われる試料がまとまって出土している。なお、擬鎖骨の腹面側末端には、切断による可能性のある直線的な破断面が確認された。そのほかの魚類では、ＳＫ 103 よりアイナメ属とマイワシの椎骨が出土している。いずれも 1mm ～ 1.5mm ほどの小さな椎体であった。

鳥類では、脛足根骨と思われる部位が出土しているが、近位端と遠位端を欠いており、種の同定には至らなかった。

哺乳類では、遺構および包含層を通じて、イノシシが最も多く出土している。次いで、ニホンジカの出土が多い。遺構でみると、SK108 と SK111 からイノシシが出土しており、中でもＳＫ 108 からの出土が卓越している。

ＳＫ 108 から出土したイノシシは、右第３中手骨や右第２切歯の出土から、少なくとも３個体分が含まれており、骨端未癒合の四肢骨が多い。また、イノシシ下顎骨２個体分の臼歯について、新美（1991）に従い歯の萌出・咬耗状態を観察したところ、いずれも M3（第３後臼歯）が未萌出で、歯槽が開孔状態であった。さらに、M1（第１後臼歯）の咬耗指数はⅡ～Ⅲ段階に相当し、M2（第２後臼歯）の咬耗指数はⅠ段階に相当する。したがって、いずれも 1.5 歳ほどの若い個体と考えられる。

なお、包含層から出土したイノシシ環椎の腹結節付近に、解体痕が認められた。頭部と胴体を切り離す際に付いたと考えられる。

ＳＫ 108 出土のニホンジカは、左距骨の出土から、少なくとも２個体分が含まれていると考えられる。ニホンジカにおいても、骨端未癒合の四肢骨が多いが、中には癒合が完了し骨端線の認められる四肢骨もあった。下顎歯の萌出状態は、M3（第３後臼歯）の第３咬頭が萌出完了間近にある。大泰司（1980）によれば、下

顎の第 3 後臼歯が生え変わり永久歯列が完成するのは生後約 25 ヶ月目であり、大泰司が示した歯の萌出・交換時期表に照らし合わせれば、2 歳前後に相当すると思われる。

また、SK 108 出土のニホンジカの脛骨では、解体痕が認められた。脛骨遠位端に認められ、骨長軸に対し直交方向についている。脛骨から下位の部位を切り離す際に付いたと考えられる。さらに、中手骨や中足骨がそのままの状態で出土した点も特徴である。ニホンジカの中手・中足骨は、骨角器の素材として頻繁に利用される部位であるが、今回出土した骨に加工の痕跡は認められなかった。

イノシシとニホンジカでは、部位別の出土量において、椎骨と肋骨が少ない傾向にある。また、中手・中足骨をはじめ、手根骨や足根骨など四肢骨の末端部も多く出土したため、連結状態のまま廃棄された様子がうかがえる。四肢骨が打ち割られず、そのままの状態で出土した点も共通している。イノシシとニホンジカともに、四肢の取り扱いが共通していたと考えられる。

これらのほか、SK 108 ではイヌの大腿骨が出土している。骨幹部にらせん状の割れ口を有し、人為的に打ち割られた可能性が高い。SK 111 からは、ニホンザルの大腿骨が出土している。骨幹部にはらせん状の割れ口が認められたため、これも人為的に打ち割られた可能性がある。また、SK 103 ではウマの臼歯破片が出土している。

4. 考察

出土した動物遺体の 9 割は、遺構から出土している。中でもSK 108 からの出土が最も多い。イノシシやニホンジカが多量に出土したSK 108 は土坑であり、土坑への動物骨の廃棄が推定される。出土部位にも偏りが見られたため、動物の解体と廃棄の場が異なっていた可能性が高い。これは、遺構の性格や土地利用を知る上でも貴重な情報と考えられる。なお、ニホンジカは角の出土が認められず、中手・中足骨にも加工の痕跡が見られなかった。甲府城下町遺跡の過去の調査における骨角器の出土例としては、19 世紀後半の井戸跡から切断痕の残る落角が出土している（保坂，2004）。また、素材は不明であるが、1860 年以降と推定される骨角製のブラシ柄（森原ほか編，2004）や、時期不明の骨製品（吉岡，2008）などが出土している。当時の骨角器利用についての詳細は不明であるが、骨角器製作が積極的に行われなかったか、あるいは製作や廃棄に関わる場が異なっていた可能性も考えられる。

SK 111 から出土したニホンザルは、甲府城下町遺跡の過去の調査において報告例がない。ニホンザルは、中近世の長野県、岐阜県、三重県などで、乾燥させた頭部や頭蓋骨を、農家の厩や納屋の守り神として掛ける伝統があるといわれる（松井，2009）。また近世に限らず、縄文時代から比較的よく出土する種でもある。

貝類や魚類は、海水産が中心となる。内陸に位置する遺跡のため、海産貝類・魚類は海岸部から持ち込まれたと考えられる。また、わずかであるがマルタニシも出土しており、池沼、河川、水田などの淡水域の資源の利用もうかがえる。甲府城下町遺跡の過去の調査においては､オオタニシやマシジミなども出土しており（パリノ・サーヴェイ株式会社，2013）、遺跡周辺の淡水域で採取されたと考えられる。

今回出土した動物遺体からは、遺跡周辺の山間地域での狩猟活動と淡水域における貝採取活動、そして海岸部からの海産物の流通の状況が垣間見える。甲府城下町における多様な動物利用の一端を明らかにできたが、より詳細な動物利用に迫るためには、他の遺構の動物遺体やその時期的な変遷、他の近世～近代遺跡との比較も行いながら、下町における食生活をはじめとした動物利用について検討を加えていく必要がある。

引用文献

保坂和博（2004）動物遺体からみた動物利用．保坂和博編「甲府城下町遺跡（日向町遺跡第 2 地点）－山梨県北口駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」：27-29，山梨県教育委員会・山梨県土地開発公社．

松井　章（2008）動物考古学．149p，京都大学学術出版会．

森原明廣・須長愛子・パリノ・サーヴェイ株式会社編（2004）甲府城下町遺跡－甲府駅周辺土地区画整理事業地内 43 街区埋蔵文化財

発掘調査報告書一．232p，山梨県教育委員会・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構．

新美倫子（1991）愛知県伊川津遺跡出土ニホンイノシシの年齢及び死亡時期査定について．国立歴史民俗博物館研究報告，29，123-148．

大泰司紀之（1980）遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法．考古学と自然科学，13，51-74．

パリノ・サーヴェイ株式会社（2013）貝類同定．山本茂樹・石井　明・野代恵子・古部雅子編「甲府城下町遺跡―甲府法務総合庁舎建設事業に伴う発掘調査報告書」：53-54，山梨県教育委員会・甲府地方検察庁．

吉岡弘樹（2008）甲府城下町遺跡（北口県有地）―北口県有地開発に伴う発掘調査報告書一．244p，山梨県教育委員会．

表1　甲府城下町遺跡中央5丁目出土の動物遺体分類群一覧

軟体動物門　Mollusca
腹足綱　Gastropoda
　　ミミガイ科　Haliotoidea spp.
　　サザエ　*Turbo sazae*
　　マルタニシ　*Cipangopaludina chinensis*
斧足綱　Pelecypoda
　　フネガイ科　Arcidae gen. et sp. indet.
　　サトウガイ
　　イタヤガイ　*Pecten albicans*
　　シジミ属　*Corbicula* spp.
　　ハマグリ　*Meretrix lusoria*
脊椎動物門　Vertebrata
硬骨魚綱　Osteichthyes
　　マグロ属　*Thunnus* sp.
　　マイワシ　*Sardinops melanostictus*
　　アイナメ属　*Hexagrammos* sp.
　　硬骨魚綱の一種　Osteichthyes ord., fam., gen. et spp. indet.
鳥綱　Aves
　　鳥綱の一種　Aves ord., fam., gen. et spp. indet.
哺乳綱　Mammalia
　　ニホンジカ　*Cervus nippon*
　　イノシシ　***Sus scrofa***
　　イヌ　*Canis lupus familiaris*
　　ニホンザル　*Macaca fuscata*
　　ウマ　*Equus caballus*
　　哺乳綱の一種　Mammalia ord., fam., gen. et spp. indet.

表2　甲府城下町遺跡中央5丁目出土の動物遺体(1)

調査区名	出土地点	取上No.	時期	分類群	部位	点数				部分・状態	備考
						L	R	不明			
A	SK13B	-	江戸時代末～近代	シジミ属	殻		13	12	1	ほぼ完存	L:殻長平均18.3mm
A		-		マルタニシ	殻	4					
A		-		マグロ属	鰭条（棘条）				21		
A	SK17	-	江戸時代後期	マグロ属	腹椎・尾口・尾甲骨			1		ほぼ完存	切断痕（腹面側末端）
A		-		マグロ属	上擬鎖骨		1			ほぼ完存	
A		-		マグロ属	主鰭基骨			1		関節部欠	
A		-		ハマグリ	殻			1	1		
A		-		シジミ属	殻			1	1		
A		-		イタヤガイ	殻		1			破片	
A		-		ワネガイ科	殻				2	破片	
D	K40	-	-	ハマグリ	殻				1	破片	
D	SK82	-	-	シジミ属	殻		1	1			
D	SK101	-	江戸時代後期	鳥綱	脛足根骨？				1	近位・遠位端欠	
D	SK103	-	江戸時代後期	カマ	臼歯				1	破片	
D		-		ヴイイナメ属	橈骨	1				1/2残	
D		-		マイワシ	橈骨	1				ほぼ完存	
D	SK106	-	江戸時代後期～近代	ワネガイ科	殻				1	破片	
D	SK108	-	-	イノシシ	側頭骨		1			鱗関節部	
D		-	-	イノシシ	側頭骨			1		鱗骨突起～岩様部	
D		-	-	イノシシ	頭頂骨			1		破片	
D		-	-	イノシシ	後頭顆			1		破片	
D		-	-	イノシシ	頬骨				3	破片	
D		-	-	イノシシ	上顎骨		1			C,P1～M3	M3未萌出
D		-	-	イノシシ	上顎骨			1		I1,C,P1～M3	M3未萌出
D		-	-	イノシシ	上顎切歯		1	1		I1	
D		-	-	イノシシ	上顎臼歯			2		P2	
D		-	-	イノシシ	上顎臼歯		1	1		P3	
D		-	-	イノシシ	下顎骨		1	1		L:C, P1～M3 R:C, M1～M3	M3未萌出
D		-	-	イノシシ	下顎骨		1	1		L:C, P1～M3 R:C, M1～M3	M3未萌出
D		-	-	イノシシ	下顎切歯		2	2		I1	
D		-	-	イノシシ	下顎切歯		3	1		I2	
D		-	-	イノシシ	下顎切歯		1			I3	
D		-	-	イノシシ	下顎臼歯		1	3		P2	
D		-	-	イノシシ	下顎臼歯			2		P4	
D		-	-	イノシシ	環椎	1					
D		-	-	イノシシ	胸椎	3					
D		-	-	イノシシ	腰椎	3					
D		-	-	イノシシ	肩甲骨			1		鳥上・鳥下窩欠	
D		-	-	イノシシ	上腕骨		1			近位部欠	
D		-	-	イノシシ	上腕骨			1			近位骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	橈骨		1			遠位端欠	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	橈骨			1		遠位端欠	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	橈骨		2	1		遠位端部	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	尺骨		1			近位・遠位端欠	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	尺骨			1		近位・遠位端欠	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	尺骨		1			遠位端部	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	尺骨			1		骨幹部	
D		-	-	イノシシ	第2中手骨			1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第3中手骨		2	3		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第4中手骨		2	3		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第5中手骨		2	2		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第3手根骨		2			ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第4手根骨		1	1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	橈側手根骨		2	1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	中間手根骨		2	1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	尺側手根骨		2			ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	寛骨		1			腸骨	
D		-	-	イノシシ	寛骨			1		腸骨～座骨	
D		-	-	イノシシ	大腿骨		1			骨幹部	
D		-	-	イノシシ	脛骨		1	1		近位部欠	
D		-	-	イノシシ	腓骨		1	1		近位端欠	骨端未癒合
D		-	-	イノシシ	距骨		1			ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第2中足骨		1	1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第3中足骨		1			ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第4中足骨		1	1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第5中足骨		1	1		ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	第4足根骨		1			ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	中間足根骨		1			ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	基節骨	11				ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	中節骨	6				ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	末節骨	5				ほぼ完存	
D		-	-	イノシシ	中手・中足骨				3	遠位端部	

表2　甲府城下町遺跡中央5丁目出土の動物遺体(2)

調査区名	出土地点	取上No.	時期	分類群	部位	点数			部分・状態	備考
						L	R	不明		
D		-	-	ニホンジカ	上腕骨		1	1	L:P2～M3 R:P3～M3	
D		-	-	ニホンジカ	下腕骨		1	1	L:P2～M3 R:P3～M3	M3 第3咬頭萌出途中
D		-	-	ニホンジカ	下腕骨		1		橈節突起部	
D		-	-	ニホンジカ	下腕切歯		1		I1	
D		-	-	ニホンジカ	軸椎	1				
D		-	-	ニホンジカ	第4頸椎	1				
D		-	-	ニホンジカ	第5頸椎	2				
D		-	-	ニホンジカ	腰椎	1				
D		-	-	ニホンジカ	仙椎	2				
D		-	-	ニホンジカ	上腕骨		1	1	近位部欠	
D		-	-	ニホンジカ	橈骨		1		近位部欠	骨端癒合
D		-	-	ニホンジカ	橈骨		1	1	注汪完存	骨端癒合
D		-	-	ニホンジカ	尺骨		1	1	遠位部欠	骨端未癒合
D		-	-	ニホンジカ	中手骨		1	1	注汪完存	骨端癒合
D		-	-	ニホンジカ	第2・第3手根骨		1	1	注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	第4手根骨			1	注汪完存	
D	SK108	-	-	ニホンジカ	橈側手根骨			1	注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	中間手根骨			1	注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	寛骨		1	1	腸骨～座骨	
D		-	-	ニホンジカ	大腿骨		1		近位端欠	骨端未癒合
D		-	-	ニホンジカ	大腿骨			1	注汪完存	骨端癒合，近・遠位骨端痕あり
D		-	-	ニホンジカ	脛骨		1			骨端癒合
D		-	-	ニホンジカ	脛骨		1			近位端未癒合
D		-	-	ニホンジカ	脛骨			1		近位端未癒合，遠位端カットマーク
D		-	-	ニホンジカ	腓骨		2		注汪完存	近位端癒合
D		-	-	ニホンジカ	距骨		2	1	注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	中足骨			1	注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	中心・第4足根骨		2	1	注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	基節骨	8			注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	中節骨	3			注汪完存	
D		-	-	ニホンジカ	末節骨	2			注汪完存	
D		-	-	イヌ	大腿骨		1		近位部欠	
D		-	-	鳥類	橈骨	2			輪突起破片	
D		-	-	鳥類	肋骨			7	骨幹部破片	
D		-	-	鳥類	寛骨		1	1	破片	小型鳥類
D		-	-	鳥類	部位不明			241	破片	
D		No. 1		ニホンジカ	上腕骨			1	近位端欠	骨端未癒合
D		No. 2		イノシシ	脛骨		1		近位・遠位端欠	骨端未癒合
D	SK111	No. 3	江戸時代後期	ニホンジカ	中手骨		1		近位部欠	スパイラル状割れ口
D		No. 3		ニホンザル	大腿骨		1		近位部欠	スパイラル状割れ口
D		No. 5		鳥類	肋骨			1	遠位端欠	
D	-	-		ミミガイ科	殻	1			破片	
D	I層	-	-	シジミ属	殻		1		注汪完存	
A	I・II層	1626	-	シジミ属	殻		1		腹縁欠	
A	I・II層	1631	-	ミミガイ科	殻	1			破片	
A	I・II層	1631	-	フネガイ科	殻			1	破片	
A	I・II層	1660	-	シジミ属	殻		6	6		L:殻長平均16.5mm
A	I・II層	1660	-	キトウガイ	殻		1		腹縁欠	
A	I・II層	1660	-	フネガイ科	殻			4	破片	
A	I・II層	1661	-	キトウガイ	殻			1	腹縁欠	
A	I・II層	1661	-	マルタニシ	殻	1			殻口部欠	
A	I・II層	1661	-	腹足綱	殻	1			破片	
D	II層	16149	-	イノシシ	肩甲骨			1	鞍上・鞍下窩欠	
D	II層	16167	-	ニホンジカ	肋骨		1		完存	
C	-	1669	-	シジミ属	殻		1		注汪完存	
C	-	1686	-	シジミ属	殻			1	殻頂部欠	
C	-	1687	-	シジミ属	殻			1	注汪完存	
C	-	1695	-	ミミガイ科	殻	6			破片	
D	-	16185	-	イノシシ	頭骨			4	破片	
D	-	16185	-	イノシシ	後頭顆			1		
D	-	16185	-	イノシシ	上腕骨(幼)前		1		完存	
D	-	16185	-	イノシシ	下腕骨(幼)前			1	完存	
D	-	16185	-	イノシシ	寛骨		1		臼蓋体残	
D	-	16185	-	イノシシ	第3中手骨		1		遠位端欠	骨端未癒合
D	-	16185	-	ニホンジカ	橈骨			1	完存	
D	-	16185	-	ニホンジカ	中節骨	1			完存	
D	-	16185	-	鳥類	脛骨			1	破片	
D	-	16185	-	鳥類	頭骨			10	破片	
D	-	16185	-	鳥類	不明			1	破片	
D	-	16185	-	鳥類	肋骨			1	骨幹部	
D	-	16190	-	ニホンジカ	下腕骨		1		下腕枝～亀欠	P_2～M3
D	-	16189	-	イノシシ	橈骨	1			橈骨頭欠	カットマーク（腹縁筋付近）
D	-	16123	-	フネガイ科	殻			1	破片	
C	-	-	-	サザエ	殻	3			殻口，殻頂欠	

表3　甲府城下町遺跡中央5丁目SK108出土の動物遺体

部位名	イノシシ	ニホンジカ	イヌ	陸獣類
頭骨	側頭骨 L1（顎関節部） 側頭骨 R1（横骨突起～岩様部） 頭頂骨 R1 後頭顆 R1 頭骨破片 3			
上顎骨	L:C, P_2～M_2（M_3未萌出） R:I_1, C, P_2～M_2（M_3未萌出） 切歯 I_2 L1, R1 臼歯 P_2 R2 P_3 L1, R1	L:P_2～M_2 R:P_2～M_2		
下顎骨	下顎骨① L:C, P_1～M_2（M_3未萌出） R:C, M_1～M_2（M_3未萌出） 下顎骨② L:C, P_1～M_2（M_3未萌出） R:C, M_1～M_2（M_3未萌出） 切歯 I_1 L2, R2 I_2 L3, R1 I_3 L1 臼歯 P_2 L1, R3 P_1 R2	L:P_2～M_2（M_3第3P交頭萌出途中） R:P_2～M_2（M_3第3P交頭萌出途中） L1（関節突起部） 切歯 I_1 L1		
椎骨	環椎 1 胸椎 3 腰椎 3	第2頸椎（軸椎） 1 第4頸椎 1 第5頸椎 2 腰椎 1 仙椎 2		2（棘突起破片）
肋骨				7（骨幹部破片）
肩甲骨	R1（鎖上・下窩欠）			
上腕骨	L1（近位部欠） R1（近位未癒合）	L1（近位部欠） R1（近位部欠）		
橈骨	L1（遠位端欠、未癒合） R1（遠位端欠、未癒合） 遠位端 L2, R1（未癒合）	L1（近位部欠、骨端未癒合） L1（骨端癒合） R1（骨端癒合）		
尺骨	L1（近位・遠位端欠、未癒合） R1（近位・遠位端欠、未癒合） R1（骨幹部） 遠位端 L1（未癒合）	L1（遠位部欠、骨端未癒合） R1（遠位部欠、骨端未癒合）		
中手骨	第2中手骨 R1 第3中手骨 L2, R3 第4中手骨 L2, R3 第5中手骨 L2, R2	L1（骨端癒合） R1（骨端癒合）		
手根骨	第3手根骨 L2 第4手根骨 L1, R1 橈側手根骨 L2, R1 中間手根骨 L2, R1 尺側手根骨 L2	第2・第3手根骨 L1, R1 第4手根骨 R1 橈側手根骨 R1 中間手根骨 R1		
寛骨	L1（腸骨） R1（腸骨～座骨）	L1（腸骨～座骨） R1（腸骨～座骨）		L1, R1（小型、寛骨破片）
大腿骨	L1（骨幹部）	L1（近位端欠、骨端未癒合） R1（癒合、近・遠位骨端線あり）	L1（近位部欠）	
脛骨	L1（近位部欠） R1（近位部欠）	L1（骨端癒合） L1（近位端未癒合） R1（近位端未癒合、遠位端カットマーク）		
腓骨	L1（近位端欠、未癒合） R1（近位端欠、未癒合）	L2（近位端癒合）		
距骨	L1	L2, R1		
中足骨	第2中足骨 L1, R1 第3中足骨 L1 第4中足骨 L1, R1 第5中足骨 L1, R1	R1		
足根骨	第4足根骨 L1 中間足根骨 L1	中心・第4足根骨 L2, R1		
指骨	基節骨 11 中節骨 6 末節骨 5	基節骨 8 中節骨 3 末節骨 2		
その他	中手・中足骨遠位端 3			部位不明破片 241点

表4　遺構および包含層における最小個体数

遺構名	腹足綱・斧足綱								硬骨魚綱				鳥綱	哺乳綱				
	ミミガイ科	サザエ	マルタニシ	フネガイ科	サトウガイ	イタヤガイ	シジミ属	ハマグリ	マグロ属	マイワシ	アイナメ属	鳥類	ニホンジカ	イノシシ	イヌ	ニホンザル	ウマ
SK13B			4				13										
SK17				1		1	1	1	1								
K40								1									
SK82							1										
SK101												1					
SK103										1	1						1
SK106				1													
SK108													2	3	1		
SK111	1												1	1		1	
包含層	1	3	1	1		1	9						1	1			

図版1　甲府城下町遺跡（中央5丁目）から出土した動物遺体
1. ハマグリ右殻（SK17）　2. シジミ属左殻（SK13B（SE1））　3. サトウガイ右殻（Ⅰ・Ⅱ層）　4. マルタニシ（SK13B（SE1））　5. サザエ（③西区）　6. ミミガイ科（②IG95）　7. マグロ属右擬鎖骨・肩甲骨・烏口骨（SK17）　8. ニホンジカ左中手骨（SK111）　9. ニホンザル左大腿骨（SK111）　10. イノシシ左橈骨（SK111）

図版2　甲府城下町遺跡（中央5丁目）SK108から出土したニホンジカ
1.左下顎骨　2.第2頸椎（軸椎）　3.右上腕骨　4.右橈骨　5.右中手骨　6.右大腿骨　7.右脛骨　8.左踵骨

図版3　甲府城下町遺跡（中央5丁目）SK108から出土したイノシシ
1.左下顎骨　2.右上腕骨　3.右橈骨　4.右尺骨　5.右脛骨　6.右踵骨　7.左距骨　8.左第3・第4中足骨

第４節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）から出土した大型植物遺体

パンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、江戸時代から近代の遺跡である。ここでは、中央５丁目１区の江戸時代後期～近代の遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生、栽培状況について検討した。なお、同じ堆積物試料を用いて動物遺体同定と昆虫同定、寄生虫卵分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、肉眼で確認・回収された現地取り上げ試料 18 試料と、堆積物試料が９試料である。現地取り上げ試料は、江戸時代末～近代の SK13B から１試料、江戸時代後期の SK17、SK81、SK95、SK100B、SK101、SK102、SK114、SK119 から各１試料と SK104 から２試料、時期不明の SD9 から１試料と遺構外の取上 No.IG173、IG203、IG185、IG162、IG167、IG177 の６試料が採取された。堆積物試料は、江戸時代後期の SK17 から３試料、SK94 と SK95、SK96、SK103B から各１試料、SK103 から２試料が採取された。試料が採取された遺構は、土坑（SK：廃棄土坑、埋桶、埋甕含む）と、上水遺構（SD）である。試料は、昭和測量株式会社によって採取された。

堆積物試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。各試料 300cc について最小 0.5mm 目の篩を用いて水洗した。大型植物遺体の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。モモとクルミ属は形態を観察し、完形、一部破損の個体、一部焦痕のある個体、半割の個体に分類した。計数が困難な分類群は、記号（+）で示した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のイヌガヤ種子とマツ属複維管束亜属葉の２分類群、広葉樹のブドウ種子とブドウ属種子、モモ核、ウメ核、バラ属核、ケヤキ果実、クワ属核、クリ果実、シイノキ属果実、ヒメグルミ核、オニグルミ核・炭化核、ハンノキ属果実鱗片、サンショウ種子、カキノキ未熟種子、エゴノキ核、ムラサキシキブ属核、キリ種子の 17 分類群、草本植物ではオモダカ属種子とコナギ種子、ウキヤガラ果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属 A 果実、カワラスガナ果実、カヤツリグサ属果実、サンカクイ－フトイ果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属 A 有ふ果、メヒシバ属 B 有ふ果、オヒシバ属種子（頴果）、ヒエ炭化種子（頴果）、ヒエ近似種有ふ果、ヒエ属有ふ果、イネ炭化籾・籾殻・炭化籾殻・炭化種子（頴果）、エノコログサ属有ふ果、キケマン属種子、タガラシ果実、フサモ属種子、ヒシ属果実、アサ核、ゴキヅル種子、トウガン種子、スイカ種子、メロン仲間種子、ニホンカボチャ種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、ソバ果実、ヤナギタデ果実、サナエタデ－オオイヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、ヤマゴボウ属種子、トウガラシ種子、ナス種子、ナス属種子、ゴマ種子、メハジキ属果実、シソ属果実・炭化果実、ゴボウ果実の 44 分類群の、計 63 分類群が得られた。この他に、科以上の詳細な同定ができない芽の一群を不明芽、同定の識別点を欠く種実の一群を同定不能炭化種実とした（表１～３）。

表1　甲府城下町遺跡中央5丁目1区から出土した大型植物遺体（1）（現地取上げ試料；括弧内は破片数）

		試料No.	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9
		調査区	A地区		C地区	D地区					
		遺構	SK13B	SK17	SD9	SK95	SK102	SK104	SK114	－	－
		取上No.	－	－	－	－	－	－	－	IG173	IG203
		時期	江戸時代末～近代	江戸時代後期	－	江戸時代後期				－	－
分類群											
ブドウ	種子		1								
モモ	核（完形）					4		1		1	2
	核（半割）					(1)					
ウメ	核							1			
オニグルミ	核（一部焦痕）								(1)		
	炭化核（半割）				(1)						
トウガン	種子			1			1				
メロン仲間	種子		3								
ニホンカボチャ	種子			1			1				1
ゴボウ	果実		1								
種実ではない								1			

表2　甲府城下町遺跡中央5丁目1区から出土した大型植物遺体（2）（現地取上げ試料；括弧内は破片数）

		試料No.	S10	S11	S12	S13	S14	S15	S16	S17	S18
		調査区	D地区								
		遺構	－	SK81	SK100B	SK101	SK104	SK119	－	－	－
		層位	－	－	－	－	－	－	－	Ⅱ層	－
		取上No.	IG185	－	－	1	－	－	IG162	IG167	IG177
		時期	－	江戸時代後期					－	－	－
分類群											
モモ	核（完形）		1	1		1	1		1		
	核（一部破損）										1
	核（半割）		(1)					(1)		(1)	
ヒメグルミ	核（半割）				(1)						

以下に、大型植物遺体の産出傾向を時期ごとに、遺構別に記載する（不明芽と同定不能炭化種実は除く）。

＜現地取り上げ試料＞

[江戸時代後期]

SK17（廃棄土坑）：トウガンとニホンカボチャが1点ずつ得られた。

SK81（不整形土坑）：完形のモモが1点得られた。

SK95（埋桶内の下層）：モモ（完形・半割）がわずかに得られた。

SK100B（埋桶）：半割のヒメグルミが1点得られた。

SK101（土坑）：半割のヒメグルミが1点得られた。

SK102（廃棄土坑）：トウガンとニホンカボチャが1点ずつ得られた。

SK104（廃棄土坑）：モモとウメが1点ずつ得られた。

SK114（廃棄土坑）：一部焦痕のあるオニグルミが1点得られた。

SK119（廃棄土坑）：半割のヒメグルミが1点得られた。

[江戸時代末～近代]

SK13B（埋桶）：ブドウとメロン仲間、ゴボウがわずかに得られた。

[時期不明]

SD9（上水遺構）：半割のオニグルミが1点得られた。

遺構外（Ⅱ層）：半割のモモが1点得られた。

遺構外：完形のモモが5点、半割のモモが1点、一部破損したモモが1点、ニホンカボチャが1点得られた。

表3　甲府城下町遺跡中央5丁目1区から出土した大型植物遺体（3）（水洗試料；括弧内は破片数）

	試料No.	土1	土2	土3	土4	土5	土6	土7	土8	土9
	調査区		A地区				D地区			
	遺構		SK17		SK94	SK95	SK96	SK103		SK103B
	層位	上層	中層	下層	埋桶内		埋甕内	埋桶内（砂層）	埋桶内	
	時期	江戸時代後期								
分類群	水洗量（cc）	300								
イヌガヤ	種子		(1)						(1)	
マツ属複維管束亜属	葉		2 (++)	(+)	1		1 (+)			1 (+)
ブドウ	種子						2	1		
ブドウ属	種子	(1)	(2)		(2)					
バラ属	核									1
ケヤキ	果実		1							
クワ属	核		2			1				
クリ	果実		(1)				(5)	(1)		(2)
シイノキ属	果実									(1)
ハンノキ属	果実鱗片		1							
サンショウ	種子		(1)				(1)	(2)	(2)	(1)
カキノキ	未熟種子									2
エゴノキ	核						(1)			
ムラサキシキブ属	核	(1)								2
キリ	種子						12			
オモダカ属	種子			2	1					
コナギ	種子	1								
ウキヤガラ	果実			1 (2)	1					1 (1)
スゲ属アゼスゲ節	果実			1				(1)		
スゲ属A	果実		2							
カワラスガナ	果実			1						
カヤツリグサ属	果実	1								
サンカクイーフトイ	果実				1					
ホタルイ属	果実			2	3 (2)				1	2
メヒシバ属A	有ふ果	1	69 (8)	20		1	3			
メヒシバ属B	有ふ果					1				
オヒシバ属	種子	4		2						
ヒエ	炭化種子		1							
ヒエ近似種	有ふ果				3					
ヒエ属	有ふ果		27 (24)	4 (2)	4 (9)	4 (14)		1	1 (6)	(3)
イネ	炭化籾				4 (2)					
	籾殻	1 (+)	36 (++)	21 (++)	24 (++)	10 (++)	1 (+)	2 (+)	5 (+)	24 (+++)
	炭化籾殻	1	3 (+)	3	3 (++)					(+)
	炭化種子	3 (1)	(3)		1 (1)		(2)			2 (1)
エノコログサ属	有ふ果		1	3						1 (1)
キケマン属	種子	6	54 (6)	10 (4)	2 (1)	1	130 (18)	1	1 (1)	2
タガラシ	果実	1	4 (4)	1 (1)	1					
フサモ属	種子	1								
ヒシ属	果実	(1)								
アサ	核								1	
ゴキヅル	種子				(7)					
トウガン	種子	(10)	(4)	(2)						
スイカ	種子							1		
メロン仲間	種子		(2)	(2)	1 (2)		(16)			2 (2)
ニホンカボチャ	種子	(15)	1 (5)	1 (1)						
カタバミ属	種子		5	6			7 (4)			
エノキグサ属	種子	2 (1)	1 (1)	(1)				(1)		
ゾバ	果実		(21)		(2)					
ヤナギタデ	果実						1			
サナエタデ-オオイヌタデ	果実		(1)							(3)
ミチヤナギ属	果実		(2)	2						
ウシハコベ	種子	1	3	11						
アカザ属	種子	4 (1)	2			1	2	1		
スベリヒユ属	種子	46 (6)	111	31	4	2	3			1
ヤマゴボウ属	種子		1							
トウガラシ	種子					1 (1)		4	7 (12)	5 (2)
ナス	種子		(3)	1	3 (6)	3 (13)				
ナス属	種子								1	
ゴマ	種子	(1)	(1)	(6)	4 (16)	4 (++++)	(5)	(17)	(33)	(5)
メハジキ属	果実			1	1					
シソ属	果実		3 (1)	1				(1)	1	(3)
	炭化果実		1							
同定不能	炭化種実						(1)			(1)
不明	芽		(+)	(+)				(++)		

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上

＜堆積物試料＞

[江戸時代後期]

SK17（廃棄土坑）：イネとスベリヒユ属が多く、メヒシバ属 A とヒエ属、キケマン属がやや多く、マツ属複維管束亜属とタガラシ、トウガン、ニホンカボチャ、カタバミ属、ソバ、ウシハコベが少量、ブドウ属とウキヤガラ、オヒシバ属、エノコログサ属、メロン仲間、エノキグサ属、ミチヤナギ属、アカザ属、ナス、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が 3 点未満であった。栽培植物では、ヒエがわずかに得られた。

SK94（埋桶内の下層）：イネがやや多く、ヒエ属とゴマが少量、ホタルイ属とヒエ近似種、キケマン属、ゴキヅル、メロン仲間、スベリヒユ属、ナスがわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が 3 点未満であった。栽培植物では、ソバがわずかに得られた。

SK95（埋桶内の下層）：ゴマが多く、ヒエ属とイネ、ナスが少量、クワ属とメヒシバ属 A、メヒシバ属 B、キケマン属、アカザ属、スベリヒユ属、トウガラシがわずかに得られた。

SK96（埋甕内の下層）:キケマン属が多く、キリとメロン仲間、カタバミ属が少量、マツ属複維管束亜属とクリ、メヒシバ属 A、イネ、スベリヒユ属、ゴマがわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が 3 点未満であった。

SK103（埋桶）：ゴマがやや多く、イネとトウガラシが少量、サンショウとヒエ属、キケマン属がわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が 3 点未満であった。栽培植物では、ブドウとアサ、スイカがわずかに得られた。

SK103B（埋桶）：イネがやや多く、マツ属複維管束亜属とヒエ属、メロン仲間、サナエタデーオオイヌタデ、トウガラシ、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が 3 点未満であった。栽培植物では、カキノキがわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG Ⅲリストの順とした。

(1) ブドウ　Vitis vinifera L.　種子　ブドウ科

黒褐色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に 1 本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝孔が 2 つある。種皮は薄く硬い。長さ 7.0mm、幅 4.3mm、厚さ 3.0mm。基部が太く円柱状に突出しており、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。破片の試料はブドウ属とした。

(2) モモ　Amygdalus persica L.　核　バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形～紡錘形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形個体は、高さ 32.8mm、幅 25.0mm、厚さ 17.0mm（図版 1-2）、高さ 29.2mm、幅 20.0mm、厚さ 13.3mm（図版 1-3）、高さ 26.7mm、幅 18.6mm、厚さ 12.7mm（図版 1-4）。一部破損した個体は、高さ 26.0mm、残存幅 16.8mm、厚さ 13.2mm（図版 1-5）。

(3) ウメ　Armeniaca mume (Siebold et Zucc.) de Vriese　核　バラ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に、不規則で深い小さな孔がある。頂部にはやや突出した嘴状の肥厚がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 13.5mm、幅 10.1mm、厚さ 8.2mm。

(4) クワ属　Morus spp.　核　クワ科

赤褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚くやや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ 2.0mm、幅 1.5mm。

(5) クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　果実　ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざら

つくが、残存していない。残存高 7.7mm、残存幅 4.5mm。

(6) シイノキ属　Castanopsis spp.　果実　ブナ科

暗赤茶色で、完形ならば卵形、堅果の幅は花被着点直下で狭くなる。縦の条線が目立つ。スダジイもしくはツブラジイの形状を呈する一群をシイノキ属果実とした。残存高 7.5mm、残存幅 6.1mm。

(7) ヒメグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. cordiformis (Makino) Kitam.　核　クルミ科

淡褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点でオニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。半割の個体の大きさは、高さ 31.4mm、幅 23.2mm、残存厚 10.2mm。

(8) オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Komatsu) Kitam.　核・炭化核　クルミ科

茶褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。一部焦痕のある個体の大きさは、高さ 37.1mm、幅 24.5mm、残存厚 11.9mm。炭化した半割の個体は、高さ 28.0mm、幅 23.2mm、残存厚 9.2mm。

(9) カキノキ　Diospyros kaki Thunb.　未熟種子　カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。長さ 3.7mm、幅 2.0mm。

(10) キリ　Paulownia tomentosa (Thunb.) Steud.　種子　キリ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形。縦方向に隆起が数条あり、光沢がある。種子の周囲には半透明な褐白色で、放射方向の筋が密な幅広い翼がある。長さ 2.0mm、幅 1.0mm。

(11) コナギ　Monochoria vaginalis (Burm.f.) C.Presl ex Kunth　種子　ミズアオイ科

赤褐色で、上面観は円形、側面観は楕円形。表面には縦方向の低い隆起があり、隆起の間には横方向の線が密に入る。長さ 1.0mm、幅 0.5mm。

(12) メヒシバ属 A　Digitaria sp. A　有ふ果　イネ科

赤褐色で、披針形。狭卵形。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。長さ 2.7mm、幅 0.6mm。

(13) メヒシバ属 B　Digitaria sp. B　有ふ果　イネ科

黒褐色で、披針形。先が尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。内外頴ともに厚みがある。長さ 1.7mm、幅 0.7mm。

(14) ヒエ　Echinochloa esculenta (A.Braun) H.Scholz　炭化種子（頴果）　イネ科

側面観が卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の 2/3 程度と長い。長さ 1.6mm、幅 1.3mm。

(15) ヒエ近似種　c.f.Echinochloa esculenta (A.Braun) H.Scholz　有ふ果　イネ科

茶褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。内頴は膨らまず、外頴は中央部が最も膨らむ。長さ 3.5mm、幅 2.4mm。栽培型のヒエに似るが、少し長く幅も広いため、近似種とした。

(16) ヒエ属　Echinochloa spp.　有ふ果　イネ科

赤褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。内頴は膨らまず、外頴は中央部が最も膨らむ。那須（2017）に示された現生種の長幅比と比較すると、栽培型のヒエよりも野生植物のイヌビエの長幅比に近かった。長さ 2.2mm、幅 1.4mm。

(17) イネ　Oryza sativa L.　炭化籾・籾殻・炭化籾殻・炭化種子（頴果）　イネ科

籾は、上面観が楕円形で側面観が長楕円形。2 条の稜があり、表面には四角形の網目状隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しく並ぶ。長さ 6.4mm、幅 2.5mm。籾殻は残存長 4.0mm、残存幅 2.4mm。種子（頴果）

の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形で、一端に胚が残る。両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 4.8mm、幅 3.0mm。

(18) エノコログサ属　Setaria spp.　有ふ果　イネ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ 1.7mm、幅 1.0mm。

(19) タガラシ　Ranunculus sceleratus L.　果実　キンポウゲ科

淡黄色で、上面観は扁平、側面観は倒卵形。両面中央はやや凹む。周囲は隆起し、稜を持つ。長さ 1.0mm、幅 0.8mm。

(20) ヒシ属　Trapa sp.　果実　ミソハギ科

茶褐色で、完形ならば不整三角形で、先端が尖った角が 4 方向にのびる。萼片が肥厚してできた腕の破片のみが産出した。先端は尖るが、残存していない。残存長 3.7mm、残存幅 4.6mm。

(21) アサ　Cannabis sativa L.　核　アサ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表面には脈状の模様がある。長さ 4.1mm、幅 3.4mm、厚さ 2.7mm。

(22) トウガン　Benincasa hispida (Thunb.) Cogn.　種子　ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ 11.2mm、幅 6.1mm。

(23) スイカ　Citrullus lanatus (Thunb.) Matsum. et Nakai　種子　ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ 12.5mm、幅 7.5mm。

(24) メロン仲間　Cucumis melo L.　種子　ウリ科

淡褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。長さ 7.1mm、幅 3.3mm。

(25) ニホンカボチャ　Cucurbita moschata (Duchesne ex Lam.) Duchesne ex Poir.　種子　ウリ科

淡褐色で、上面観は扁平、側面観は肩が張る長倒卵形。周縁を毛が取り囲む。長さ 11.7mm、幅 7.1mm。

(26) ソバ　Fagopyrum esculentum Moench　果実　タデ科

暗赤茶色で、完形ならば側面観は頂部の尖った卵形、上面観は三角形。稜となる果実辺縁部はやや薄い。残存長 4.1mm、残存幅 4.0mm。

(27) トウガラシ　Capsicum annuum L.　種子　ナス科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。着点はやや窪む。表面には細長い畝状突起をもつ網目状隆線がある。着点近くの下端に嘴状の突起がある。長さ 2.8mm、幅 4.5mm。

(28) ナス　Solanum melongena L.　種子　ナス科

赤褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ 2.6mm、幅 3.0mm。

(29) ゴマ　Sesamum orientale L.　種子　ゴマ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ 3.1mm、幅 2.0mm。

(30) シソ属　Perilla spp.　果実・炭化果実　シソ科

茶褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。長さ 1.5mm、幅 1.2mm。

(31) ゴボウ　Arctium lappa L.　果実　キク科

淡褐色で、上面観は楕円形、側面観は線形。4 ～ 5 条の稜がある。長さ 5.0mm、幅 1.5mm。

4. 考察

甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）の江戸時代後期や江戸時代末～近代の遺構からは、多量かつ多種類の大型植物遺体が得られた。

以下、産出した大型植物遺体について、時期ごとに考察する。

[江戸時代後期]

SK17（廃棄土坑）とSK81（不整形土坑）、SK94（埋桶）、SK95（埋桶）SK96（埋甕）、SK100B（埋桶）、SK101（土坑）、SK102（廃棄土坑）、SK103（埋桶）、SK103B（埋桶）、SK104（廃棄土坑）、SK114（廃棄土坑）、SK119（廃棄土坑）からは、栽培植物で果樹のブドウやモモ、ウメ、カキノキ、畑作物のヒエやヒエ近似種、アサ、トウガン、スイカ、メロン仲間、ニホンカボチャ、ソバ、トウガラシ、ナス、ゴマが得られた。以前に分析が行われた、甲府城下町遺跡（中央４丁目Ⅰ工区）の19世紀以前の⑦区SK3は、寄生虫卵分析の結果からトイレ遺構の可能性が指摘されており、大型植物遺体分析の結果からもナスやゴマなどが排泄物に混じっていたと推定されている（森，2020；佐々木・バンダリ，2020）。今回のSK94（埋桶）やSK95（埋桶）、SK103（埋桶）、SK103B（埋桶）についても、寄生虫卵分析の結果、桶が便槽であった可能性が指摘されており（寄生虫卵分析の項参照）、ゴマやナス、トウガラシなどが排泄物に混じっていたと考えられる。

また、食用可能な野生植物のブドウ属とクワ属、クリ、シイノキ属、ヒメグルミ、オニグルミ、サンショウ、ヒシ属などが得られた。木本植物のうち、モモ核やウメ核は、果肉を食べた後に捨てられた可能性がある。クリの子葉は食用となる部位であるが、クリの果実は食用ではないため、果皮を剥いた後に廃棄された可能性がある。オニグルミでは一部焦痕のある個体も見られ、人為的に割られて中の子葉を食用のために取り出した可能性がある。モモ７個体の大きさを計測した結果、高さ平均27.0±1.5mm、幅平均18.2±1.6mm、厚さ平均12.7±1.7mmで、縦長の個体が多かった（表4）。山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津（1999）によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には核長が24.6～26.5mmと比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。さらに、奈良・平安時代のモモの核長は23.6～26.6mmで、鎌倉時代には大きさの変異幅が大きく、江戸時代後期になると大型になり、平均核長26.9mm、最大で38.0mm程度の核がみられるとしている。山梨県の江戸時代後期のモモの平均値と比較すると、今回の甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）のモモ核は平均値をやや上回る大きさで、前回の甲府城下町遺跡（中央４丁目Ⅱ・相生工区）の結果ともかなり近かった（バンダリ，2020）。

草本植物では、水田作物のイネと、水田雑草でもある湿地性のオモダカ属やコナギ、ヒエ属、タガラシ、水田周辺の湿った場所や畦に生育するウキヤガラやスゲ属A、スゲ属アゼスゲ節、カワラスガナ、カヤツリグサ属、サンカクイーフトイ、ホタルイ属、ヤナギタデ、ウシハコベなど、湿地植物のフサモ属やヒシ属が得られた。乾いた草地や荒れ地、畑などに生育するメヒシバ属AやメヒシバB、オヒシバ属、エノコログサ属、キケマン属、カタバミ属、エノキグサ属、サナエタデ・オオイヌタデ、ミチヤナギ属、アカザ属、スベリヒユ属、ヤマゴボウ属、メハジキ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地や、小規模な畑や庭が存在した可能性もある。イネは籾殻が多いため、籾摺り後の籾殻がゴミとしてまとめて廃棄された可能性がある。

[江戸時代末～近代]

SK13B（埋桶）からは、栽培植物で果樹のブドウ、畑作物のメロン仲間、ゴボウが産出した。藤下（1984）によれば、メロン仲間は種子の大きさからおおむね次の３群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。今回、SK13B（SE1）から出土したメロン仲間の種子３点の大きさは、長さ6.3～7.1（平均6.6±0.5）mm、幅3.1～3.3（平均3.2±0.1）mmで、藤下（1984）の分類でいうマクワウリ・シロウリ型の大きさであった（表5）。

[時期不明]

SD9（上水遺構）と遺構外の試料では、栽培植物で果樹のモモ、畑作物のニホンカボチャ、食用可能な野生植物のオニグルミが確認された。モモの核は、果肉を食べた後に捨てられた可能性がある。半割の状態で得られたモモやオニグルミは、外部に打撃痕がみられないため、自然に割れた可能性がある。

表4　モモ核の大きさ（単位：mm）

遺構	高さ	幅	厚さ
SK81	31.2	22.5	17.6
SK95	29.2	20.0	13.3
	27.2	18.2	13.1
	28.6	20.2	13.8
	27.0	19.0	12.8
SK101	28.3	21.8	14.5
SK104	27.5	18.6	12.7
最小	27.0	18.2	12.7
最大	31.2	22.5	17.6
平均	28.4	20.0	14.0
標準偏差	1.5	1.6	1.7

表5　メロン仲間種子の大きさ

遺構	長さ	幅
SK13B	7.1	3.3
	6.3	3.1
	6.3	3.1
最小	6.3	3.1
最大	7.1	3.3
平均	6.6	3.2
標準偏差	0.5	0.1

（単位：mm）

引用文献

バンダリ スダルシャン（2020）甲府城下町遺跡（中央４丁目Ⅱ・相生工区）から出土した大型植物分析．昭和測量株式会社編「甲府城下町遺跡ＸＸ」：513-522．甲府市教育委員会．

森　将志（2020）甲府城下町遺跡（中央４丁目地点）の寄生虫卵分析．昭和測量株式会社編「甲府城下町遺跡ＸＸ」：462-463．甲府市教育委員会．

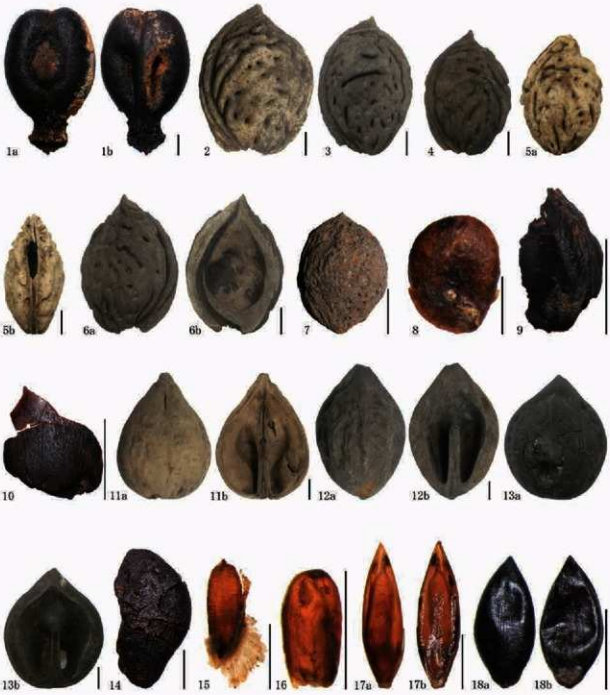
佐々木由香・バンダリ スダルシャン（2020）甲府城下町遺跡（中央４丁目Ⅰ工区）から出土した大型植物分析．昭和測量株式会社編「甲府城下町遺跡ＸＸ」：464-472．甲府市教育委員会．

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学―総括報告書」：638-654，同朋舎出版．

那須浩郎（2017）縄文時代にヒエは栽培化されたのか？ SEEDS CONTACT，4，27-29.

新津　健（1999）遺跡から出土するモモ核について―山梨県内の事例から―．山梨考古学論集，Ⅳ，361-374，山梨県考古学協会．

米倉浩司・梶田　忠（2003-）BG Plants 和名－学名インデックス（YList），http://ylist.info



スケール 1,8,14-18:1mm, 2-7,9-13:5mm

図版1　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）から出土した大型植物遺体（1）

1．ブドウ種子（SK103、埋桶内砂層、土7）、2．モモ核（完形）（IG185、S10）、3．モモ核（完形）（SK95、S4）、4．モモ核（完形）（SK104、S14）、5．モモ核（一部破損）（IG177、S18）、6．モモ核（半割）（IG167、S17）、7．ウメ核（SK104、S6）、8．クワ属核（SK17、中層、土2）、9．クリ果実（SK96、埋甕内、土6）、10．シイノキ属果実（SK103B、埋桶内、土9）、11．ヒメグルミ核（半割）（SK100B、S12）、12．オニグルミ核（一部焦痕）（SK114、S7）、13．オニグルミ炭化核（SD9、S3）、14．カキノキ未熟種子（SK103B、埋桶内、土9）、15．キリ種子（SK96、埋甕内、土6）、16．コナギ種子（SK17、上層、土1）、17．メヒシバ属A有ふ果（SK17、中層、土2）、18．メヒシバ属B有ふ果（SK95、埋桶内、土5）

スケール 19-28, 33-38:1mm, 29-32:5mm

図版2 甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）から出土した大型植物遺体（2）

19．ヒエ炭化種子（SK17、中層、土2）、20．ヒエ近似種有ふ果（SK94、埋桶内、土4）、21．ヒエ属有ふ果（SK17、下層、土3）、22．イネ炭化籾（SK94、埋桶内、土4）、23．イネ籾殻（SK103B、埋桶内、土9）、24．イネ炭化種子（頴果）（SK17、上層、土1）、25．エノコログサ属有ふ果（SK17、下層、土3）、26．タガラシ果実（SK17、中層、土2）、27．ヒシ属果実（SK17、上層、土1）、28．アサ核（SK103、埋桶内、土8）、29．トウガン種子（SK17、S2）、30．スイカ種子（SK103、埋桶内砂層、土7）、31．メロン仲間種子（SK13B、S1）、32．ニホンカボチャ種子（SK102、S5）、33．ソバ果実（SK17、中層、土2）、34．トウガラシ種子（SK103、埋桶内、土8）、35．ナス種子（SK94、埋桶内、土4）、36．ゴマ種子（SK94、埋桶内、土4）、37．シソ属果実（SK17、中層、土2）、38．ゴボウ果実（SK13B、S1）

第５節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）の寄生虫卵分析

森　将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）では、廃棄土坑や埋桶、埋甕などの遺構が検出されており、これらの遺構から寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、寄生虫卵分析の結果を示し、トイレ遺構の可能性などについて検討した。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている（大型植物遺体分析の項参照）。

2. 試料と分析方法

分析試料は、江戸時代後期の廃棄土坑や埋桶、埋甕から採取された堆積物９点である（表１）。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

試料を乾燥後、遠沈管にとり、計量した。そこに 10% の水酸化カリウム溶液を加え、10 分間湯煎する。水洗後、46% のフッ化水素酸を加え、１時間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：硫酸１の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、得られた残渣に適容量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料 1g 中の寄生虫卵含有数は、次式で求めた。

$X = BD/AC$

X：試料 1g 中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量 (g)、B：濃縮試料＋グリセリンの重量 (g)、C：濃縮試料＋グリセリンのうち、封入に用いた重量 (g)、D：プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良好な寄生虫卵を選んで単体標本（PLC.3081,3082）を作製し、写真を図版１に載せた。

表1　分析試料一覧表

試料No.	調査区	遺構	時期	岩質	備考
土1	A地区	SK17	江戸時代後期	黒褐色(10YR2/2)粘土	廃棄土坑(遺物多量出土) 上層
土2	A地区	SK17		黒褐色(2.5Y3/1)粘土	廃棄土坑(遺物多量出土) 中層
土3	A地区	SK17		黒色(5YR1.7/1)粘土	廃棄土坑(遺物多量出土) 下層
土4	D地区	SK94		黒色(2.5Y2/1)砂質粘土	埋桶内の下層
土5	D地区	SK95		黒色(2.5Y2/1)砂質シルト	埋桶内の下層
土6	D地区	SK96		黒褐色(2.5Y3/1)砂質粘土	埋甕内の下層
土7	D地区	SK103		黒褐色(2.5Y3/2)粘土質砂	埋桶
土8	D地区	SK103		黒色(10YR1.7/1)粘土	埋桶
土9	D地区	SK103B		黒褐色(10YR2/2)粘土	SK103埋桶の下から検出した埋桶

3. 分析結果

計量し、検鏡した結果を表２に示す。D地区 SK96（土６）を除く８試料から回虫卵と鞭虫卵の２種類の寄生虫卵が確認できた。中でも、D地区の SK94（土４）と SK95(土５)、SK103（土７）、SK103（土８）の４試料からは多くの寄生虫卵が検出された。特に SK95(土５) では、16,104 個 /cm3 の密度を示し、最も多い。

表2　試料の計量値と寄生虫卵数

	土1 A地区 SK17	土2 A地区 SK17	土3 A地区 SK17	土4 D地区 SK94	土5 D地区 SK95	土6 D地区 SK96	土7 D地区 SK103	土8 D地区 SK103	土9 D地区 SK103B
分析に用いた試料(g)	4.5972	3.9202	3.3485	3.1071	2.5161	3.6836	4.1823	2.1070	3.1198
残渣＋グリセリン(g)	1.4621	1.9293	1.9621	2.3015	2.1779	1.5292	1.0011	2.5423	1.3890
封入に用いた量(g)	0.0618	0.0417	0.0391	0.0438	0.0560	0.0548	0.0351	0.0286	0.0256
試料の密度 (g/cm^3)	2.10	1.59	1.23	0.93	1.22	1.73	1.63	1.55	1.37
回虫卵	2	1	1	150	810	0	271	36	24
(試料1g当たりの個数)	10	12	15	2537	12520	0	1848	1519	417
鞭虫卵	2	0	1	20	44	0	233	19	0
(試料1g当たりの個数)	10	0	15	338	680	0	1589	802	0
計	4	1	2	170	854	0	504	55	24
(試料1g当たりの個数)	21	12	30	2875	13200	0	3437	2320	417
(試料1cm^{3}当たりの個数)	43	19	37	2674	16104	0	5602	3597	572

4. 考察

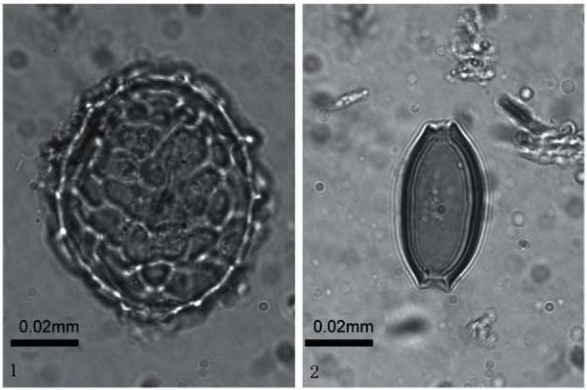
検鏡の結果、D地区のSK96（土6）以外の試料で寄生虫卵が検出された。中でも、D地区のSK94（土4）とSK95（土5）、SK103（土7）、SK103（土8）の4試料からは、多くの寄生虫卵が検出されている。寄生虫卵数については、試料1cm3中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられており（金原, 1997）、これに照らし合わせると、上記の4試料の寄生虫卵の密度は糞便堆積物の判断の目安を上回るため、4試料には糞便が混じっていたと推測される。この4試料はいずれも桶であるため、D地区のSK94とSK95、SK103は便槽の可能性がある。同じく桶であるD地区のSK103B（土9）の寄生虫卵の密度は、572個/cm3と糞便堆積物の判断の目安を下回るものの、A地区のSK17やD地区のSK96に比べると比較的多くの寄生虫卵が検出されているため、D地区のSK103Bも便槽の可能性がある。検出された寄生虫卵は、いずれの試料においても回虫卵と鞭虫卵である。回虫と鞭虫は、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜や野草、寄生虫卵が含まれた飲み水などの摂取によって経口感染するため、当時の人々は処理が十分でない野菜や飲料水を摂取していたと考えられる。

なお、昆虫分析によると、該当遺構からは家屋害虫が産出しており、人糞に集まるようなハエ類の割合が少ないといったことから、人糞のみならず、その他のゴミも捨てられていた可能性が指摘されている。よって、遺構の性格としては、人糞を含むゴミ捨て場が推測される。

上記の試料以外では、土坑のSK17でわずかながらに寄生虫卵が検出されているため、軽度の寄生虫卵の汚染があったと考えられる。また、SK96では寄生虫卵が検出されなかった。寄生虫卵分析は主に糞便の有無の検討に有効であるが、甕が小便用の便槽として用いられていた場合には、寄生虫卵の検出が困難である。今回の寄生虫卵分析の結果では、寄生虫卵が検出されなかったため、糞便が存在していた可能性は低いと判断されるが、小便が存在していた可能性については、リン・カルシウム分析で尿石の有無を検討する必要があろう。

引用文献

金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197-216．東京美術．



図版1　D地区SK95から産出した寄生虫卵
1. 回虫卵（PLC. 3081）　2. 鞭虫卵（PLC. 3082）

第６節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）から得られた昆虫組成について

森　勇一（東海シニア自然大学）・株式会社パレオ・ラボ

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、相川によって形成された扇状地上に立地する近世の城下町遺跡である。ここでは中央５丁目１区において遺構内の堆積物から得られた昆虫化石を同定し、当時の古環境について検討した。なお、同じ堆積物を用いて寄生虫卵分析と大型植物遺体分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、A 地区および D 地区の遺構内より回収された９試料である。試料が採取された遺構は土坑（SK）で、廃棄土坑と埋桶、埋甕を含む。遺構の時期は、出土遺物より江戸時代後期と推定されている。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行ない、最小 0.5mm 目の篩を用いて水洗した。水洗量は、いずれも 300cc である。昆虫の抽出は、実体顕微鏡下で行った。試料１は A 地区の SK17 上層、試料２は同 SK17 中層、試料３は同 SK17 下層、試料４は D 地区の SK94 埋桶内、試料５は同 SK95 埋桶内、試料６は同 SK96 埋甕内、試料７は同 SK103 埋桶内（砂層）、試料８は同 SK103 埋桶内、試料９は同 SK103B 埋桶内より産出したものである。

昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で１点ずつ比較の上、実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されたため、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示した数字ではない。

3. 分析結果

同定した結果、試料１から 17 点、試料２から 60 点、試料３から 37 点、試料４から 71 点、試料５から 37 点、試料６から 18 点、試料７から 37 点、試料８から 50 点、試料９から 91 点の計 418 点の昆虫化石が検出された（表１～10）。産出した主な昆虫化石について、図版１、２に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにみると、目レベルまで同定した昆虫が２目 31 点、科レベルが 12 科 125 点、属レベルが８属 61 点、種まで同定できた昆虫は 20 種 148 点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が 52 点存在する。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などが確認された。昆虫以外では、イエダニ Ornithonyssus bacoti が１点確認された。

生態別では、地表性歩行虫が計 95 点（22.7％）、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計６点（1.4％）含まれていた。陸生の食植性昆虫は計 27 点(6.5％)確認された。水生昆虫は、食植性のガムシの仲間が計４点(1.0％)確認されたのみであった。ハエ目が計 175 点（41.9％）と大量に出現したことが本群集の最大の特徴であり、これに貯穀性ないし食菌性の家屋害虫が伴われている。植生に依存する昆虫を著しく欠くのも、本群集の特徴の一つといえる。

特徴的な種についてみると、最も多く確認された昆虫は大型のハエ類の仲間で、主に人糞に集まるオオクロバエ Calliphora lata（61 点）（図版１－３～４）、次いで発酵物食の小型ハエ類であるショウジョウバエ属 Drosophila sp.（52 点）（図版１－５～７）、コメをはじめ貯蔵した穀類を加害するコクゾウムシ Sitophilus zeamais（15 点）（図版２－２）やコクヌストモドキ Tribolium castaneum（３点）（図版２－１）、これに動物質の腐敗物や生活ゴミに多いキンバエ Lucilia caesar（19 点）（図版１－１～２）（安富・梅谷，1983）、便池からは発生せずデンプン質の食物や牛乳などにたかるイエバエ Musca domestica（10 点）（図版１－８）（安富・梅谷，1983）などが伴われた。

周辺の植生を反映すると考えられる陸生の食植性昆虫は、ゾウムシ科（12 点）やハムシ科（２点）などがわずかに得られたのみであった。

4. 考察

甲府城下町遺跡（中央５丁目Ⅰ区）より得られた昆虫組成は、オオクロバエ・キンバエ・イエバエ・ショウジョウバエなどハエ類を中心とした汚物集積の指標昆虫に、ヒトが貯蔵した穀類や貯蔵食品に集まる昆虫類を伴う昆虫群集であった。

こうした昆虫化石から推定される古環境を考えるにあたり、昨年度昭和測量株式会社によって調査された甲府城下町遺跡（中央４丁目Ⅰ工区）の SK13（19 世紀中葉～後葉）、および SK53（18 世紀後葉）の分析結果が参考になる。SK13 内からは、計 295 点の昆虫化石が検出されたが、うち 255 点（86.4％）がハエ類のサナギ（囲蛹）で占められた。SK53 では計 137 点の昆虫化石が確認され、このうち 104 点（75.9％）がハエ類の囲蛹であった。このようなハエの多産は、よほど特殊な環境でないとありえないため、SK13 および SK53 はともに便池であった可能性を指摘した（森・山本，2020）。両遺構より多産したオオクロバエは、クロバエ亜科 Calliphrinae に属する体長 10 ～ 12mm の大型のハエであり、わが国では本州から四国・九州にかけての平地に生息する（鈴木・緒方，1968）。本種の幼虫やサナギの後方気門は末端節の陥凹部に位置していて、末端節周囲には 6 対の棘状突起がリング状に配置される（林・篠永，1979）。こうした特徴は、便池内において酸素呼吸するのに適応した構造といえる。つまりは、特殊な環境だったがゆえに、その環境に特化した昆虫の生存が約束され、特別な昆虫群集が成立していたのである。そして、両遺構よりハエ類の囲蛹とともに検出された貯穀性昆虫のコクゾウムシやコクヌストモドキなどは、ヒトが食した穀物に混入していたものが排泄物となって便池に紛れ込んだ昆虫であった、と考えた。同様の産状は、奈良県平城京跡東方官衙地区に位置したトイレ遺構（便池）でも確認されている（芝ほか，2013）。

それでは、中央５丁目１区の試料１～９より検出された昆虫組成も同様に考えれば良いのであろうか。とりわけ、試料４～９は SK94 ～ 96 および SK103 の、いずれも埋桶ないし埋甕内から得られた試料について、以下２つの理由で埋桶や埋甕が継続的な便槽であった可能性は否定される。

その１つは、どの分析試料においても全出現昆虫に占めるハエ類の割合が多くない。オオクロバエは屋外に設置された便池に多い昆虫であるが、汚物以外の生活ゴミや腐敗物にも集まる。キンバエやイエバエについても同様である。オオクロバエに次いで多産したショウジョウバエ類は、人糞に集まることはなく、発酵物に特有のハエとして知られる。そして、そこが継続的な便槽ではなかった可能性は、各分析試料から多産したハネカクシ科（計 42 点）（図版２－７～９）・オサムシ科（計 43 点）やクロエンマムシ Hister concolor（1 点）（図版２－５）の検出によっても示される。こうした食屍性ないし食肉性の昆虫は、便槽内に生息することはなく、生活ゴミや腐敗物に発生したハエのウジやサナギを食する地表徘徊型の甲虫である。

もう１つの理由として、貯穀性昆虫とともに得られたカツオブシムシ科昆虫やヒメマキムシ科の一種、ウスイロキスイムシなど、動物質ないしは菌類を食する家屋害虫の存在があげられる。

カツオブシムシの仲間は、幼虫が皮革や毛織物、蚕繭などを食害する。試料４および７から得られたヒメカツオブシムシ Attagenus unicolor japonicus（図版２－４）は、日本その他の養蚕国において、繭・生糸・絹織物の害虫として著名であり（日本家屋害虫学会編，1995）、ほかに鰹節や乾魚・羽毛製品・皮革などをも食することが知られている。試料８から検出されたヒメマキムシ科の一種（Dienerella sp.）はカビを主食とし、食品や製薬工場などの倉庫から発見される場合が多い家屋害虫である（松崎・武衛，1993）。その代表種とされるムナビロヒメマキムシ Dienerella costulata は、体長わずか 1.0 ～ 1.5mm、複眼が退化し数個の個眼のみからなる屋内に特化した室内昆虫である。本種は George Lewis の採集品に基づき日本を基産地として 1877（明治 10）年に初めて記載され、その後ヨーロッパや北米でも発見された（田中，1986）。パレットやカビの生えた壁などでよく見つかるが、畳に発生する場合もあり（田中，1986）、また甘酒の麹から発生することも知られる（中根，1979）。

試料８から検出されたウスイロキスイムシ Cryptophagus dilutus（図版２－３）は体長 2.2 ～ 2.4mm、前胸背板上に粗大点刻を密布し、前胸前縁角の張出部が側縁長の約 4 分の 1、その後端は外後方へ小さく突

出し、また前胸側縁の突起は小さいが鋭く中央直前にある特徴（森本，1982）により同定される。ウスイロキスイムシは、乾燥食品や貯蔵穀類の害虫として知られ、それらの表面に発生したカビ類を食する。本種の仲間は、イギリスでは Plaster-beetle または Fungus-beetle、ドイツでは Schimmelkäfer と呼ばれ、新築や改築した家の湿った壁に生ずるカビ類胞子や菌糸を食べる食菌性昆虫として知られている。これらの国では換気によって壁が乾燥してくると、発生が見られなくなるという（森本，1982）。日本に生息するキスイムシ属 Cryptophagus の多くは、野外の枯木の上や皮下、ワラの中、干し草の間などで発見される場合が多く、一部は倉庫や納屋の中からも採集される（森本，1982）。これらの家屋害虫は便池内に生活する昆虫ではなく、またヒトが食した穀類に依存する昆虫でもないが、乾物や動物質食品に付着していた可能性は考えられる。

江戸時代後期のころ、甲府城下町遺跡には穀物貯蔵施設が存在し、その一部にはカビの生えやすい動物質食品や毛皮類・薬品などが貯蔵されていたことだろう。寄生虫卵分析の結果によると、糞便の存在が推測されるため（寄生虫卵分析の項参照）、埋桶や埋甕は、一時期便槽のような施設に用いられたことも考えられるが、普段は貯蔵施設内か建物に近接したゴミ捨て場であったと思われる。

なお、廃棄土坑とされた SK17（試料１～３）では、オオクロバエやイエバエ、キンバエの囲蛹が確認され、同時にこれらを好んで食べるオオゴミムシ Lesticus magnus（図版２－６）やナガヒョウタンゴミムシ Scaritus terricola pacificus などの大型地表性歩行虫も確認されている。同じ土坑内から貯穀性昆虫が検出され、また食糞性甲虫の代表種であるマグソコガネ Aphodius rectus に加え、水生昆虫のコガムシ Hydrochara affinis やヒメガムシ Sternolophus rufipes なども得られたため、SK17 についても生活ゴミの廃棄場所であったと推定される。止水性の水生昆虫の検出から、SK17 周辺は一時期滞水していた可能性が考えられる。

5. おわりに

江戸時代後期の甲府城下町遺跡からは、生ゴミのほか汚物などに多いオオクロバエやキンバエなどの囲蛹が多数検出された。同時に、貯蔵した穀類を求めて集まるコクゾウムシやコクヌストモドキのほか、皮革や毛織物・乾燥食品などに発生するカビ類を食するウスイロキスイムシやヒメマキムシなども確認された。こうした混合群集よりなる昆虫組成は、分析試料が採取された場所周辺が人為度の高い汚染環境下にあり、食物残渣や生活ゴミのほか、ときに人糞の廃棄場所であった可能性を示すものとして重要である。

引用文献

林　晃史・篠永　哲（1979）ハエ - 生態と防除 -．228p．文永堂．

松崎沙和子・武衛和雄（1993）都市害虫百科．236p．朝倉書店．

森　勇一・山本　華（2020）甲府城下町遺跡（中央４丁目Ⅰ工区）から出土した昆虫化石．昭和測量株式会社編「甲府城下町遺跡ＸＸ」：479-528．甲府市教育委員会．

森本　桂（1982）家屋の中で発見されるキスイムシの１種について．家屋害虫，11•12，60-61．

中根猛彦（1979）屋内にみられる甲虫類．浅沼　靖編「屋内動物（人・家などの害虫及び不快動物の研究と解説）」：31-40．

日本家屋害虫学会編（1995）家屋害虫事典．468p．井上書院．

芝　康次郎・佐々木由香・森　勇一（2013）平城宮東方官衙地区 SK19198 の自然科学分析－第 440 次．奈良文化財研究所紀要 2013，209-215．

鈴木　猛・緒方一喜（1968）日本の衛生害虫 - その生態と駆除 -．245p．新思想社．

田中和夫（1986）日本産屋内性ヒメマキムシ科について（甲虫）．家屋害虫，27•28，41-54．

安富和男・梅谷献二（1983）衛生害虫と衣食住の害虫．310p．全国農村教育協会．

表1　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.1）

試料1

	和　名	学　名	部　位	長さ（幅）mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭幅片	2.3	1	汚物食	屋外性、便池	2020A	SK17	上層	江戸後期
2	コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	右上顎上半部	1.2	2-4	食植性	分植性	2020A	SK17	上層	江戸後期
3	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	5-6	食植性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部	2.8	7	雑食性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部	2.1	8	雑食性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部	2.3	9	雑食性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
7	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.5	10	食植性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.7	11	不明	不明	2020A	SK17	上層	江戸後期
9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片	1.3	12	雑食性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
10	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.2	13	食植性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.1	14	不明	不明	2020A	SK17	上層	江戸後期
12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	3.3	15	雑食性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
13	ゴミムシダマシ科	Tenebrioridae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.8	16	食植性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
14	ゴミムシダマシ科	Tenebrioridae gen. et sp. indet.	右上顎上半部	2.2	17	食植性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
15	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	頭胸部	2.2	18	食植性	分植性	2020A	SK17	上層	江戸後期
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.9	19	食植性	地表性	2020A	SK17	上層	江戸後期
17	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.8	20	不明	不明	2020A	SK17	上層	江戸後期

表2　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.2）

試料2

	和　名	学　名	部　位	長さ（幅）mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1	ヒビロコクヅリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	8	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
2	ヒビロコクヅリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	9	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
3	ヒビロコクヅリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6	10	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
4	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胸幅片	3.6	11-12	汚物食	屋外性、便池	2020A	SK17	中層	江戸後期
5	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胸幅片	1.8	13,14	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
6	ショウジョウバエ	*Drosophila virilis* Sturtevant	胸部	2.8	15	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
7	オオゴミムシ	*Leptica magnus* (Motschulsky)	右上顎片	8.3	16	食肉性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
8	ヤガミョウタンゴミムシ	*Scaritus terricola pacificus* Bates	右上顎側縁	8.4	17-19	食肉性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
9	ロクスジトモドキ	*Tribolium castaneum* Herbst	右上顎	2.6	20-21	穀物食	屋内産害虫	2020A	SK17	中層	江戸後期
10	マダコヨコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	右上顎片	1.4	22	食糞性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
11	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	頭幅片	1.7	23	腐敗物食	屋内性など	2020A	SK17	中層	江戸後期
12	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	23-24	不明	不明	2020A	SK17	中層	江戸後期
13	コガムシ	*Hydrochara affinis* (Sharp)	頭部	2.8	25	食植性	水生	2020A	SK17	中層	江戸後期
14	コガムシ	*Hydrochara affinis* (Sharp)	胸部	3.3	25	食植性	水生	2020A	SK17	中層	江戸後期
15	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	26	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部	0.7	27	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
17	ケラ	*Gryllotalpa africana* Palisot de Beauvois	胸部	0.8	28	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
18	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.4	29	食植性	地中性	2020A	SK17	中層	江戸後期
19	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.2	29	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
20	メマルケムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	29	食植性	分植性	2020A	SK17	中層	江戸後期
21	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	前胸背板片	2.6	29	食植性	水生	2020A	SK17	中層	江戸後期
22	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.3	30	不明	不明	2020A	SK17	中層	江戸後期
23	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	0.8	31	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
24	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	0.9	32	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
25	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	1.2	33	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
26	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	1.5	34	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
27	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	1.0	35	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
28	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	0.8	36	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
29	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	1.3	37	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
30	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	2.0	38	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
31	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	0.9	39	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
32	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	0.8	40	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
33	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	1.0	41	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
34	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭幅片	1.2	42	腐敗物食	屋内性	2020A	SK17	中層	江戸後期
35	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	43	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
36	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	44	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
37	クロオオアリ	*Camponotus japonicus* Mayr	頭部	1.0	45	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
38	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.7	46	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
39	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	0.5	47	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
40	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.2	48	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
41	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.4	49	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
42	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	2.0	50	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
43	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	14.0	50	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
44	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.0	50	食植性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
45	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	2.1	51	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
46	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.2	52	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
47	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	53	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
48	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	54	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
49	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.4	55	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
50	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.0	55	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
51	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	2.5	55	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
52	ケラ	*Gryllotalpa africana* Palisot de Beauvois	頭部	1.0	56	雑食性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
53	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.2	57	不明	不明	2020A	SK17	中層	江戸後期
54	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.8	57	不明	不明	2020A	SK17	中層	江戸後期
55	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	57	不明	不明	2020A	SK17	中層	江戸後期
56	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	57	不明	不明	2020A	SK17	中層	江戸後期
57	ヨガメムシ目	Hemiptera gen. et sp. indet.	頭部	1.1	58	食植性	好植性	2020A	SK17	中層	江戸後期
58	ミツマコガネ属	*Oxthophagus* sp.	後頭部片	0.5	59	食糞性	地表性	2020A	SK17	中層	江戸後期
59	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.0	60	食植性	好植性	2020A	SK17	中層	江戸後期
60	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	60	食植性	好植性	2020A	SK17	中層	江戸後期

表3　甲府城下町遺跡見出石石リスト（No.3）

	和　名	学　名	部　位	長さ（幅）mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1	ヒメコメツキガラガラキセ	*Synchroa melanostoides* Lewis	左上腕上半	4.8	31	腐食性	腐食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
2	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭蓋	1.5	302	腐食性	屋外性など	2020A	SK17	下層	江戸後期
3	ツチアブラボタ属	*Amboilus rugiae* (Motschulsky)	右上腕	3.6	32-34	食菌性	腐食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
4	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	3.3	35-36	雑食性	屋外性、腐敗	2020A	SK17	下層	江戸後期
5	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	6.8	37-38	雑食性	屋外性、腐敗	2020A	SK17	下層	江戸後期
6	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	頭部	1.6	39	貯穀性	家屋害虫	2020A	SK17	下層	江戸後期
7	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	40	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
8	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	41	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
9	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6	42	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
10	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6	1	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
11	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部	1.8	2	食菌性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
12	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大腿	3.8	3	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
13	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.4	4	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
14	ヒゲボソゾウムシの一種	*Curculionidae* sp.	左上腕上半部	2.2	43	食植性	植食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
15	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	1.1	5	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
16	ヒメコメツキガラガラキセ	*Synchroa melanostoides* Lewis	上腕骨	2.2	6	腐食性	腐食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
17	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕骨	0.8	7	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
18	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部不明	1.1	8	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
19	ホタルムシ科	Scolytidae gen. et sp. indet.	右上腕片	1.9	9	食植性	植食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
20	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上腕骨	2.3	10	食菌性	腐食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
21	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	3.0	11	雑食性	屋外性、腐敗	2020A	SK17	下層	江戸後期
22	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	1.3	12	雑食性	屋外性、腐敗	2020A	SK17	下層	江戸後期
23	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	3.3	13	雑食性	屋外性、腐敗	2020A	SK17	下層	江戸後期
24	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	上腕骨	1.4	14	貯穀性	家屋害虫	2020A	SK17	下層	江戸後期
25	イエバエ	*Musca domestica* (Linnaeus)	頭胸部	1.2	15	雑食性	屋外性など	2020A	SK17	下層	江戸後期
26	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	16	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
27	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.4	17	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
28	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.4	18	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
29	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	19	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
30	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	20	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
31	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭蓋	1.4	21	雑食性	屋外性など	2020A	SK17	下層	江戸後期
32	オオキムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上腕	1.0	22	雑食性	雑食性	2020A	SK17	下層	江戸後期
33	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕骨	9.9	23	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
34	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部不明	0.6	24	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
35	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕骨	1.2	25	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
36	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部不明	1.5	26	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期
37	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕骨	1.0	27	不明	不明	2020A	SK17	下層	江戸後期

表4　甲府城下町遺跡見出石石リスト（No.4）

	和　名	学　名	部　位	長さ（幅）mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1	コタヌスストキドキ	*Tribolium castaneum* Herbst	左上腕	3.8	44-45	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
2	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	左上腕	1.5	46	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
3	コクヌスストキドキ	*Tribolium castaneum* Herbst	右上腕	3.7	47	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
4	シュウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭胸	1.4	48	発酵物食	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
5	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	左上腕	1.4	49	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
6	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	左上腕	1.6	47	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
7	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	左上腕	1.4	48	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
8	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	左上腕	1.3	49	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
9	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	頭部	2.1	1	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
10	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	左上腕	1.5	2	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
11	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	中腕骨後	1.6	3	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
12	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6	4	雑食性	雑食性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
13	ツブムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	胸部	2.5	5	食植性	植植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
14	ツブムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	胸部	2.2	6	食植性	植植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
15	ツブムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.8	7	食植性	植植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	3.3	8	食菌性	腐食性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
17	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板	1.0	9	食菌性	腐食性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
18	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.0	10	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
19	ツブムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	胸部	1.6	11	食植性	植植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
20	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	1.2	12	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
21	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	13	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
22	キンバエ属	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭蓋片	2.6	30-32	雑食性	屋外性など	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
23	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋	10.5	33	雑食性	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
24	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋	6.5	34	雑食性	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
25	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	3.5	1	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
26	キンバエ属	*Lucilia* sp.	頭部片	3.2	35	雑食性	屋外性など	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
27	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹片	1.5	2	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
28	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部	2.1	3	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
29	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片	2.3	4	雑食性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
30	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部	3.3	5	雑食性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
31	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.2	6	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
32	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大腿	3.5	7	雑食性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
33	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片	1.4	8	雑食性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
34	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.1	9	雑食性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
35	コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	10	食植性	植植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
36	ヒメガマダニムシ	*Atrogomus unicolor japonicus* Reitter	上腕片	1.3	11	腐物食	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
37	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片（前髄門）	3.4	12	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
38	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片（前髄門）	3.1	13	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
39	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片（前髄門）	1.8	14	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
40	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	2.0	15	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
41	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	2.0	16	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
42	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	1.8	17	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
43	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	3.0	18	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
44	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	2.0	19	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
45	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	2.0	20	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
46	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片	4.5	21	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
47	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片（前髄門）	1.8	22	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
48	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭蓋片（前髄門）	1.5	23	汚物食	屋外性、腐敗	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
49	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭蓋	1.8	24	雑食性	屋外性など	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
50	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭蓋	2.2	25	雑食性	屋外性など	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
51	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭蓋	2.5	26	雑食性	屋外性など	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
52	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.8	27	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
53	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.8	28	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
54	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5	29	雑食性	雑食性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
55	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6	30	雑食性	雑食性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
56	シュウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭胸	1.2	31	発酵物食	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
57	シュウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭胸	2.0	32	発酵物食	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
58	シュウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭胸	1.5	33	発酵物食	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
59	シュウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭胸	1.8	34	発酵物食	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
61	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	胸部	0.8	1	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
62	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕片	1.8	2	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
63	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部不明	1.5	3	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
64	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕片	2.0	4	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
65	オオムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上腕片	1.5	5	雑食性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
66	ハネカクシ科	*Scopaeus gilgiensis* (Bernhauer)	前胸背板片	1.1	6	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
67	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕片	1.4	7	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
68	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部不明	1.5	8	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
69	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上腕片	1.5	9	不明	不明	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
70	コタクウムシ	*Stigoblut zoomiz* Motschulsky	頭部	0.7	1	貯穀性	家屋害虫	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期
71	ハエバエ亜属	*Limnophora* sp.	胸部	1.8	2	食菌性	腐植性	2020D	SK04	埋橋内	江戸後期

表5　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.5）

試料5

和　名	学　名	部　位	長さ（幅）mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1 ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	2.4	56-57,62	腐敗物食	屋内性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
2 ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	2.6	58-59	腐敗物食	屋内性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
3 イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	頭触片	2.2	60	雑食性	屋外性など	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
4 イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	頭触片	2.0	61	雑食性	屋外性など	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
5 ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.9		腐敗物食	屋内性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
6 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	3.0		食菌性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
7 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部	2.5		食菌性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
8 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	左上顎	1.2		食菌性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
9 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	右上顎	2.2		食菌性	好植性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
10 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	左上顎	2.1		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
11 カツオブシムシ科	Dermestidae gen. et sp. indet.	腹部	1.8		乾物食	家屋害虫	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
12 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	2.8		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
13 コクゾウムシ	*Sitophilus zeamais* Motschulsky	左上顎	1.6		貯穀性	家屋害虫	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
14 イエムシヅマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.6		食菌性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
15 トビイロシワアリ	*Ectomomyrmex rasohiuro* (Emery)	頭部	0.5		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
16 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.6		雑食性	屋外性など	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
17 ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.5		腐敗物食	屋内性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
18 ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	2.0		腐敗物食	屋内性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
19 ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.4		腐敗物食	屋内性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
20 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.6		雑食性	屋外性など	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
21 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.2		雑食性	屋外性など	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
22 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.5		食菌性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
23 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.4		食菌性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
24 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	2.0		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
25 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	2.2		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
26 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.8		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
27 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
28 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	2.0		不明	不明	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
29 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.0		不明	不明	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
30 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	1.5		不明	不明	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
31 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.4		不明	不明	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
32 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	1.8		不明	不明	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
33 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	1.5		不明	不明	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
34 オオクロバエ	*Calliphora lata* Couillett	頭触片	2.8		汚物食	屋外性、樹液	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
35 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
36 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期
37 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	0.6		雑食性	地表性	2020D	SK95	埋桶内	江戸後期

表6　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.6）

試料6

和　名	学　名	部　位	長さ（幅）mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1 ガムシ科	Hidrophilidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.8	63	食植性	水生	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
2 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	3.5	64	食菌性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
3 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	大顎	3.1	65	不明	不明	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
4 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	1.5	66	雑食性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
5 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1		不明	不明	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
6 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.5		雑食性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
7 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板	0.5		食植性	好植性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
8 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.8		雑食性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
9 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.5		食菌性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
10 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板	0.5		食菌性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
11 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.5		食菌性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
12 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.0		食菌性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
13 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.2		食菌性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
14 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部腹板	0.5		不明	不明	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
15 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	0.4		不明	不明	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
16 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5		不明	不明	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
17 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	大顎	1.2		不明	不明	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期
18 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.5		雑食性	地表性	2020D	SK96	埋桶内	江戸後期

表7　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.7）

試料7

	和　名	学　名	部　位	長さ(幅) mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	2.9	68	雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
2	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	3.2	69	雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
3	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	3.6	70	雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
4	ゼニタマウムシ	*Sitophilus zemnie* Motschulsky	翅鞘背板片	1.5	71	穀類性	家屋害虫	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
5	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	3.5	72	雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
6	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	2.6		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
7	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	3.1		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
8	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	3.3		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	翅鞘背板片	1.1		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
10	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上顎片	2.6		食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
12	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	6.5		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
13	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	2.4		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
14	ハムシ科	Chrysomelidae gen. et sp. indet.	翅鞘背板片	2.3		食植性	樹植性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
15	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	3.4		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
16	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	3.2		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	翅鞘背板片	1.1		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
18	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	0.7		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
19	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.6		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
20	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	1.5		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
21	ヒメカツオブシムシ	*Attagenus unicolor japonicus* Reitter	左上顎	2.6	74	動物食	家屋害虫	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
22	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	3.2		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
23	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	2.0		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
24	ショウジョウバエ	*Drosophila* sp.	頭触	2.2		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
25	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.4		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
26	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.0		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
27	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.2		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
28	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触片	1.4		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
29	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	2.2		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
30	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	1.4		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
31	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	0.8		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
32	クロショウジョウバエ	*Drosophila virilis* Sturtevant	頭触	2.0		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
33	クロショウジョウバエ	*Drosophila virilis* Sturtevant	頭触	1.5		果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
34	カメムシ目	Hemiptera gen. et sp. indet.	腹部	1.3		食植性	樹植性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
35	カメムシ目	Hemiptera gen. et sp. indet.	上顎片	2.2		食植性	樹植性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
36	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	2.2		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
37	ミツマムシ科	Biteridae gen. et sp. indet.	翅鞘	1.0		食植性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期

表8　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.8）

試料8

	和　名	学　名	部　位	長さ(幅) mm	写真	食　性	生　態	調査区	出土地点	層位	時代
1	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	2.8	74	果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
2	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	左上顎	1.8	75	食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
3	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	2.7	76	汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
4	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板	1.5	77	食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
5	マルムネチャッカリヅ	*Cryptocephalus duluisi* Vogt?	右上顎	2.1	78-79	食植性	樹植性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
6	ウスイロキスイムシ	*Cryptophagus dilutus* Reitter	前胸背板	0.8	80-81	食菌性	家屋害虫	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
7	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板	1.8	82-83	食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
8	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	2.3		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
9	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板	1.8		食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	1.4		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
11	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	2.1		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
12	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	頭触	1.1	84-85	果糖物食	屋内性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
13	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	1.6		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
14	ブクムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.3		食植性	樹植性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
15	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.6		食植性	樹植性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
16	ヒメマキムシ科の一種	*Dimerella* sp.	前胸背板片	1.4		食植性	家屋害虫	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
17	カツオブシムシ科の一種	*Dermestes* sp.	前胸背板片	1.3		穀物食	家屋害虫	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
18	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	0.7		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
19	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.1		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
20	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	2.4		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
21	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
22	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上顎片	1.3		不明	不明	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
23	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	2.8	86-87	雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
24	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	3.8	88	汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
25	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	3.7		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
26	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	頭触	4.7		汚物食	屋外性、便池	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
27	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.8		食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
28	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	中胸背板片	2.6		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
29	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	3.1		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
30	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上顎片	1.8		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
31	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.0		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
32	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.2		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
33	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	1.8		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
34	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.2		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
35	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.4		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
36	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.0		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
37	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	1.8		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
38	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	1.8		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
39	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	2.1		食菌性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
40	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.0		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
41	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.9		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
42	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	頭触片	2.8		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
43	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	頭触片	1.4		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
44	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	頭触片	1.8		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
45	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	2.0		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
46	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	1.8		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
47	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	頭触片	1.0		雑食性	屋外性左少	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
48	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
49	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期
50	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	1.8		雑食性	地表性	2020D	SK103	埋土内（砂質）	江戸前期

表9　甲府城下町遺跡昆虫化石リスト（No.9）

試料9

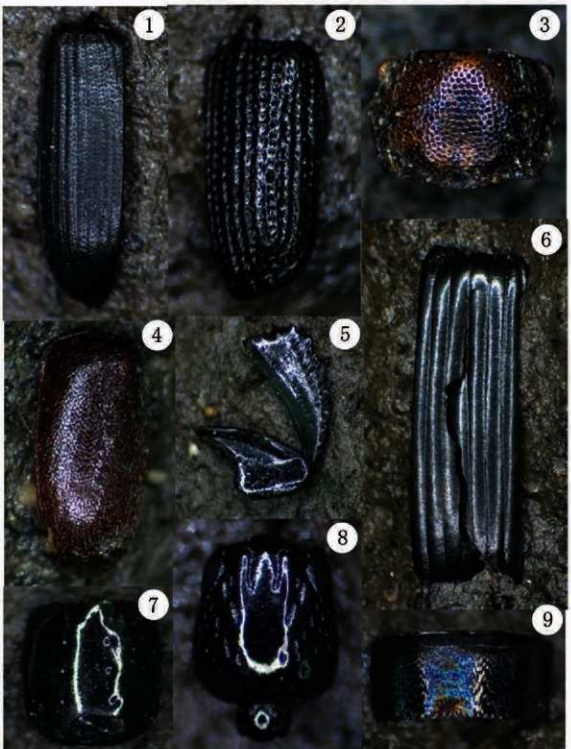
	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	写真	食性	生態	調査区	出土地点	層位	時代
1	コケアワムシ	*Stigothlax zeamiz* Wotschulsky	前翅背板片	1.4	89	打穀性	家屋倉庫	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
2	クロエンマムシ	*Hister concolor* Lewis	石鎚胴部	胴部6.6	90-92	食屍性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
3	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前翅背板片	1.4	93	食屍性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
4	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左上翅	3.1	94	雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
5	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前翅背板	1.2	95	食肉性雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
6	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前翅背板片	1.4	96	不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前翅背板片	1.8		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
8	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸	11.5	97-98	汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
9	クロショウジョウバエ	*Drosophila virilis* Sturtevant	胴軸	5.4	99-100	発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
10	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸	4.1		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
11	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸	2.8		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
12	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸	3.2		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
13	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	1.9		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
14	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.7		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
15	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	3.1		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
16	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.5		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
17	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	4.3		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
18	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.7		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
19	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.2		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
20	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.4		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
21	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.1		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
22	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.6		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
23	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	1.8		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
24	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	1.4		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
25	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.3		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
26	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.4		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
27	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	1.4		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
28	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	1.6		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
29	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.2		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
30	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.1		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
31	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.4		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
32	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
33	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.6		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
34	イエダニ	*Ornithonyssus bacoti* (Hirst)	体部	1.7	101	吸血性	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
35	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	胸部片	1.3		食植性	植樹性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.3		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.2		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
38	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
39	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	2.1		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
40	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.1		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
41	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	胴軸片	1.6		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
42	キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)	胴軸片	1.3		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
43	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	1.5		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
44	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.1		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
45	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	3.2		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
46	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.5		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
47	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.8		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
48	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.0		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
49	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.5		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
50	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.5		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
51	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	6.0		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
52	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.4		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
53	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	5.2		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
54	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	1.2		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
55	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	1.7		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
56	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.0		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
57	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	4.8		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
58	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	2.5		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
59	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	胴軸片	0.8		汚物食	屋外性、便地	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
60	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	0.7		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
61	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	0.5		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
62	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	2.0		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
63	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	1.5		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
64	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	1.0		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
65	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	0.8		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
66	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	1.2		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
67	ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.	胴軸	1.2		発酵物食	屋内性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
68	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前翅背板片	1.4		食屍性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
69	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	2.5		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
70	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	2.2		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
71	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	2.0		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
72	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	2.5		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
73	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	1.8		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
74	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	0.8		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
75	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	1.6		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
76	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	1.4		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
77	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	2.0		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
78	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胴軸片	2.5		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
79	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	胴軸片	2.4		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
80	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	胴軸片	1.4		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
81	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	胴軸片	1.8		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
82	イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus	胴軸片	2.2		雑食性	屋外性など	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
83	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.5		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
84	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.8		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
85	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部	0.4		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
86	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.5		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
87	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.0		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
88	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5		不明	不明	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
89	カツオブシムシ科の一種	*Dermestes* sp.	前翅背板片	0.9		動物食	家屋倉庫	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
90	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.5		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期
91	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.0		雑食性	地表性	2020D	SK103東	現地内	江戸後期

表10　甲府城下町遺跡における昆虫分析結果

		和　名	学　名　／　試料番号	試料1	試料2	試料3	試料4	試料5	試料6	試料7	試料8	試料9	合計
水生	食植性	ガムシ科	Hidrophilidae gen. et sp. indet.						1				1
		コガムシ	*Hydrochara affinis* (Sharp)		2								2
		ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)		1								1
地表性	食糞	マダラコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)		1	1							2
		エンマコガネ属	*Onthophagus* sp.		1		1						2
		エンマムシ科	Historidae gen. et sp. indet.							1			1
		クロエンマムシ	*Hister concolor* Lewis									1	1
	肉食・雑食性	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	5	7	2	6	5	4	4	5	5	43
		オオゴミムシ	*Leptinus magnus* (Motschulsky)		1								1
		ナガヒョウタンゴミムシ	*Scaritus terricola pacificus* Bates		1								1
		ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.									1	1
		ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.									1	1
		ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	3	9	2	9	4	6	1	6	2	42
陸生		コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	1									1
		ハムシ科	Cryzomelidae gen. et sp. indet.	1						1			2
		マルムネチョッキリ?	*Chonostropheus chujoi* Voss?								1		1
		ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.		2		4	3	1		1	1	12
	食植性	ヒゲボソゾウムシの一種	*Phelobius* sp.			1							1
		ゴミムシダマシ科	Tenebrrionidae gen. et sp. indet.	2				1			1		4
		ヒメコメツキガタナガクチキ	*Synchroa melanotoides* Lewis			2							2
		コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	1	1		1						3
		キクイムシ科	Scolytidae gen. et sp. indet.			1							1
家屋害虫	貯穀・食菌性	コクゾウムシ	*Sitophilus zeamais* Motschulsky			2	10	1		1		1	15
		コクヌストモドキ	*Tribolium castaneum* Herbst		1		2						3
		ゴミムシダマシ	*Neatus picipes* (Herbst)				1						1
		カツオブシムシ科	Dermestidae gen. et sp. indet.					1					1
		ヒメカツオブシムシ	*Attagenus unicolor japonicus* Reitter				1			1			2
		カツオブシムシ科の一種	*Dermestes* sp.								1	1	3
		ヒメマキムシ科の一種	*Dienerella* sp.								1		1
		ウスイロキスイムシ	*Cryptophagus dilutus* Reitter								1		1
その他		ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	1				3		2	12	10	28
		イエバエ	*Musca domestica* Linnaeus		1	1		2			2	4	10
		オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett		1	5	15	4		3	6	30	61
		キンバエ属	*Lucilia* sp.				1						1
		キンバエ	*Lucilia caesar* (Linnaeus)			2	4			7	4	2	19
		ショウジョウバエ属	*Drosophila* sp.		12		5	6		10	2	16	52
		クロショウジョウバエ	*Drosophila virilis* Sturtevant		1					2		1	4
		アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.		4	4		3			2	1	14
		トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)		3	6	3	1				5	18
		クロオオアリ	*Camponotus japanicus* Mayr		1								1
		カメムシ目	Hemiptera gen. et sp. indet.		1					2			3
		ケラ	*Gryllotalpa africana* Palisot de Beauvois		2								2
		不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	3	6	8	8	6	6	2	5	8	52
		イエダニ	*Ornithonyssus bacoti* (Hirst)									1	1
				17	60	37	71	37	18	37	50	91	418

図版1　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）から産出した昆虫化石（1）

1. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus)　前気門　気門の直径0.14mm（試料4，標本22）
2. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus)　囲蛹片　長さ3.6mm（試料7，標本3）
3. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett　囲蛹片　長さ11.5mm（試料9，標本6）
4. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett　囲蛹片（前気門付近）　幅3.3mm（試料3，標本4）
5. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp.　囲蛹　長さ2.8mm（試料8，標本1）
6. クロショウジョウバエ *Drosophila virilis* Sturtevant 囲蛹　長さ5.4mm（試料9，標本9）
7. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp.　囲蛹　長さ2.6mm（試料5，標本2）
8. イエバエ *Musca domestica* Linnaeus　囲蛹片　幅2.2mm（試料5，標本3）



図版2　甲府城下町遺跡（中央5丁目1区）から産出した昆虫化石（2）
1. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst　左上翅　長さ2.8mm（試料4，標本1）
2. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky　右上翅　長さ1.3mm（試料4，標本3）
3. ウスイロキスイムシ *Cryptophagus dilutus* Reitter　前胸背板　幅0.8mm（試料8，標本6）
4. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* Reitter　右上翅　長さ2.6mm（試料7，標本21）
5. クロエンマムシ *Hister concolor* Lewis　右腿脛節　脛節の長さ2.6mm（試料9，標本2）
6. オオゴミムシ *Lesticus magnus* (Motschulsky)　右上翅片　長さ8.3mm（試料2，標本7）
7. ハネカクシ科 Staphylinidae gen. et sp. indet.　前胸背板　長さ1.4mm（試料9，標本3）
8. ハネカクシ科 Staphylinidae gen. et sp. indet.　頭部　長さ1.2mm（試料2，標本15）
9. ハネカクシ科 Staphylinidae gen. et sp. indet.　腹部背板　長さ1.5mm（試料8，標本4）

第６章　総括

第１節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）の整地層

中央５丁目１区の発掘調査では全ての調査区で、甲府空襲(昭和20年７月６日から７日未明)で生じた焼土・瓦礫を含む層（戦災焼土層）を検出した。赤く焼けた土からなる焼土層は認識しやすく、これを鍵層として重機による表土掘削を行った。また、戦災焼土層より下層でも、一定の範囲で堆積する認識しやすい、鍵層となり得る土層を確認している。

その土層はオリーブ褐色シルトなどを基調とする整地層である。撹乱のため、全面的に遺存するところは少ないが、各調査区で断続的な堆積がみられた。層厚は５～10cm程度で硬く締まり、ほぼ水平堆積する。甲府城下町遺跡の土壌は粘土質を主体とするので、客土とみられ、一定の厚さで水平堆積することからも、人為的に造成した整地層と推定できる。場所によっては上下に複数の整地層が観察でき、いずれも類似した認識しやすい土層である。現場調査時は、上位に位置する整地層をⅡａ層、中位の整地層をⅡｂ層、下位の整地層をⅡｃ層などとした基本層序を各調査区で共通して使用した。特に下位の整地層は、遺構検出面や遺構の帰属時期を判断するための鍵層となることを念頭に調査を進めた。

ここでは中央５丁目１区で検出した整地層と、整地層下で検出した遺構やその出土遺物を確認しながら、その造成時期を検証しておきたい。

①Ａ地区ＳＫ 17 南壁（第８・41・42図、図版５・30・31）

ＳＫ 17 はＡ地区東半部の南側で検出した大形の廃棄土坑である。調査区外へ延びるため平面形の全容は不明だが、遺構の規模は、検出部分で長さ 2.1m、幅 1.9m、深さ 90cmを測る。調査区の南壁で整地層と遺構覆土の堆積状況を観察した。

最上層はⅠｂ層の戦災焼土層である。その下で整地層と認識した層が三層ある。最上位はⅡａ-1 層で、灰黄褐色粘土質シルトを基調とする。その下位のⅡｂ-1 層は、オリーブ褐色シルトにオリーブ褐色粘土を含み、層厚４～６cmで堆積する。最下位の整地層はⅡｃ層でオリーブ褐色粘土を基調とする。硬く締まっており、層厚は８cmで、水平堆積する。Ⅱｃ層の直下でＳＫ 17 を検出している。

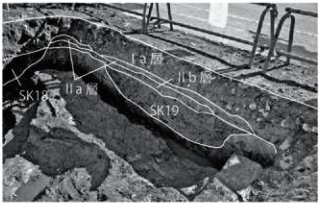
ＳＫ 17 の出土遺物は多い。磁器は筒形碗（報告遺物番号：72）、広東碗（以下同：75～78）、端反碗（79）などがある。漆継ぎや焼継ぎ痕を残すものも多い（72・74・80・83・85・87・95）。これらの遺物の推定生産年代は 18 世紀後葉から 19 世紀中葉の時期が主体である。ＳＫ 17 の埋没時期は 19 世紀中葉以降と推定できる。

Ⅱｃ層は 19 世紀後半の造成によるものと推測する。

②Ｂ地区ＳＫ 19 南壁（第 12・47 図、図版９・35）

ＳＫ 19 はＢ地区で検出した廃棄土坑である。覆土には多量の焼土ブロックや炭化物が含まれており、火災発生時に生じた焼土や炭化物を処分した土坑と推定している。隣接するＳＫ 18 も同様な覆土の土坑で、検出面ではＳＫ 19 と一体の遺構として検出した。堀方が分かれたため別遺構としたが、埋没時期は同じとみている。調査区の南壁で、整地層と遺構覆土の堆積関係を観察した。

最上層はⅠａ層で、瓦礫を含む現代の造成土である。その下で二層の整地層を確認した。上位のⅡａ層は黄灰色粘土を基調とする。層厚は10cmで、水平堆積する。その直下のⅡｂ層は黒褐色粘土質シルトを基調とし層厚10cmで水平堆積する。シルト質や砂質を基調とする他の調査区の整地層と土質は異なるが、径５～10cmの礫が敷き均されたように含まれており、整地層と判断できる。Ⅱｂ層直下で、ＳＫ18･19を検出している。

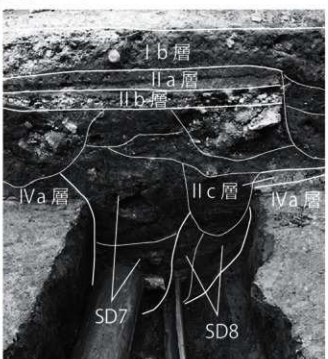


ＳＫ19の出土遺物は少ないが、肥前系の磁器碗（201）が出土している。また、同時期に埋没したとみられるＳＫ18では18世紀前葉から19世紀前葉に比定できる蛇の目釉剥ぎのくらわんか碗（188）や陶胎染付の碗（192）が出土している。ＳＫ18・19の埋没時期は19世紀前葉以降と推定できる。

下位の整地層のⅡｂ層は19世紀前半の造成によるものと推測する。

③C地区ＳＤ７・８北壁（第20・21・52・53・79図、図版15・38）

ＳＤ７・８はＣ地区西半部で検出した上水遺構である。底面にはそれぞれ木樋が敷設されており、北端部ではＳＤ７の木樋によって、ＳＤ８の木樋が攪乱された状況であった。調査区の北壁で、整地層と遺構覆土の堆積状況を観察した。



最上層はⅠｂ層で、戦災焼土層である。その下で三層の整地層を確認した。上位のⅡａ層は黄灰色砂質シルトを基調とし、層厚は8cmで、水平堆積する。Ⅱａ層の直下にはⅡｂ層が層厚8cmで水平堆積する。黄灰色砂質シルトを基調とし、径１～3cmの砂利が含まれている。下位のⅡｃ層は地山のⅣａ層の直上に堆積する。暗灰黄色砂質シルトを基調とし、硬く締まっている。層厚は8cmで、水平堆積する。ＳＤ７・８の覆土と各整地層は、直接の切り合い関係がないが、位置関係からＳＤ７・８は、Ⅱａ・Ⅱｂ層より古く、Ⅱｃ層よりは新しいと推定できる。

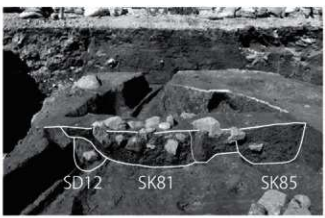
ＳＤ７・８ではそれぞれ出土遺物が少ないが、ＳＤ７の木樋を試料にウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行っている。測定結果は1742-1750cal AD(1.6%)、1856-1894cal AD(70.4%)、1920-1945cal AD(23.4%) であった（第５章第１節）。甲府では、近代水道の敷設による給水開始は大正２年(1913)である。木樋の敷設はこれ以前と推定できるため、19世紀後半の可能性が高い。

ＳＤ７・８を覆うⅡａ・Ⅱｂ層は20世紀前半、ＳＤ７・８に切られるⅡｃ層は19世紀中葉の造成によるものと推測する。

④D地区ＳＤ12東壁（第33・79図、図版24）

ＳＤ12はＤ地区西半部で検出した上水遺構である。覆土中には竹の残欠や腐食して土壌化した竹の痕跡が確認でき、竹管が敷設されていたとみられる。調査区の西壁で、整地層と遺構覆土の堆積状況を観察した。

最上層はⅠa層で、現表土の砕石層である(※写真ではⅠb層以下を撮影)。Ⅰb層は、戦災焼土層である。その下で二層の整地層を確認した。上位のⅡa-2層は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。層厚は5cmで、水平堆積する。その下位では焼土層のⅡa-3層を挟んで、Ⅱb層が層厚5cmで水平堆積する。暗灰黄色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。Ⅱb層直下にも焼土層が堆積し、その下でSD12を検出している。



SD12では出土遺物がないが、C地区で検出した同じ竹管の上水遺構(SD9・10)は19世紀初頭までは機能していたとみられる。また、Ⅱb層直下の同じ焼土層の下で検出したSK81では遺物が出土している。SK81は火災時に生じたゴミの廃棄土坑と推定した遺構で、切り合いではSD12より新しい。見込みにコンニャク印判の文様を施す皿(381)、蛇の目状釉剥ぎの皿(382)などの肥前系磁器が出土した他、陶器の筒形碗(383)が出土している。推定生産年代は19世紀前葉までに収まる。SK81の埋没時期は19世紀前葉以降と推定できる。

SD12とSK81は同じ焼土層下で検出しており、その焼土層より上位のⅡb層は早くとも19世紀前半の造成によるものと推測する。

⑤D地区SK111東壁(第30・31・71・79図、図版23・51・52)

SK111はD地区東半部で検出した廃棄土坑である。調査区の東壁で、整地層と遺構覆土の堆積関係を観察した。

最上層はⅠa層で、現表土の砕石層である。以下、Ⅰb層として細分した薄い堆積層がある(※右の写真ではⅠb層の下位以下を撮影)。その下で三層の整地層が堆積する。Ⅱa-1層は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。層厚6cmで水平堆積する。その直下はⅡb-1層で、オリーブ褐色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。層厚10cmで、水平堆積する。その下に焼土層のⅡb-2層を挟んで、最下位にⅡc層が層厚8cmで、水平堆積する。オリーブ褐色砂質シルトを基調とし、硬く締まる。Ⅱb-2層とⅡc層はSK111に切られている。

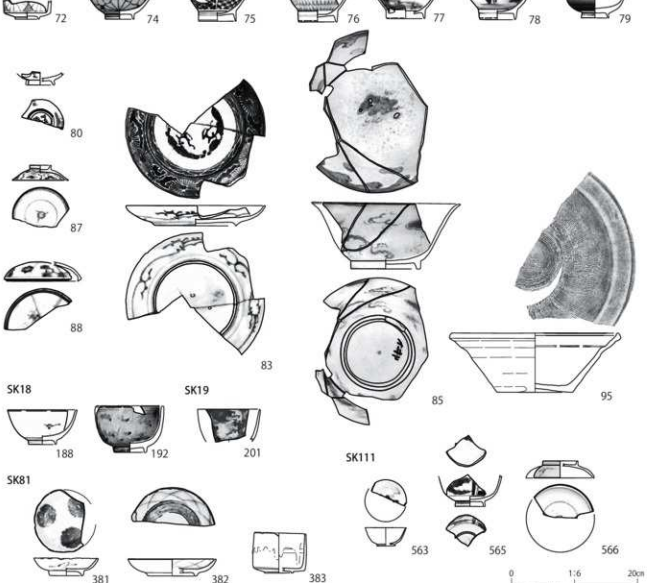
SK111の出土遺物は、磁器では、薄手酒坏(563)、端反碗(565)、広東碗の蓋(566)があり、推定生産年代は19世紀中葉までに収まる。SK111の埋没時期は19世紀中葉以降と推定できる。

Ⅱc層は19世紀前半、SK111の上位に堆積するⅡb-1層は19世紀後半の造成によるものと推測する。

各地点の整地層の造成時期は、遺構の埋没時期を根拠とし、その直後あるいは直前に整地層の造成が行われたと仮定して推測した。遺構の埋没時期は、出土遺物の推定生産年代の下限の時期とした。また、各整地層の出土資料も検討すべきであるが、整地層からの出土遺物自体が少なく、資料を抽出できなかった。

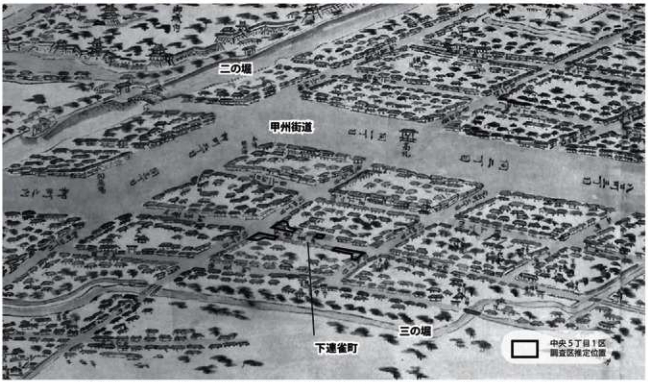
各地点における、最下位の整地層の推定造成時期は① 19 世紀後半、② 19 世紀前半、③ 19 世紀中葉、④ 19 世紀前半、⑤ 19 世紀前半であり、19 世紀の中葉を中心とした時期となる。整地層の造成時期が 18 世紀代にさかのぼるものはない。上位の整地層の造成時期は、すべて近代以降である可能性が高く、最下位の整地層についても、遺物の推定生産年代と遺構の埋没時期、遺構の埋没時期と整地層の造成時期には、ずれが生じるはずで、一段階、新しい時期となる可能性がある。

中央5丁目1区で検出した上下に複数重なる整地層は、その造成時期から、明治の文明開化の旗印のもと、城下町が近代都市へと急激に変貌していく過程で形成されたものと考えたい。

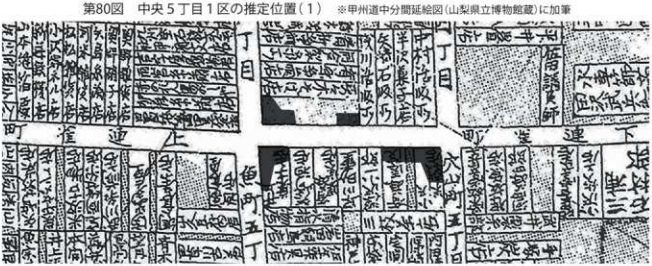


第 79 図　ＳＫ17・18・19・81・111 出土遺物

第２節　甲府城下町遺跡（中央５丁目１区）の遺構について



第80図　中央５丁目１区の推定位置（１）　※甲州道中分間延絵図（山梨県立博物館蔵）に加筆



第81図　中央５丁目１区の推定位置（２）　※甲府市街明細地図（山梨県立博物館蔵）に加筆

中央５丁目1区の発掘調査では、集石遺構 52 基、廃棄土坑 25 基、埋桶 11 基・上水遺構６基・埋甕１基・井戸１基、不明大形土坑２基などを検出した。多くの遺構の時期は勤番支配期と近代に比定できる。勤番支配期前、勤番支配期、近代に分けて概観する。

勤番支配期以前（18 世紀以前）

18 世紀以前に比定できる遺構は少ないが、検出した上水遺構のうち、導水管が竹管のものは敷設がこの時期までさかのぼる可能性がある。C地区で検出したＳＫ 51 とＳＤ９・10 は竹管が継手で接続された一連の上水遺構である。木製の継手を試料に行ったウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定の結果より、この上水遺構は 17 世紀後半以降に敷設され、改修や構築材の交換を経ながら、19 世紀初頭まで存続していた可能性がある。竹管の導水管を持つ同様な構造の上水遺構は、他にC地区のＳＤ 11、D地区のＳＤ 12・13 などがある。

他の遺構では、D地区で検出しＳＫ 82・83 とした大形の不明土坑は、出土遺物が少なく、地山と識別しづらい覆土が特徴である。遺構の性格、詳細時期ともに不明だが、切り合いなどからこの時期の可能性がある。

勤番支配期（18 世紀前葉～幕末）

近世に比定した遺構の多くがこの時期に帰属する。主な遺構は廃棄土坑と埋桶である。

廃棄土坑は、陶磁器類が多く出土するもの、木製品が多く出土するもの、両者が混入するものがある。また、焼土や炭化物の有無で、日常生活で生じたゴミの廃棄土坑か火災で生じたゴミの廃棄土坑かを推定できるものがある。A地区のＳＫ 17 は陶磁器類の破片や木製品の残欠、マグロ類の骨や貝類も出土しており、日常生活で生じたゴミの廃棄土坑と推定できる。A地区のＳＫ２・４、B地区のＳＫ 18・19、C地区のＳＫ 23 などは、出土遺物は少ないが、覆土に多量の焼土や炭化物を含んでおり、火災で生じたそれらを処分した廃棄土坑と推定した。D地区のＳＫ 78・98・104・114 などでは破損した桶や板材など、大量の木製品が廃棄されていた。炭化材も多く、火災が廃棄の契機であったとみられるものもある。また、D地区のＳＫ 108 では解体痕のあるイノシシ・ニホンジカの骨がまとまって出土した他、ＳＫ 111 では、大量の木製品やイノシシ・ニホンジカの骨に混じって二ホンザルの骨も出土している。

埋桶は、A地区で３基、D地区で８基検出している。桶の内側に石灰状の付着物があるものが多く、便槽と推測していた。寄生虫卵分析の結果もそれに肯定的であるが、昆虫分析では、生活ゴミも廃棄されていたことが指摘されている。ＳＫ 96・100・103 など、同位置で重なって検出した埋桶の例もあった。

江戸幕府の道中奉行所が実地測量に基づき製作した『甲州道中分間延絵図』（第 80 図）は、文化３年（1806）製作であり、この段階の時期の城下町の様子を窺い知ることができる。調査区の推定位置では、碁盤目状に整然と区画された町人地内に、建物が建ち並ぶ様子が描かれている。

近代

主な遺構は上水道構と、集石遺構・石列などとした構造物の基礎である。

上水遺構のうち、木樋を導水管としたものが近代に比定できる。C地区のＳＤ７・８がこれにあたり、時期は前節で触れた通り、19 世紀後半に敷設された可能性が高い。

集石遺構・石列は、構造物の基礎と推定できるものは近代とみている。石列としたA地区のＳＳ４は胴木を据えた上に径 20㎝の礫が一列に敷かれたものである。集石遺構としたC地区のＳＫ 32・33・43 は、建物の柱の基礎とみられ、柱間 1.8ｍで方形区画を構成する。中央に方形に成形された礎石が据えられ、その周囲は径 20㎝ほどの礫で根固めしている。さらにその下にも木杭が３～４本打ち込まれて、礎石を支える構造となっている。他にＳＫ 39・40・41・43・55・59・60 なども同様な構造の基礎である。A地区の杭１～６も、方形区画を構成しており、木杭のみの検出であったが、同様な構造の基礎と推定できる。

甲府市街明細地図（第 81 図）は、大正９年（1920）のものであるが、上水道構や集石遺構、石列など、今回の調査で検出した遺構の軸線方向が、地図の区画が一致することが見てとれる。

引用・参考文献

露木　寛　1966『江戸時代の甲府上水』

西田宏子・大橋康二　1988『日本のこころ 63　古伊万里』別冊太陽

新宿区内藤町遺跡調査会　1992『内藤町遺跡』

新宿区内藤町遺跡調査会　1993『江戸のやきものとくらし』

九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』

江戸遺跡研究会編　2001『図説　江戸考古学研究辞典』柏書房

山梨県埋蔵文化財センター　2004『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内 43 街区）』

古泉　弘　2013『事典　江戸の暮らしの考古学』吉川弘文館

甲府市教育委員会　2015『甲府城下町遺跡ⅩⅢ（中央４丁目 144 他）』

甲府市教育委員会　2015『甲府城下町遺跡ⅩⅣ（甲府市相生２丁目 226 番地他）』

こうふ開府 500 年記念誌編集委員会　2019『甲府歴史ものがたり』

甲府市教育委員会　2020『甲府城下町遺跡ⅩⅩ』

A 地区西半部遺構検出状況　東から

A 地区西半部完掘状況　東から

A 地区東半部遺構検出状況　西から

A 地区東半部完掘状況　西から

A 地区完掘状況 (モザイク写真)

図版 2

SK1 セクション　南から

SK2 セクション　北から

SK3 セクション　東から

SK4 セクション　南西から

SK4 遺物出土状況　南から

SK5 木杭検出状況　南から

SK6 木杭出土状況　東から

SK7 集石検出状況　北から

SK8 集石検出状況　南から

SK10 集石検出状況　南から

SK11 セクション　西から

SK12 セクション　北西から

SK13A・B 埋桶検出状況　西から

図版 4

SK13A 埋桶検出状況　西から

SK13A 埋桶（内面）　東から

SK13B 検出状況　西から

SK13B 埋桶　東から

SK13B 埋桶断割　北から

SK13B・SK17 断割　北から

Pit1 セクション　東から

Pit2 セクション　南から

Pit3 セクション　東から

Pit4 セクション　南から

図版 6

Pit5 集石検出状況　南から

Pit6 集石検出状況　南から

Pit7 集石検出状況　南から

Pit8 集石検出状況　南から

Pit9 集石検出状況　南から

Pit10 集石検出状況　南から

Pit5~10 完掘状況　南から

Pit11 集石検出状況　南から

Pit13 集石検出状況　南から

Pit15 遺物出土状況　南から

Pit14 集石検出状況　北から

Pit14 木杭検出状況　北から

Pit16 集石検出状況　北から

Pit22 下面円形板出土状況　南から

SD1 セクション　北から

SD1 完掘状況　南から

図版 8

SD2 焼土検出状況　北から

SD2 セクション　東から

SS4 集石検出状況　南から

SS4 桐木検出状況　南から

A 地区集石検出状況（モザイク写真）

B 地区東半部遺構検出状況　西から

B 地区東半部完掘状況（モザイク写真）

B 地区東半部全景　西から

SK18 完掘状況　西から

SK19 完掘状況　北西から

SK20 完掘　北から

B 地区西半部完掘状況　北から

SK28 セクション　南から

図版 10

C 地区西半部遺構検出状況　東から

C 地区西半部完掘状況　東から

C 地区東半部遺構検出状況　西から

C 地区東半部完掘状況　西から

SK21 セクション　東から

SK23･42 完掘　南から

SK26 セクション　西から

SK30 セクション　西から

SK32 礎石検出状況　東から

SK32 木杭検出状況　東から

SK33 礎石検出状況　南から

SK33 木杭検出状況　東から

SK36 セクション　北から

SK38 集石検出状況　南から

SK39 礎石検出状況　西から

SK40・41 礎石検出状況　南から

図版 12

SK43･44 礎石検出状況　西から

SK43･44 木杭検出状況　東から

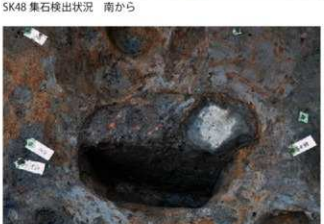
SK45 集石検出状況　南から

SK46 集石検出状況　西から

SK47 集石検出状況　南から

SK48 集石検出状況　南から

SK51 継手検出状況　北西から



SK52 セクション　南から

SK55 集石検出状況　西から

SK55 礎石検出状況　西から

SK55 木杭検出状況　西から

SK59 集石検出状況　北から

SK59 礎石検出状況　北から

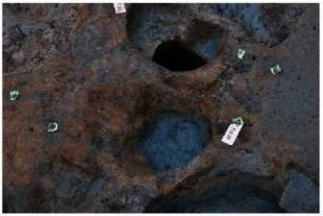
SK59 木杭検出状況　南から

SK60 集石検出状況　北から

SK60 木杭検出状況　北から

図版 14

Pit24 セクション　南から



Pit26 完掘　南から

Pit27 セクション　西から

Pit28 セクション　東から

Pit29 セクション　南から

Pit30 セクション　南から

SD7・8 上面板材検出状況　南から

SD4・5・6 完掘状況　西から

SD7･8 樋検出状況　南から

SD7･8 北壁　南から

SD7･8 南壁　北から

SD7 樋接続部　西から

SD8 樋接続部　東から

SD8 樋接続部　東から

SD8 樋検出状況　北から

SD8 樋検出状況　東から

図版 16

上水遺構 (SD9・10、SK51) 竹管・継手検出状況　南から

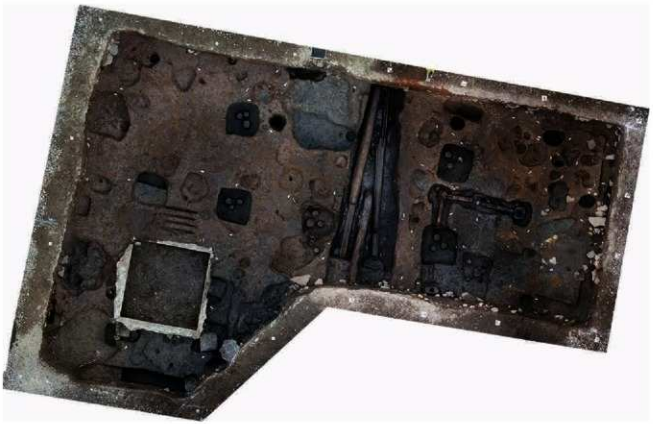
上水遺構 (SD9・10、SK51) 竹管・継手検出状況　東から

上水遺構 (SD9・10、SK51) 竹管・継手検出状況　北西から

SD9 継手（屈曲部）　南から

SD10 継手（末端部）　南から

C地区集石検出状況（モザイク写真）



C地区完掘状況（モザイク写真）

図版 18

D 地区西半部遺構検出状況　東から

D 地区西半部完掘　東から

D 地区東半部遺構検出状況　東から

D 地区東半部完掘状況　西から

SK71 セクション　西から

SK72 セクション　北から

SK73 完掘　東から

SK76 集石検出状況　南から

SK77 遺物出土状況　北から

SK78 遺物出土状況　南から

SK79 完掘　北から

SK81 遺物出土状況　東から

SK81 遺物出土状況　東から

SK81 遺物出土状況　東から

SD12・SK81・85 完掘　東から

SK82 セクション　西から

図版 20

SK83 セクション　南から

SK84 セクション　西から

SK87 遺物出土状況　南から

SK91 セクション　北から

D 地区東半部埋桶検出状況　南から

SK94 埋桶検出状況　東から

SK95 埋桶検出状況　東から

SK96A 埋甕検出状況　南から

SK96B 桶底板検出状況　南から

SK97 遺物出土状況　西から

SK98 セクション　南から

SK99･100 埋桶検出状況　南から

SK101 上面遺物出土状況　南から

図版 22

SK102 遺物出土状況　北から

SK103A 埋桶・SK104 遺物出土状況　南から

SK103A・B 埋桶検出状況　南から

SK103B 埋桶検出状況　南から

SK104 遺物出土状況　南から

SK105 セクション　西から

SK106 井戸検出状況　北から

SK106 井戸側検出状況　北から

SK108 獣骨出土状況　南から

SK109 セクション　東から

SK110 セクション　東から

SK111 遺物出土状況　西から

SK112 遺物出土状況　南から

SK100B 埋桶・SK114 遺物出土状況　北から

SK116 遺物検出状況　南から

SK117 完掘　東から

図版 24

SK118 セクション　北から

SK119 遺物出土状況　南から

SK120 埋桶検出状況　南から

SK121・122 セクション　南から

SD12 西壁　東から

SD12 完掘　東から

SD13 竹管・継手検出状況　南から

SD13 竹管・継手検出状況　東から

SS7･8 検出状況　東から

SS9 集石検出状況　南から

SS10 集石検出状況（モザイク写真）　南から

SS10 遺物出土状況　南から

SS11 集石セクション　北から

SS11 集石検出状況　南から

SS12･SK108 検出状況　西から

SS12 下層木杭検出状況　西から

杭列 (杭 1 ～ 6) 検出状況　東から

D 地区完掘状況（モザイク写真）

SK1
1
SK4
3
4
5
6
SK2
2
SK7
8
SK11
9
10
11
7
SK14
12
13
SK16
14
SK13A
15
16
17
18
19
20
21
22
23

図版 28

SK13B
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48

SK13B

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

図版 30

SK17
71
73
75
77
72
74
76
78
80
79
81
84
82
85
83
86
88
90
91
92
87
89
93
96
94
95
97

SK17
98
100
103
99
101
104
105
102
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118

Pit8

119

Pit9

120

121

Pit10

122

123

124

Pit14

125

Pit15

126

127

Pit16

128

Pit19

129

Pit22

130

SD1

131

132

133 134 135

SD2

136

137

138

139 140 141 142 143

SS1

144

145

146

147

SS2

148

SS3

149

150

151

SS4

152

153

154

図版 34

A 地区遺構外

155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187

SK18

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

199

198

200

SK19

201

202

SK28

203

B 地区遺構外

204

205

206

207

SK21
208
209
SK23
210
211
SK26
212
213
214
SK30
215
SK36
216
217
218
219
220
221
222
223
SK38
224
SK42
225
226
SK45
227
SK47
228

SK51

229

230

231

232

SK55

233

SK61

234

235

236

図版 38

Pit24
237
Pit29
238
Pit30
239
Pit34
240
SD3
241
SD4
242
243
244
245
246
SD5
247
248
249
250
251
252
SD7
253
254
255

SD8

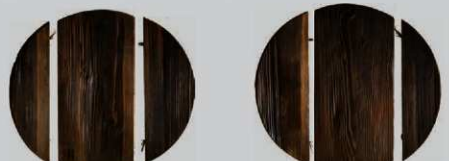
256

257 258

259 260 261 262 263 264

265 266 267 268 269 270 271

272 273 274 275 276


277

図版 40

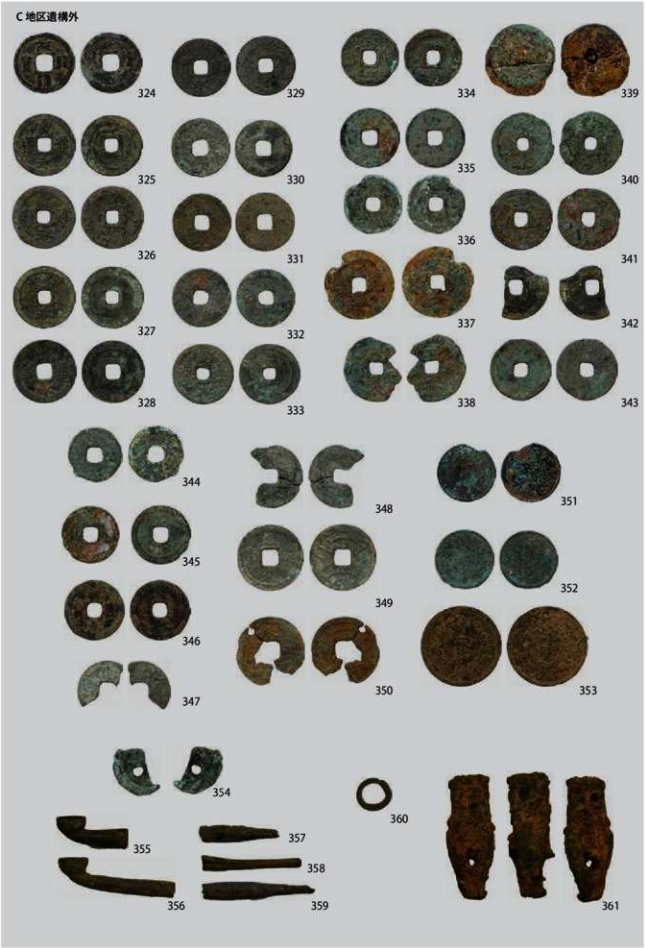
SD9
278
279
280
281
282
283
284
285
SS5
SD10
286
287
288
291
292
293
294
295
296
297
SD11
289
290
SS6
298
299
300

C 地区遺構外

301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323

図版 42

C 地区遺構外


324
329
334
339
325
330
335
340
326
331
336
341
327
332
337
342
328
333
338
343
344
348
351
345
349
352
346
350
353
347
354
360
355
357
358
356
359
361

SK71
362
363
364
365
366
367
368
369
370
SK72
371
SK73
372
SK74
374
SK77
376
SK78
377
378
SK76
373
375
SK79
379
SK81
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389

SK82

390

391

SK83

392

393

394

SK84

395

396

397

398

399

400

401

402

403

404

405

406

SK87

407

SK91

408

SK94

409

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

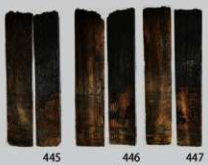
SK95

438

439

440

441 442 443 444


445 446 447

448

449 450 451 452

453 454 455 456

457 458 459 460

461 462 463 464

465

466

SK96A
467
468
469
SK96B
470
471
472
SK97
474
477
475
478
473
476
479
SK98
480
481
482
SK99
490
486
488
483
484
485
487
489
491
492

SK100

493

494

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

505

506

507

508

509

510

511

512

513

514

515

SK101

516

517

518

519

520

521

SK102

522

525

523

524

526

527

528

529

530

531

SK103A
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
SK103B
549
550
551
552

SK104

553

554

555

556

SK106

557

558

SK108

559

SK109

560

SK110

562

561

SK111

563

565

567

569

564

566

568

570

図版 52

SK111
571
572
573
SK112
574
575
576
SK114
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587

SK116
588
589
SK117
590
SK118
591
SK119
593
594
592
595
596
598
597
599
SK121
600
SK122
602
601

SD13

603

605

604

606

SS10

607

608

SS11

609

610

SS12

611

612

613

D 地区遺構外

614
616
618
621
615
617
619
620
622
623
625
627
624
626
628
629
630
631
636
640
632
637
633
638
641
634
635
639
642
643
644
645
646

D 地区遺構外

647
651
655
648
652
656
649
653
657
650
654
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき26（ちゅうおう５ちょうめ１く）
書名	甲府城下町遺跡26（中央５丁目１区）
副書名	都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	117
編著者	志村憲一・泉　英樹・伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子・パンダリ スダルシャン・森　将志・三谷智広・森　勇一
編集機関	昭和測量株式会社
所在地	〒400-0032　山梨県甲府市中央３丁目11番27号　TEL055-235-4448
発行年月日	令和３(2021)年３月19日

ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こうふじょうかまちいせき 甲府城下町遺跡	こうふしちゅうおうごちょうめ 甲府市中央５丁目	19201	253	35°65′80″	138°57′47″	令和元年12月３日～令和２年３月27日	722㎡	都市計画道路和戸町竜王線街路事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡	城下町	近世 近代	上水遺構・廃棄土坑・埋桶・埋甕・井戸・集石遺構・不明土坑・土坑・溝状遺構など	磁器・陶器・土器・瓦・土製品・木製品・石製品・金属製品・ガラス製品・動物遺体・種子など	竹管と継手が接続した状態の上水遺構を検出した。廃棄土坑から解体痕のあるイノシシ・ニホンジカなどの骨がまとまって出土した。

要約	近世では、上水遺構・廃棄土坑・埋桶などを検出した。上水遺構は、竹管と木製の継手が接続された状態で出土した。継手の年代測定の結果、上水の敷設は、17世紀後半にさかのぼる可能性がある。廃棄土坑は、日常生活で生じたゴミを処分したと推定できるもの、火災で生じたゴミを処分したと推定できるものがある。また、マグロ属や解体痕のあるイノシシ・ニホンジカの骨がまとまって出土した土坑がある他、ニホンザルの骨が出土した土坑もあった。埋桶は、分析を行ったすべての例で寄生虫卵が検出された。また、桶が同位置で重なって検出された例が複数あった。 近代では、上水遺構・集石遺構・石列などを検出した。上水遺構は、木樋を据えたもので、板材を箱型に組んだものと、丸太刳り貫きのものがみられた。集石遺構・石列は、建物などの構造物の基礎と推定できる例が多い。

甲府市文化財調査報告117

甲府城下町遺跡26

（中央５丁目１区）

－都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書－

令和３(2021)年３月19日　発行

発行　山梨県中北建設事務所
〒400-0065　山梨県甲府市貢川２丁目１番８号　TEL　055-224-1675
甲府市教育委員会
〒400-8585　山梨県甲府市丸の内１丁目18番１号　TEL　055-223-7324

編集　昭和測量株式会社
〒400-0032　山梨県甲府市中央３丁目11番27号　TEL　055-235-4448

印刷　株式会社内田印刷所
〒400-0032　山梨県甲府市中央２丁目10番18号　TEL　055-233-0188